薮田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

1982

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

薮田東遺跡正誤表

ページ	行または番号	誤	正
64		7号候居址出土土器観察表	7号住居址出土土器観察表
69	下から3行目	長さ cm	長さ250cm
73	上から6行目	推積す	堆積す
94	第63図中	遺物番号加入	左側の列（92の下から）94、96、98、100、102、104、106、108、110、112、右側の列（上から）93、95、97、99、101、103、105、107、109、111、
131	上から12行目	平均20前後	平均20cm前後
136	観察表、2段目	8の出土位置	1号土坑
162	上から20行目	南多摩窯址群G29号窯	南多摩窯址群G62号窯
〃	上から21行目	ている（注4）。	（注4）削除
〃	最下行	摘出すする	摘出する
163	上から8行目	きる構造的には	きる。構造的には
〃	下から6行目	文献4、5参照	文献4、6参照

資料 NO. 58-1525
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団保管
昭和59年2月23日

薮田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

1982

01-351
30
(5)

序　　言

上越新幹線は、日本を横断して首都圏と新潟地方とを結ぶ新しい交通機関として建設がすすめられ、関越自動車道の建設とあいまって群馬県の新しい交通システムの幕あけとなりました。

一方、これらの建設事業及び関連事業に伴って、埋蔵文化財の発掘調査も県内各地で実施され、地中に残された人々のくらしの様子を記録に残す努力も続けられています。

ここに報告します遺跡は、利根郡月夜野町にできる上越新幹線上毛高原駅の駅前広場整備事業（国道291号街路改良工事）に伴って発掘調査を実施したものです。この遺跡の近くには、平安時代に須恵器を生産した窯跡も発見され、月夜野古窯址群として古くから注目されていた所です。今回の調査では、この須恵器の原料となる粘土採掘の跡が数多く発見されるとともに、生産に携わった人々の住いの跡も調査されました。一地区で原料採取、工房、窯・そして職人の住居と当時の生産に関連する一連の遺構が調査された事例は県内唯一であり、貴重な資料を得ることができました。

発掘調査及び報告書刊行にいたるまでには、群馬県土木部・群馬県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々、直接調査にあたった担当者と地元の方々そして、整理にあたっていただいた方と数多くの人々の御協力をいただきました。報告書刊行にあたりまして改めて感謝の意を表するとともに、本報告書が広く有効に活用されんことを念じ序といたします。

昭和54年３月25日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　清　水　一　郎

例　　言

1．本書は国道291号街路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．事業主体者　群馬県土木部

3．調査主体者　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

4．調査体制及び調査期間は次の通りである。

予備調査　昭和54年3月26日～3月28日　原　雅信（群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員）
木津博明（　同　上　調査員）
本 調 査　昭和54年4月12日～10月31日　原　雅信（　同　上　調査研究員）
中沢　悟（　同　上　）
相京建史（　同　上　）

5．調査地域　群馬県利根郡月夜野町

6．調査面積　5,600㎡

7．本書の執筆者は次の通りである。（敬称略）

磯貝基一（群馬県教育委員会青少年課）　花岡紘一（群馬県工業試験場化学課）
中沢　悟、原　雅信（群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員）

8．本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行50000分の1の四万（第1図）、25000分の1の後閑、沼田、猿ケ京、上野中山（第3図）である。

9．本書に使用した遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は佐藤元彦（群馬県埋蔵文化財調査事業団写真室）が撮影した。

10．出土遺物及び調査図面の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターにある。

11．発掘調査作業員は次の通りである。（敬称略）

五十嵐美代子、石川佐兵衛、稲田政一、生方民治、大島一夫、大島ふじ、小川きん、奥木かつみ
小野塚キクヨ、剣持みよ、小林てい、斉木ひで、鈴木キク、高橋たけ、高橋千代子、高橋直行
高橋泰易、田中兼太郎、田中ヨシ、中村しげ、中村ゆき、野沢たか、林ミチ子、原　ふみ
原沢つね子、笛田富次、星かほる、星野久仁子、牧田ヒサ子、丸山そう、宮下良雄、村上はま
山岸まり、芳沢せつ
青木公一、上野祥介、中島正義、富永　盾、永松聡子、鈴木久恵、宇都宮雅彦（神奈川大学生）

12．本書の作成及び資料整理は次の者が実施した。

石井弘子、霜田恵子、須田まさ江、萩原弘子

13．出土遺物の保存処理は次の者が担当した。

浜野和宗作、伊能敬司、関　邦一

14．本書を作成するにあたり次の方々の協力を得ており、貴重な助言を頂いている。（敬称略）

井上唯雄、大江正行、真下高幸、相京建史、飯田陽一、坂口　一、徳江秀夫、坂井　隆、大西雅広
唐沢至朗、石守　晃、菅　英一郎、国定　均、笠原秀樹、山本朋子、吉田有光、柳岡良宏
月夜野町教育委員会

15．本書の編集は原　雅信が担当した。

凡　　例

1. 各遺構図の縮尺は原則として次の通りとした。

   住居址1/60、土坑1/40、掘立柱建物址1/80、集石状遺構1/80、溝状遺構・石組遺構1/80、尚、粘土採掘坑は各群の規模にかなり差があるため縮尺は不統一である。これについては挿図目次に示してあるので参照して頂きたい。

2. 遺構図中に記した断面基準線は標高で表わした。

3. 遺物実測図の縮尺は原則として1/3に統一した。尚、一部不統一の実測図もあるため、これについては挿図目次及び各実測図中に注記した。

4. 遺構及び遺物挿図中におけるスクリーントーンは次のことを表示している。

   ローム層　粘土層及び粘土　焼土範囲

   貼り床範囲　燻焼成の燻部分　内黒処理の内黒部分

5. 遺跡全体図は1/500とした。尚、(1)は平安時代、(2)はそれ以外の遺構をまとめた。

6. 住居址平面図は原則としてカマドを上に作図した。

7. 出土遺物については全て観察表に記述した。

8. 遺構図に関し、重複関係については新しい遺構を実線、古い遺構を破線で表示した。

9. 住居址実測図中に示す遺物番号は、土器観察表の番号と一致する。

10. 採掘粘土量の計測は、各採掘坑における粘土層の上面の面積をプラニメーターにより算出し、その計測値に、粘土層の厚みの平均値をかけ数量化したものである。

目　　次

序　　言
例　言・凡　例
I　調査に至る経緯……1
II　遺跡の立地と環境……1
　1．遺跡の位置……1
　2．周辺の遺跡……2
III　調査の方法と経過……8
　1．調査の方法……8
　2．調査の経過……9
IV　検出された遺構と遺物……14
　1．平安時代の遺構と遺物……14
　　（1）住　居　址……14
　　（2）粘土採掘坑……73
　　（3）土　　坑……131
　　（4）骨蔵器出土遺構……138
　　（5）グリッド出土土器……142
　2．近世の遺構と遺物……144
　　（1）掘立柱建物址……144
　　（2）土　　坑……149
　　（3）集石状遺構……157
　　（4）溝状遺構……157
　　（5）石組遺構……157
　3．グリッド出土遺物……159
V　成果と問題点……162
　平安時代の遺跡について……162
VI　化学分析……165
　はじめに……165
　1．試料について……165
　2．分析の意図と目的……168
　3．試験方法……170
　4．試験結果……170
　まとめ……173
VII　薮田東遺跡周辺の地質　磯貝基一……174
　1．地　　形……174
　2．地　　質……174
　3．粘土層について……175

挿　図　目　次

第　1　図　薮田東遺跡の位置……2
第　2　図　遺跡周辺の地形……3
第　3　図　周辺の遺跡……4
第　4　図　グリッド設定図……8
第　5　図　薮田東遺跡全体図（1）……12
第　6　図　薮田東遺跡全体図（2）……13
第　7　図　1号住居址実測図……14
第　8　図　1号住居址出土土器（1）……15
第　9　図　1号住居址出土土器（2）……16
第　10　図　2号住居址実測図……18
第　11　図　2号住居址出土土器（1）……19
第　12　図　2号住居址出土土器（2）……20
第　13　図　3号住居址遺物分布図……24
第　14　図　3号住居址実測図……24
第　15　図　3号住居址出土土器（1）……25
第　16　図　3号住居址出土土器（2）……26
第　17　図　3号住居址出土土器（3）……27
第　18　図　3号住居址出土土器（4）……28
第　19　図　3号住居址出土土器（5）……29
第　20　図　3号住居址出土土器（6）……30
第　21　図　3号住居址出土土器（7）……31
第　22　図　3号住居址出土土器（8）……32
第　23　図　4号住居址実測図……40
第　24　図　4号住居址出土土器（1）……41
第　25　図　4号住居址出土遺物（2）……42
第　26　図　5号住居址遺物分布図……45
第　27　図　5号住居址実測図……45
第　28　図　5号住居址出土土器（1）……46
第　29　図　5号住居址出土土器（2）……47
第　30　図　5号住居址出土土器（3）……48
第　31　図　5号住居址出土土器（4）……49
第　32　図　5号住居址出土土器（5）……50
第　33　図　5号住居址出土土器（6）……51
第　34　図　5号住居址出土土器（7）……52
第　35　図　6号住居址実測図……58

第 36 図　6号住居址出土土器（1）……59
第 37 図　6号住居址出土土器（2）……60
第 38 図　6号住居址出土土器（3）……61
第 39 図　7号住居址実測図……64
第 40 図　7号住居址出土土器（1）……65
第 41 図　7号住居址出土土器（2）……66
第 42 図　7号住居址出土土器（3）……67
第 43 図　7号住居址出土遺物（4）……68
第 44 図　8号住居址実測図……70
第 45 図　8号住居址出土土器……71
第 46 図　粘土採掘坑掘削模式図……73
第 47 図　第1群粘土採掘坑実測図……74
第 48 図　第2群粘土採掘坑平面図……75
第 49 図　第2群粘土採掘坑出土土器……76
第 50 図　第3群粘土採掘坑土層断面図……77、78
第 51 図　第3群粘土採掘坑平面図……79
第 52 図　第3群粘土採掘坑出土土器（1）……80
第 53 図　第3群粘土採掘坑出土土器（2）……81
第 54 図　第3群粘土採掘坑出土土器（3）……82
第 55 図　第4群粘土採掘坑土層断面図……85、86
第 56 図　第4群粘土採掘坑平面図……87
第 57 図　第4群粘土採掘坑出土土器（1）……88
第 58 図　第4群粘土採掘坑出土土器（2）……89
第 59 図　第4群粘土採掘坑出土土器（3）……90
第 60 図　第4群粘土採掘坑出土土器（4）……91
第 61 図　第4群粘土採掘坑出土土器（5）……92
第 62 図　第4群粘土採掘坑出土土器（6）……93
第 63 図　第4群粘土採掘坑出土土器（7）……94
第 64 図　第4群粘土採掘坑出土土器（8）……95
第 65 図　第4群粘土採掘坑出土土器（9）……96
第 66 図　第4群粘土採掘坑出土土器（10）……97
第 67 図　第4群粘土採掘坑出土遺物（11）……98
第 68 図　第5群粘土採掘坑平面図……109
第 69 図　第5群粘土採掘坑出土土器……110
第 70 図　第6群粘土採掘坑実測図……112
第 71 図　第6群粘土採掘坑平面図……113
第 72 図　第6群粘土採掘坑出土土器（1）……114
第 73 図　第6群粘土採掘坑出土土器（2）……115

第 74 図　第6群粘土採掘坑出土土器（3）……116
第 75 図　第6群粘土採掘坑出土土器（4）……117
第 76 図　第6群粘土採掘坑出土土器（5）……118
第 77 図　第6群粘土採掘坑出土土器（6）……119
第 78 図　第6群粘土採掘坑出土土器（7）……120
第 79 図　第7群粘土採掘坑実測図……124
第 80 図　第7群粘土採掘坑出土土器……124
第 81 図　第8群粘土採掘坑実測図……125
第 82 図　第9群粘土採掘坑実測図……126
第 83 図　第10群粘土採掘坑平面図……127
第 84 図　第10群粘土採掘坑出土土器……127
第 85 図　第11群粘土採掘坑実測図……128
第 86 図　第11群粘土採掘坑出土土器……129
第 87 図　土坑実測図……132
第 88 図　1号土坑出土土器（1）……133
第 89 図　1号土坑出土土器（2）……134
第 90 図　2・3・4号土坑出土土器……135
第 91 図　5号土坑出土土器……136
第 92 図　7号土坑実測図……139
第 93 図　№3骨蔵器出土状態図（L－76グリッド）……140
第 94 図　7号土坑・L－76グリッド出土土器……141
第 95 図　グリッド出土土器……142
第 96 図　掘立柱建物址関係遺物……144
第 97 図　1号掘立柱建物址実測図……145
第 98 図　4号掘立柱建物址実測図……145
第 99 図　2号掘立柱建物址実測図……146
第 100 図　3号掘立柱建物址実測図……147
第 101 図　5号掘立柱建物址実測図……148
第 102 図　6号掘立柱建物址実測図……148
第 103 図　土坑実測図……151
第 104 図　土坑実測図……152
第 105 図　9・10・11・12・13号土坑出土遺物……153
第 106 図　16・18号土坑出土遺物……154
第 107 図　土坑実測図……156
第 108 図　集石状遺構実測図……157
第 109 図　集石状遺構出土遺物……157
第 110 図　溝状遺構実測図……158
第 111 図　石組遺構実測図……158

第 112 図　グリッド出土遺物……159
第 113 図　石臼実測図……160
第 114 図　羽口・砥石・鉄製品実測図……161
第 115 図　古銭拓影図（表採及びグリッド出土）……161
第 116 図　胎土分析資料実測図 ……166
第 117 図　地質図および地質断面図……174
第 118 図　模式地質柱状図……175
第 119 図　アバット不整合スケッチ……175
第 120 図　薮田東遺跡西崖の柱状図……175

図　版　目　次

図版 1　1　遺跡遠景（南西から）
　　2　グリッド調査
図版 2　1　水田部分グリッド調査
　　2　粘土採掘坑発掘作業
図版 3　1　1号住居址
　　2　2号住居址
図版 4　1　3号住居址
　　2　同住居址カマド部分遺物出土状態
　　3　同住居址カマド掘り方
　　4　同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態
　　5　同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態
図版 5　1　4号住居址
　　2　5号住居址
図版 6　1　6号住居址
　　2　同住居址遺物出土状態（P23）
　　3　同住居址遺物出土状態（P19）
　　4　同住居址遺物出土状態（P 5）
　　5　同住居址遺物出土状態（P 2）
図版 7　1　7号住居址
　　2　7号及び8号住居址
図版 8　1　第1群粘土採掘坑
　　2　第2群粘土採掘坑
図版 9　1　第1・3・4群粘土採掘坑発掘状況
　　2　同完掘状態
図版10　1　第3群粘土採掘坑検出状態
　　2　第3群粘土採掘坑
図版11　1　第3・7・8・9群粘土採掘坑
　　2　第3・7・8群粘土採掘坑
図版12　1　第3・7・8群粘土採掘坑
　　2　第4群粘土採掘坑
図版13　1　第4群粘土採掘坑
　　2　第6群粘土採掘坑遺物出土状態
図版14　1　第6群粘土採掘坑土層断面
　　2　第6群粘土採掘坑土層断面
図版15　1　第6群粘土採掘坑
　　2　第6群粘土採掘坑
図版16　1　第7群粘土採掘坑
　　2　第8・9群粘土採掘坑
図版17　1　第9群粘土採掘坑
　　2　第11群粘土採掘坑
図版18　1　1号土坑
　　2　2号土坑
　　3　3号土坑
　　4　4号土坑
　　5　5号土坑
　　6　6号土坑
図版19　1　7号土坑（No.1骨蔵器出土状態）
　　2　No.1骨蔵器
　　3　No.2骨蔵器
　　4　No.3骨蔵器出土状態

5　No.3骨蔵器
図版20　1　1号及び2号掘立柱建物址
2　3号掘立建物址
図版21　1　4号掘立柱建物址
2　5号及び6号掘立柱建物址
図版22　1　8号土坑
2　9号土坑
3　10号土坑
4　11号土坑
5　12号土坑
6　13号土坑
図版23　1　14号土坑
2　15号土坑
3　16号土坑
4　18号土坑
5　17号土坑
6　19号土坑
図版24　1　21号土坑
2　20号土坑
3　23号土坑
4　24号土坑
5　25号土坑
6　26号土坑
図版25　1　27号土坑
2　28号土坑
3　集石状遺構
図版26　1　溝状遺構
2　石組遺構
図版27　1号住居址出土土器
図版28　2号住居址出土土器
図版29　3号住居址出土土器
図版30　3号住居址出土土器
図版31　3号住居址出土土器
図版32　3号住居址出土土器
図版33　4号住居址出土遺物
図版34　5号住居址出土土器
図版35　5号住居址出土土器
図版36　5号住居址出土土器
図版37　5号住居址出土土器
図版38　6号住居址出土土器
図版39　7号住居址出土土器
図版40　7号住居址出土遺物
8号住居址出土土器
図版41　第2・3群粘土採掘坑出土土器
図版42　第3・4群粘土採掘坑出土土器
図版43　第4群粘土採掘坑出土土器
図版44　第4群粘土採掘坑出土土器
図版45　第4群粘土採掘坑出土土器
図版46　第4群粘土採掘坑出土土器
図版47　第4・5・6群粘土採掘坑出土土器
図版48　第6群粘土採掘坑出土土器
図版49　第6群粘土採掘坑出土土器
図版50　第6群粘土採掘坑出土土器
図版51　第6・7群粘土採掘坑出土土器
図版52　第11群粘土採掘坑・グリッド出土土器
図版53　1号土坑出土土器
図版54　2・3・4・5号土坑出土土器
図版55　10・13・17号土坑・グリッド出土遺物
図版56　グリッド出土遺物

薮田東遺跡

I　調査に至る経緯

昭和46年10月に上越新幹線新潟線の建設計画が発表されて以降、通過地域内の埋蔵文化財の発掘調査が昭和48年から群馬県教育委員会により実施されてきた。月夜野町地域では路線は利根川右岸をほぼ南北方向に走り、同地内において県内２ケ所の停車駅のうち１ケ所（仮称上毛高原駅、昭和57年２月に正式名称）の建設が決定した。又、関越自動車道は利根川左岸を通過し、月夜野町地内では、師において月夜野インターチェンジが設けられることになり、現在もこれら幹線交通開発と同時に関連諸開発も急ピッチで進んでいる。なお、上越新幹線は昭和57年、関越自動車道は昭和60年開通の予定となっている。

上毛高原駅建設予定地は、薮田東遺跡と同一台地東側にあたり、昭和52年に群馬県教育委員会により発掘調査が実施された。(注)　昭和53年に至り駅前広場整備として国道291号街路改良工事計画が策定された。この計画地内は、西接する上毛高原駅地内薮田遺跡の調査により埋蔵文化財包蔵地（平安時代集落跡）として確認されており、同発掘調査について群馬県土木部及び群馬県教育委員会との協議を経て、群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託事業として実施することとなった。

なお、発掘調査の計画、概要は次のとおりである。

1	発掘予定地の所在	利根郡月夜野町　1756・1763番地他
2	発掘予定面積	5600㎡
3	発掘予定地の現状	桑畑
4	発掘調査の目的	国道291号街路改良工事に伴う事前調査
5	事業主体	群馬県土木部
6	調査主体	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
7	調査期間	昭和54年３月～同年10月（予備調査を含む）

注「薮田遺跡」上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ　群馬県教育委員会　昭和55年３月

II　遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

薮田東遺跡は、群馬県利根郡月夜野町地内に所在し、上越新幹線上毛高原駅構内薮田遺跡の東側にあたる。県北部山間部に水源を有す利根川は、月夜野町地内をほぼ南流し、同地内小川島付近において東流する赤谷川と合流し、沼田盆地へと流下する。利根川上流域は、赤谷川、片品川、吾妻川などの諸支流とともに良好な河岸段丘を形成しており、数多くの遺跡が分布している。薮田東遺跡は、赤谷川との合流地点より北西約２㎞上流の利根川右岸段丘上位面に立地している。なお、詳細については、Ⅶ、薮田東遺跡周辺の地質の項を参照して頂きたい。

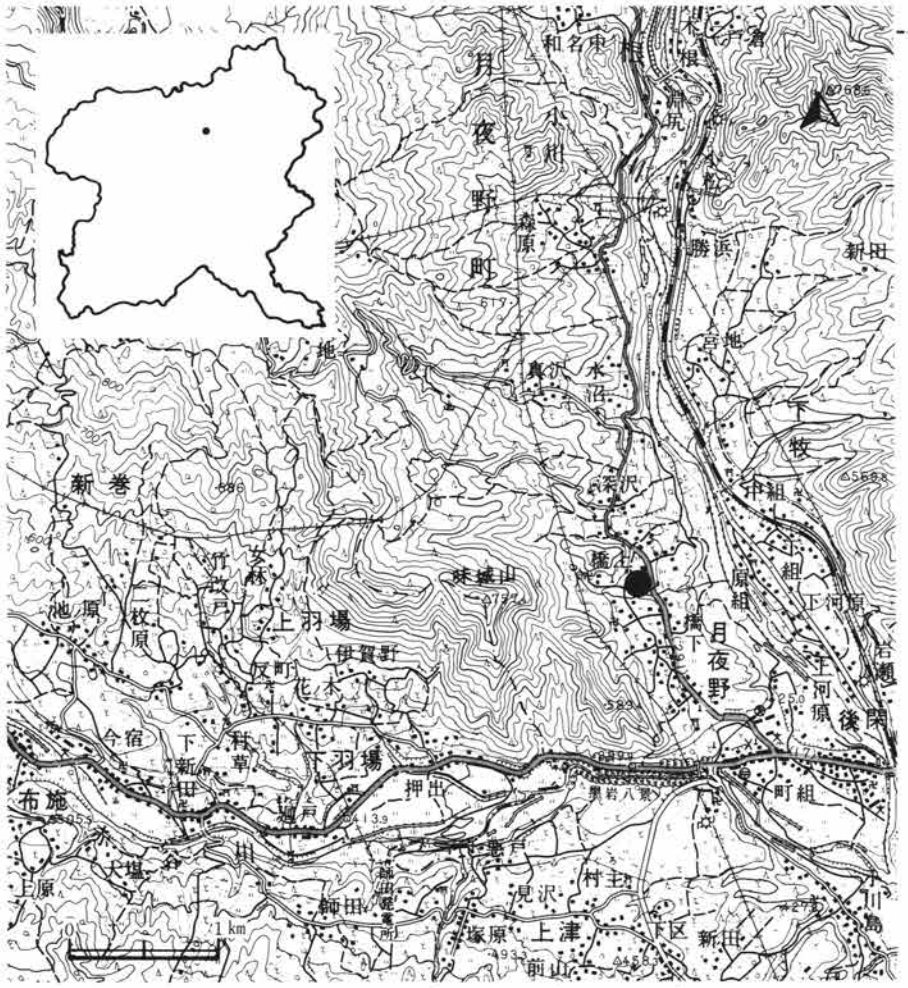
2. 周辺の遺跡

薮田東遺跡周辺の遺跡については、昭和48年以降実施されている上越新幹線建設に伴う調査及びこれに関連する諸開発によって次第に明らかにされつつある。

縄文時代以前の遺跡については、現在の段階では不明な部分が多く今後の課題としなければならないが、

II　遺跡の立地と環境

近年関越自動車道建設に伴う調査において良好な資料が摘出されはじめており、その成果に期待したい。縄文時代の遺跡は、前中原遺跡（第３図、３）、梨の木平遺跡（同図、10)、深沢遺跡（同図、８）等の他、利根川上流域では、月夜野町道木原遺跡（前期、住居址２軒)、水上町大穴（中期、敷石住居址)、赤谷川流域では、新治村新巻遺跡（注１)、布施（役場）遺跡（注２）等で中～晩期の調査が行なわれている。弥生時代の遺跡は、大原遺跡（第３図、18)、十二原遺跡（同図、19)、薮田遺跡（同図、11）において後期樽式土器を伴う住居址が検出されている。又、中期については、現在まで梨の木平遺跡において検出された資料が唯一のものとなっている。古墳時代の遺跡は、調査例が少なく、十二原遺跡において和泉式土器を伴う住居址が１軒調査されている。平安時代を中心とする歴史時代の遺跡は比較的調査例が多く、特に昭和16年、同45年（注３）に調査された深沢および洞の窯跡をはじめとする月夜野窯跡群の存在は、本県における重要な生産址として注目されてきた。窯跡の調査は上記の例以外特に実施されていない。調査の主体は住居址を中心とした集落址であり、前中原遺跡、梨の木平遺跡、洞Ｉ・II遺跡、等で良好な資料が摘出されている他薮田遺跡および本遺跡の調査により集落址の調査が行なわれている。近年これらの調査例の増加により、先の窯跡群との関係について再度注目されてきている。特に今回の調査により検出した粘土採掘坑の存在により、窯跡群に関連する窯業集団の実体についてその関係の一端を把握されるようになってきており、これを契機に各窯跡（支）群と集落址の関係について、窯跡の分布調査、出土遺物の胎土分析等を通じ、より具体的な把握がされつつある状況である。

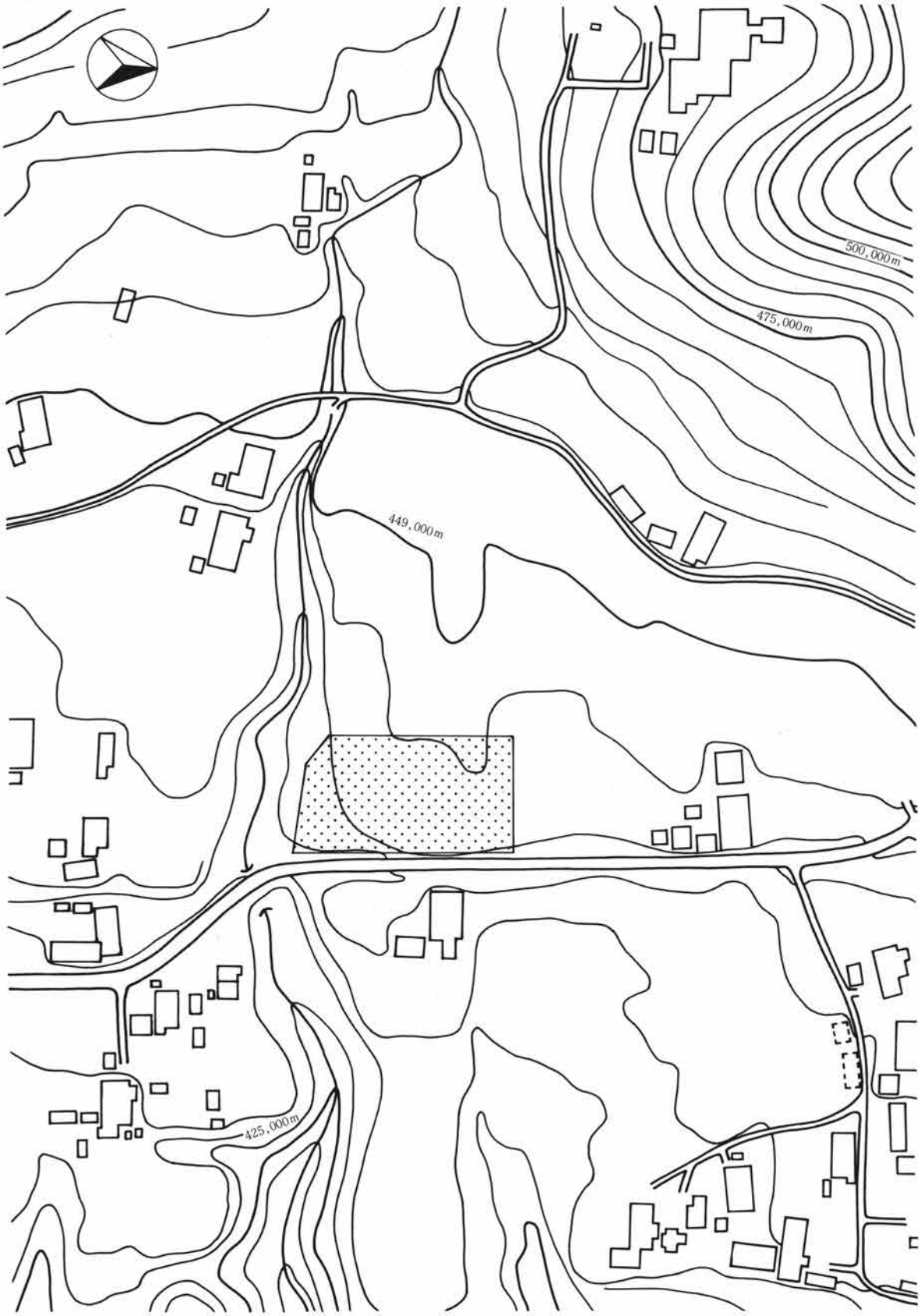


第１図　薮田東遺跡の位置（１／50000）

注１　塚田　光　「群馬県新巻遺跡の中期縄文土器」　下総考古学１　昭和39年

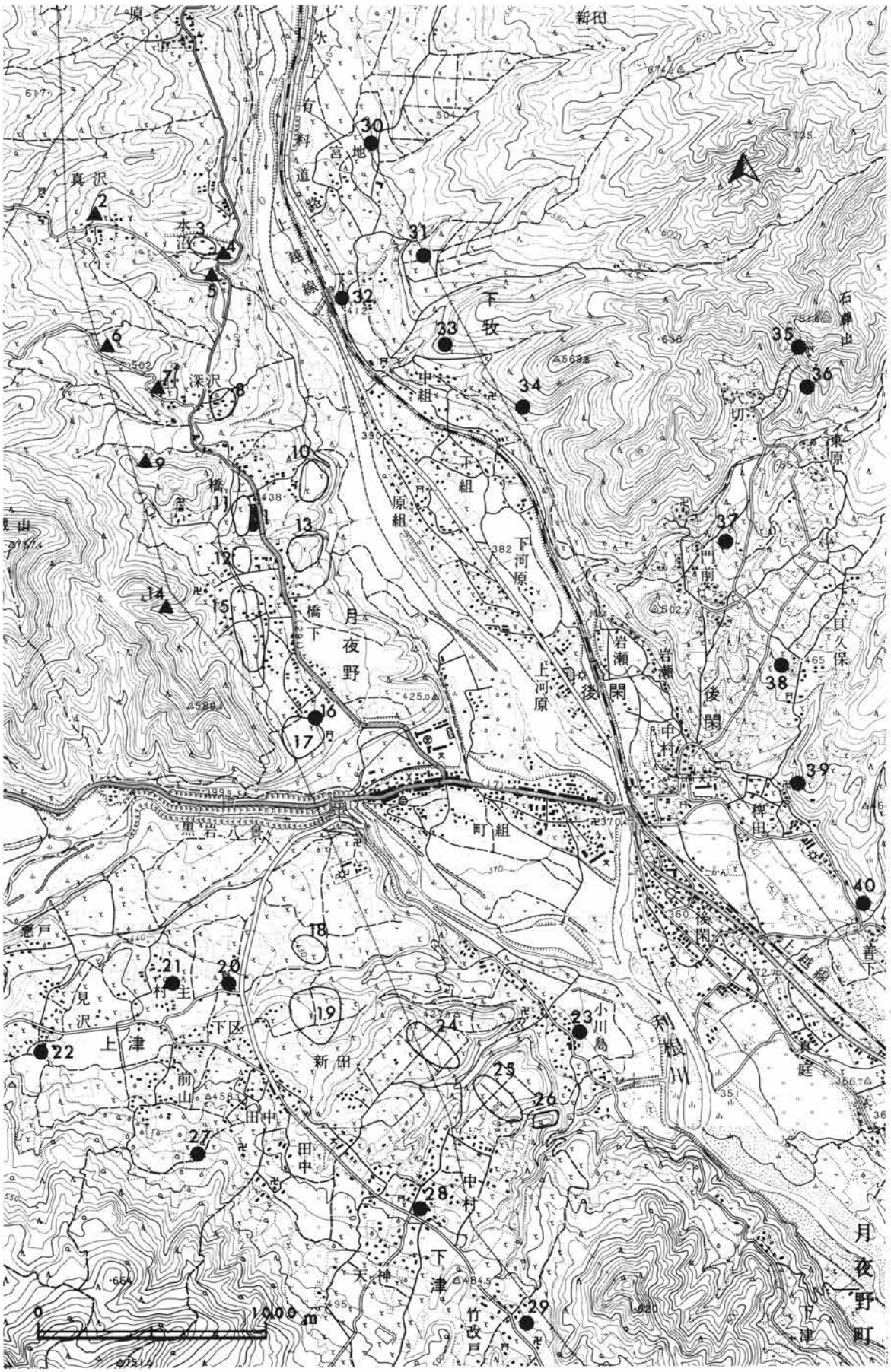
注２　塚田光　芝崎孝　戸田哲也　「群馬県新治村役場遺跡と出土遺物について」　考古学雑誌56－１　昭和45年

注３　山崎義男　「上野国利根郡月夜野町二窯址について」　古代文化12－４　昭和16年
井上唯雄　「群馬県利根郡月夜野町洞窯跡発掘調査報告」　月夜野町教育委員会　昭和48年



第2図　遺跡周辺の地形

0　100m


新田
真沢
本沼
深沢
橋川
月夜野
橋下
下牧
中組
上組
原組
下河原
上河原
後閑
岩瀬
中村
門前
貝久保
稗田
町組
黒岩八幡
上越線
利根川
小川島
上津
見沢
村主
下区
新田
田中
前山
中村
天神
下津
竹改戸
月夜野町
石倉山
東原
善下
0
1000m

第3図　周辺の遺跡

遺跡地名表

No.	遺 跡 名	所 在	調査年度	遺 跡 の 概 要	文献
1	薮田東遺跡	利根郡月夜野町1756他	S54．3～10	粘土採掘坑を伴う平安時代集落址。	
2	真沢A支群	利根郡月夜野町真沢		1941年発見される。現在では確定できない。10世紀前半。坏、羽釜、甕、鍔付甑等出土。	21
3	前中原遺跡	利根郡月夜野町中原	S50、51年度	縄文早、前期の住居4軒、炉穴4か所、土坑23か所が確認され、平安時代の住居一軒、墓坑4基がある。	5
4	水沼A支群	利根郡月夜野町水沼		1基、8世紀中頃。須恵器、瓦の焼造をした可能性。	21
5	水沼B支群	利根郡月夜野町水沼		1基。	21
6	深沢B支群	利根郡月夜野町深沢		2基の窯体が確認されている。9世紀末から10世紀初頭頃。2基の窯体が確認されている。	21
7	深沢C支群	利根郡月夜野町深沢		2基以上であろう。10世紀前半	21
8	深沢遺跡	利根郡月夜野町深沢211	S51．10～12	縄文時代後期住居址、敷石遺構、ピット群、縄文中期の遺物は多出したが、遺構は未確認。	5、19、20
9	沢入A支群	利根郡月夜野町薮田		2基の窯体が確認されている（1979）。月夜野古窯址群の中では最も古い8世紀。	21
10	梨の木平遺跡	利根郡月夜野町薮田	S51．5．24～9．25	縄文中期敷石住居址、弥生中期の土坑5基、平安時代の住居1軒。	8
11	薮田遺跡	利根郡月夜野町薮田	S52．4～12（1次）53．6～9（2次）	弥生後期住居址1軒、平安住居址10軒、掘立柱建物址25棟（1次）平安住居址1軒、掘立柱建物址2棟、掘立柱穴群3群、土坑など（2次）	7
12	洞III遺跡	利根郡月夜野町洞	S52．9～12（1次）53．7～12（2次）	竪穴住居址1軒、掘立柱建物址3棟、土坑8基、墓坑1基、竪穴状遺構1基、溝1条（1次）総数竪穴住居址7軒。	6、7
13	小川城址	利根郡月夜野町月夜野1132	S55．5～7	掘立柱建物址、7棟、柱列は9列、配石遺構、土坑は15基、二の丸推定地にあたり、15～16世紀ごろのものである。	9
14	洞A支群	利根郡月夜野町上組洞1443	S45．7（1次）46．7～8（2次）	一次調査によって2基、二次調査によって1基確認。半地下式無段登窯。9世紀初頭。	2

15	洞Ⅰ、Ⅱ遺跡	利根郡月夜野町洞	S51. 4～10(1次) 53. 9～12(2次)	国分期住居址2軒、製鉄遺構1軒、掘立建物址10棟、井戸3基など(1次)掘立柱建物址8棟、土坑28基、井戸3基など。	5、7
16	洞古墳	利根郡月夜野町月夜野上組洞		味城山東麓突端台地上に立地。	19
17	都遺跡	利根郡月夜野町月夜野上組			
18	大原遺跡	利根郡月夜野町上津大原	S48年度(1, 2次) 49. 9～10(3次)	縄文時代中期阿玉台式土器の包含層、および弥生時代樽期の住居址2軒、和泉、真間期の住居址2軒。	4
19	十二原遺跡	利根郡月夜野町上津十二原	S48. 5～7	弥生時代住居1軒、古墳時代住居1軒、平安時代住居1軒、縄文時代中期遺物出土。	3
20	(3273)	利根郡月夜野町村主神社東西一帯		縄文時代、包蔵地	19
21	村主下遺跡	利根郡月夜野町上津村主		縄文時代、包蔵地。	19
22	鐘后改戸遺跡	利根郡月夜野町上津貝沢1556		縄文時代、包蔵地。	19
23	小川島八幡塚	利根郡月夜野町小川島八幡塚		円墳(径7～8m)、利根川と赤谷川合流点右岸河岸段丘上に立地。	19、20
24	三後沢遺跡	利根郡月夜野町下津三後沢、十二原	S57. 4～12	縄文早期の落し穴17基、前期住居8軒、中期住居9軒、弥生後期の住居13軒、土坑120基を確認。	14
25	城平遺跡	利根郡月夜野町下津城平	S56. 4～12	縄文前期住居1軒、落し穴10基、鬼高期住居8軒、丸馬出しを持つ中世城郭。	10
26	名胡桃城址	利根郡月夜野町下津城平3475～3480	同　上	城館址。昭和56に馬出し部の発掘調査実施。昭和24県史跡指定。	10、19
27	天神住居址	利根郡月夜野町上津天動天神2609		古墳時代、集落跡。	19
28	(3284)	利根郡月夜野町下津中村天神2333, 2357		弥生時代、包蔵地。赤谷川右岸河岸段丘上に立地。	19
29	宮の森遺跡	利根郡月夜野町下津岳改戸宮の森4344、柴際高地4146		縄文時代、包蔵地。	19
30	宮地遺跡	利根郡月夜野町下牧宮地		縄文時代、包蔵地。	

31	小竹遺跡	利根郡月夜野町下牧小竹		縄文時代、包蔵地。	
32	(3261)	利根郡月夜野町下牧東鳥井、1571砂田120		縄文、弥生時代集落跡。	19
33	大竹遺跡	利根郡月夜野町下牧大竹		縄文時代、包蔵地。	
34	高平遺跡	利根郡月夜野町下牧高平		縄文時代、包蔵地。	
35	八束脛洞窟	利根郡月夜野町後閑穴切		縄文、弥生、土師器、須恵器等出土。	19、20
36	豆窪遺跡	利根郡月夜野町後閑豆窪2396		弥生時代、包蔵地。	19、20
37	(3289)	利根郡月夜野町後閑小原1032		縄文時代、包蔵地。	19、20
38	門前A遺跡	利根郡月夜野町後閑門前		縄文時代、包蔵地。	
39	明徳寺城址	利根郡月夜野町後閑城山1717		城館址、室町時代。	19、20
40	大沢田古墳	利根郡月夜野町後閑下稗田1605		古墳	19、20

参考文献

1 山崎義男「上野国利根郡月夜野町二窯址について」 古代文化12－4 昭和16年4月
2 井上唯雄「群馬県利根郡月夜野町洞窯跡発掘調査報告」 月夜野町教育委員会 昭和48年3月
3 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ 群馬県教育委員会 昭和50年3月
4 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ 群馬県教育委員会 昭和50年12月
5 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ 群馬県教育委員会 昭和53年3月
6 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ 群馬県教育委員会 昭和54年3月
7 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ 群馬県教育委員会 昭和55年3月
8 梨の木平遺跡 群馬県教育委員会 昭和52年3月
9 小川城址 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和56年3月
10 城平遺跡 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和56年3月
11 山崎 一 「群馬県古城塁址の研究」上巻 昭和46年
12 山崎 一 「群馬県古城塁址の研究」下巻 昭和47年
13 名胡桃城址 1981年11月1日に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
14 三後沢遺跡 1982年10月に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
15 天代瓦窯遺跡 中之条町教育委員会 昭和57年2月
16 古馬牧村史 月夜野町誌第二集 古馬牧村史編纂委員会編 月夜野町誌編纂委員会 昭和47年
17 桃野村史 月夜野町誌第一集 桃野村史編纂委員会編 月夜野町誌編纂委員会 昭和36年
18 後田遺跡 1982年12月11、12日に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
19 群馬県遺跡地図 群馬県教育委員会 昭和48年
20 群馬県遺跡台帳Ⅰ東毛編 群馬県教育委員会 昭和46年
21 土器部会研究資料No.2 群馬県歴史考古同人会 昭和58年

Ⅲ　調査の方法と経過

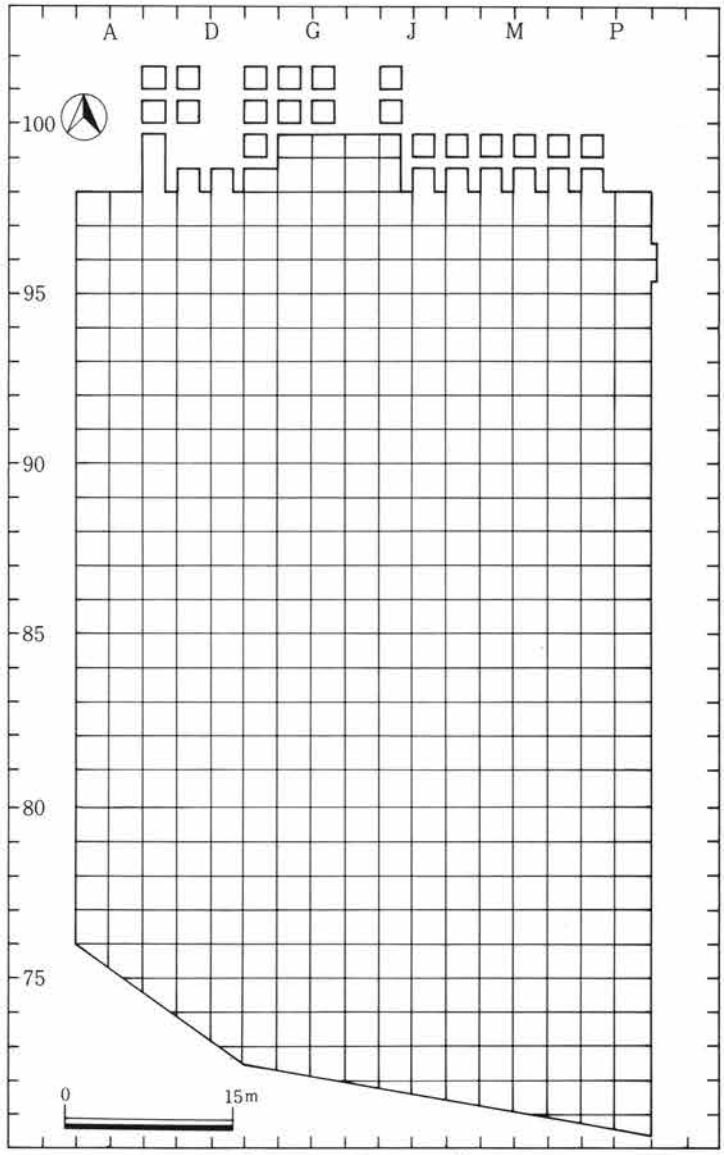
1．調 査 の 方 法

薮田東遺跡の発掘調査を実施前に西接する薮田遺跡（注）が調査終了しており、遺跡の概要、性格等がある程度把握され、本遺跡も薮田遺跡と同一の平安時代の集落が主体となることが予想された。なお、両遺跡は、同一段丘面上に形成された集落遺跡であるため、本来ならば「薮田遺跡」として一括すべきであるが、調査主体及び原因者等が異なり又整理作業も同一歩調をとり得ないことにより、本遺跡については発掘調査開始時から報告書にいたるまで「薮田東遺跡」として呼称することとした。

調査の前段階として遺構の内容、範囲及び土層状態等の情報を得ることを目的として予備調査を実施した。予備調査は3×3mのグリッドを設定後、1×2mのトレンチ調査により行った。この結果から、住居址はあまり密ではなく10軒前後の基数であること、遺跡北半部に粘土採掘坑と考えられる落ち込みが広範囲に広がること、遺物は平安時代の土器類を中心とし多量に出土すること及び土層は耕作による攪乱をかなり受けており、特に南半部では表土下20cm内外でローム面となること等が確認された。この結果と薮田遺跡の調査成果をもとに本遺跡が平安時代の粘土採掘坑を伴う集落遺跡であることが確実視された。調査はこれらの内容をふまえ、次のような方法で実施することとした。

① グリッドは薮田遺跡調査時のものと一致できるよう設置する。設定は薮田遺跡W—24杭を基準として行った。グリッドの名称は、このW—24杭をA—101ポイントとし、これを基点にN—S軸は南側へ100、99、98……70とし、E—W軸は東側へB、C、D……Qとする。グリッドは南西コーナーを原点としA—90グリッド、B—90グリッドと表記する。（第4図）

② 調査はグリッド単位で行い南側と西側に幅30cmのセクショ



第4図　グリッド設定図

ンベルトを残す。遺構未検出の場合は土層図等の作成を行わずに除去する。

③ 遺物の取り上げについて、遺構内出土遺物については出土状態図を作成し、遺構外のものについてはグリッド単位で一括し、調査進行に伴い遺構と関係する場合は、その時点で還元する。

④ 図面は、遺構図については平面図、断面図とも縮尺1/20で作図する。同時に遺構配置図(全体図)、コンタ実測図を縮尺1/40で作成する。

⑤ 写真は、遺構写真は6×9版ブロニーサイズを使用し、補助的に35㎜版を併用する。発掘調査状況等は35㎜版により随時撮影する。

⑥ 発掘調査体制及び期間については次のとおりとする。

予備調査　昭和54年3月26日～同月28日　　担当者　原　雅信、木津博明

本 調 査　昭和54年4月12日～10月31日　　〃　　原　雅信、中沢　悟、相京建史

注　薮田遺跡は、昭和53年群馬県教育委員会により調査された。「上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報VI」

2. 調 査 の 経 過（発掘調査日誌）

予備調査

3月26日（晴）　予備調査のための大グリット（9×9m）を設定し、トレンチ調査（1×2m）を行う。

27日（晴）　トレンチ調査継続。遺構は地表面から20～30㎝、ローム上面において検出される。

28日（晴）　耕作による攪乱をかなり受けている。粘土採掘坑が北半に大きく広がっている。遺物は坏、羽釜等が多く出土している。

本調査

4月12、13日　発掘調査機材及び備品等の搬入を行う。

16日（晴）　調査区域内の整備を行う。

17日（曇/雪）午後より雪のため予備調査時の出土遺物の水洗作業を行う。

18日（晴）　午前中は積雪のため遺物水洗作業を継続する。午後から遺物検出トレンチの拡張及び遺跡東南部の表土排除作業を行う。

19日（晴）　昨日からの作業の継続を行う。簡易トイレの設置。

20日（雨）　出土遺物の水洗作業を行う。

23日（晴）　バックホーにより表土を排除した部分の遺構検出作業を行う。

24日（晴）　〃

25日（晴）　〃

26日（曇）　〃

27日（雨）　出土遺物の水洗作業。バックホー及びブルドーザー本日引き上げる。

5月1日（曇）　遺構検出作業継続。遺跡北側において道路工事開始する。

2日（曇）　遺構検出作業継続。月夜野町教育長高井氏他3名、見学に訪れる。作業員賃金支払い。

4日（晴）　遺構検出作業継続。臨時電話設置。

7日（曇）　遺構検出作業継続。北側よりグリッド調査開始。

8日（雨）　作業休止。

9日（晴）　グリッド調査及び遺構検出作業を継続する。

10日（晴/曇）　〃

11日（曇）　〃

14日（雨）　出土遺物の水洗作業を行う。

15日（晴）　グリッド調査及び遺構検出作業を継続。

16日（雨/曇）午前中、雨のため出土遺物の水洗作業を行う。午後グリッド調査及び遺構検出作業を行う。

17日（雨）　出土遺物の水洗い、及び注記を行う。図面整理。

18日（晴）　グリッド調査及び遺構検出作業を継続。

21日（晴）　作業継続。作業進行状況の写真撮影を行う。

22日（晴）　遺構未検出グリッドのセクションベルトをはずす。97ライン北側の拡張作業。

23日（晴）　粘土採掘坑及び掘立柱建物址調査を始める。

24日（晴）　〃

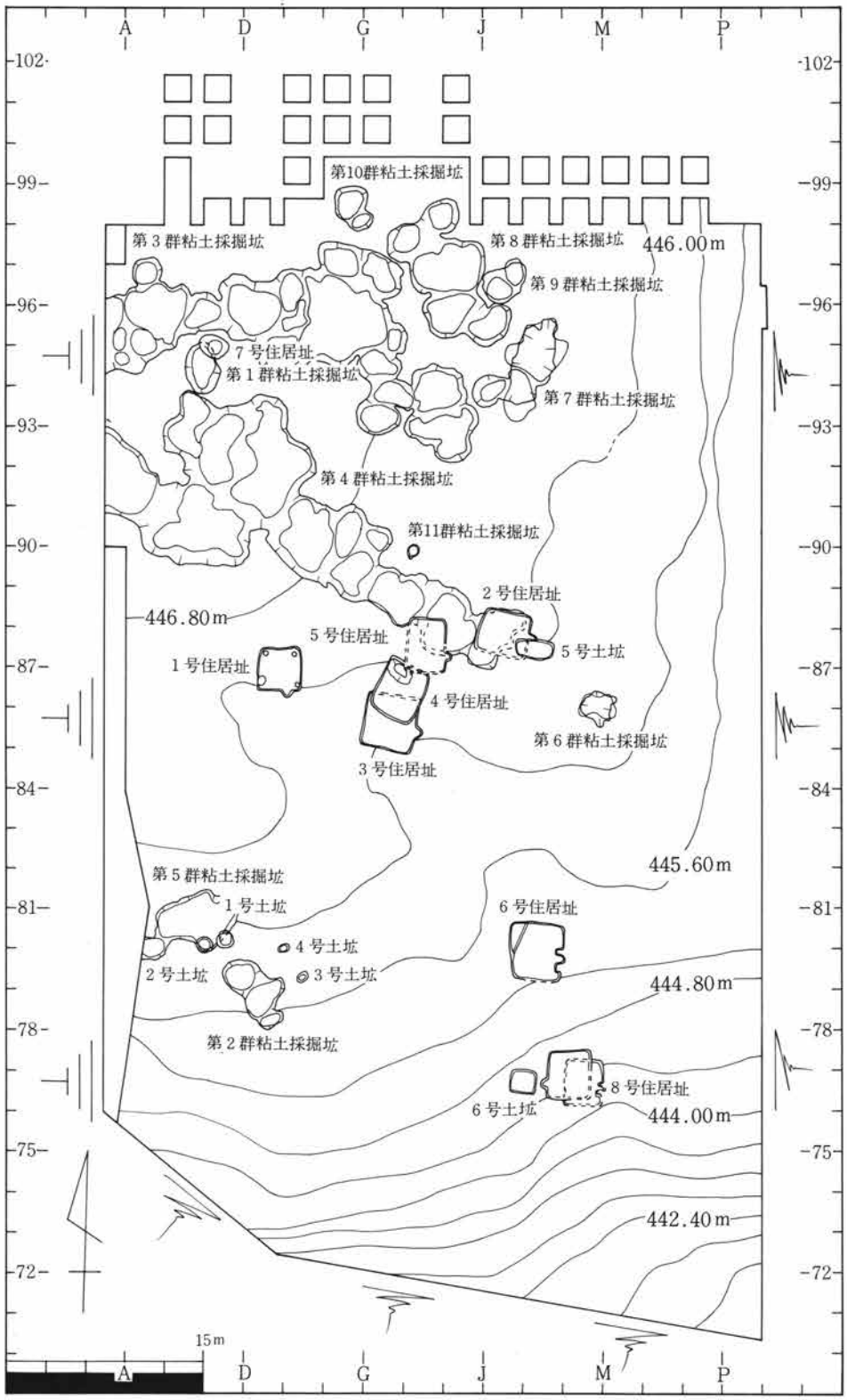
25日（曇/雨）　〃

28日（晴/曇）　〃

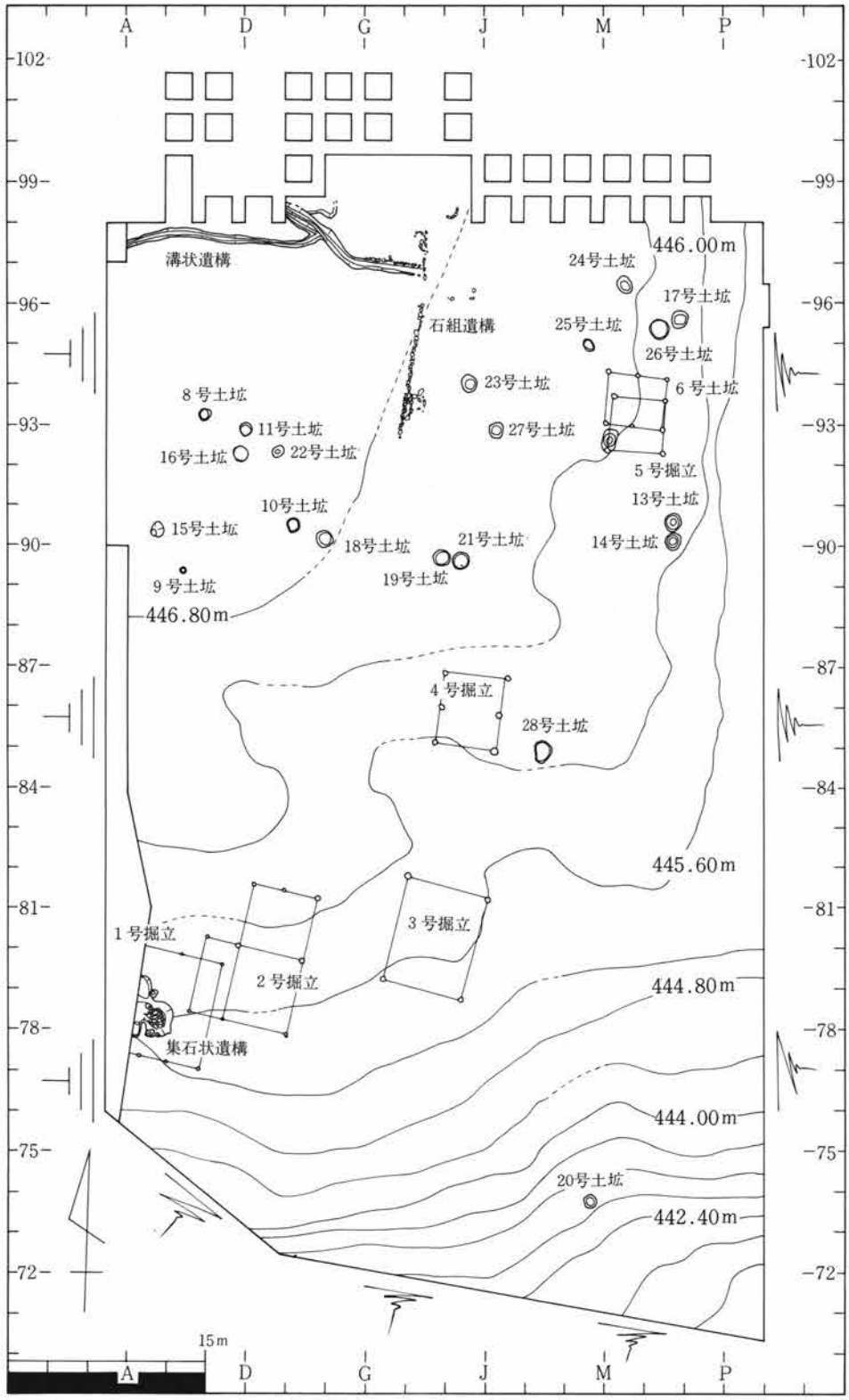
29日（晴）　〃

30日（晴）　　〃
31日（晴）　掘立柱建物址平面図作成、粘土採掘調査継続。
6月1日（晴）　粘土採掘坑調査継続。土坑調査開始。
4日（晴）　粘土採掘坑調査継続。土坑調査、1号住居址調査始める。作業員賃金支払い。
5日（晴）　調査継続。
6日（晴）　調査継続。
7日（曇/雨）調査継続。気象庁、関東地方の梅雨入宣言。
8日（雨/晴）午前中、出土遺物の水洗及び注記作業。午後、調査継続。
11日（雨）　出土遺物の水洗、注記及び図面整理を行う。
12日（晴）　調査継続。
13日（晴）　調査継続。90ライン及びFラインセクション図作成。10号及び18号土坑写真撮影。
14日（雨）　出土遺物の水洗、注記及び図面整理。
15日（晴）　調査継続、粘土採掘坑セクション図作成。
18日（晴）　集石遺構調査、平面図作成及び写真撮影。Gライン東側グリッド調査し、採掘坑の広がりを確認。
19日（曇/雨）7号土坑調査（骨蔵器出土）実測の後、写真撮影。
20日（曇）　第4群粘土採掘坑の東側への広がりがKラインまであることを確認。第1群粘土採坑、平面図作成及び写真撮影。
21日（曇）　第2群粘土採掘坑プラン確認の後、調査。
22日（晴）　第3群粘土採掘坑セクション図作成の後、ベルトとりはずし。コンタ実測。
23日（晴）　物置整理。月夜野町教育長高井氏他1名来訪。
25日（晴）　調査継続。
26日（曇）　調査継続。1号土坑調査。第2群粘土採掘坑調査終了。
27日（曇）　土坑平面図及び写真撮影、調査継続。
28日（晴）　土坑平面図及び写真撮影。午後3時すぎはげしい雷雨あり。
29日（雨）　出土遺物の水洗。図面整理。
7月2日（曇/雨）採掘坑内の雨水の排水作業。作業員賃金払い。
3日（曇）　採掘坑内セクションベルトとりはずし。
4日（晴）　第4群粘土採掘坑コンタ実測。1号及び2号掘立柱建物址図面作成。
5日（晴）　第2群粘土採掘坑コンタ実測、調査。
6日（晴）　第3群及び第4群粘土採掘坑、Gライン以西平面実測。掘立柱建物址写真撮影。
7日（曇）　図面整理を行う。
9日（晴）　第1群、第3群、第4群粘土採掘坑写真撮影を行う。Gライン以東グリッド調査。
10日（曇）　Gライン以東グリッド調査及び遺構未検出グリッドセクションベルト除去。
11日（雨）　図面整理及び出土遺物の水洗及び注記作業を行う。
12日（晴/曇）グリッド調査継続、第2群、第5群粘土採掘坑コンタ実測。A～G－87グリッド以南の地形実測。
13日（晴/曇）グリッド調査及び遺構実測作業継続。
16日（雨/晴）遺物の水洗。グリッド調査継続。
17日（曇）　掘立柱建物址実測及び写真撮影。県議会文教治安常任委員21名遺跡見学。
18日（曇/雨）グリッド調査継続。午後は雨のため遺物の水洗作業。
19日（曇）　グリッド調査継続。2号住居址調査。
20日（曇/雨）調査継続。午後、雨のため遺物の水洗及び図面整理。
23日（晴）　グリッド調査終了。
24日（晴）　石組遺構実測。午後、雨のため遺物の水洗及び図面整理。
25日（雨）　遺物の水洗及び図面整理。
26日（晴）　6号住居址調査。地形コンタ実測。
27日（曇/雨）調査継続。午後、雷雨のため遺物の水洗及び図面整理。
30日（晴）　近世土坑調査。本日から神奈川大学考古学研究会の学生7名、調査に参加する。
31日（晴）　土坑調査。7月分作業員賃金報告。
8月1日（晴/雨）土坑調査。午後から雨のため遺物水洗及び図面整理。
2日（晴）　土坑写真撮影。作業員賃金支払い。
3日（曇/雨）調査継続。
4日（曇/雨）図面及び写真の整理。
6日（晴）　3号住居址調査。
7日（雨/晴）午前中は雨のため室内作業。午後から調査継続。
8日（晴/曇）土坑調査及び写真撮影。3号、4号及び5号住居址調査。
9日（晴）　3号住居址実測図作成。
10日（晴）　土坑調査及び写真撮影。6号住居址調査。

11日（晴）　図面整理及び遺構記録カードの作成。
13日（晴/曇）遺構全体図¼作成。6号住居址調査終了。7号住居址調査。3号住居址調査継続。
14日（晴/雨）調査継続。午後より雨。
15日（晴）　7号住居址調査継続。
16日（晴）　調査継続。
17日（曇/晴）第6群粘土採掘坑調査。調査範囲の安全ロープの点検。
20日（曇）　掘立柱建物址写真撮影終了。
21日（雨）　図面整理、遺構記録カードの作成及び遺物の水洗作業。午後月夜野町町議会議員15名見学。
22日（雨）　図面整理、遺物の水洗作業。
23日（雨/曇）午前中は図面整理、遺構記録カードの作成を行う。午後から発掘調査を行う。
24日（晴）　7号住居址調査。住居中央部より骨蔵器出土。
27日（曇）　調査継続。鉄道建設公団職員、埼玉県桶川市教育委員会石田利夫氏遺跡見学。
28日（晴）　第6群粘土採掘坑調査継続。少なくとも2回の採掘作業が行われていることが確認される。
29日（晴）　第6群粘土採掘坑、第3群粘土採掘坑調査継続。
30日（曇）　調査継続。県教育事務所長遺跡見学。
31日（曇）　第6群粘土採掘坑遺物出土状態図作成の後取り上げ。群馬県企業局赤山容造氏遺跡見学。作業員8月分賃金報告。
9月1日（曇）　図面整理。見学者2名。
3日（曇）　8号住居址調査。作業員賃金支払い。
4日（晴/雨）粘土採掘坑調査。
5日（晴）　調査継続。群馬県教育センター磯貝基一氏（現群馬県教育委員会青少年課）遺跡見学。
6日（曇）　道路公団職員遺跡見学。
7日（曇/晴）8号住居址調査終了。
8日（晴）　図面整理。月夜野町教育長高井氏他2名、埋蔵文化財調査事業団職員16名遺跡見学。
10日（曇）　第6群粘土採掘坑調査終了。写真撮影。
11日（晴）　粘土採掘坑平面図作成。
12日（晴）　調査継続。
13日（晴）　土坑調査及び実測図作成。粘土採掘坑調査及び実測図継続。
14日（曇）　調査継続。
17日～21日　粘土採掘坑調査継続。原県外研修。
25日～28日　雨のため遺物の水洗及び図面整理。
10月1日（晴）　連続的な雨により遺跡にかなりの量の水がたまったため復旧作業を行う。作業員賃金支払い。
2日（雨）　粘土採掘坑調査開始、午後は雨のため遺物の水洗及び図面整理。
3日（雨）　遺物の水洗及び図面整理、遺構記録カードの作成。
4日（雨/曇）再度遺跡内の水のくみ出し作業を行う。
5日（晴/曇）粘土採掘坑調査継続、土層断面図及び写真撮影を行う。
6日（曇）　発掘作業休止、図面整理を行う。
8日（曇）　粘土採掘坑調査継続。
9日（晴/曇）調査継続。月夜野町立第1中学校生徒遺跡見学。
11日（晴）　粘土採掘坑調査継続。中沢本日より県外研修。
12日（晴/曇）粘土採掘坑調査継続。
15日（晴）　粘土採掘坑調査継続。
16日（晴）　粘土採掘坑調査継続。
17日（晴）　粘土採掘坑調査継続。
18日（雨）　午前中から台風20号通過のため作業休止。
19日（雨）　台風20号通過のため作業休止。
22日（晴）　前日までの台風の影響により遺跡内にもかなりの災害をうけた。水のくみ出し及び復旧作業を行う。
23日（晴）　粘土採掘坑各郡の個別写真撮影。
24日（曇）　粘土採掘坑実測開始。朝日新聞沼田支局鈴木得三氏来訪。
25日（晴）　粘土採掘坑実測継続。
26日（晴）　粘土採掘坑実測継続。午後電話の取りはずし。鉄道建設公団職員遺跡見学。調査用機器材の整理。
29日（曇）　粘土採掘坑実測図修了。遺物の水洗作業。道路公団職員遺跡見学。事務所内整理。
30日（晴）　調査用機器材の搬出作業を行う。作業員賃金報告。
31日（晴）　調査用具の撤収終了。作業員賃金支払い。



第５図　薮田東遺跡全体図(1)



第6図　薮田東遺跡全体図(2)

Ⅳ　検出された遺構と遺物

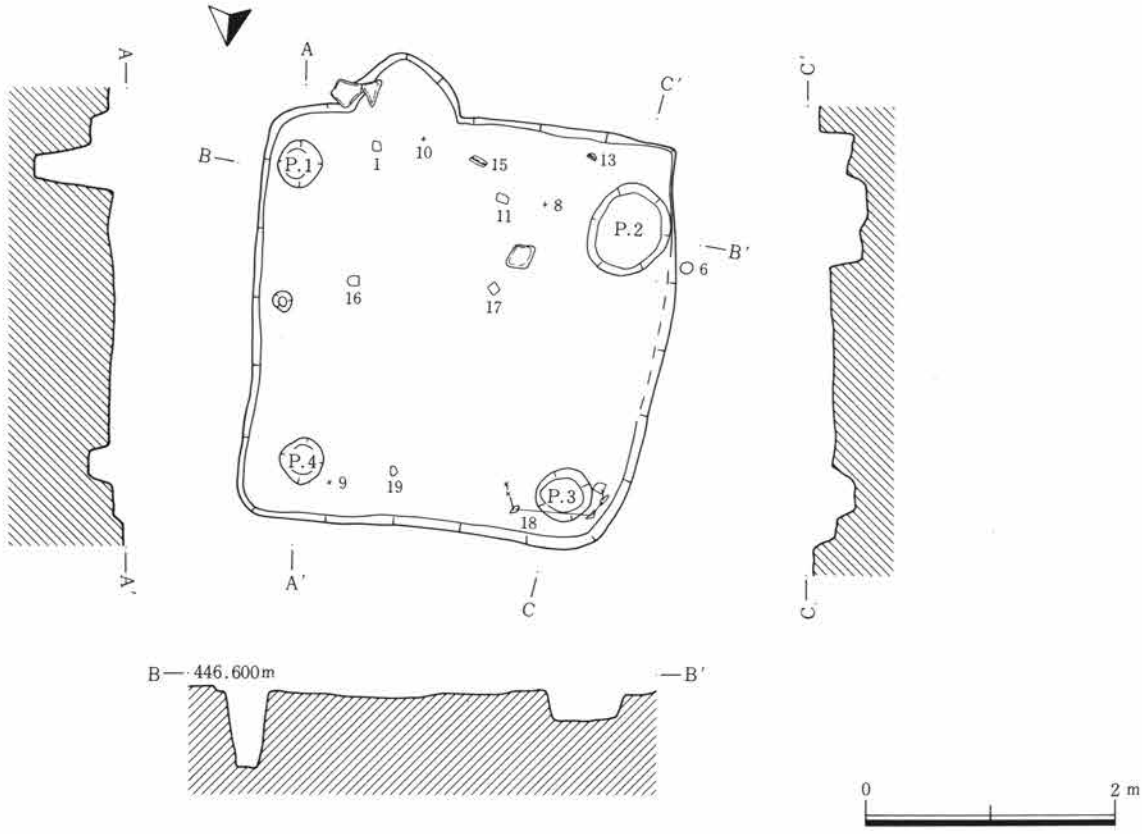
1．平安時代の遺構と遺物

(1)　住 居 址

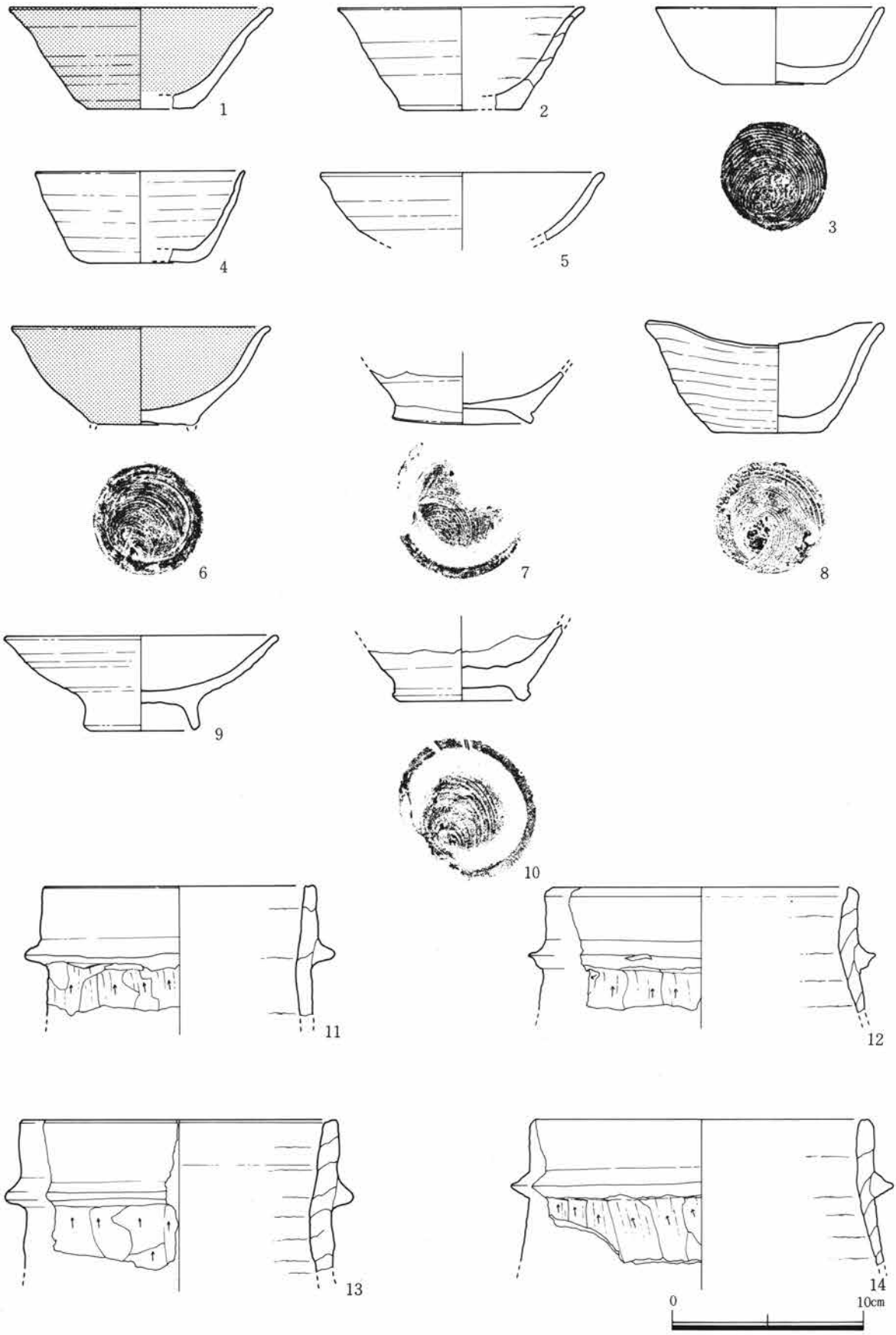
発掘調査により８軒の住居址が検出された。各住居址はいずれも耕作等後世の攪乱を受けており、壁及び床面等部分的に破壊されている。又、３・４・５号住居址の３軒、７・８号住居址の２軒は住居相互の切り合いがあり、２号住居址、５号住居址は各々第４群粘土採掘坑と重複している。各住居址は、いずれも平安時代に属し、１号住居址～６号住居址は台地平坦部に、７・８号住居址は南側斜面にそれぞれ立地している。

１号住居址（第７図、図版３－１）

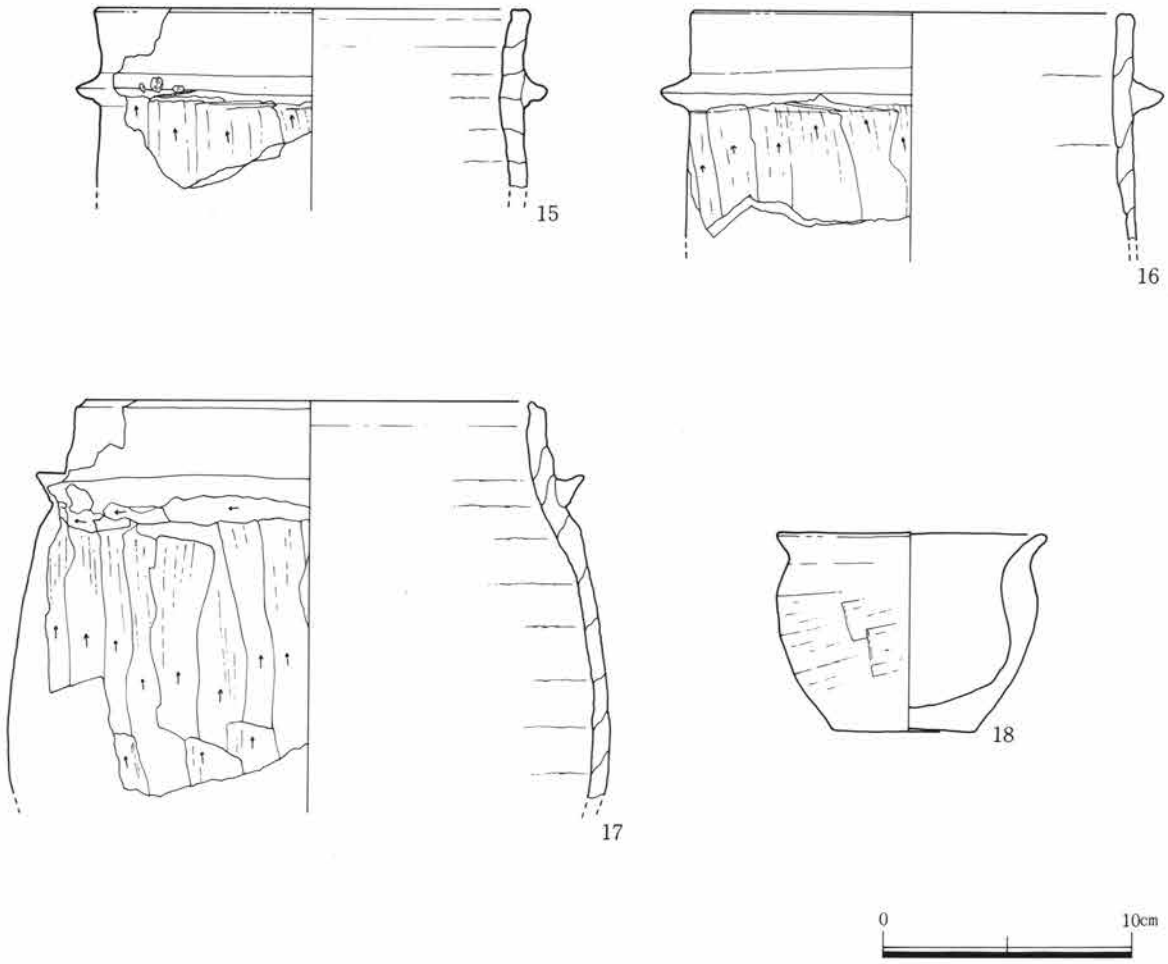
Ｄ・Ｅ－86・87グリットに位置する。耕作等による後世の攪乱が著しく、壁はコーナー部分が検出された他は、ほとんど破壊されている。平面形は一辺3.3m前後を測り、ほぼ正方形のプランを呈する。面積は11m²、主軸方位はＮ－76°－Ｗ。床面は軟弱であり、約⅓位の面積を攪乱により破壊されている。柱穴は、各コーナーに近接して４本確認された。周溝はみられない。カマドも攪乱によりほとんど消失しているが、住居南壁東コーナー寄りに焼土及び掘り込みが検出され、この部分にカマドが構築されていたと考えられる。南カマドは本遺跡ではこの１号住居址のみである。遺物は遺構自体の残存状態が悪いため量的には少ない。第８図、９図に示した個体の他、小破片が若干出土している。



第７図　１号住居址実測図



第8図　1号住居址出土土器(1)



第９図　１号住居址出土土器(2)

１号住居址出土土器観察表（１）

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
1H－1	須恵 坏 イブシ	13.8	5.6	5.2	床面	底面に回転糸切り痕。口縁部はゆるやかに外反。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒がわずかにまじる。
1H－2	須恵 坏	13.0	6.4	5.3	カマド	口縁部はわずかに外反する。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
1H－3	須恵 坏	11.9	5.5	4.0	床面	底面左回転糸切り痕。口径に比して底径が小さい坏。底部が肉厚で、糸切り面は外側へやや張り出す。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を多く含み、２㎜前後の黒色鉱物粒が多少まじる。
1H－4	須恵 坏	11.0	5.4	4.8	覆土	底径・口径ともに小さな坏である。ロクロ目が比較的明瞭である。左回転により整形されている。	①灰褐色 ②酸化 ③⅕ ④白色鉱物粒、石英粒をわずかに含む。
1H－5	須恵 坏	15.0	—	—	床下	口縁部がわずかに外反する。器内面に一部炭素が吸着する。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④１㎜前後の白色鉱物粒が多少含まれる。

1号住居址出土土器観察表（2）

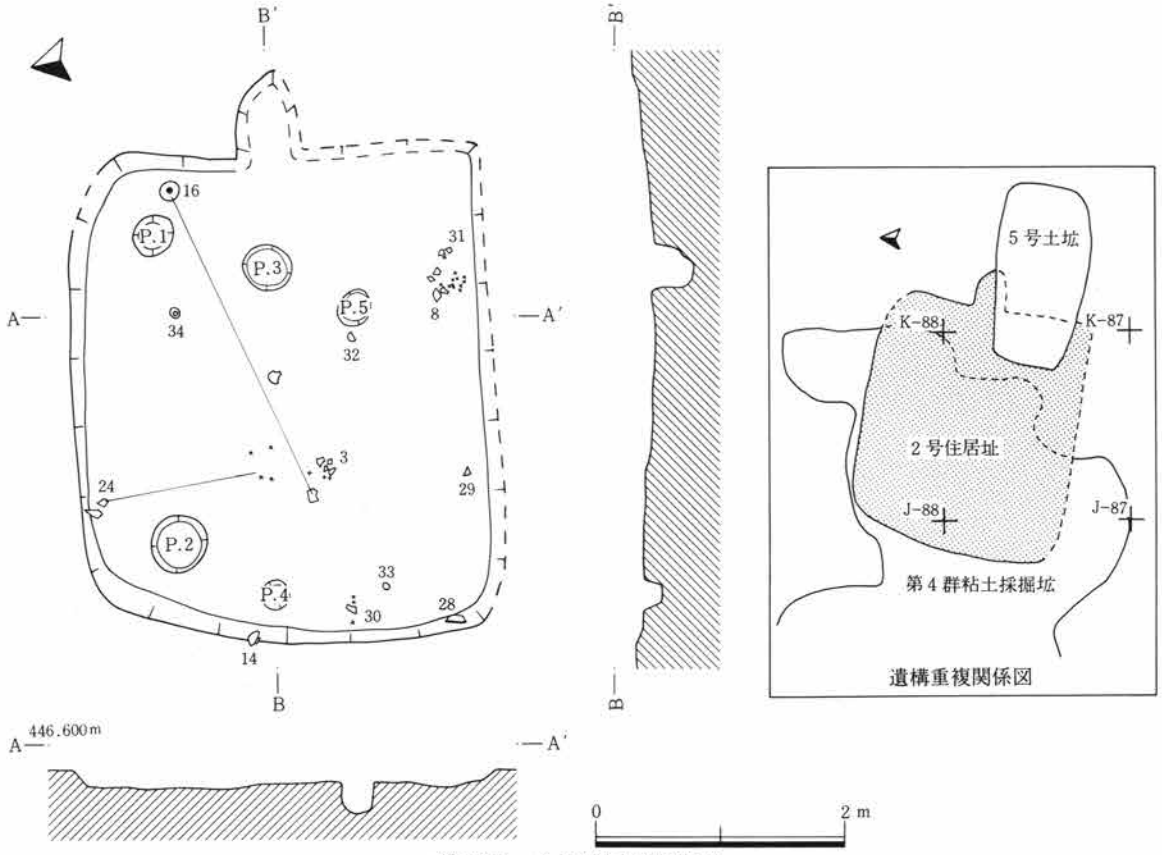
1H－6 (27－2)	須恵 埦 イブシ	13.6　5.6　5.0 （高台貼付部）	床面	高台が貼付部からきれいにはずれている。底面に右回転糸切り痕。口縁部はゆるやかに外反する。	①灰褐色　②酸化　③¾　④砂粒、白色鉱物粒を多く含む。石英粒も目立つ。
1H－7 (27－3)	須恵 埦	－　7.4　－	床下	高台部内側右回転糸切り痕。貼付高台部内側は一部剝離している。	①灰褐色　②酸化　③口縁欠　④白色鉱物粒が含まれ、3～4㎜の黒色鉱物粒、石英粒がわずかにみられる
1H－8 (27－1)	須恵 坏	12.5　5.6　4.6～5.8	床面 覆土	口縁部が大きく楕円形に歪んだ坏である。底面右回転糸切り痕。口縁部はゆるやかに外反する。	①灰白色　②還元　③⅓　④砂粒を多く含み、2㎜前後の黒色鉱物粒がわずかにみられる。
1H－9 (27－5)	須恵 埦	14.4　6.2　4.9	床面	高台部内側に回転糸切り痕。体部は右回転で整形。高台が高く坏部の浅い埦。	①灰白色　②還元　③⅙　④砂粒を含み、黒色微鉱物粒がみられる。
1H－10 (27－4)	須恵 埦	－　7.3　－	床面	高台部内側右回転糸切り痕。底部は肉厚で高台の貼付は丁寧である。	①褐色　②酸化　③口縁欠　④黒色微鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
1H－11 (27－7)	須恵 羽釜	14.2　－　－	床面	胴部から口縁部にかけ直立ぎみに立ち上がる。口唇部上端は平坦である。鍔は三角形を呈す。	①灰褐色　②酸化　③口縁⅕　④白色微鉱物粒が多く、石英粒もわずかに含まれる。
1H－12 (27－6)	須恵 羽釜	16.4　－　－	床下	口縁部はほぼ直立し、口唇部は外側に面をもつ。鍔は三角形を呈し、わずかに上向きに付けられる。	①灰褐色　②酸化　③口縁⅙　④石英粒が目につき、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
1H－13 (27－9)	須恵 羽釜	16.7　－　－	床面	胴部から口縁部にかけ直立ぎみに立ち上がる。口縁部は長く、鍔は太く下向きに付けられる。	①灰褐色　②酸化　③口縁⅙　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒も含まれる。
1H－14 (27－10)	須恵 羽釜	17.4　－　－	柱穴	口縁はほぼ直立する。口唇上端は平坦面をもつ。鍔は三角形を呈し、しっかり付着する。鍔下端には胴部ヘラ削りの止め押さえが残る。	①灰褐色　②酸化　③口縁⅙　④砂粒が多く含まれ、わずかに石英粒もみられる。
1H－15 (27－8)	須恵 羽釜	17.6　－　－	床面	胴部から口縁部にかけ直立ぎみに立ち上がり、わずかに外反する。鍔は三角形を呈し、下端に胴部からのヘラ削り止め押えが明確に残る。	①灰白色　②還元　③口縁⅕　④黒色鉱物粒をわずかに含み、石英粒もみられる。
1H－16 (27－12)	須恵 羽釜	17.8　－　－	床面	胴部から口縁部にかけほぼ直立する。口唇上端は平坦面をもつ。鍔は三角形を呈し、しっかり付着する。	①灰褐色　②酸化　③口縁¼　④白色鉱物粒、砂粒の他に石英粒も多く含まれる。
1H－17 (27－11)	須恵 羽釜	18.8　－　－	床面	胴部から口縁部にかけわずかに内傾する。口唇部は外側に面をもつ。鍔は三角形を呈し、上向きである。	①灰褐色　②酸化　③口縁～胴上半⅙　④砂粒、白色鉱物粒を多く含み石英粒もみられる。
1H－18 (27－13)	須恵 小型甕	10.8　5.8　7.9	床面	口縁部及び頸部は横ナデ。以下は横位のヘラ削りを施す。口縁部は短かく、くの字状に外反する。	①灰褐色　②酸化　③⅔　④白色鉱物粒を含み、石英粒もわずかにみられる。

Ⅳ　検出された遺構と遺物

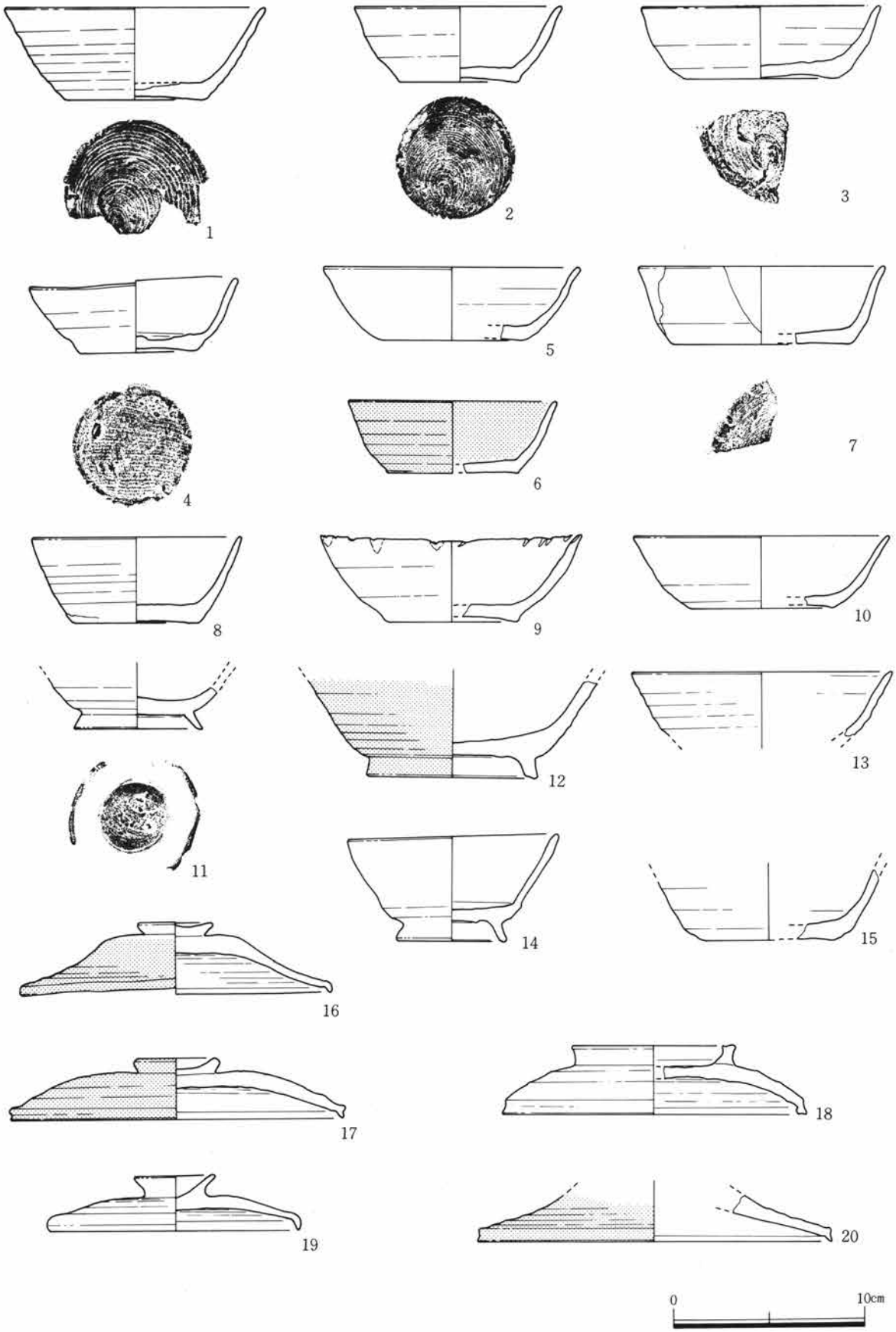
2号住居址（第10図、図版3－2）

Ⅰ・J・K－87・88グリッドに位置する。表土から確認面（ローム面）まで20cm弱と浅く、耕作溝による攪乱が著しく、検出された住居址の中で最も残存状態の悪い住居址である。又、第4群粘土採掘坑東端部上に構築されているため、より状態を悪くしている。平面形は、長辺3.9m、短辺3.4mを測る長方形プランを呈し、面積は約13.26m²である。主軸方位はN－101°－Eである。壁は北側で15cm、南側で10cmの残存高であり、全体的にはどうにかプランの確認が出来得る程度である。床面には一部ロームによる貼床が検出されたが残存状態は極めて悪く、約½は破壊されている。周溝はみられない。カマドは5号土坑により南半部分を切られ、北半部も耕作等による攪乱をうけており残存状態は悪く掘り方のみが検出された。東壁中央部に付設され、壁掘り込みは東へ65cm、焚き口部分は幅50cmを測る。柱穴は北西コーナー及び北東コーナーに近接して2本（P1、P2）確認された。P1は径30cm、深さ40cm。P2は径42cm、深さ35cmを測る。その他カマド焚き口部から西側へ60cmの位置、西壁中央部及び住居址中央南東寄りに各々pitが検出された。P3は径40cm、深さ35cm。P4は径27cm、深さ25cm。P5は径25cm、深さ15cmを測る。

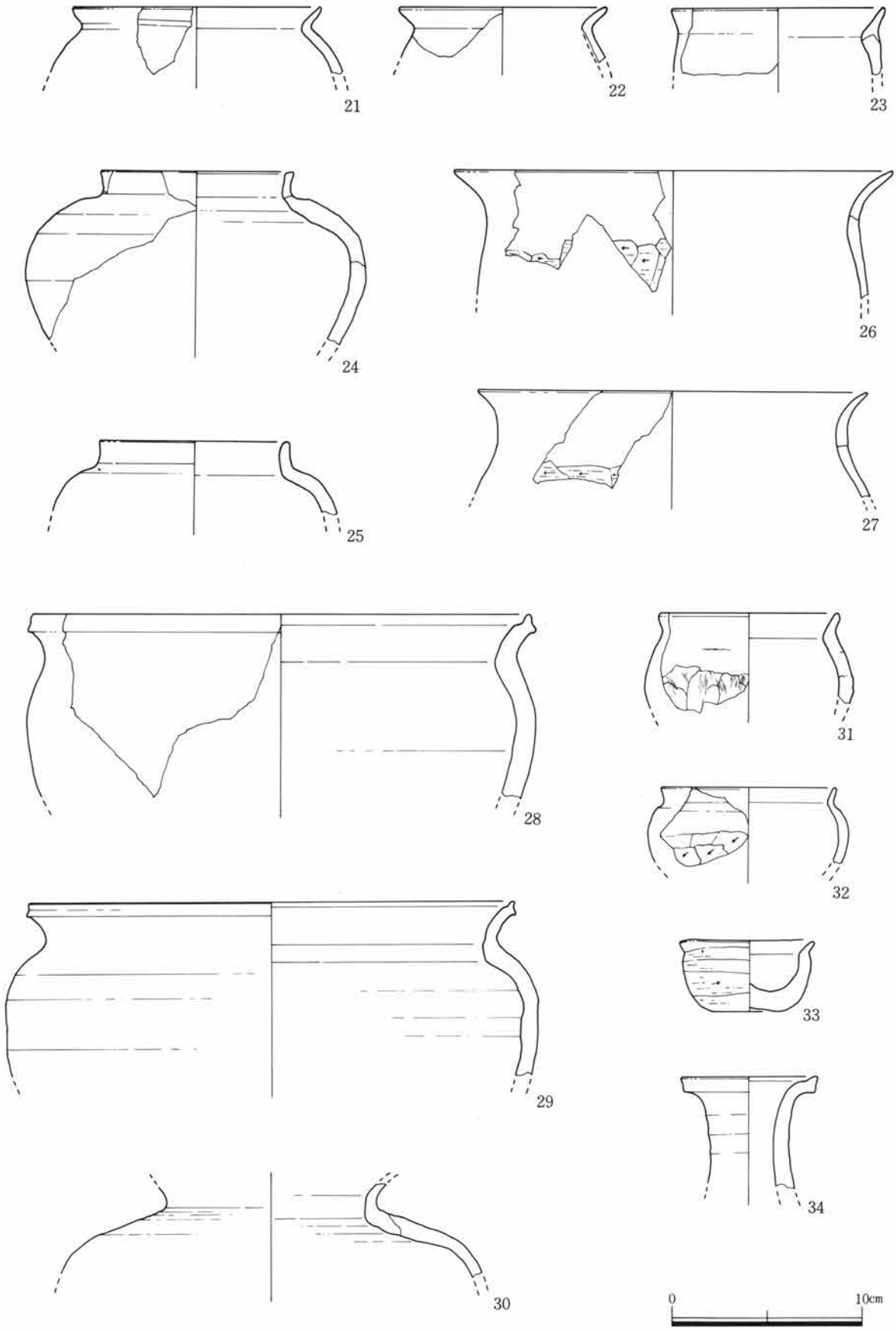
遺物は、1号住居址同様、攪乱が著しいため量的には少ない。第11・12図に示す遺物の他、破片が若干出土している。



第10図　2号住居址実測図



第11図　2号住居址出土土器(1)



第12図　２号住居址出土土器(2)

2号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
2H－1 (28－1)	須恵 坏	13.8	7.4	4.8	床面 カマド	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がる。体部にロクロ目が見られる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④3㎜前後の鉱物粒および石英粒もわずかに含まれる。
2H－2 (28－2)	須恵 坏	11.0	6.2	3.9	床面	体部から口縁部にかけ、わずかに丸みをもちながら立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④黒色鉱物粒が目につき、白色鉱物粒、石英粒も多少含まれる
2H－3	須恵 坏	12.5	8.0	3.8	床面	器高に比し、口径・底径ともに大きい坏。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒が多いが、黒色鉱物粒も多少含まれる
2H－4 (28－3)	須恵 坏	11.0	6.2	3.7	床面	口縁部・体部とも歪む。底部内面にロクロ目が残る。体部右回転。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁一部欠 ④黒色鉱物粒が多く、白色鉱物粒、石英粒も多少含まれる。
2H－5	須恵 坏	13.4	7.4	3.8	床面	口縁部はわずかに外反する。口径の大きい坏である。底面に回転糸切り痕。体部に部分的に炭素が吸着している。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
2H－6	須恵 坏 イブシ	11.0	6.9	3.7	床下	体部わずかに彎曲する。底面に回転糸切り痕。器内外面とも炭素が吸着している。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④2㎜前後の白色鉱物粒が含まれる。
2H－7	須恵 坏	12.8	9.2	4.0	覆土	底径が大きく、体部下位で稜をもち口縁部がわずかに外反する。内外面とも横ナデが施される。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③⅙ ④砂粒が多く含まれ、わずかに石英粒もみられる。
2H－8	須恵 坏	11.0	6.6	4.4	床面	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がる。体部にロクロ目が残る。床面右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④黒色鉱物粒が含まれる。石英粒はわずかにみられる。
2H－9 (28－4)	須恵 坏	13.8	7.0	4.5	床下	体部わずかに彎曲し、口縁部は変化なく立ち上がる。口唇部にヘラ状工具による刻み目が施される。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色微鉱物粒の他、黒色鉱物粒がやや含まれる。
2H－10	須恵 坏	13.4	7.4	3.8	覆土	体部下半はわずかに彎曲しながら直線的に立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④黒色微鉱物粒が含まれる。胎土は密である。
2H－11	須恵 椀	－	6.8 (高台部)	－	床面	底部は肉厚であり、回転糸切り痕一部残る。高台貼付は丁寧であり、強く外側へ張り出す。先端部は尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③口縁欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
2H－12 (28－5)	須恵 椀 イブシ	－	9.0 (高台部)	－	覆土	底部のかなり大きな椀である。貼付高台はしっかりしており丁寧である。	①灰白色 ②酸化 ③底部½ ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
2H－13	須恵 坏	13.6	－	－	覆土	体部から口縁部にかけほぼ直線状に立ち上がる。口唇部わずかに内側に面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③½ 底部欠 ④鉱物粒、石英粒ともわずかに含まれる。
2H－14 (28－6)	須恵 椀	11.1	5.8 (高台部)	5.4	床面	体部下位に稜をもつ。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部は若干肉厚である。貼付高台の付着は丁寧である。	①灰白色 ②還元 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。

2号住居址出土土器観察表（2）

2H−15	須恵坏	−　7.0　−	覆土	肉厚の底部からわずかに稜をもち立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¼　口縁欠　④2〜4㎜の鉱物粒が多く含まれる。胎土はやや粗い。
2H−16 (28−7)	須恵蓋 イブシ	16.4　4.0　3.8 (ツマミ部)	床面	ロクロ成形。天井部外面は回転ヘラ削り。肉厚の天井部から内彎し大きく開く体部となり、口縁部は垂直におりる尖りぎみの端部をもつ。	①灰褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
2H−17 (28−8)	須恵蓋 イブシ	17.4　4.5　3.2 (ツマミ部)	覆土	ロクロ成形。天井部外面は回転ヘラ削り。天井部はホタン状つまみの付着によりわずかに低くなる。口縁端部はくの字状を呈する。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
2H−18	須恵蓋	16.0　8.6　3.6 (ツマミ部)	床下	ロクロ成形。天井部にはリング状のつまみが丁寧に付けられる。体部は短く。口唇部はやや張り出し、端部に平坦面をもつ。	①灰白色　②還元　③⅙　④白色鉱物粒が多く含まれる。
2H−19 (28−9)	須恵蓋	13.0　4.3　2.8 (ツマミ部)	覆土	天井部は肉厚でわずかに段をもち短い体部となる。口縁端部は直角に屈折し尖りぎみとなり、天井部中央に大きく開く中くぼみツマミが付く。	①灰白色　②還元　③⅙　④白色鉱物粒の他、夾雑物が比較的多く含まれる。
2H−20	須恵蓋 イブシ	18.6　−　−	覆土	口縁上部及び口唇部外面に凹面をもつ。端部は尖りぎみにわずかに外反する。ロクロ成形。	①灰褐色　②酸化　③⅙　④白色鉱物粒の他、石英粒がわずかにみられる。
2H−21	土師小型甕	13.0　−　−	覆土	短いくの字状の口縁を呈する。内外面とも横ナデ。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④白色の微粒子が多く含まれる。
2H−22	土師小型甕	11.0　−　−	床下	くの字状に屈曲し、短かい口縁となる。内外面とも横ナデが施される。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④1㎜前後の粒子が多く含まれる。
2H−23	小型甕	11.2　−　−	床面	彎曲の少ない体部からゆるやかな、くの字状口縁となる。口縁部は短く、頸部の器肉が特に厚い。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④砂粒が多く含まれる。
2H−24	須恵短頸壺	10.1　17.8　− (胴部)	床面	大きく彎曲する体部から直立する短い口縁部となる。口唇部は内側に面をもつ。	①灰白色　②還元　③⅕　④白色鉱物粒とともに、石英粒もわずかにみられる。
2H−25	須恵短頸壺	10.0　−　−	床下	短い口縁は直立し、口唇部は丸みをもつ。口縁部内外面とも横ナデ	①褐色　②酸化　③口縁部片　④白色微粒子を多く含む。
2H−26	土師甕	23.0　−　−	床下	ゆるやかな体部から頸部がややすぼまり、口縁部は強く外反する。口縁部は内外面とも横ナデ。体部は横位のヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③口縁¼　④白色鉱物粒が多少含まれる。
2H−27	土師甕	20.4　−　−	床下	体部から彎曲しながら口縁部は強く外反する。口縁部内外面横ナデ、体部は横位のヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④白色鉱物粒が多少含まれる。
2H−28 (28−12)	須恵甕	26.2　−　−	床面	ゆるやかに彎曲する体部から頸部は、くの字状に屈曲し口縁部は外反する。口唇部の内、外側に凹面をもち、端部は尖りぎみに立ち上がる。	①灰白色　②還元　③口縁⅙　④白色粒子の他に、黒色鉱物粒が比較的多く含まれる。
2H−29 (28−13)	須恵甕	25.5　−　−	床面 覆土	彎曲する体部から、くの字状に外反する口縁部となる。口唇部は外側に凹面をもち尖りぎみに立ち上がる。内外面とも横ナデ。	①灰白色　②還元　③口縁¼④砂粒、白色鉱物粒が含まれる。

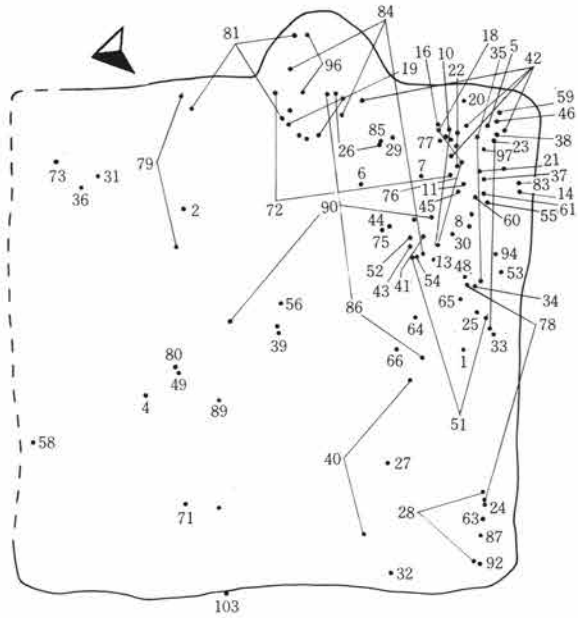
2号住居址出土土器観察表（3）

2H−30	須　恵	−　11.0　− （頸部）	床　面	体部は大きく彎曲し、頸部は強く、くの字状に屈曲する。内外面に横ナデが施される。	①灰白色　②還元　③頸部片　④黒色鉱物粒の他に、石英粒もわずかに含まれる。
2H−31	土　師 小型甕	9.4　−　−	床　面	短い口縁が、くの字状に外反する。口縁部内外面とも横ナデ。体部に底部からのヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③口縁⅓　④白色鉱物粒の他に、石英粒をわずかに含む。
2H−32	土　師 小型甕	9.2　−　−	床　面	体部は丸味をもち、下半部に斜位のヘラ削りが施される。口縁部は横ナデ整形。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④砂粒が多く含まれ、白色粒子も多少みられる。
2H−33 (28−10)	土　師 小型甕	7.1　4.0　3.7	床　面	肉厚の底部から彎曲する体部に至り、口縁部はくの字状に外反する。体部ヘラ削り。	①褐色　②酸化　③⅓　④砂粒、白色鉱物粒が含まれる。
2H−34 (28−11)	須　恵 長頸壺	7.2　−　−	床　面	頸部は口縁に向ってやや開きぎみに立ち上る。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖る。	①青灰色　②還元　③口縁　④白色微鉱物粒が含まれる。胎土は密である。

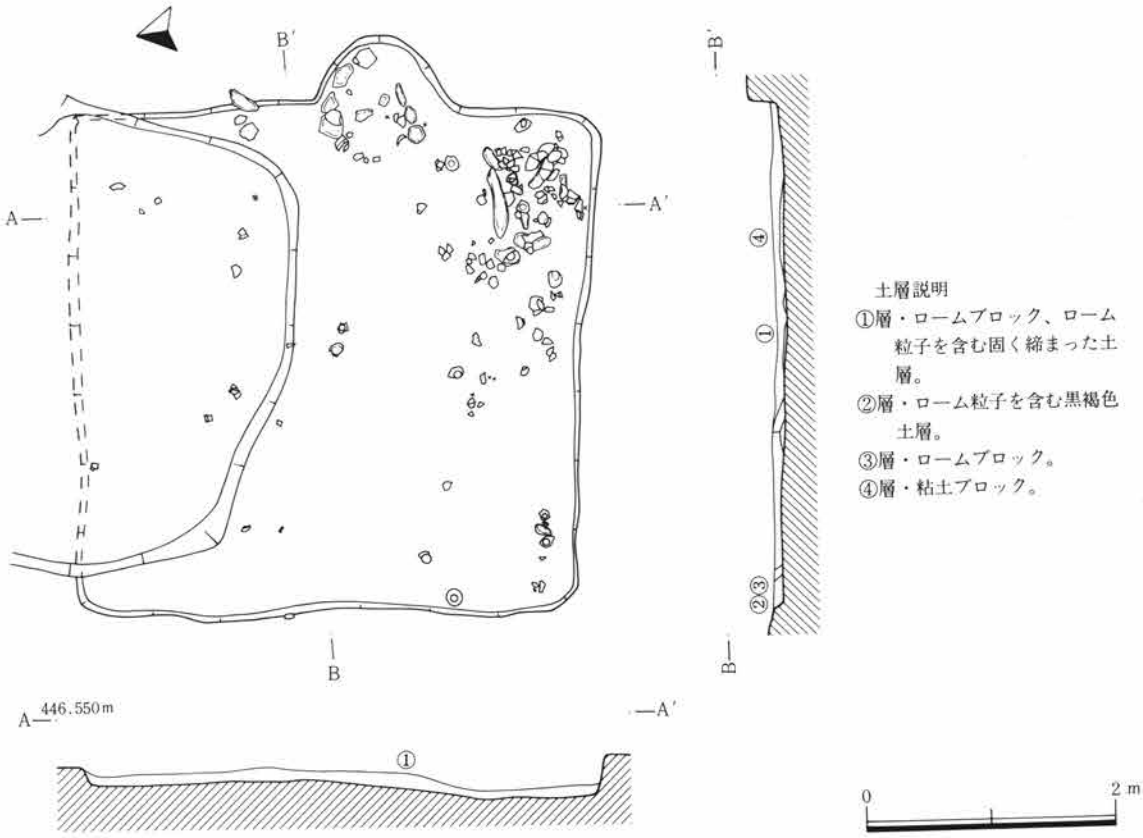
3号住居址（第13・14図、図版4）

F・G・H−84・85・86グリッドに位置する。住居北半部は4号住居址により切られている。平面形は一辺4.1m前後を測る正方形のプランを呈する。面積は約16.7m²、主軸方位はN−98°−Eである。本址は大部分が黒色土層中に構築され、又耕作による攪乱も受けているため遺構上半は残りは良くない。壁はほぼ垂直に立ち上がり残存高は東側で23cm、西側で8cmである。床面は軟弱であり、踏み固められたような面は検出されなかった。柱穴及び周溝はみられない。カマドは東壁中央南寄りに位置する。他の住居址と同様に残存状態は悪く掘り方が検出されただけである。掘り方は、床掘り込み、深さともわずかであり皿状をなし、東壁への掘り込みは幅110cm、奥行き54cmを測る。又、カマド内に主体部及び袖石として使用された礫が掘り方に沿って6個並んで検出された。南東コーナー付近に長さ58cm、幅12cmの河原石の他4個の礫による石組状の貯蔵施設が検出された。規模は一辺60cmの正方形を呈し、底面は深さ10cmで皿状にくぼんでいる。

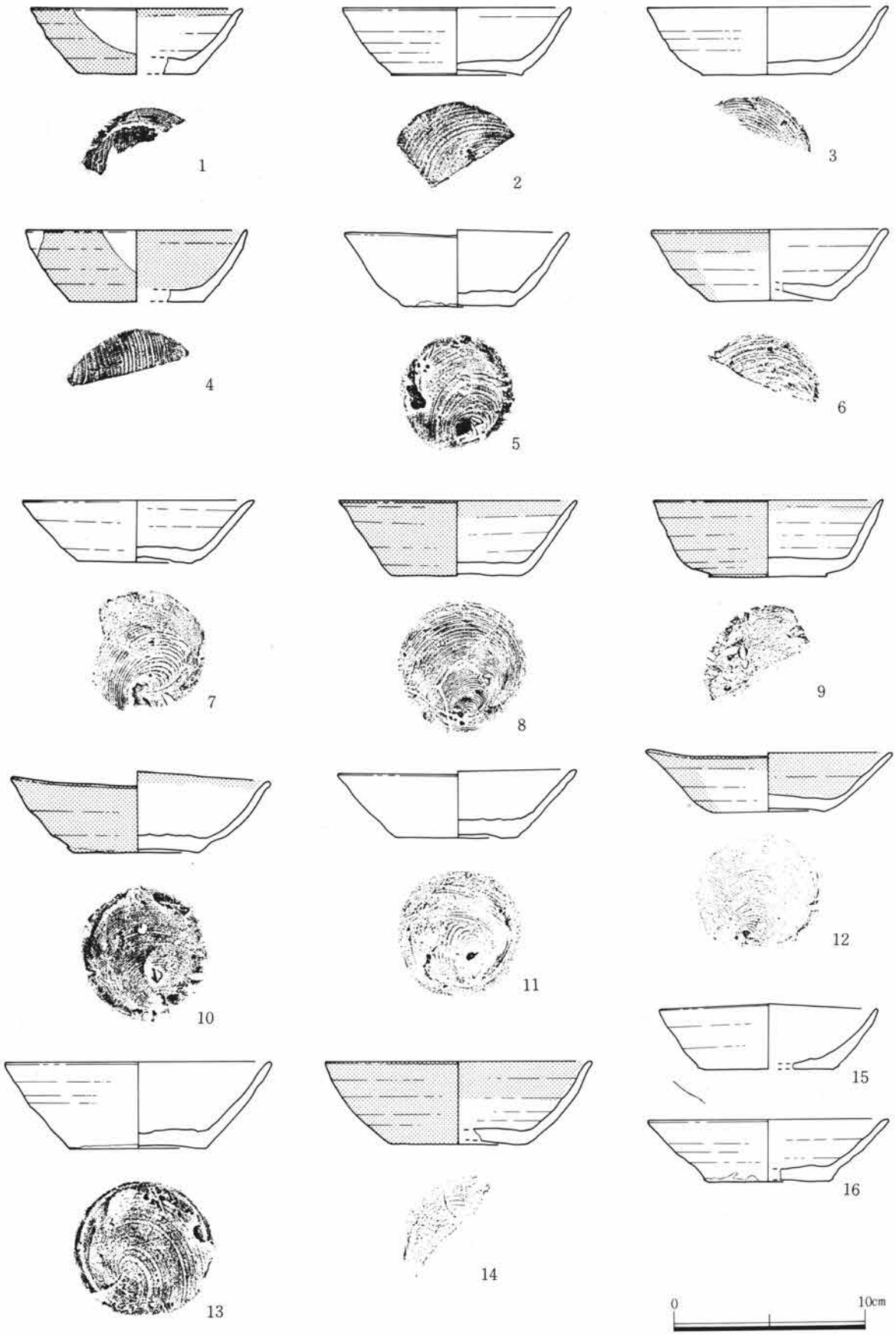
本址は今回の調査により検出された住居址中、最も多量の遺物が出土している。第13図に示した遺物は床面密着もしくは直上の状態で検出されたものである。同時に覆土も単一土層であり一括遺物として取り扱うこととした。遺物の出土状況は大半がカマド周辺及び南東コーナーの貯蔵施設部分を中心に検出されている。住居北半は4号住居址と重複している関係もあり本址に伴うと確定できるものが少なく量的にも少ない。



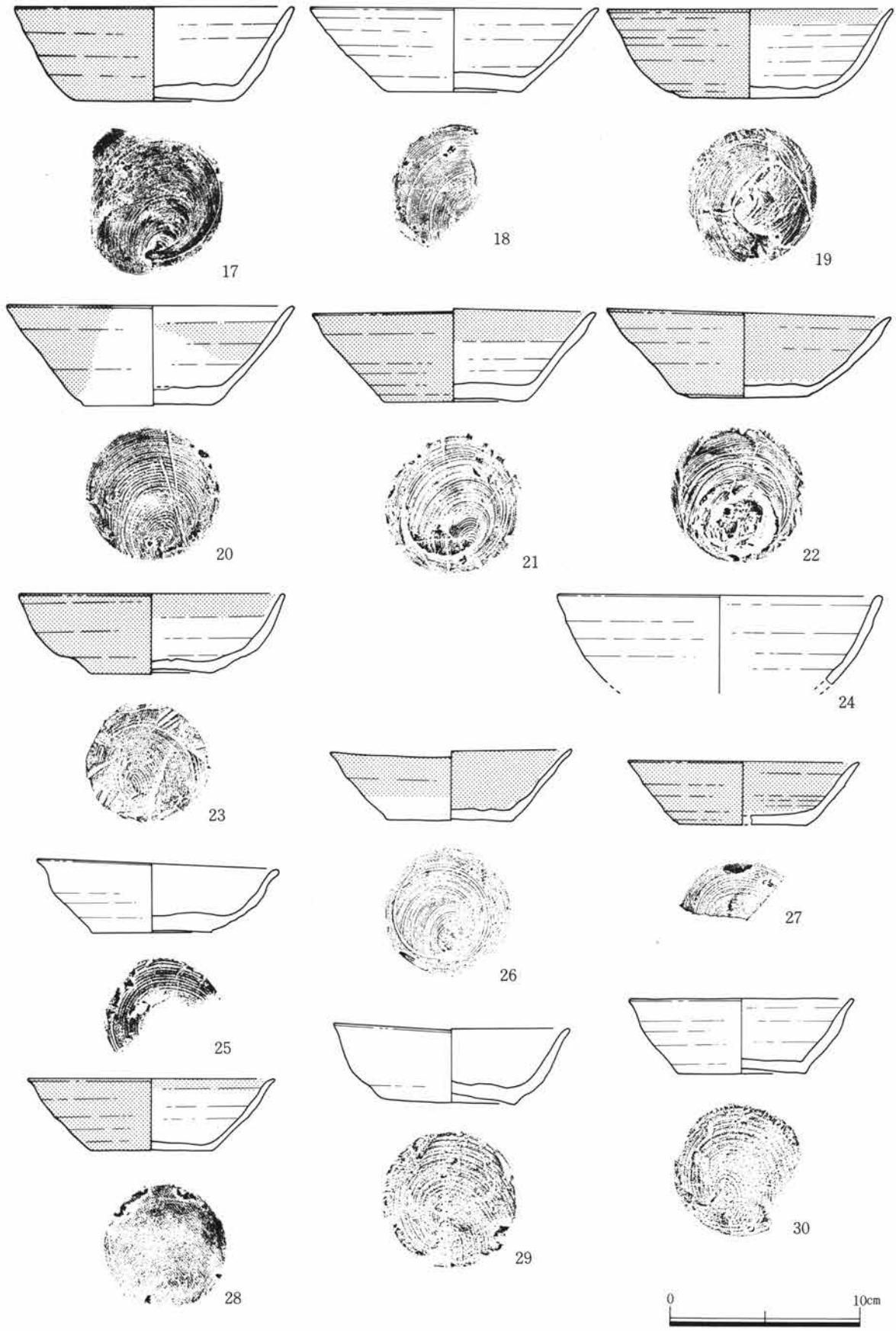
第13図　3号住居址遺物分布図



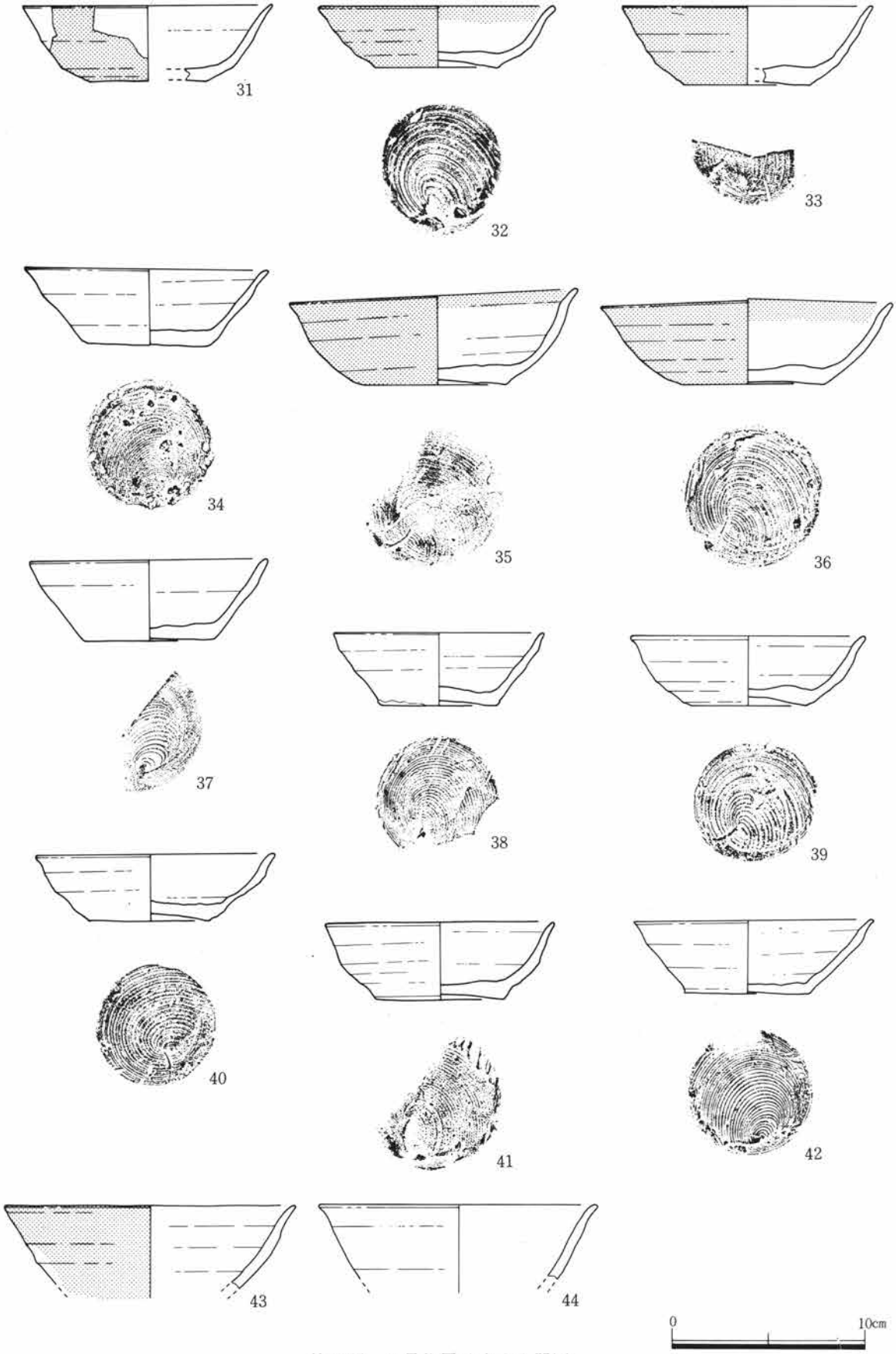
第14図　3号住居址実測図



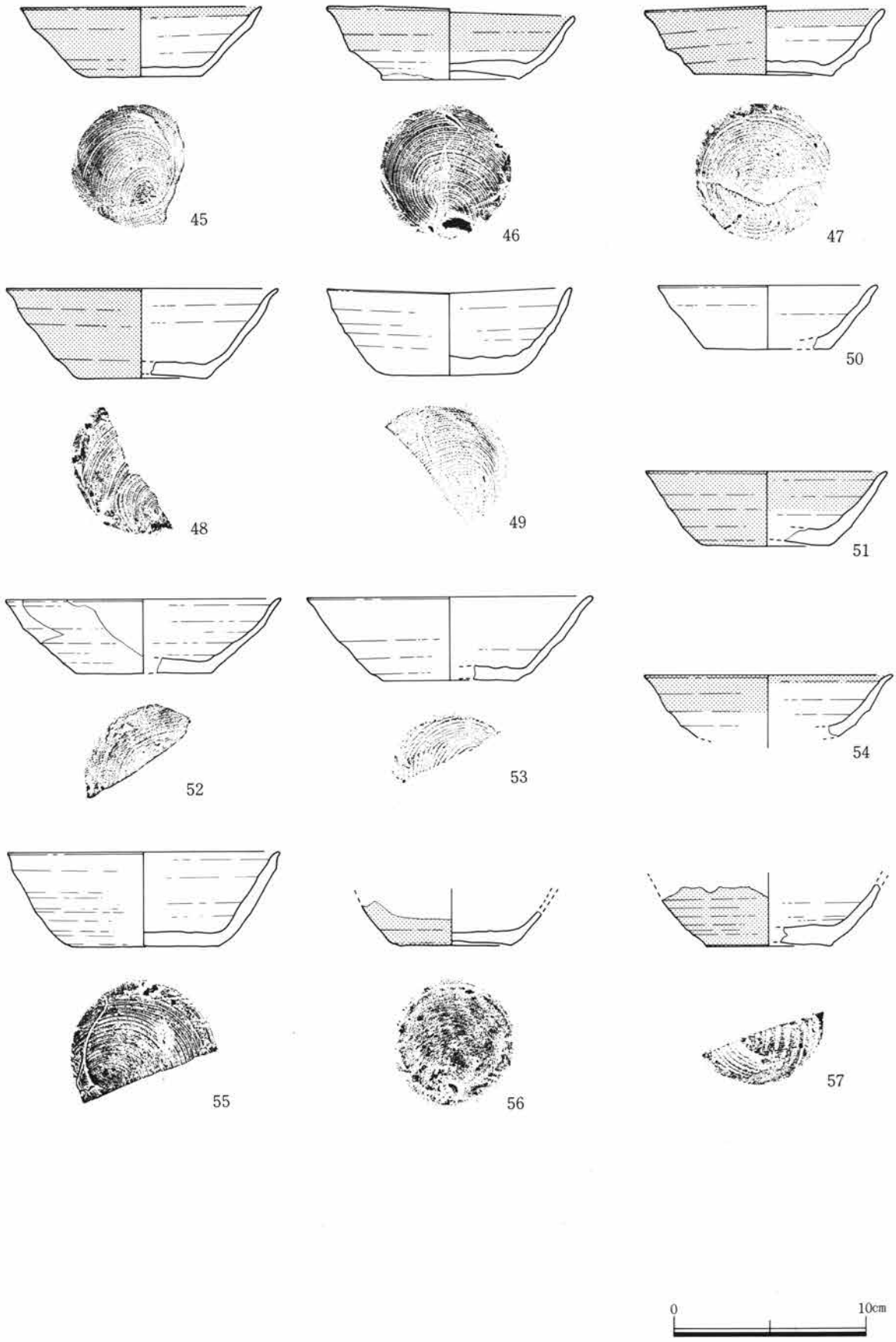
第15図　3号住居址出土土器(1)



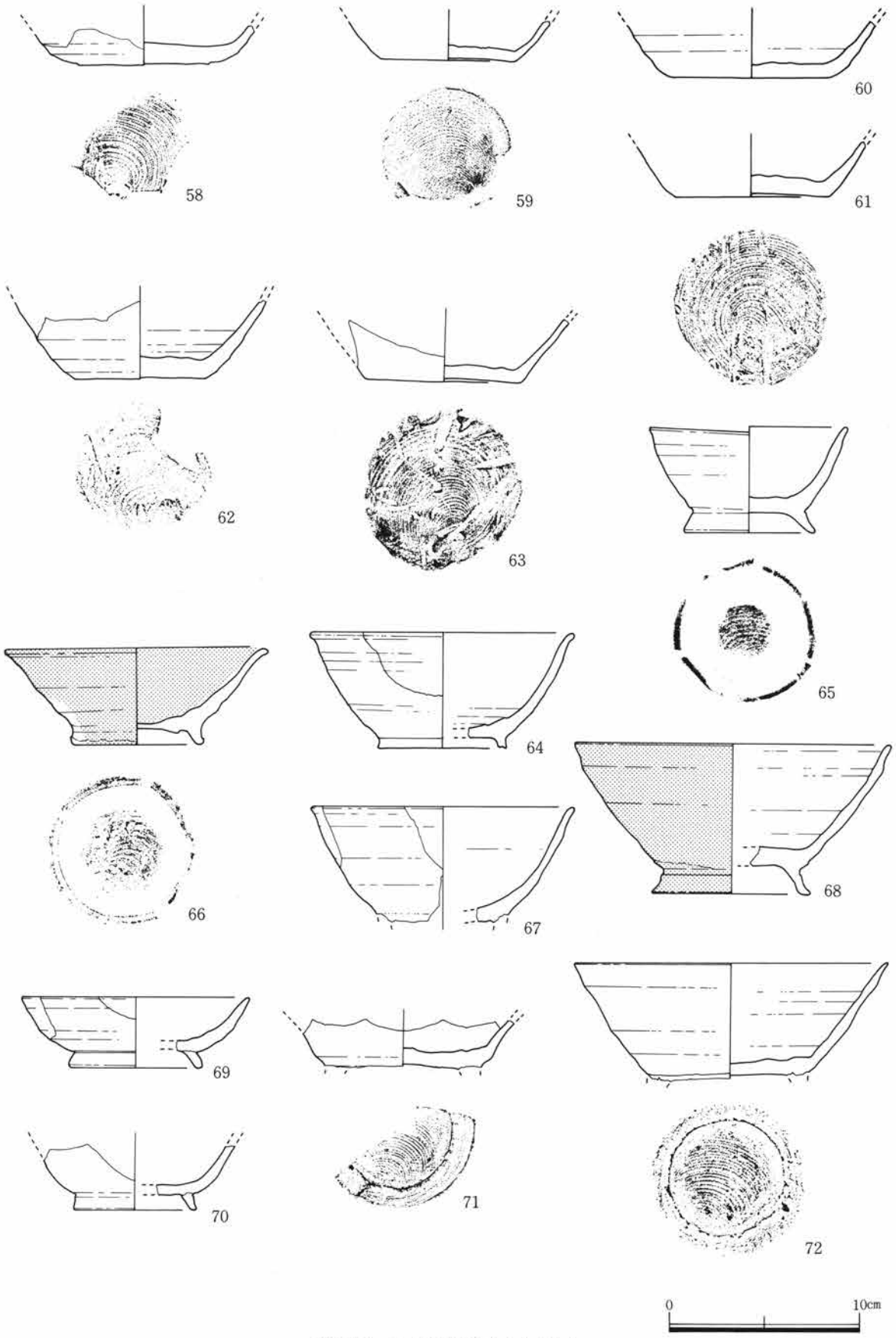
第16図　3号住居址出土土器(2)



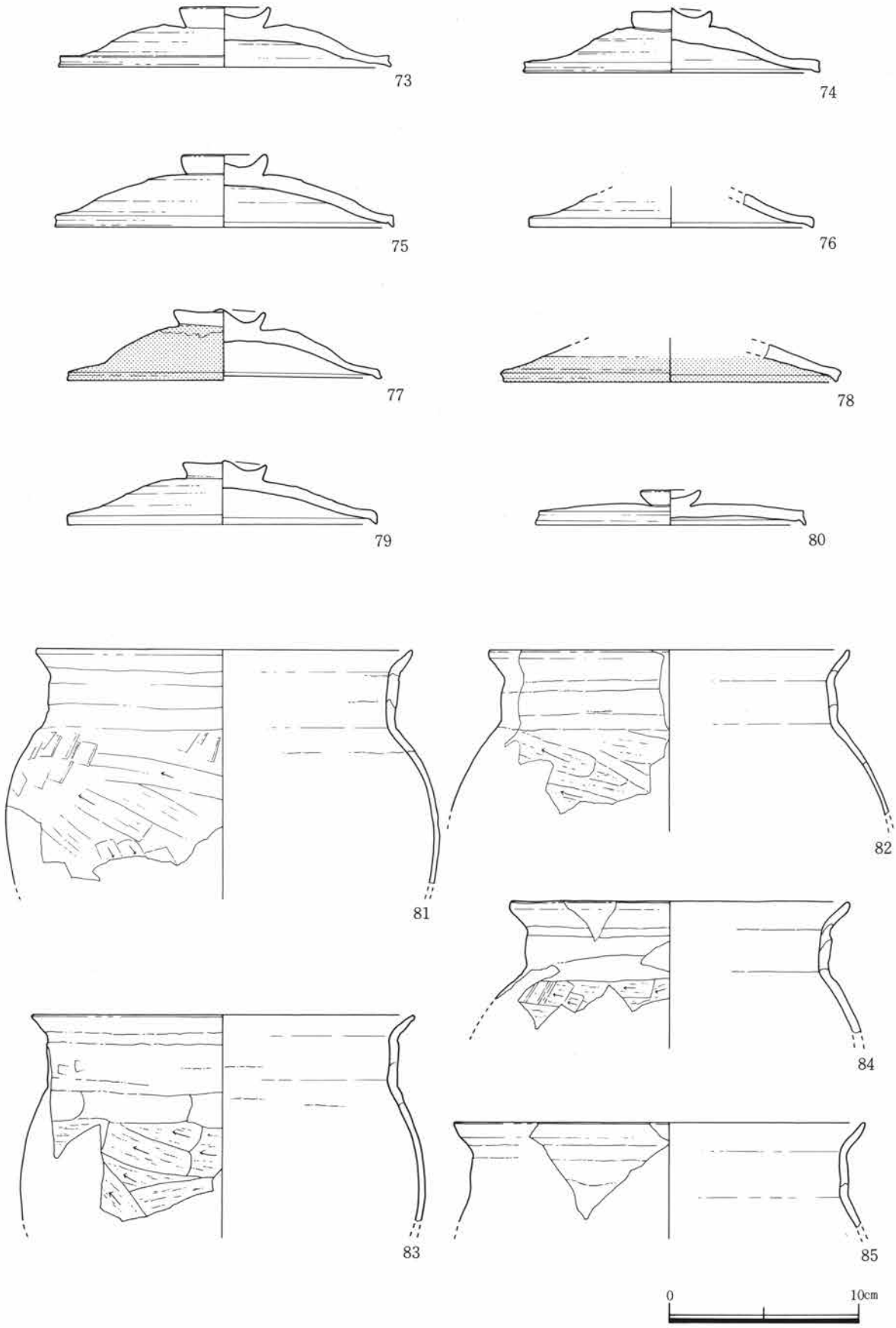
第17図　3号住居址出土土器(3)



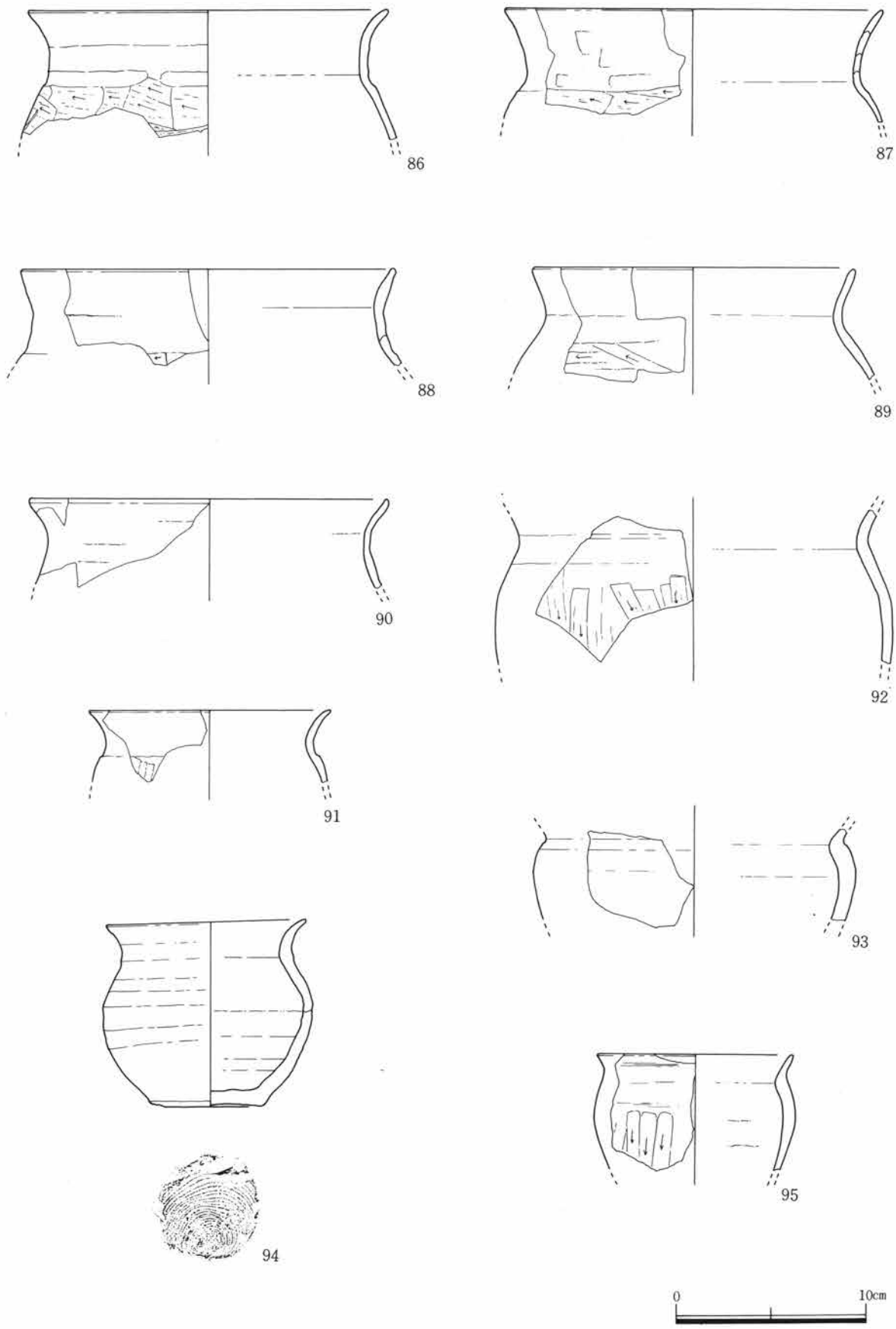
第18図　3号住居址出土土器(4)



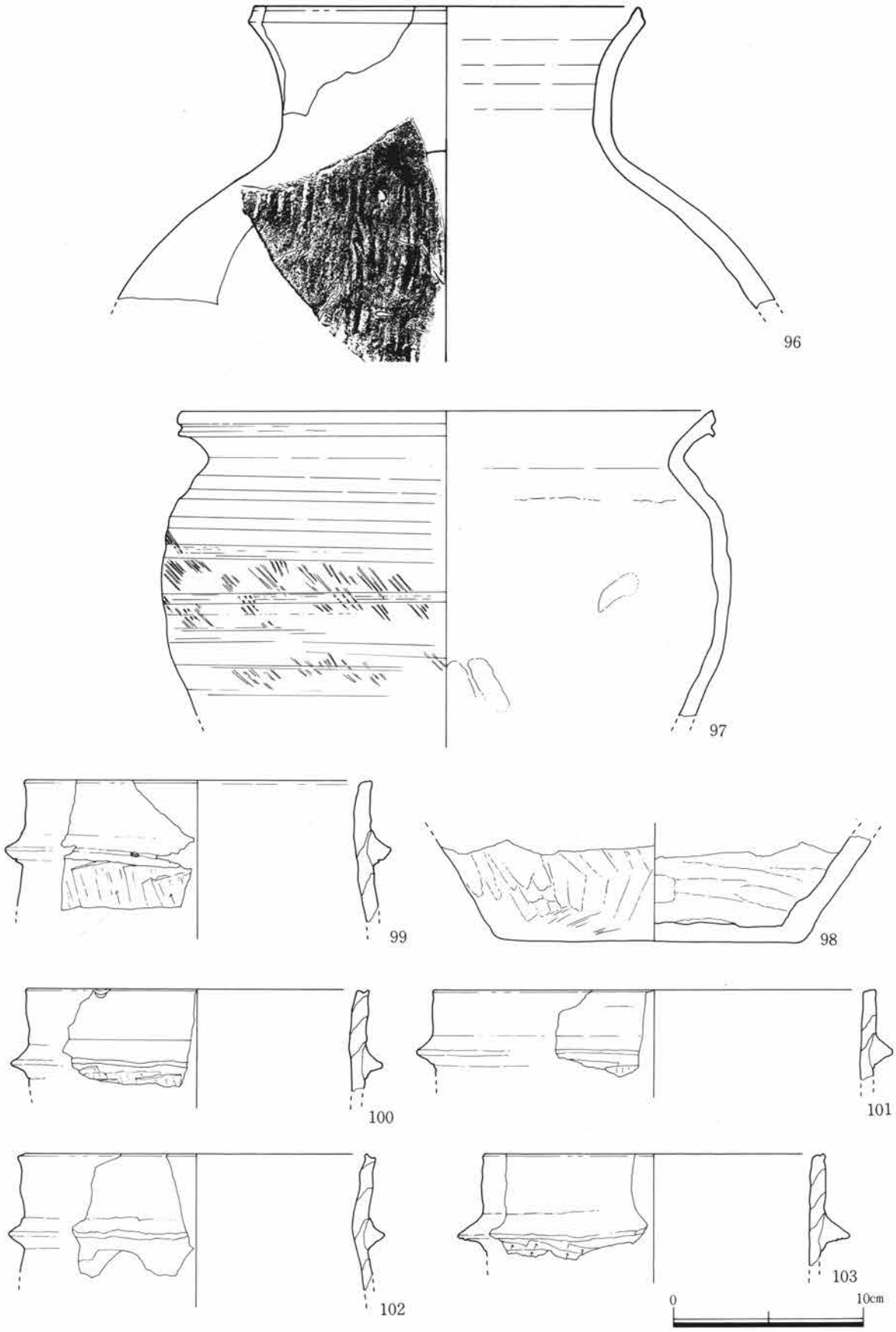
第19図　3号住居址出土土器(5)



第20図　3号住居址出土土器(6)



第21図　3号住居址出土土器(7)



第22図　3号住居址出土土器(8)

3号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
3H－1	須恵 坏 イブシ	11.2	6.2	3.4	床面	底部から直線的に立ち上り、体部上半でわずかに屈曲し丸みをもつ口唇部となる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。胎土は密である。
3H－2	須恵 坏	12.0	6.9	3.5	床面	底部から口縁にかけわずかに彎曲しながら立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含み、石英粒もわずかに認められる。
3H－3（29－1）	須恵 坏	12.6	6.8	3.5	覆土	底部から内彎ぎみに立ち上がる。口唇は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒が多少含まれる。
3H－4	須恵 坏 イブシ	11.6	7.0	3.7	床面	底部から内彎ぎみに立ち上がる。器厚はほぼ一定している。体部左回転、底面に静止糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H－5（29－2）	須恵 坏	11.8	6.0	4.0	床面	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。体部がわずかに歪む。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H－6（29－3）	須恵 坏 イブシ	12.4	6.4	3.7	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目が明瞭に残る。口唇部はわずかに外反し丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H－7（29－4）	須恵 坏	12.1	6.0	3.2	床面	底部から直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。底面に糸切りによる切り離しの際の凹凸が残る。左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を含み、黒色鉱物粒、石英粒をわずかに含む。
3H－8（29－5）	須恵 坏 イブシ	12.5	6.7	3.9	床面	底部から直線的に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠④白色鉱物粒を多く含む。胎土は密である。⑤胎土分析資料3
3H－9（29－6）	須恵 坏 イブシ	12.0	6.2	4.0		底部が一部段状に残る。体部は直線的に立ち上がりロクロ目が残る。口唇部は尖りぎみて内側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H－10（29－7）	須恵 坏 イブシ	13.6	6.5	4.3～3.5	床面	段状の底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¾ ④細かい鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H－11（29－8）	須恵 坏	12.6	6.3	3.5	床面	肉厚の底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。体部の器厚は一定し、口唇は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。一部に切り直し痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠④白色鉱物粒の他に、砂粒等夾雑物が多く、石英粒もわずかに含まれる。
3H－12（29－9）	須恵 坏 イブシ	12.8	5.8	3.0	床面 覆土	底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他、石英粒がわずかに含まれる。
3H－13（29－10）	須恵 坏	14.0	7.0	4.5	床面	底部中央周辺は肉厚で、体部はほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③⅕ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。⑤胎土分析資料4
3H－14	須恵 坏 イブシ	14.0	7.2	4.3	床面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。体部にはロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。

3号住居址出土土器観察表（2）

3H−15	須恵坏	11.4	7.0	3.1〜3.4	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。内側は底部から体部にかけゆるやかに立ち上がる。底面に静止糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒を多少含む。
3H−16	須恵坏	12.6	6.4	3.2	床面	底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色および黒色鉱物粒を含む。
3H−17 (29−11)	須恵坏 イブシ	14.8	8.4	4.9	床面	肉厚の底部から直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
3H−18 (29−12)	須恵坏	15.2	7.0	4.4	床面	肉厚の底部から直線的に立ち上がる。口唇部はやや肥厚し丸みをもつ。	①灰白色　②還元　③⅓　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒も多少含まれる。
3H−19 (29−13)	須恵坏 イブシ	15.0	7.3	4.6	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみになる。底面に左回転糸切り痕。2回切り損じがみられる。	①褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
3H−20 (29−14)	須恵坏 イブシ	15.1	6.8	5.1	床面	体部から口縁部にかけ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに肥厚し、口唇部は尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒の他に、石英粒を比較的多く含まれる。
3H−2 (29−15)	須恵坏 イブシ	14.9	7.4	4.6	床面	体部は直線的に立ち上がり口縁部はわずかに彎曲し尖りぎみの口唇部となる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③口縁一部欠　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒がわずかにみられる。
3H−22 (29−16)	須恵坏 イブシ	14.9	6.4	4.4	床面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は肥厚し口唇部は尖りぎみにわずかに外反する。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③口縁一部欠　④白色鉱物粒を多く含む。
3H−23 (29−23)	須恵坏 イブシ	14.0	6.2	4.2	床面 覆土	段状の底部から彎曲しながら丸みをもつ口唇部へ立ち上がる。体部にはロクロ目がやや残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③⅓　④白色鉱物粒を多く含む。石英粒わずかに認められる。
3H−24	須恵坏	17.2	—	—	床面 覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部外面に凹面をもつ。口唇部は丸みをもつ。	①灰白色　②還元　③¼　底部欠　④白色および黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H−25 (29−18)	須恵坏	12.7	6.4	3.6	床面 覆土	底部から彎曲しながら立ち上がり、口縁部はくの字状に外反。口唇部はわずかに肥厚し丸みをもつ。体部は歪みをもつ。床面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③½　④黒色鉱物粒、石英粒が多少含まれる。
3H−26 (29−19)	須恵坏 イブシ	12.8	6.6	3.6	床面	底部からほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわずかに外反ぎみであり口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅔　④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H−27	須恵坏 イブシ	12.2	6.7	3.3	床面	底部から直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反して口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を多く含む。
3H−28 (29−20)	須恵坏 イブシ	13.0	6.5	3.7	床面 覆土	体部はわずかに内彎ぎみに立ち上がり口縁部はやや外反する。口唇部は尖りぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
3H−29 (29−21)	須恵坏	12.4	6.5	4.2〜3.8	床面	底部は段状となり体部はやや彎曲しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②還元　③口縁一部欠　④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。

3号住居址出土土器観察表（3）

3H−30 (29−22)	須恵 坏	11.8	6.7	3.9	床面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はゆるやかに屈曲し口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
3H−31	須恵 坏 イブシ	13.0	6.0	3.9	床面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反し口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色および黒色鉱物粒の他、4㎜前後の小礫石英粒等もわずかに含まれる。
3H−32 (29−17)	須恵 坏 イブシ	12.4	6.5	3.2	床面	底部縁辺が肉厚で体部は内彎ぎみに立ち上がり口縁部は外反ぎみに開き口唇は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒の他、石英粒がわずかに含まれる。
3H−33	須恵 坏 イブシ	13.0	6.5	4.1	床面 床下	底部縁辺は肉厚。体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目がみられる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒わずかにみられる。
3H−34 (30−13)	須恵 坏	12.7	6.2	3.8	床面	体部はゆるやかな段をもち、口縁部はわずかに外反する。口唇部は尖りぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒がわずかに含まれる。
3H−35 (30−1)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.3	4.8	床面	肉厚の底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。口唇は丸みをもつがやや内側に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英粒わずかに認められる。
3H−36 (30−14)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.4	4.2	床面 覆土	底部は中央周辺が特に肉厚。体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒の他に黒色鉱物粒を含む。石英粒もわずかに認められる。
3H−37 (30−5)	須恵 坏	12.4	6.8	4.1	床面	底部から直線的に立ち上がる。体部上半でわずかに器厚を増す。口唇部は丸い。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H−38 (30−6)	須恵 坏	11.0	6.0	3.7	床面	体部はほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわずかに屈曲する。口唇部は丸みをもつが内側にやや面がある。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③½ ④2〜3㎜の鉱物粒が比較的多く含まれる。
3H−39 (30−7)	須恵 坏	12.2	6.0	3.6	床面	底部中央周辺が肉厚。体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目が残る。口縁は外反し、口唇部は丸みをもち内側に面がある。右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H−40 (30−8)	須恵 坏	12.4	6.3	3.4	床面 覆土	底部から体部下半で段をもち立ち上がり、口縁部は外反ぎみに開く。口縁部は肥厚し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もわずかに認められる。
3H−41 (30−9)	須恵 坏	12.0	6.8	4.0	床面	底部は段をもち体部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、丸みをもつ。底面に右回転切糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他、3〜4㎜の小礫が含まれる。
3H−42 (30−10)	須恵 坏	12.4	6.4	3.8	床面 覆土	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反ぎみに開く。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含む。⑤胎土分析資料2
3H−43 (30−4)	須恵 坏 イブシ	15.2	—	—	床面	口縁部は外反ぎみに開き、口唇部はやや尖りぎみである。わずかに内側に面をもつ。イブシは不完全である。	①褐色 ②酸化 ③⅔、底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
3H−44	須恵 坏	14.6	—	—	床面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。	①青灰色 ②還元 ③¼ 底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。全体的に夾雑物少なく、胎土は密である。

3号住居址出土土器観察表（4）

3H−45 (30−11)	須恵 坏 イブシ	12.6	6.2	3.6	床面	体部はほぼ直線状に立ち上がり、口縁部にわずかに、くの字状の段があり、口縁部は尖りぎみに外反する。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を多く含む。石英粒がわずかにみられる。
3H−46 (30−12)	須恵 坏 イブシ	12.9	7.1	3.2 〜 3.8	床面 覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目が残る。口縁部は外反し、口唇部は丸みをもつ。底部中央周辺は肉厚。右回転糸切り痕。切り損じ有り。	①灰褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
3H−47 (30−2)	須恵 坏 イブシ	12.5	7.2	3.6	床下 覆土	底部から内彎ぎみに立ち上がり口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が明瞭に残る。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H−48 (30−3)	須恵 坏 イブシ	14.2	6.8	4.6	床面	底部から変化なく立ち上がり、頸部がわずかに肥厚し口縁部は外反ぎみに開く。底面に左回転糸切り痕。体部にロクロ目が残る。	①灰白色　②還元　③⅓　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H−49 (30−15)	須恵 坏	12.8	7.0	4.5	床面	底部中央は肉厚で体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。体部はわずかに楕円形に歪む。	①灰白色　②還元　③⅓　④白色鉱物粒が多く含まれる。石英粒もわずかに含まれる。
3H−50	須恵 坏	11.4	6.6	3.3	覆土	底部から口縁部にかけ、ほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H−51 (30−16)	須恵 坏 イブシ	12.6	6.6	3.9	床面	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみに外反する。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H−52	須恵 坏	14.4	7.0	3.8	床面	底部から直線的に立ち上がり、体部上半でわずかに屈曲する。口唇部は尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H−53	須恵 坏	14.8	7.0	4.3	床面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底部は肉厚で底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③⅙　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H−54	須恵 坏 イブシ	13.0	—	—	床面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口縁部はやや開きぎみで、口唇部は丸みをもつ。	①褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含む。
3H−55 (30−17)	須恵 坏	14.2	7.7	4.9	床面	体部は直線的に開き、口縁部に稜をもち口唇部はわずかに外反する。体部に成形時の凹線が多数残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
3H−56	須恵 坏 イブシ	—	5.9	—	床面	底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部、口唇欠　④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H−57	須恵 坏 イブシ	—	6.4	—	覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
3H−58	須恵 坏	—	6.7	—	床面	底部から内彎ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
3H−59	須恵 坏	—	7.0	—	床面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部、口縁欠　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒が含まれる。

3号住居址出土土器観察表（5）

3H−60	須恵坏	− 8.0 −	床面	体部にロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。縁辺部はヘラ調整が行なわれる。	①褐色 ②酸化 ③底部½ ④白色鉱物粒を含むが、全体的に夾雑物が少なく胎土は密である。
3H−61	須恵坏	− 8.0 −	床面	底部は肉厚で、底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H−62	須恵坏	− 7.0 −	覆土	体部にロクロ目が残る。底部に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H−63	須恵坏	− 8.1 −	床面	体部は直線的に立ち上がる。器面は擦ると粉状にザラつく。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
3H−64 (30−19)	須恵埦	14.0 6.8 6.0	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部が外反する。高台は丁寧に貼付けられ、底面中央に凹面をもち端部は尖る。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む
3H−65 (30−20)	須恵埦	10.4 6.9 5.5 (高台部)	床面	高台は強く外側に張り、端部は丸みをもつ。貼付部に凹面をもち体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。体部は右回転	①青灰色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
3H−66 (30−21)	須恵埦 イブシ	13.8 7.0 5.0 (高台部)	床面	高台は雑であり端部も平坦面と尖りぎみの部分とがある。体部はやや直線的に立ち上がり口縁部は外反し口唇部は丸い。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③⅔ ④白色鉱物粒の他、石英粒を比較的多く含む。
3H−67	須恵埦	13.8 − −	覆土	高台部剝落。体部はやや彎曲しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。器面は擦ると粒状にザラつく。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
3H−68 (30−22)	須恵埦 イブシ	16.6 8.4 7.8 (高台部)	覆土	高台は端部が外反し貼付は丁寧。貼付部外面に凹面をもつ。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに稜をもち、口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒と共に、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H−69	須恵埦	12.0 7.0 3.7 (高台部)	覆土	体部は比較的偏平であり、口唇部は尖りぎみとなる。高台は丸みをもち肉厚である。体部下端にヘラ調整がみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒を多く含む。
3H−70	須恵埦	− 6.4 − (高台部)	覆土	高台は丁寧に調整され端部はやや丸みをもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。高台貼付部に凹面をもつ。体部右回転。	①青灰色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒もみられる。
3H−71	須恵埦	− 8.0 − (高台貼付部)	床面	高台部は全部が剝落する。底面に左回転糸切り痕。体部下端に段をもちやや外反ぎみに立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③½、口縁欠④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H−72 (30−18)	須恵埦	16.4 8.5 − (高台貼付部)	床面	高台部は全部が剝落する。底面に左回転糸切り痕。体部はほぼ直線的に立ち上がり口唇部は尖りぎみである。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒等夾雑物が多く含まれる。
3H−73 (31−1)	須恵蓋	17.5 4.8 3.1 (ツマミ部)	床面	天井部中央にボタン状ツマミが付けられ、わずかに窪んでいる。体部は短く口縁部外面に凹面がみられる。端部は尖ぎみである。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を多量に含む。
3H−74 (31−2)	須恵蓋	15.6 4.2 3.4 (ツマミ部)	床面	肉厚の天井部中央にボタン状ツマミが付く。天井部から体部へゆるやかに続き、口縁部外面に凹面をもち口唇部は短く尖りぎみ。体部は歪む。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もわずかにみられる。

3号住居址出土土器観察表（6）

3H−75 (31−3)	須恵 蓋	17.8　4.4　3.7 （ツマミ部）	床面	天井部中央にボタン状ツマミが付く。天井部から体部にかけ器厚はほぼ一定する。体部は短く口縁外側に凹面があり、端部は尖りぎみである。	①褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多量に含む。
3H−76	須恵 蓋	15.0　—　—	床面	体部は短く、口縁部は垂直に下り端部は尖りぎみとなる。	①灰白色　②還元　③⅛　④白色鉱物粒が含まれるが、夾雑物が少ない胎土は密である。
3H−77 (31−4)	須恵 蓋 イブシ	16.6　4.8　3.7 （ツマミ部）	床面 覆土	天井部上面は荒いヘラ削り。体部は彎曲し口縁部に至る。口唇部は屈曲し外面に凹面をもつ。天井部中央にボタン状ツマミが付けられる。	①灰褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒が含まれる。
3H−78	須恵 蓋 イブシ	17.5　—　—	床面 覆土	口縁部はわずかに内傾し、端部は尖りぎみである。ロクロ成形。体部右回転。	①褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒、砂粒等、夾雑物が多く含まれる。
3H−79 (31−5)	須恵 蓋 イブシ	16.4　4.5　3.4 （ツマミ部）	床面	天井部から口縁部にかけあまり変化なく開く。口唇部は直角に屈折し尖りぎみとなる。天井部中央にボタン状ツマミが付けられる。	①灰白色　②還元　③⅔　④白色鉱物粒が含まれる。
3H−80	須恵 蓋	14.2　1.9　1.8 （ツマミ部）	床面	天井部は平坦で、口縁部はわずかに外側へ開きぎみで外面に凹面をもち口唇部は尖りぎみ。中央部にボタン状ツマミ付く。一部にタール付着。	①灰白色　②還元　③⅛　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H−81 (31−6)	土師 甕	19.8　—　—	床面	コの字状口縁。肩部はゆるやかに彎曲し口縁部に至る。肩部は右下から左上への斜位ヘラ削り。	①褐色　②酸化　③½　④ガラス質の黒色鉱物粒子および砂粒を多く含む。
3H−82	土師 甕	19.0　—　—	覆土	コの字状口縁。口唇部は丸みをもちやや直立ぎみになる。口縁部ヨコナデ。肩部は右下から左上への斜位ヘラ削りを施す。	①褐色　②酸化　③⅙　④黒色鉱物粒の他、砂粒を多く含む。
3H−83 (31−7)	土師 甕	20.2　—　—	床面	コの字状口縁。肩部からゆるやかに立ち上がり口縁部は強く外反し口唇部は丸い。口縁部は横カデ。肩部は右下から左上への斜位ヘラ削り。	①褐色　②酸化　③¼　④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。⑤胎土分析資料1
3H−84 (31−9)	土師 甕	17.8　—　—	床面	コの字状口縁。最大径を胴部にもつ。肩部は右下から左上への斜位ヘラ削り。口縁部横ナデ。特にくびれ部は工具を用いる。口唇部尖りぎみ。	①褐色　②酸化　③⅓　④黒色鉱物粒の他、砂粒が含まれる。
3H−85	土師 甕	21.7　—　—	床面	コの字状口縁。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④ガラス質の鉱物粒および砂粒が含まれる。
3H−86	土師 甕	19.0　—　—	床面 覆土	コの字状口縁。肩部は斜位横位のヘラ削り。口縁下部屈曲部は工具による強い横ナデが行われ凹面をもち、上半は彎曲しながら外反する。	①褐色　②酸化　③¼　④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H−87	土師 甕	20.0　—　—	床面	コの字状口縁。口縁下部屈曲部は工具による横ナデが行われるが不明瞭。内面にも同様の横ナデがあり、上半は彎曲しながら外反する。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H−88	土師 甕	19.6　—　—	覆土	コの字状口縁。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H−89	土師 甕	17.0　—　—	床面 覆土	コの字状口縁。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。

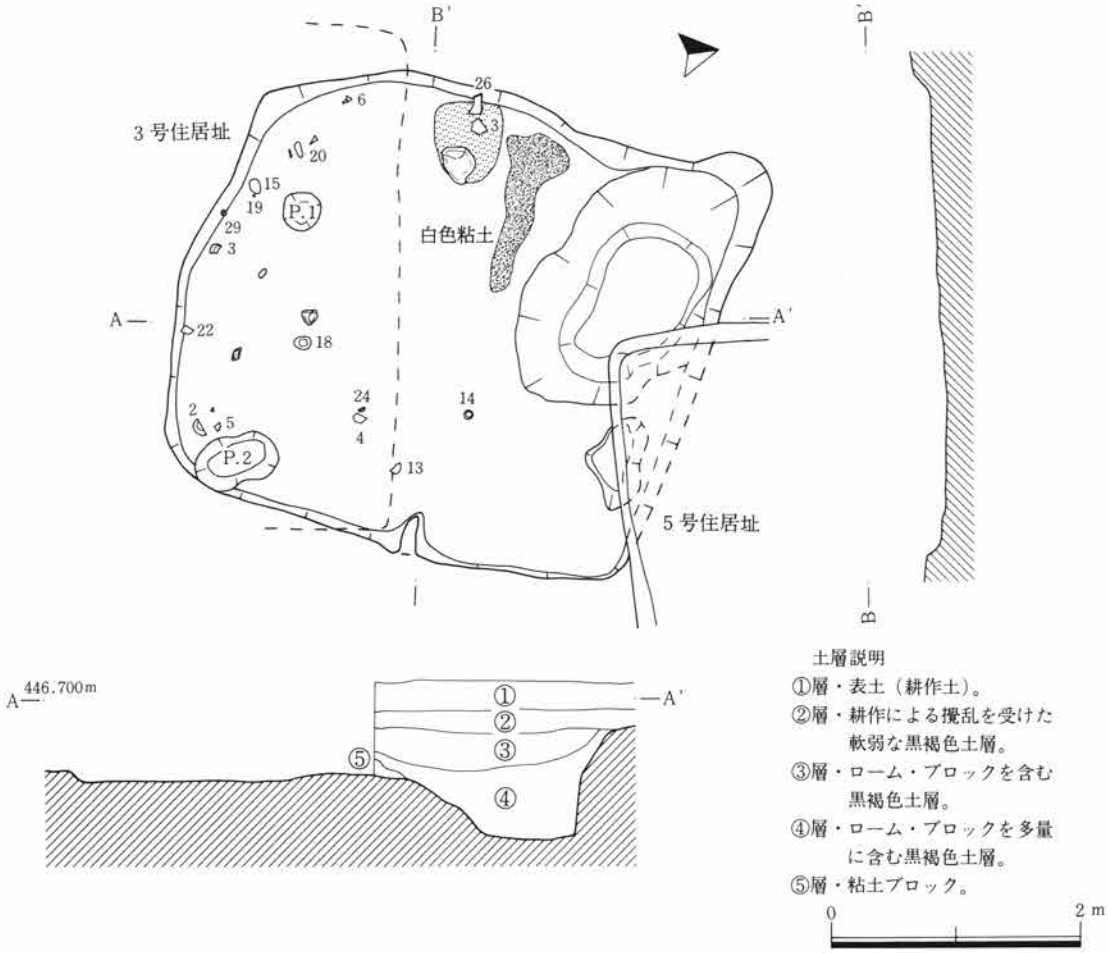
3号住居址出土土器観察表（7）

3H−90	土師甕	18.8	—	—	床面	コの字状口縁。口縁部は内外面とも横ナデが行なわれる。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H−91	土師小型甕	12.8	—	—	覆土	小型の甕である。口縁部は短く、外反し、横ナデが行なわれる。以下はヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H−92	土師甕	—	18.4（頸部）	—	床面	頸部は強い横ナデが行なわれ、屈曲する。胴部は上から下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③破片 ④砂粒が多く含まれる。石英粒も多少含まれる。
3H−93	土師甕	—	15.6（頸部）	—	覆土	頸部は棒状工具による横位の凹線が巡る。	①褐色 ②酸化 ③破片 ④白色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H−94（31−8）	小型甕	10.6	6.0	9.6	床面	ロクロ成形による小型の甕である。口縁部は横ナデが行われる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が含まれる。
3H−95	土師小型甕	10.3	—	—	覆土	口縁部は短く、くの字状に外反し、横ナデが行なわれる。胴部は上から下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H−96（32−1）	須恵甕	20.2	17.2（頸部）	—	覆土	体部は球状に膨らみ、口縁部はやや外反ぎみに開く。口唇部は段状を呈し、やや内傾する。体部には叩き目が認められる。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ 底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。⑤胎土分析資料5
3H−97（32−2）	須恵甕	27.4	—	—	床面	体部は彎曲ぎみに立ち上り、口縁部は短く、くの字状に外反する。体部下半に叩き目が認められる。	①灰白色 ②還元 ③⅓ 底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。⑤胎土分析資料6
3H−98（32−3）	甕	—	15.6	—	覆土	甕の底部。器外面には、縦もしくは斜方向のナデが施される。内面には輪積み痕が残る。	①褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H−99（32−7）	須恵羽釜	18.2	—	—	覆土	口縁部はほぼ直立し口唇部はやや内傾ぎみで上面に2条沈線がある。鍔は三角形を呈し付着がわずかに歪む。下部にはヘラ押えがみられる。	①灰白色 ②還元 ③口縁⅓ ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H−100（32−4）	須恵羽釜	18.0	—	—	覆土	口縁部は直立し口唇部には凹面をもつ。鍔は三角形を呈し下部に胴部ヘラ削りの際のヘラ押え痕。口縁部、鍔横ナデ。胴部縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H−101（32−8）	須恵羽釜	23.3	—	—	覆土	口縁部は直立し口唇部は平坦で一条沈線が巡る。鍔は三角形を呈し下部にヘラ押えがみられる。口縁部横ナデ。胴部縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H−102（32−6）	須恵羽釜	18.8	—	—	覆土	口縁部わずかに彎曲しながら直立する。口唇部凹面をもち内側にやや突出する。口縁部、鍔は横ナデ。胴部は縦位ヘラ削りを施す。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒の他に、石英粒が含まれる。
3H−103（32−5）	須恵羽釜	18.0	—	—	床面	口縁部は直立する。口唇部は平坦で一条沈線が巡る。鍔は三角形を呈しやや下方に向く。口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁⅙ ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。

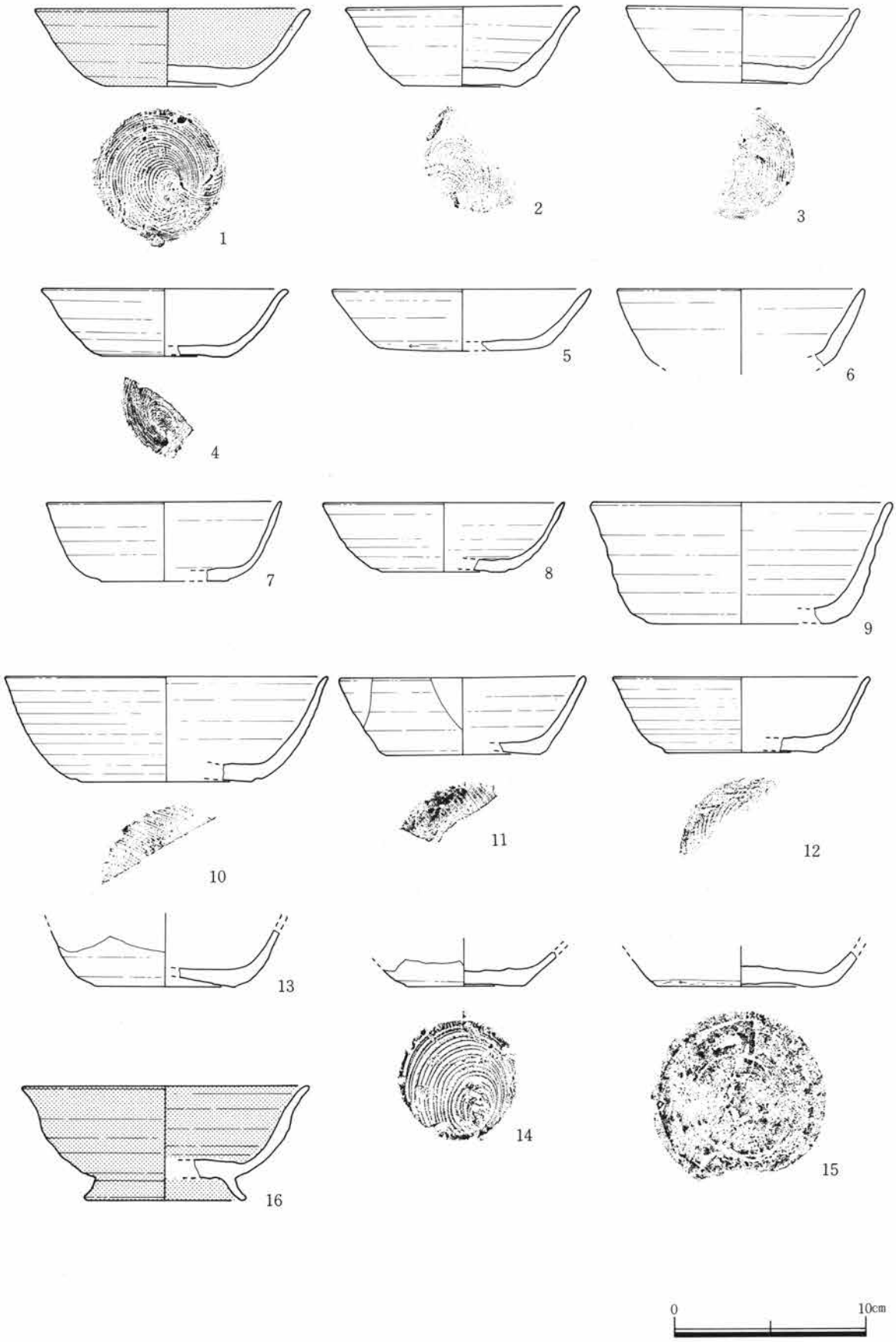
4号住居址（第23図、図版5－1）

G、H－85、86、87グリッドに位置する。3号住居址を切って構築され、北壁部を5号住居址により切られている。本住居址も耕作による攪乱を受け遺構上部は破壊されている。平面形は長辺4.15m、短辺3.75mの長方形を呈し、面積は約15.6m²を測る。主軸方位はN－64°－W。壁は多少の角度をもって立ち上り平均残存高は12cm、各コーナーは丸みをもっている。床面はローム上面に構築され部分的に踏み固められた良好な面が検出された。面は南へ向かってわずかに傾斜をし、かなり凹凸が認められる。柱穴は南西コーナー及び南東コーナー附近に各々1本づつ検出された。pit 1は径30cm、深さ18cm、pit 2は径67×37cm、深さ20cm。他のものは不明である。周溝はみられない。カマドは耕作による攪乱を受け、その形状をほとんど失なっている。西壁中央に接して焼土と袖部に用いたと考えられる礫が1個検出され、この部分にカマドが構築されたと判断される。床及び壁への掘り込みはみられない。北西コーナー部に長径2.2m、短径1.3m、深さ0.5mの長円形を呈する掘り込みが検出されている。この掘り込みは、発掘調査中の所見により本址に伴うものと判断される。断面形は住居址側はなだらかに立ち上り、壁側はほぼ垂直に立ち上がっている。又、この掘り込み縁辺に白色粘土が床直の状態で置かれたように検出されている。

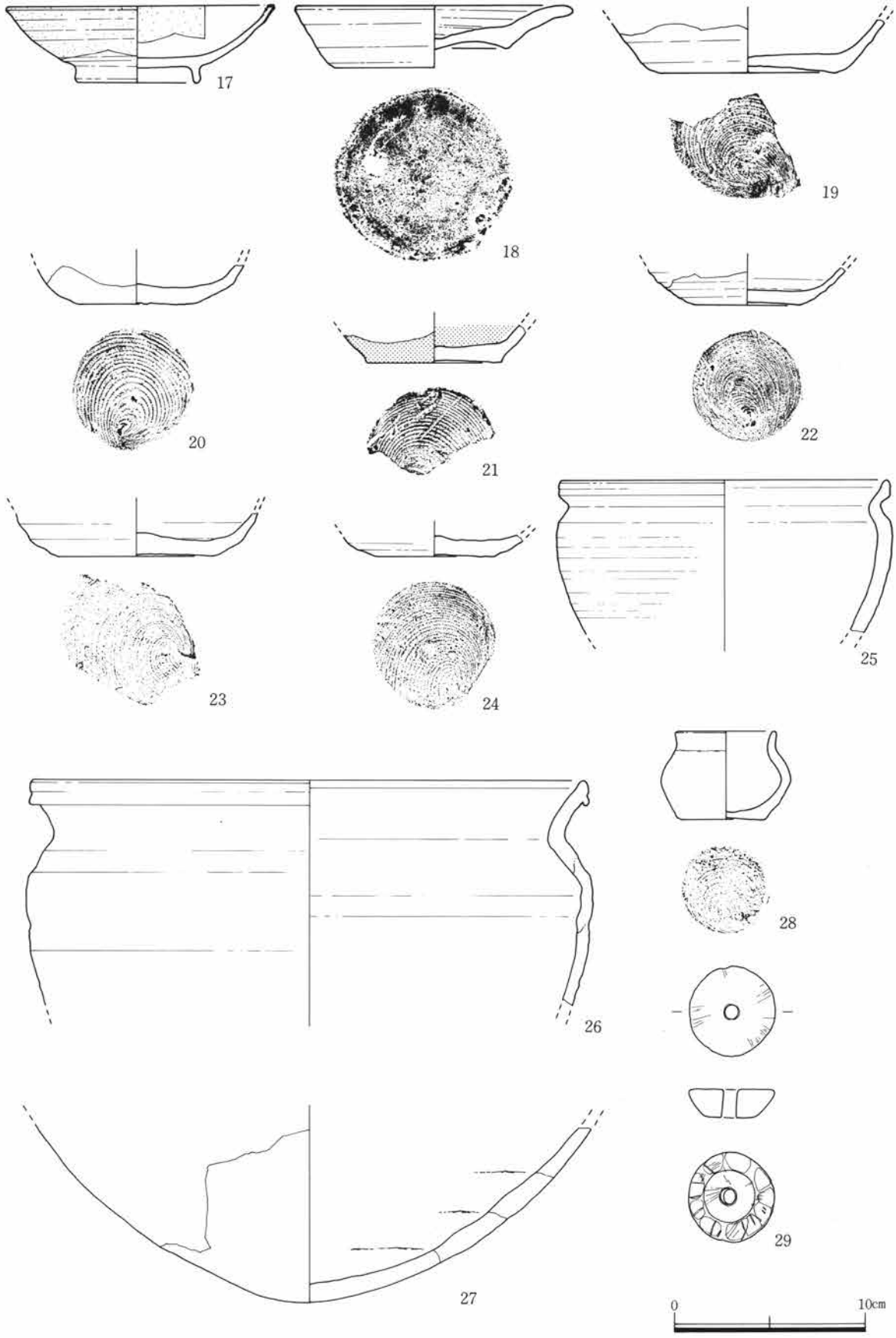
出土遺物は、坏類が大半を占めその他甕、紡錘車が検出されている。



第23図　4号住居址実測図



第24図　4号住居址出土土器(1)



第25図　4号住居址出土遺物(2)

4号住居址出土土器観察表（1）

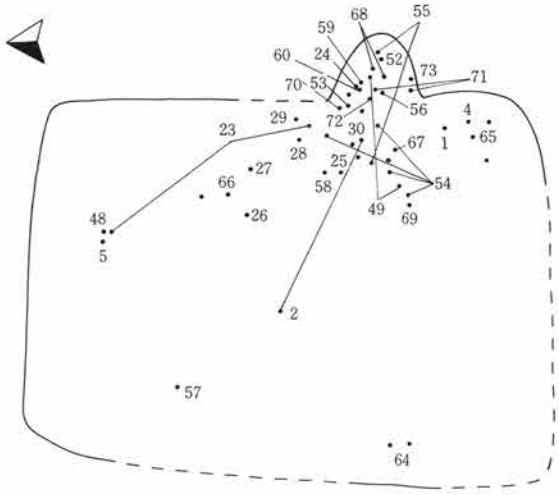
遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
4H－1（33－1）	須恵坏 イブシ	14.3	6.6	4.0	床面	底部から彎曲ぎみに立ち上がり体部は直線的である。口唇部は丸みをもつ。底部は肉厚で底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む。
4H－2（33－2）	須恵坏	12.2	6.0	4.2	床面	体部はやや脹らみをもち口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。胎土は密である。
4H－3（33－3）	須恵坏	12.2	6.6	3.9	床面	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は多少肥厚し丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒が多く含まれ、黒色鉱物粒もみられる。
4H－4	須恵坏	12.8	6.6	3.5	床面 覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部は外反。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色および黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H－5（33－4）	須恵坏	13.5	8.0	3.2	床面	口径に比し器高が低い。体部は口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。底部下端にヘラ削りがある。底面ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。 ⑤8c前半
4H－6	須恵坏	13.0	—	—	床面 覆土	体部は口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③⅓、底部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4H－7	須恵坏	12.2	6.6	4.1	覆土	底部は一部段状に残り彎曲ぎみに立ち上がり体部は口縁部にかけ直線的である。口唇部は尖りぎみ。底面に左回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③⅙ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4H－8	須恵坏	12.6	6.4	3.6	焼土	底部は一部段状に残り、体部は彎曲し立ち上がる。口縁部は直線的であり口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅕ ④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
4H－9	須恵坏	15.7	9.2	6.2	覆土	底部からやや彎曲して立ち上がり、体部はほぼ直線的でありロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H－10（33－5）	須恵坏	16.8	8.8	5.4	覆土	底部は一部段状に残り体部は彎曲し立ち上がりロクロ目が明瞭。口縁部は直線的となり口唇部は尖りぎみ。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H－11	須恵坏	13.0	8.0	4.0	床面 覆土	底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に静止糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H－12（33－6）	須恵坏	13.4	7.8	3.9	床面	底部は段状に残り彎曲ぎみに立ち上がり口縁部には直線的につながる。体部にはロクロ目。口唇部はわずかに外反し丸い。回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H－13	須恵坏	—	7.2	—	床面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上る。底部は歪みがみられる。一部に自然釉が付着する。	①灰白色 ②還元 ③⅓ 口縁欠 ④白色鉱物粒が含まれる他、夾雑物は少なく、胎土は密である。
4H－14	須恵坏	—	6.2	—	床面	左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒もわずかにみられる。

4号住居址出土遺物観察表（2）

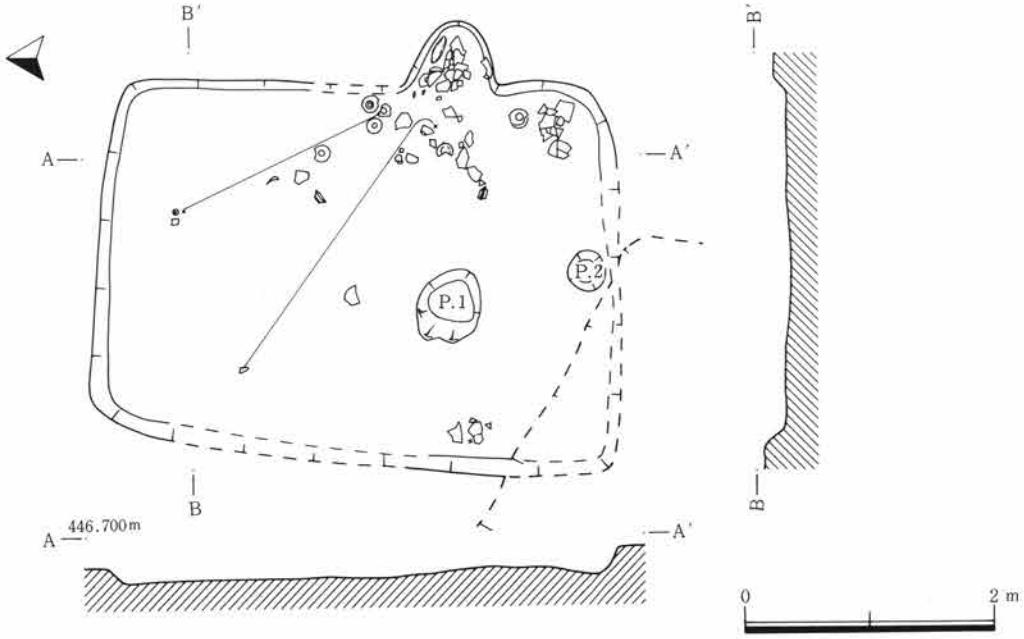
4H−15	須恵坏	−　8.6　−	床面	比較的底径の大きな坏である。底面には左回転のヘラ切り痕。	①青灰白　②還元　③底部　④白色鉱物粒が多く含まれる。
4H−16 (33−8)	須恵埦 イブシ	15.0　8.4　6.0 (高台部)	床面	体部は彎曲しながら立ち上がり口縁部は外反し口唇部は丸みをもつ。高台部は丁寧に付けられ端部は丸みをもつ。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含む。
4H−17 (33−9)	灰釉埦	14.0　6.4　4.0 (高台部)	覆土	体部はやや彎曲しながら立ち上がり口唇部がわずかに外反する。高台は垂直に付けられ端部外側にわずかに面をもつ。	①灰白色　②還元　③½　④白色および黒色鉱物粒がわずかに含まれる。胎土密　⑤灰釉、漬け掛け
4H−18 (33−7)	灰釉坏	14.5　9.0　3.3〜2.3	床面	口径に比し器高が低い。底部下端にヘラ削りが施される。体部はほぼ直線的に立ち上がるが大きく歪んでいる。底面に回転ヘラ切り痕。	①灰白色　②還元　③完形　④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
4H−19	須恵坏	−　9.2　−	床面 覆土	底部中央部は器肉が薄い。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部⅓　④白色および黒色鉱物粒が多く含まれる。
4H−20	須恵坏	−　6.3　−	床面 覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H−21	須恵坏 イブシ	−　7.0　−	覆土	底部はわずかに段状となる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒を多く含む。
4H−22	須恵坏	−　5.5　−	床面	体部にロクロ目が明瞭に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部　④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H−23	須恵坏	−　8.2　−	覆土	体部下半にわずかに段をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒等、夾雑物が多く含まれる。
4H−24	須恵坏	−　6.2　−	床面	底部はわずかに段状に残る。底面に左回転糸切り痕。断面は胎土がパイ状を呈し、横位に薄く剝離しやすい。	①青灰色　②還元　③底部　④白色および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H−25	須恵甕	17.0　−　−	覆土	口縁部は短く、くの字状に屈曲し口唇部は直立し尖りぎみである。	①灰白色　②還元　③⅕　④黒色鉱物粒が多く含まれ、白色鉱物粒も多少みられる。
4H−26 (33−10)	須恵甕	29.0　−　−	床面	口縁部は、くの字状に屈曲し口唇部は段をもち外側に凹面をもち先端は尖りぎみに直立する。	①灰白色　②還元　③½、胴部欠　④黒色鉱物粒が多く含まれる。
4H−27	須恵甕	−　−　−	覆土	円錐状の底部をもち、底面は凹面をもつ。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色　②還元　③底部　④白色鉱物粒を多く含む。
4H−28 (33−11)	小型甕	5.2　4.3　4.6	覆土	胴部中央は強く張り出し、口縁部は直立する。口唇部は丸みをもつ。全面に横ナデが施される。底面に右回転糸切り痕。ロクロ成形。	①褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒が含まれる。
4H−29 (33−12)	紡錘車	4.5　2.5　1.5 (軸穴径0.9)	床面		①——　②——　③完形　④——　⑤滑石製

5号住居址（第26、27図、図版5－2）

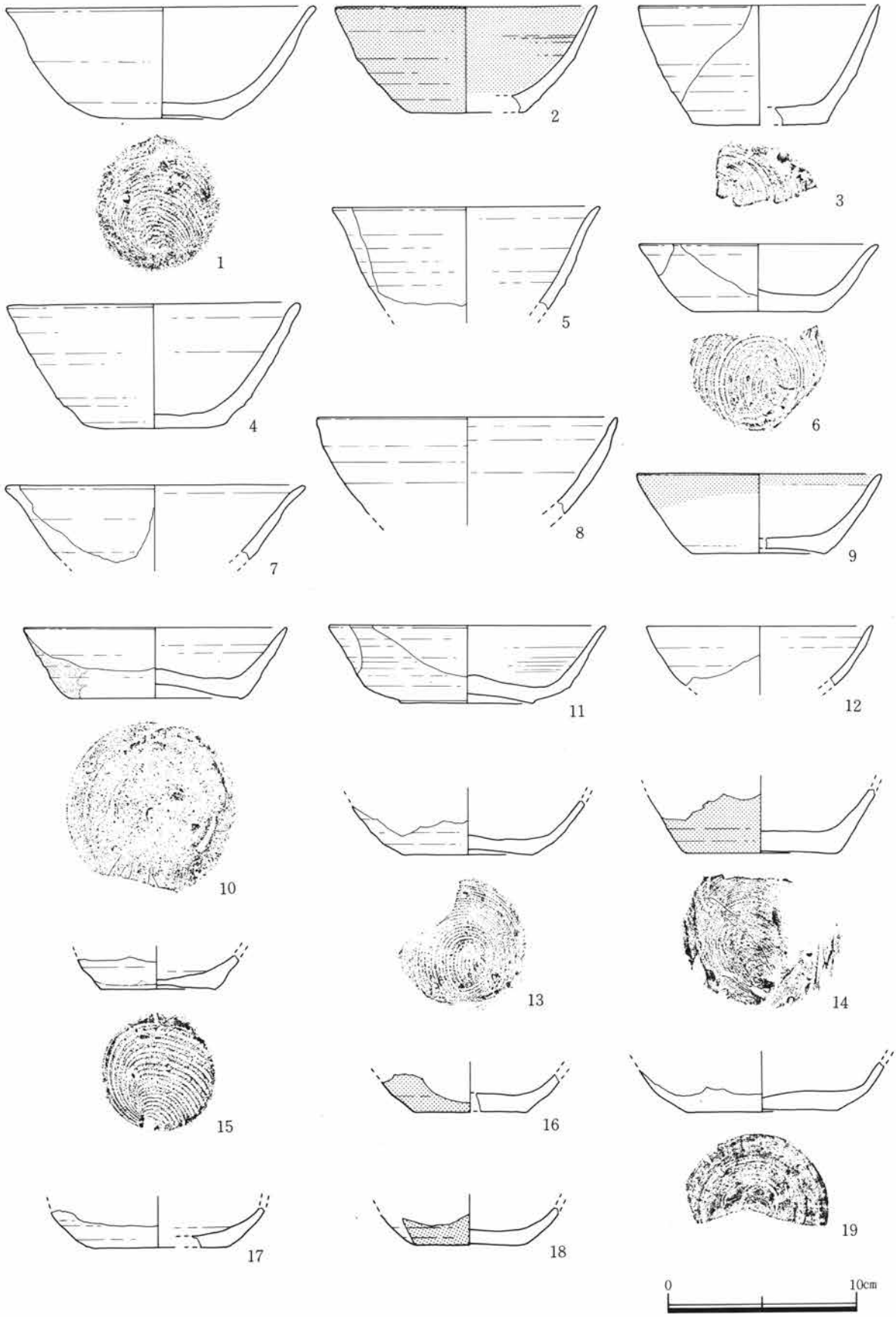
H・I－86・87・88グリッドに位置する。4号住居址、第4群粘土採掘坑を切って構築されている。本住居址も耕作等の攪乱をかなり受けており、極めて残存状態は悪い。平面形は長辺4.2m、短辺3mの長方形を呈し、主軸方位はN－90°－E、面積は約12.6m²を測る。壁は多少角度をもって立ち上り、残存壁高は南側22cm、北側で13cmである。床面は、地山（ローム）の存在する部分は踏み固められた良好な面が認められるが、重複部分等は軟弱なものとなっている。面は多少起伏をもち、東へ向かってわずかに傾斜している。柱穴は南側中央部に接して1本検出された。径は30cmを測る。周溝はみられない。カマドは東壁中央南寄りに設けられる。カマド南側に耕作溝が東西に走っているため、残存は悪く、掘り方のみが検出された。壁掘り込みは50cmであり、床には皿状の掘り込みがわずかにみらる。貯蔵穴等の施設は認められない。遺物はカマドを中心としてその周辺に集中して出土している。



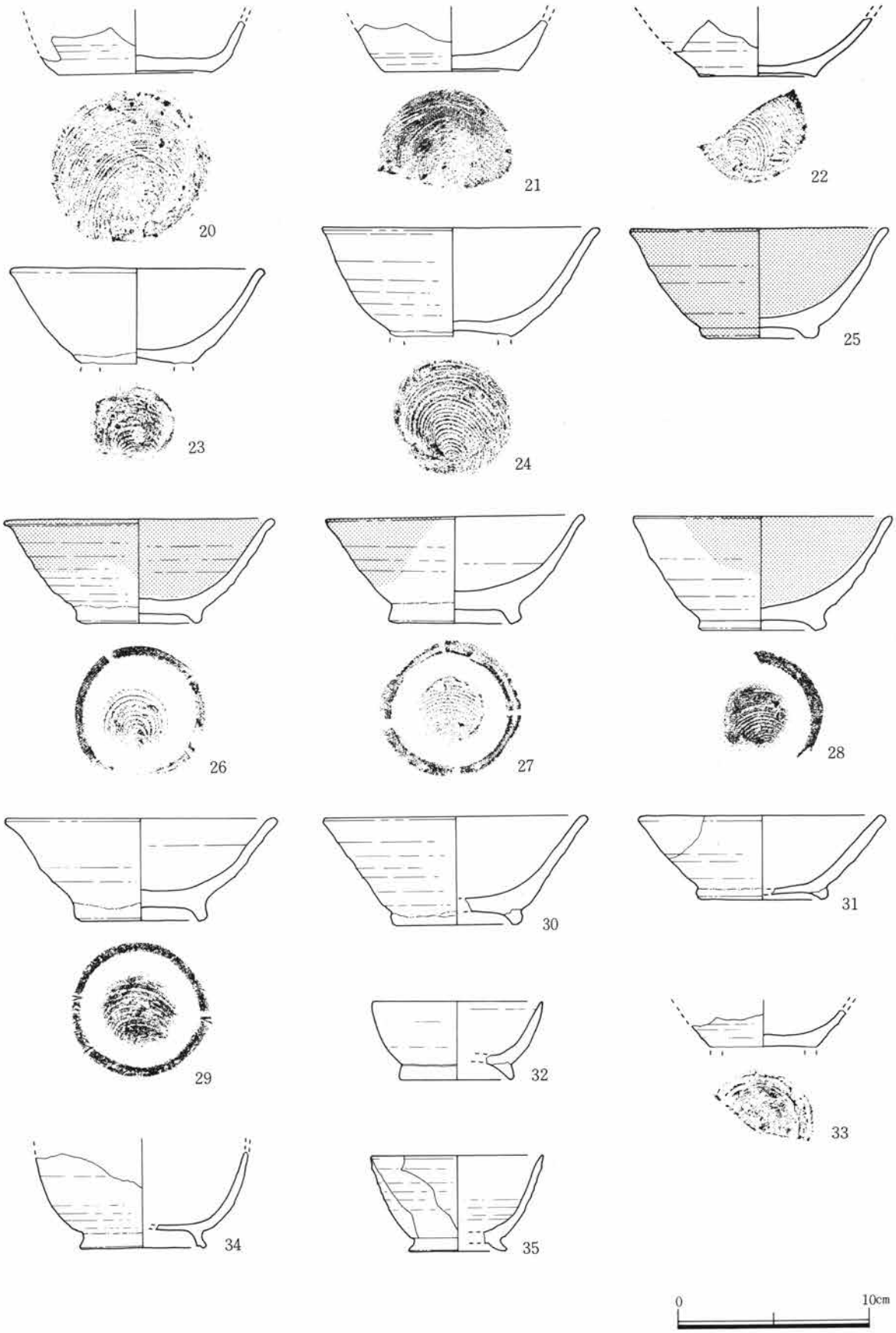
第26図　5号住居址遺物分布図



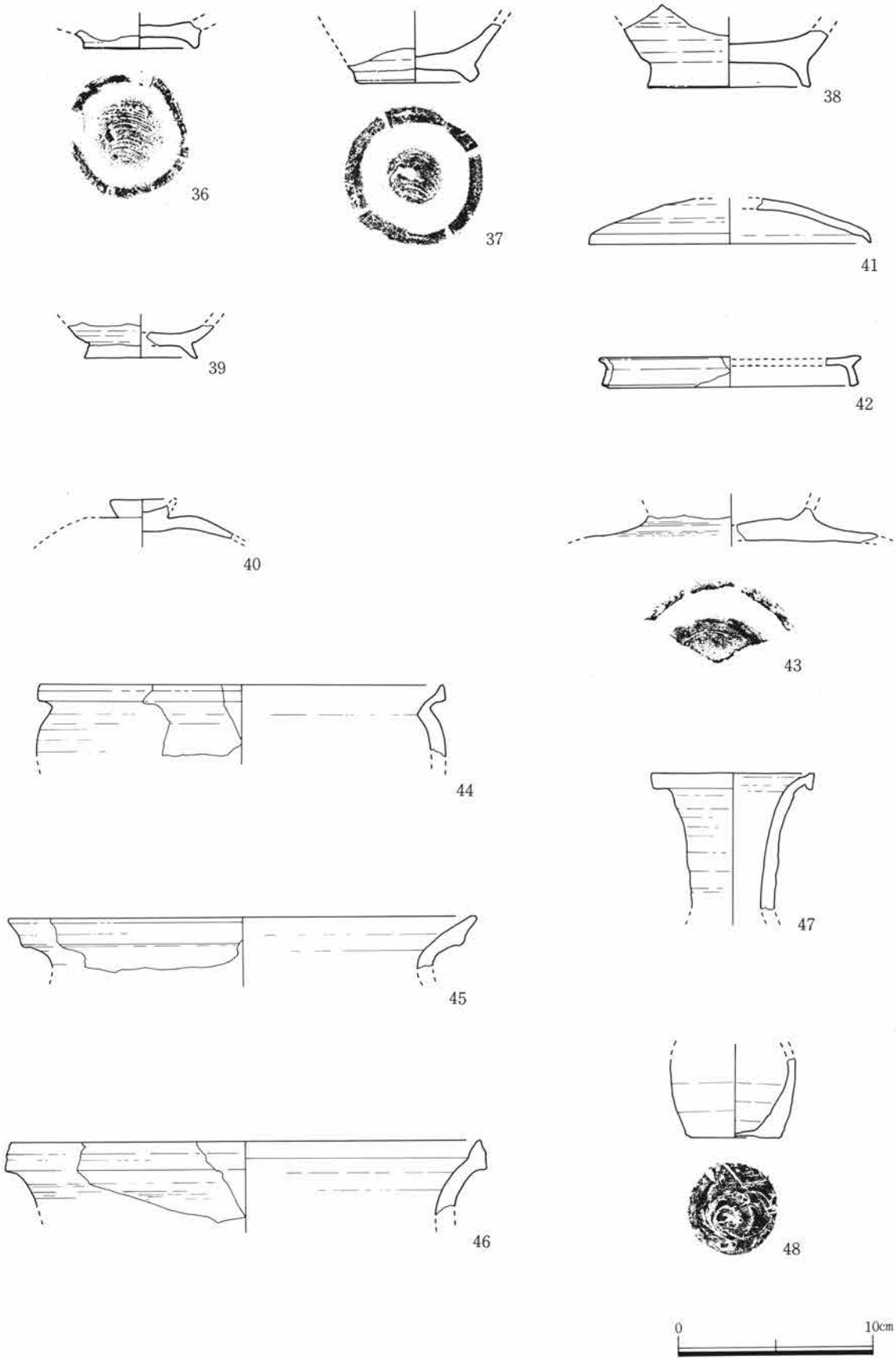
第27図　5号住居址実測図



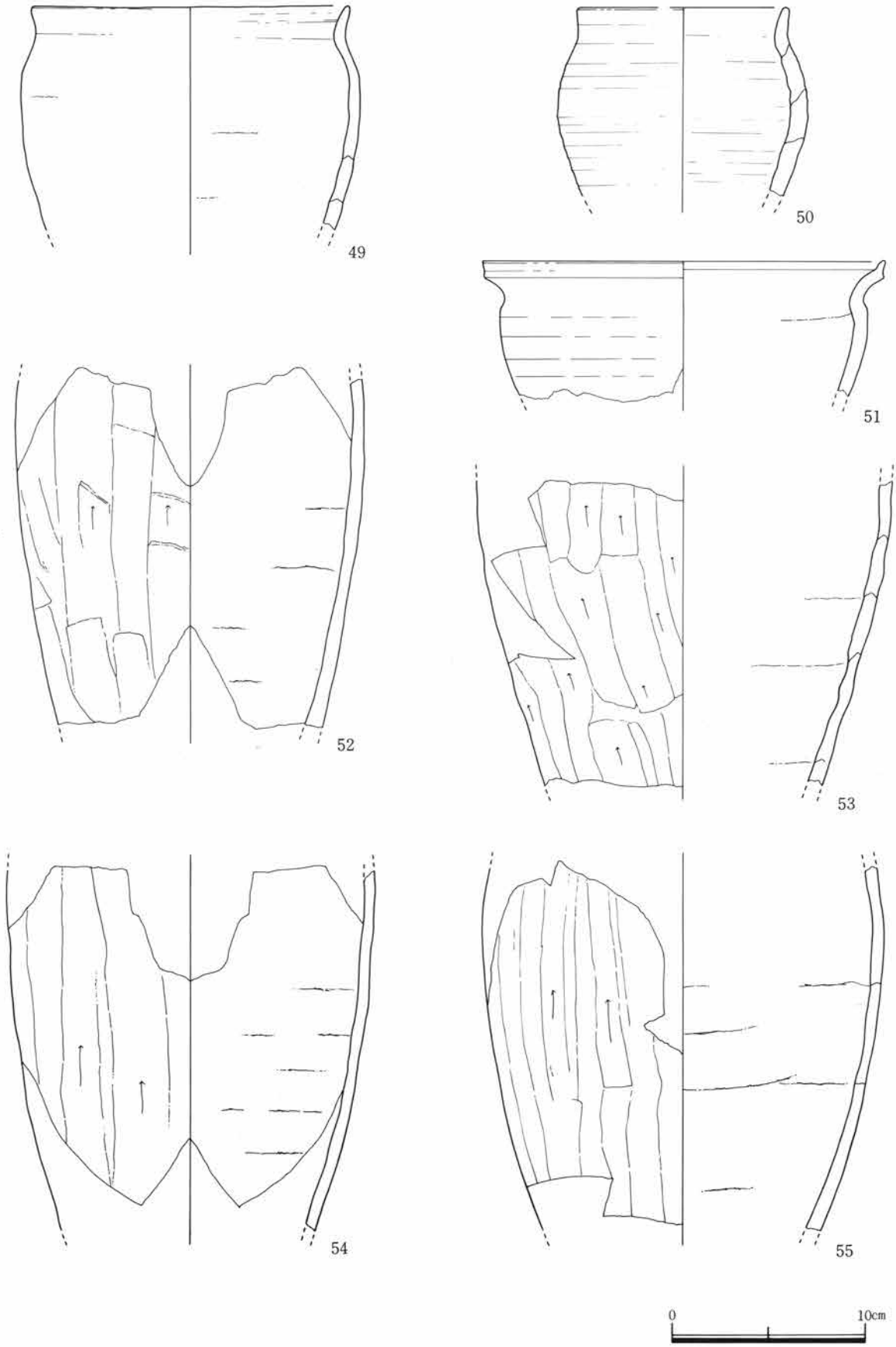
第28図　5号住居址出土土器(1)



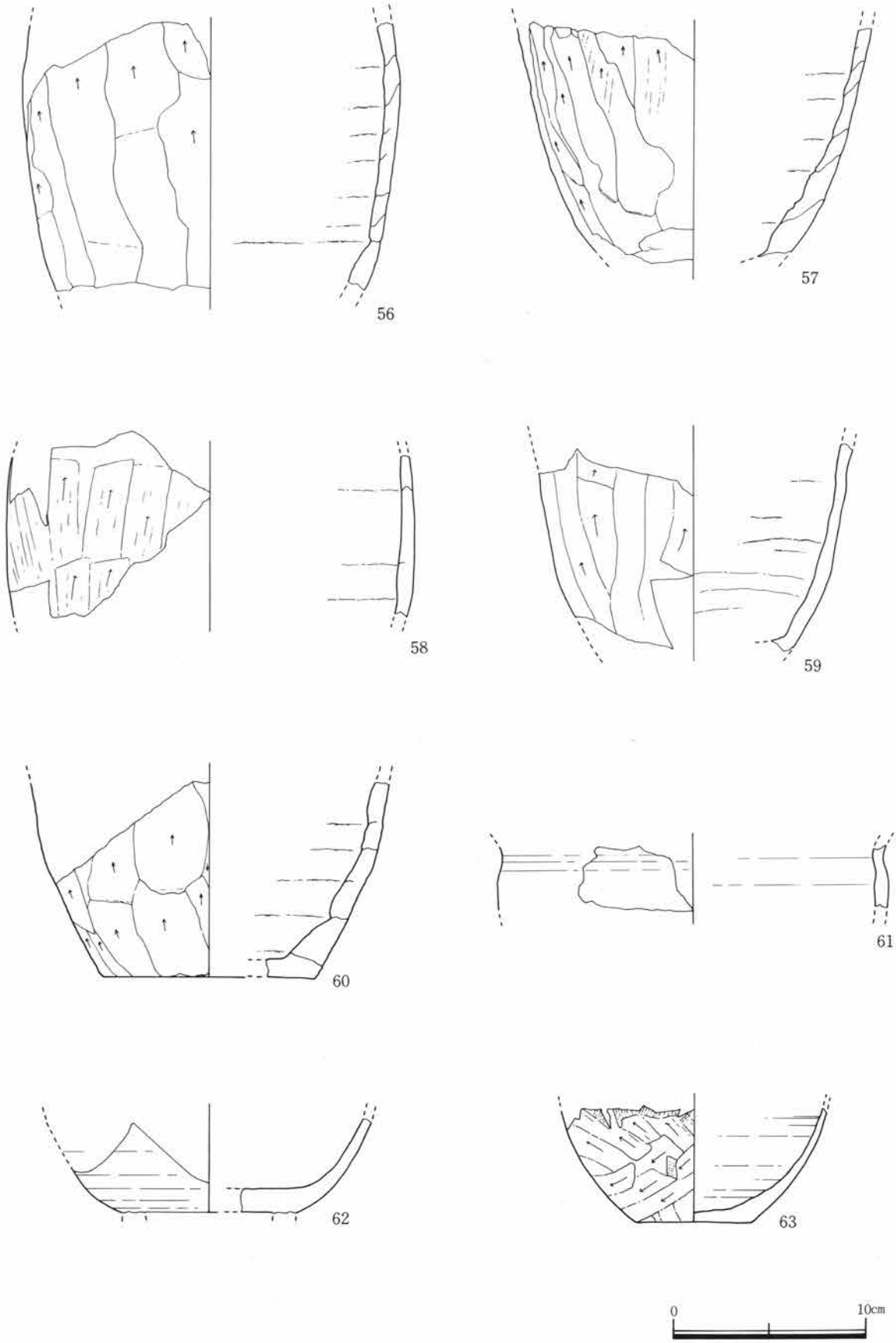
第29図　5号住居址出土土器(2)



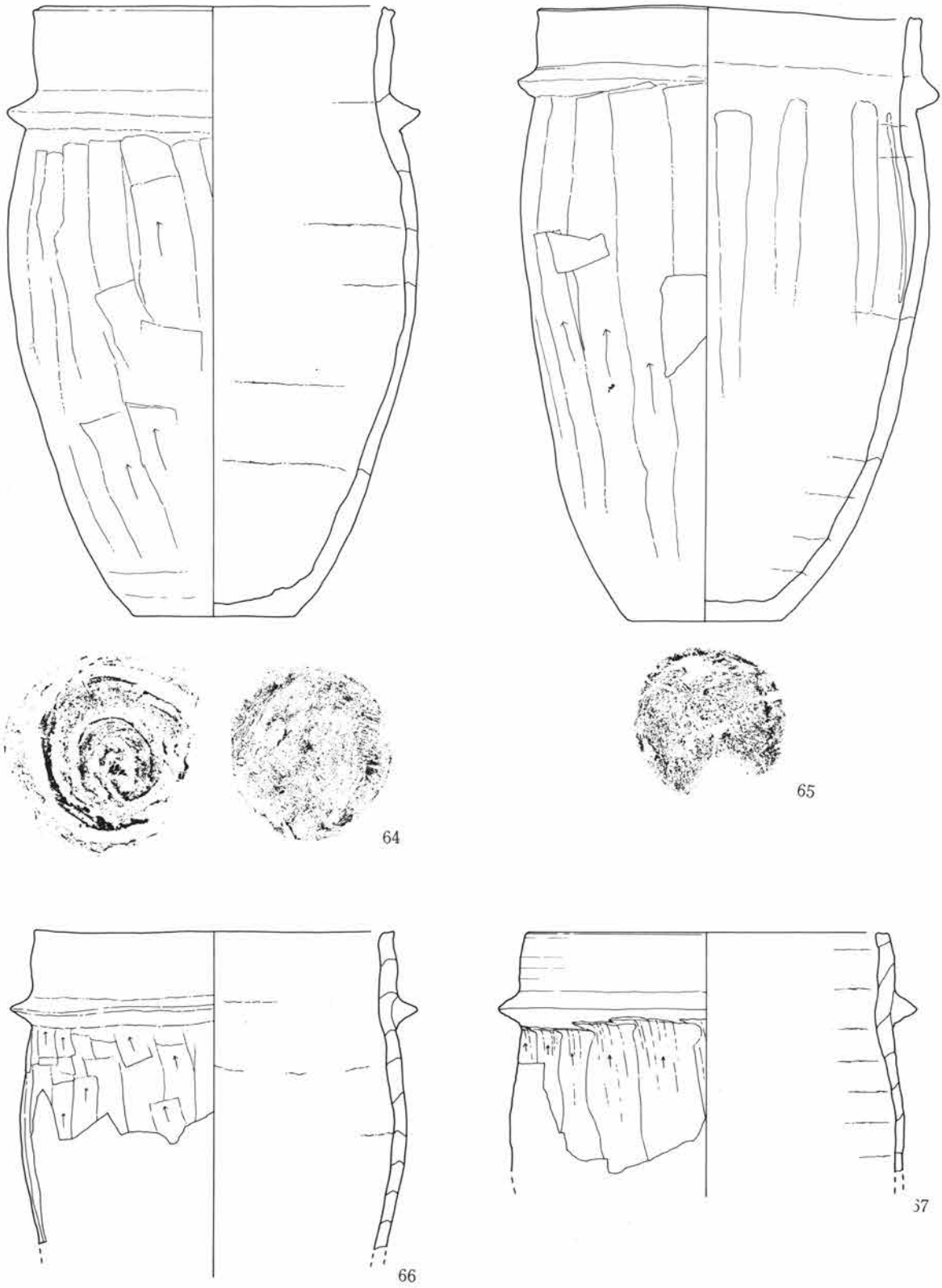
第30図　5号住居址出土土器(3)



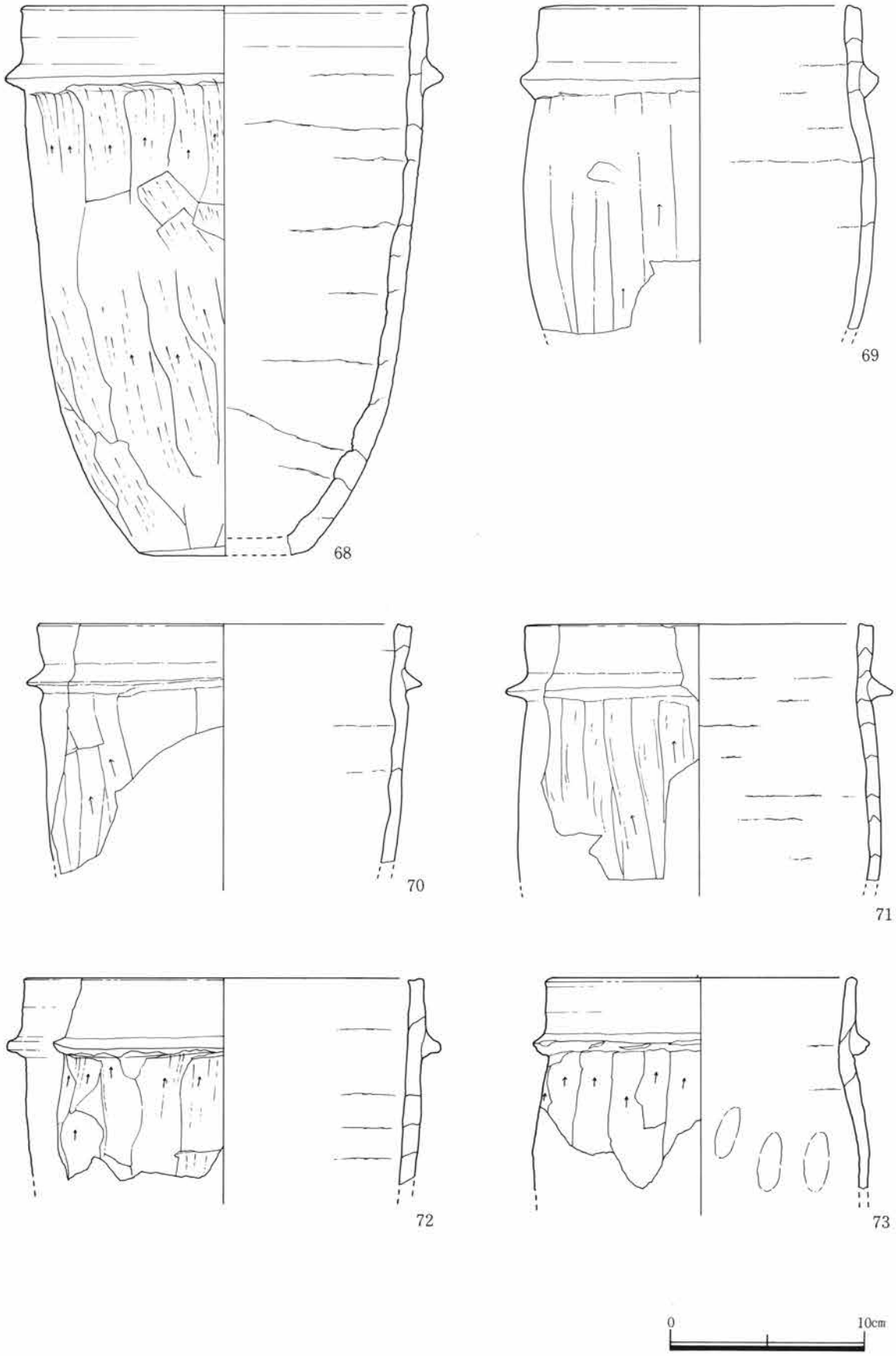
第31図　5号住居址出土土器(4)



第32図　5号住居址出土土器(5)



第33図　5号住居址出土土器(6)



第34図　5号住居址出土土器(7)

5号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No)	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
5H－1 (34－1)	須恵 坏	16.5	6.5	5.8	床面	体部は彎曲しながら立ち上がり口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は丸みをもつ。底部は一部段状に残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅔ ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
5H－2 (34－4)	須恵 坏 イブシ	14.0	6.0	5.5	床面	体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上がりロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
5H－3	須恵 坏	12.8	7.2	6.3	覆土	口径と底径の差が比較的少ない深身の坏である。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅛ ④白色鉱物粒の他に、石英粒も多く含まれる。
5H－4 (34－5)	須恵 坏	15.6	6.0	6.5	床面	体部はわずかに彎曲しロクロ目が残る。口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H－5	須恵 坏	14.2	—	—	床面	口縁部はやや外反ぎみに開き、口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残る。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
5H－6	須恵 坏	12.7	7.0	3.5	覆土	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反ぎみに開く。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒を含む。石英粒はみられない。
5H－7	須恵 坏	16.0	—	—	覆土	口縁部は外反ぎみに開き、口唇部は丸みをもち内側に面がある。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
5H－8	須恵 坏	16.0	—	—	覆土	体部にロクロ目が残る。口唇部は尖りぎみに立ち上がる。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もわずかにみられる。
5H－9 (34－6)	須恵 坏 イブシ	13.0	7.0	4.2	覆土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつがやや尖りぎみである。底面に静止糸切り痕（？）。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
5H－10	灰釉 坏	14.0	9.0	3.7	覆土	器高が低く底部中央は大きく盛り上っている。底部下端にヘラ削りが施される。底面に回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓、口縁欠 ④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
5H－11	須恵 坏	14.7	7.2	4.1	覆土	やや段状の底部から彎曲ぎみに立ち上がり体部は直線的である。口縁部はわずかに外反ぎみで口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①青灰白 ②還元 ③⅕ ④白色鉱物粒を多く含む。
5H－12	須恵 坏	12.0	—	—	覆土	口縁部はやや肥厚し、口唇部は丸みをもつ。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
5H－13	須恵 坏	—	7.0	—	覆土	底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
5H－14	須恵 坏 イブシ	—	8.0	—	覆土	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¾、口縁欠 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。

5号住居址出土土器観察表（2）

5H−15	須恵坏	− 6.1 −	覆土	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
5H−16	須恵坏 イブシ	− 6.0 −	覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底部は肉厚で底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部½ ④白色鉱物粒を含む。
5H−17	須恵坏	− 7.0 −	覆土	底部は一部段状を呈す。底面に回転糸切り痕。ロクロ右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。
5H−18	須恵坏 イブシ	− 6.0 −	覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部¼ ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
5H−19	須恵坏	− 8.0 −	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、底部は肉厚で下端にヘラ削り、底面に回転ヘラ切り痕。ロクロ右回転。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒の他に、石英粒も含まれる。
5H−20	須恵坏	− 8.0 −	覆土	底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒を多く含む。
5H−21	須恵坏	− 7.0 −	覆土	底部下端にヘラ削りが施される。体部左回転。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④砂粒が多く含まれる。
5H−22	須恵坏	− 6.0 −	覆土	底部が段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒とともに、石英粒も多く含まれる。
5H−23 (34−2)	須恵埦	13.3 6.0 − (高台貼付部)	床面	高台部は全部剝落する。体部は彎曲ぎみに立ち上がり口唇部はわずかに外反する。体部は楕円形に歪む。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅔ ④白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H−24 (34−3)	須恵埦	14.5 6.4 − (高台貼付部)	床面	高台部は全部が剝落する。体部はゆるやかに彎曲し立ち上がる。口唇部は丸みをもちわずかに外反する。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③高台部欠 ④白色鉱物粒、砂粒等夾雑物が多く胎土はきめ粗い。石英粒も含まれる。
5H−25 (34−11)	須恵埦 イブシ	13.5 5.7 5.7 (高台部)	床面	体部はやや彎曲し口縁部は外反ぎみに開く。口唇部は丸みをもつ。高台部はつぶれぎみで低く、端部は平坦。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H−26 (34−7)	須恵埦 イブシ	14.2 6.6 5.4 (高台部)	床面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がりロクロ目が残る。口唇部はわずかに外反。高台部は短く端部は平坦である。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
5H−27 (34−8)	須恵埦 イブシ	13.6 6.9 5.7 (高台部)	床面	口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。高台の貼付は雑で一部剝落し、端部は平坦である。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。黒色鉱物粒が多少含まれる。
5H−28 (34−9)	須恵埦	13.5 6.7 5.9 (高台部)	床面	高台は½が貼付部から剝落する。底面に右回転糸切り痕。口縁部はわずかに外反し、口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残る。	①灰褐色 ②酸化 ③一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−29 (34−10)	須恵埦	14.2 6.9 5.4 (高台部)	床面	体部は彎曲ぎみに立ち上がり口縁部わずかに外反。口唇部は丸い。高台部の貼付は雑で一部剝離し、端部は平坦。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。⑤胎土分析資料8

5号住居址出土土器観察表（3）

5H−30 (34−12)	須恵 椀	13.9　6.8　5.6 （高台部）	床面	体部は直線的に立ち上り、口唇部は丸みをもつ。高台部は低く端部は平坦である。貼付は雑で一部剝離する。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒および砂粒とともに石英粒も多く含む。
5H−31 (34−13)	須恵 椀	12.9　6.8　4.4 （高台部）	貯蔵穴	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。高台部は低く端部は平坦である。貼付部分は一部剝離する。体部右回転。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−32	須恵 椀	9.0　6.0　4.1 （高台部）	覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は尖りぎみ。器高は低い。体部右回転。高台部は肉厚で貼付は丁寧で断面は三角形を呈し、端部は平坦。	①灰褐色　②酸化　③⅕　④白色鉱物粒および石英粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
5H−33	須恵 椀	−　5.5　− （高台貼付部）	覆土	高台部は全部が剝落する。底面にヘラ切り痕。体部はやや段をもって立ち上がる。	①灰白色　②還元　③底部　④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒が含まれる。
5H−34 (34−14)	須恵 椀	−　6.6　− （高台部）	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がる。高台は端部が外に張り出し平坦面をもつ。貼付は丁寧である。	①灰白色　②還元　③½、口縁欠　④白色鉱物粒を多く含む。
5H−35	須恵 椀	9.0　5.2　5.0 （高台部）	覆土	体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は尖る。高台貼付部に凹面をもち強く外反する。端部は尖りぎみであるが一部歪む。	①青灰白　②還元　③⅛　④白色鉱物粒を多く含む。
5H−36	須恵 椀	−　5.9　− （高台部）	覆土	高台は低く、端部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部　④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−37	須恵 椀	−　6.0　− （高台部）	覆土	高台部は肉厚で低く、端部は外側に面をもつ。低面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色　②酸化　③底部　④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−38	須恵 椀	−　8.2　− （高台部）	覆土	全体的に肉厚である。高台部はわずかに外側に張り出し端部は平坦である。体部右回転。	①青灰色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみられる。
5H−39	須恵 椀	−　5.8　− （高台部）	覆土	高台は外側に張り出し端部は外反ぎみに尖る。貼付は丁寧でしっかりしている。体部右回転。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H−40	須恵 蓋	−　3.4　− （ツマミ部）	覆土	天井部上面はヘラ削りが施され、中央部に中くぼみのツマミが付けられ、わずかに歪む。ロクロ成形。体部左回転。	①青灰色　②還元　③天井部　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H−41	須恵 蓋	14.4　−　−	覆土	天井部はわずかな高まりをもつ。口縁部は体部から垂下し端部は尖りぎみとなる。	①灰白色　②還元　③体部⅓　④白色鉱物粒が多く、石英粒も多少含まれる。
5H−42	須恵 蓋	13.0　13.4　−	床面	天井部末端が突出し、その内側に口縁が垂下する。端部は平坦面をもつ。	①灰白色　②還元　③体部¼　④白色鉱物粒が多く含まれる。
5H−43	須恵 蓋	−　−　−	覆土	肉厚の天井部中央にリング状ツマミが付く。貼付は丁寧でしっかりしている。ロクロ成形。体部左回転。	①灰白色　②還元　③体部¼　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれる。
5H−44	須恵 甕	20.6　−　−	覆土	頸部がくの字状に括れ、口縁部は短く外側に面をもつ。口唇部は直立し尖る。	①灰白色　②還元　③口縁部片　④黒色鉱物粒が多く、白色鉱物粒がやや含まれる。

5号住居址出土土器観察表（4）

5H−45	須恵甕	24.0 — —	覆土	頸部は強く括れ、口縁部は段をもち外側に面がある。口唇部は尖りぎみである。	①褐色 ②酸化 ③口縁⅙ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
5H−46	須恵甕	24.0 — —	覆土	頸部の括れはゆるやかで、口唇部は有段となり外側に面をもつ。口唇部は直立し尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。石英粒多少含まれる。
5H−47 (35−1)	須恵長頸壺	8.3 — —	床面	頸部はやや開きぎみに立ち上る。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖る。	①青灰色 ②還元 ③頸部 ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
5H−48 (35−2)	須恵小型壺	— 4.8 —	床面	ロクロ成形。底部は非常に器肉が薄く、体部は肉厚である。	①青灰色 ②還元 ③口縁欠 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H−49 (35−3)	甕	16.4 17.6 — (胴部)	床面	口縁部は短くわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。体部はゆるやかに彎曲し上半部に最大径をもつ。横ナデ整形。	①灰褐色 ②酸化 ③¼、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−50	甕	11.0 13.0 — (胴部)	床面	体部は上半に最大径をもちゆるやかに彎曲する。口縁部は短く直立し、口唇部は丸みをもつ。内外面とも横ナデ。	①灰褐色 ②酸化 ③¼、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。 ⑤胎土分析資料9
5H−51 (35−4)	須恵甕	21.7 19.0 — (胴部)		体部は彎曲ぎみに立ち上がり括れた頸部から短い口縁部に至る。口縁部は外反し稜をもち口唇部は尖りぎみに直立する。内外面横ナデ。	①灰褐色 ②酸化 ③⅕、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−52	須恵羽釜	— 18.0 — (胴部)	床面	体部にやや彎曲をもつ。外面には下から上方向への縦位ヘラ削り。内面にはヘラナデつけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③⅕ ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。石英粒も含まれる。
5H−53	須恵羽釜	— 21.5 — (胴部)	覆土	体部上半に向って脹らみぎみに開く。外面は下から上方向への縦位ヘラ削り。内面は横位のヘラナデつけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−54 (35−6)	須恵羽釜	— 19.1 — (胴部)	床面 カマド	体部外面に下から上方向への縦位ヘラ削り、内面にはヘラナデつけが行われる。又内面には輪積み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−55	須恵羽釜	— 20.8 — (胴部)	床面	体部中央に最大径をもつ。外面には下から上方向への縦位ヘラ削り。内面にはヘラナデつけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−56	須恵羽釜	— 19.6 — (胴部)	床面	体部中央に最大径をもつ。外面は下から上方向への縦位ヘラ削り。内面はヘラナデつけが行われる。輪積み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−57	須恵羽釜	— — —	床面	体部外面には下から上方向への縦位ヘラ削り。内面は横位のヘラナデつけが行われ、輪積み痕が明瞭に残る。	①灰白色 ②還元 ③⅕ ④白色鉱物粒を多く含む。
5H−58	須恵羽釜	— 21.0 — (胴部)	床面	体部外面は下から上方向への縦位ヘラ削り。内面には輪積み痕が残り、凹凸がある。	①灰褐色 ②酸化 ③体部¼ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−59	須恵羽釜	— — —	床面	体部外面には下から上方向への縦位ヘラ削り。内面には横ナデが行われ、輪積痕が残り凹凸がある。	①灰褐色 ②酸化 ③体部¼ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。

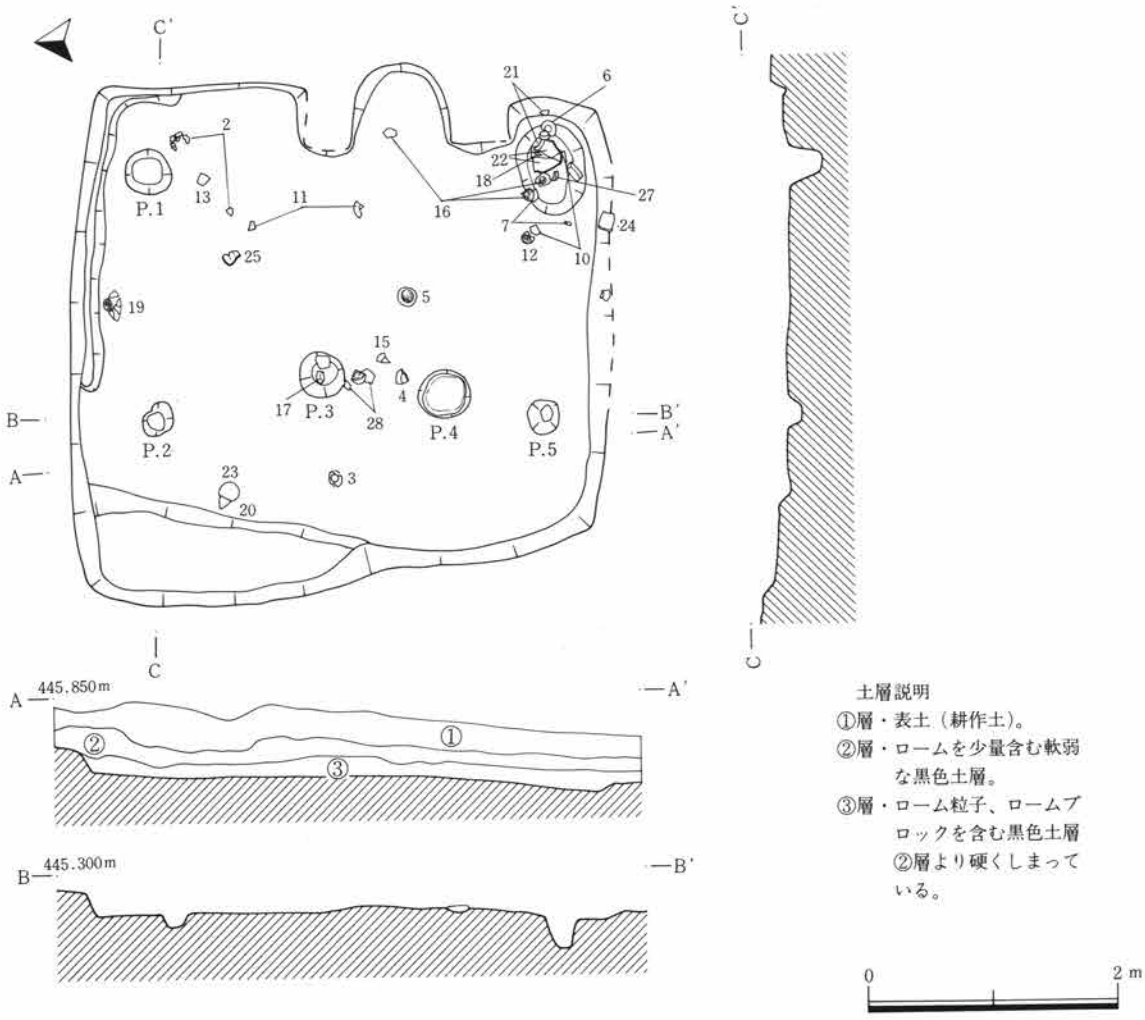
5号住居址出土土器観察表（5）

5H−60	須恵 羽釜	− 11.0 −	床面	肉厚の底部からやや彎曲ぎみに立ち上がる。外面は下から上方向への縦位ヘラ削りが行われる。内面には輪積み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
5H−61	須恵 甕	19.8 − − (頸部)	覆土	体部上半はあまり彎曲せず頸部はわずかに括れる。内外面とも横ナデ調整が行われる。内面にはカーボンが吸着する。	①褐色 ②酸化 ③頸部片 ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
5H−62	須恵 壺	− 9.0 − (高台貼付部)	覆土	ロクロ成形。体部右回転。高台部は全部剝落し、貼付痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
5H−63 (35−5)	甕	− 6.0 −	床面	底部から彎曲ぎみに立ち上がる。体部下半に斜位のヘラ削りが行われる。内面は横ナデによる調整が行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
5H−64 (35−7)	須恵 羽釜	18.0 8.0 30.0	床面 覆土	体部上半がやや張らみ、口縁部はほぼ直立する。口唇部上に凹面をもつ。鍔は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③½ ④砂粒、白色鉱物を多く含み、石英粒もわずかに認められる。
5H−65 (35−8)	須恵 羽釜	19.0 7.6 30.0	床面 貯蔵穴	体部上半がやや張らみ、口縁部は直立する。口唇部上に凹面をもつ。鍔は三角形を呈し、下端に体部下からの縦位ヘラ削りの止め押え痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④砂粒白色鉱物粒を多く含み、石英粒も認められる。
5H−66 (36−4)	須恵 羽釜	18.0 − −	床面 覆土	体部上半にやや張らみをもち、口縁部はほぼ直立し、口唇部上に凹面あり。鍔は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④砂粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
5H−67 (36−2)	須恵 羽釜	18.0 − −	床面	体部上半はやや張らみ、口縁部はわずかに内彎する。口唇部上に凹面をもつ。鍔は三角形を呈し下端に体部ヘラ削りの止め押え痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H−68 (36−1)	須恵 羽釜	21.2 7.2 28.0	床面	体部下半でわずかに彎曲し上半から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。鍔は三角形で、体部は下からの縦ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④砂粒、3〜4㎜の小礫および石英粒を含む。
5H−69 (36−6)	須恵 羽釜	16.6 − −	床面 覆土	体部上半がわずかに張らみ、口縁部は直立する。口唇部上面はやや外傾する。鍔は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④砂粒、2㎜前後の小礫および石英粒が含まれる。
5H−70 (36−5)	須恵 羽釜	19.4 − −	床面	体部上半から口縁部にかけほぼ直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。鍔は細長い三角形を呈す。口唇部横ナデ。体部縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③⅕ ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
5H−71 (37−1)	須恵 羽釜	18.0 − −	床面	体部中央がやや張らみぎみで、口縁部は直立する。口唇部は平坦である。鍔は三角形を呈しやや長い。口縁部横ナデ。体部は縦位ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③⅛ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H−72 (37−2)	須恵 羽釜	20.6 − −	床面	体部上半から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。鍔は三角形を呈する。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④砂粒、石英粒が多く含まれる。
5H−73 (36−3)	須恵 羽釜	16.0 − −	床面	体部上半がやや張らむ。口縁部は直立し、口唇部は平坦面をもつ。鍔は三角形。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④砂粒、石英粒が多く含まれる。

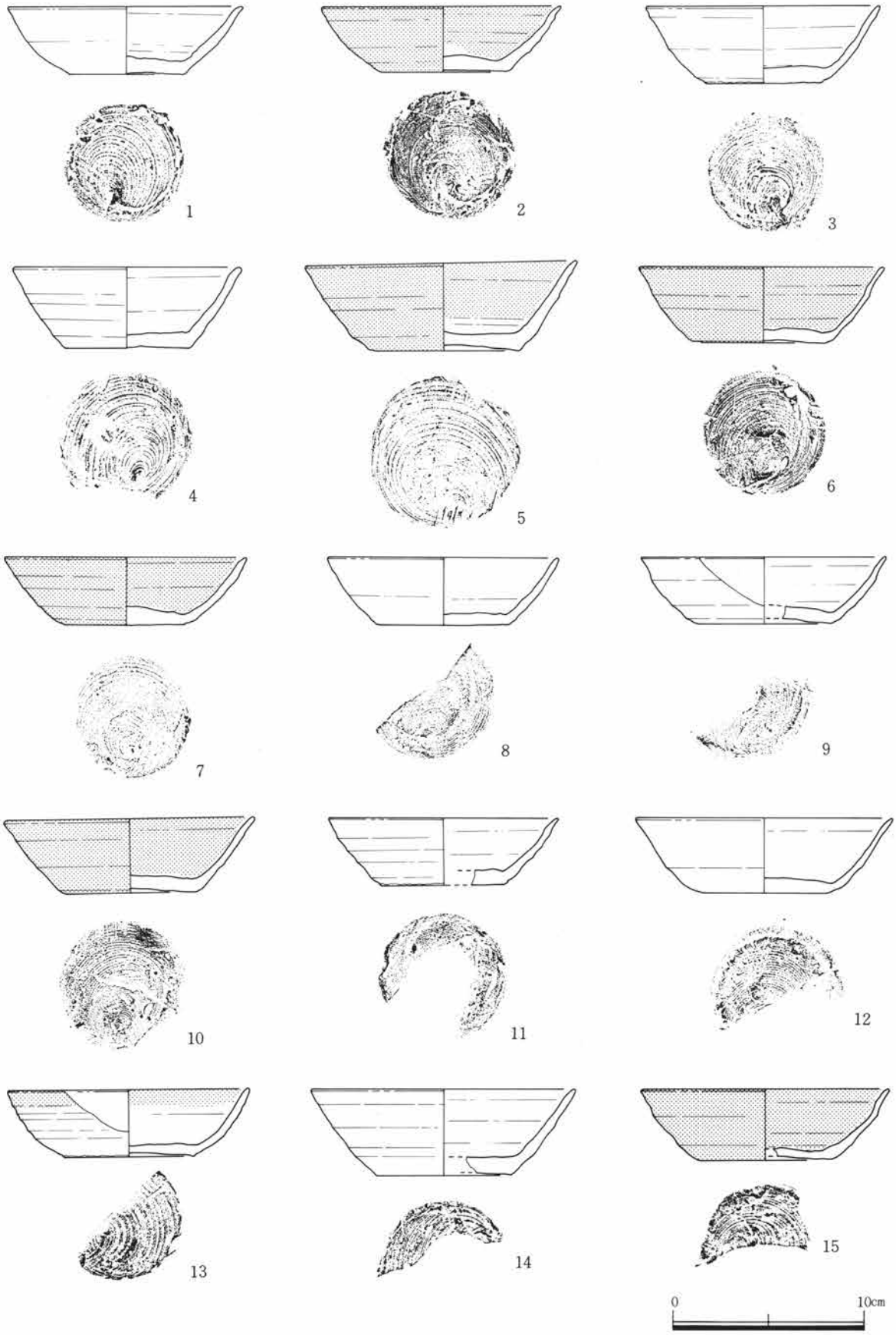
6号住居址（第35図、図版6）

J・K—79・80グリッドに位置する。平面形は長辺4.35m、短辺4.1mを測り、ほぼ正方形プランを呈する。面積は約17.8m²、主軸方位はN—94°—Eである。北西コーナー部分に張り出し部をもち、この部分は床面より10cm高く段状になっている。床面は良好な状態で検出され、ローム地山を固く踏みしめて床としており、ほぼ水平に構築されている。残存壁高は、東側で10cm、西側で10cmを測る。柱穴は北側壁付近に2本、南西コーナー付近に1本、計3本確認された。又、住居址中央部に口径35cm、深さ30cmの pit が1つ検出された。覆土の状態により本址に伴うものである。この pit から南へ1mのところに径30cm、厚さ10cmの偏平な河原石が床面をわずかに掘り窪めた部分に設置した状態で検出された。石上面は、床面と同じレベルである。この石は特に加工された痕跡は認められないが、上面は多少磨滅している。周溝は幅10cm、深さ10cmのものが北東コーナー部分に巡らされる。南東コーナー部には長径72cm、短径55cm、深さ4cmを測る貯蔵穴が検出された。カマドは東壁中央寄りに設けられる。残存状態は悪く、掘り方が検出されただけである。地山を掘り残し袖部を作り出しており、この部分から75cm東壁を掘り込み主体部を設けている。床掘り込みはみられない。

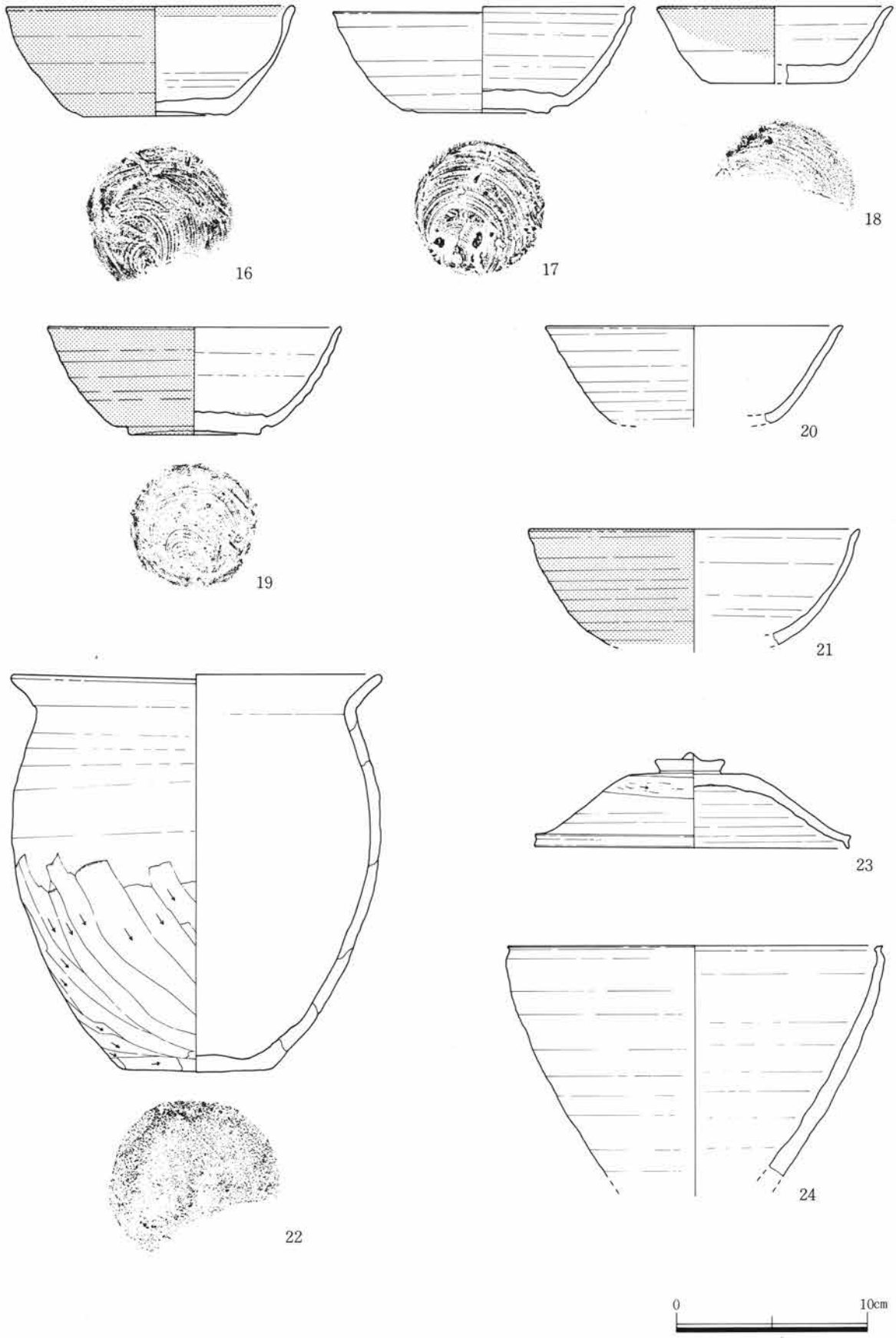
遺物はカマド及び貯蔵穴を中心とした住居東半に集中して出土している。



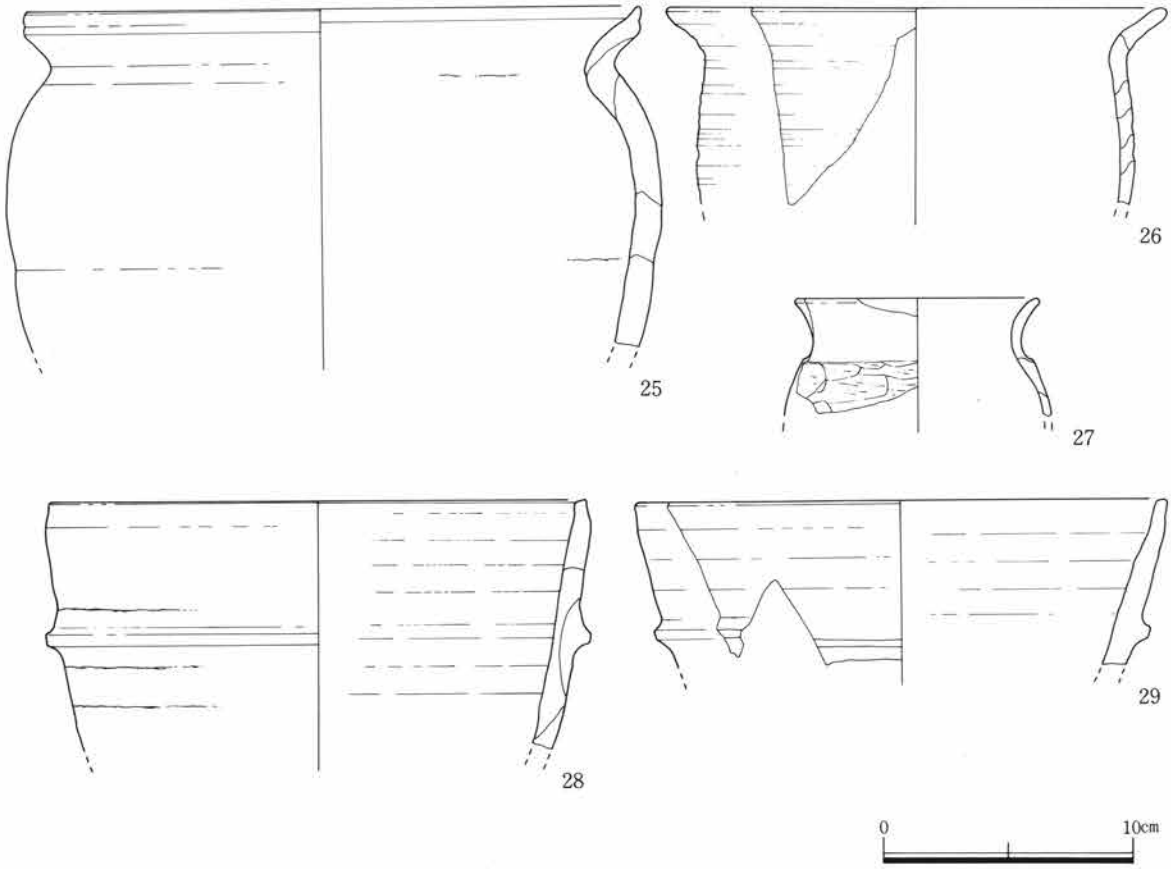
第35図　6号住居址実測図



第36図　6号住居址出土土器(1)



第37図　6号住居址出土土器(2)



第38図　6号住居址出土土器(3)

6号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	法量 底径	法量 器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
6H－1（37－3）	須恵 坏	12.3	6.0	3.6	覆土	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部はわずかに外反し、口唇部は尖りぎをみである。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¾ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
6H－2（37－4）	須恵 坏 イブシ	12.6	6.7	3.4	床面 覆土	体部はわずかに彎曲し、口縁部は外反ぎみで口唇部は尖りぎみである。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
6H－3（37－5）	須恵 坏	12.2	6.0	4.0	床面 覆土	口縁部はやや歪みをもつ。体部は直線的に立ち上がり口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれるが、量的には少ない。
6H－4（37－6）	須恵 坏	12.0	6.5	4.2	床面	底面から口縁部にかけ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒，黒色鉱物粒の他，石英粒もわずかに含まれる。
6H－5（37－7）	須恵 坏 イブシ	14.4	8.0	4.5	床面	底部はわずかに段をもち、体部は口縁部にかけ直線的に立ち上がりロクロ目を残す。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒が多く、石英粒も含まれる。
6H－6（37－8）	須恵 坏 イブシ	12.8	6.4	3.9	床面 覆土	口縁部はわずかに外反し、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒が多く含まれる。石英粒もやや混じる。

6号住居址出土土器観察表（2）

6H－7 (37－9)	須恵 坏 イブシ	12.7	6.3	3.5	床面 覆土	底部からやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみで内側に面をもつ。体部にロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅔　④白色鉱物粒および石英粒が含まれる。
6H－8	須恵 坏	12.2	6.8	3.5	覆土	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を含む。
6H－9 (37－10)	須恵 坏	12.8	7.0	3.4	床面	口縁部に凹面をもちやや外反し、口唇部は尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が多く、石英粒も多少含まれる。
6H－10 (37－11)	須恵 坏 イブシ	13.2	6.8	3.9	床面	口縁部はやや外反し、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒が多く含まれる。
6H－11 (37－12)	須恵 坏	12.0	6.4	3.4	床面	体部にロクロ目が残り、口縁部はやや外反し内側に面をもつ。体部右回転。	①灰白色　②還元　③¾　④黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
6H－12 (37－13)	須恵 坏	13.4	6.4	3.9	床面 覆土	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色　②還元　③½　④砂粒を多く含む。石英粒もみられる。
6H－13 (37－14)	須恵 坏 イブシ	12.7	6.8	3.5	床面	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を含む。石英粒もわずかにみられる。
6H－14	須恵 坏	14.0	7.0	4.5	覆土	底部から口縁部にかけほぼ直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒の他、石英粒も比較的多く含まれる。
6H－15	須恵 坏 イブシ	13.0	7.0	3.7	床面	体部にロクロ目が残り、口唇部はわずかに外反し、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を多く含む。
6H－16 (37－15)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.5	5.7	床面	体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、口縁部内側は肥厚し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
6H－17 (37－16)	須恵 坏	15.7	7.0	5.5	床面 覆土	体部はやや彎曲し、口縁部に稜をもち尖りぎみの口唇部に至る。体部にロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③¾　④4㎜前後の黒色鉱物粒が含まれる。
6H－18 (38－1)	須恵 坏 イブシ	12.4	7.0	4.0	床面	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反ぎみに開く。口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③½　④砂粒、白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
6H－19 (38－2)	須恵 坏 イブシ	15.4	6.8	5.6	床面	底部は段状に残り、体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。体部にロクロ目。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒が多く含まれる。
6H－20	須恵 坏	15.5	－	－	床面 覆土	体部にロクロ目が残り、口唇部はやや尖りぎみとなり、内側に面をもつ。	①灰白色　②還元　③体部½　④白色鉱物粒が多く、石英粒もわずかに含まれる。
6H－21	須恵 坏 イブシ	17.4	－	－	床面 覆土	体部上半にわずかに稜をもつ。口縁部内側はやや肥厚する。体部右回転。	①灰褐色　②酸化　③体部⅘　④白色鉱物粒および石英粒を含む。

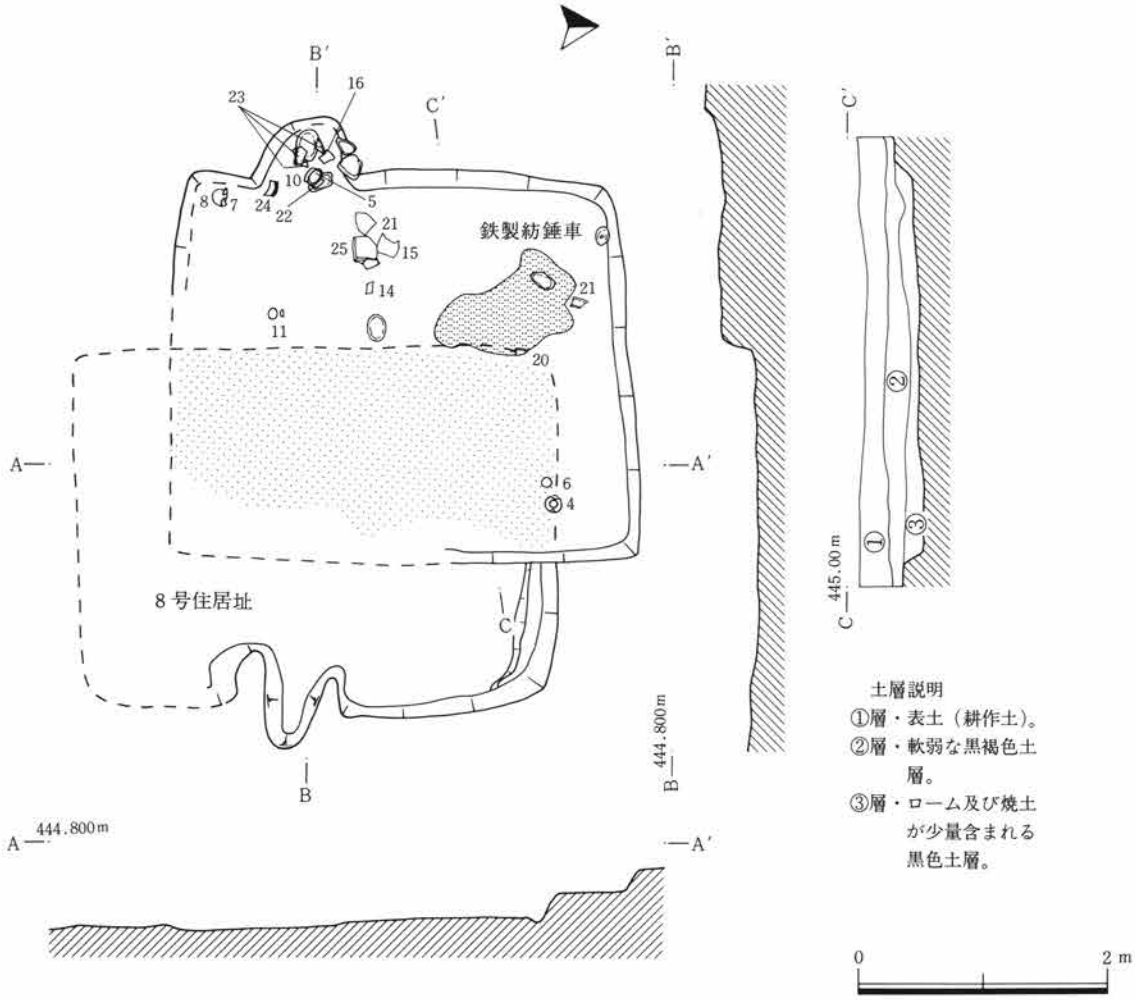
6号住居址出土土器観察表（3）

6H−22 (38−5)	甕	19.4　7.8　20.5	床　面	口縁部はくの字に屈曲し口唇部は丸い、体部は脹らみをもち口径と一致する。口縁部から体部上半は横ナデ。下半は下方への斜位ヘラ削り。	①褐色　②酸化　③½　④砂粒、白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
6H−23 (38−3)	須恵 蓋	16.4　3.6　5.0	床　面	天井部はヘラ削りが行われ、中央にボタン状ツマミが付く。体部は直線的に開き、縁辺に稜をもちやや内側から口縁部が垂下し端部は尖る。	①灰白色　②還元　③完形　④黒色鉱物粒が多く含まれる。⑤焼成時に亀裂が入る。
6H−24 (38−4)	須恵 鉢	19.6　—　—	床　面	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は器肉が薄く尖り、外側に折れ曲る。	①青灰色　②還元　③½　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
6H−25 (38−8)	須恵 甕	24.6　26.2　— (胴部)	床　面	頸部は強く屈曲し、口縁部は外側に面をもち直立する。口唇部は尖る。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
6H−26	土師 甕	20.0　17.5 (胴部)	覆　土	口縁部はくの字状に屈曲し、口縁部に最大径をもつ。口唇部は丸みをもつ。横ナデ調整。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6H−27	土師 小型甕	9.8　—　—	床　面	体部上半は横位のヘラ削りが行われ、口縁部は強く外反する。口唇部は丸みをもつ。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④砂粒、石英粒を多く含む。
6H−28 (38−7)	須恵 甑	21.6　—　—	床　面	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は平坦面をもちやや内傾する。鍔は断面台形を呈し、貼付は丁寧である。	①青灰色　②還元　③口縁部¼　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。⑤横ナデ整形
6H−29 (38−7)	須恵 甑	21.2　—　—	覆　土	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は平坦面をもつ。鍔は断面台形を呈し、貼付は丁寧である。横ナデ整形。	①青灰色　②還元　③口縁部¼　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。

7号住居址（第39図、図版7）

K・L−76・77グリッドに位置する。8号住居址を切って構築されている。南東コーナーを中心とした壁は耕作等による攪乱によりほとんど消失している。又、遺構内にも耕作溝が数列東西に走っているため、特にカマドの残存状態は良くない。平面形は、長辺3.7m、短辺3.1mの長方形プランを呈し、面積は約11.5m²、主軸方位はN−90°−Wを測る。床面は、住居西半部は地山（ローム）を床面とし、8号住居址と重複する東半分は貼り床とし、硬く踏み固められた良好なものであった。面はほぼ水平である。壁は南東部分は不明であるが、平均残存壁高は14cmでありほぼ直に立ち上る。柱穴は不明である。周溝はみられない。カマド部に用いたと考えられる礫が数個認められたが、全て原位置を失なっている。

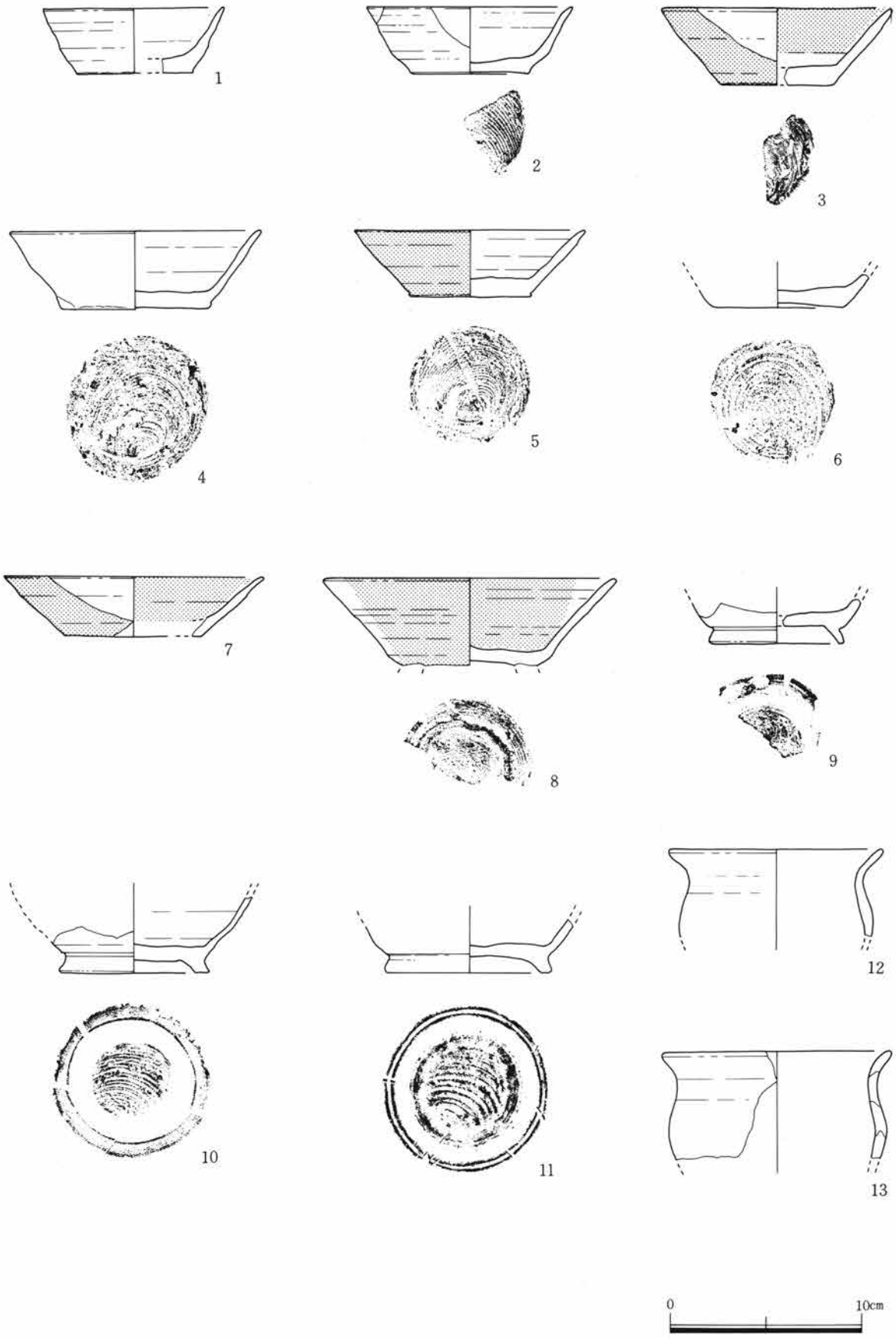
遺物は全て床面直上において検出されたものであり、坏、甕類の他、北西コーナー付近には鉄製紡錘車が1点出土している。住居中央部に検出された骨蔵器（№3）は、本址廃絶後に埋置されたものであり、共伴するものではない。骨蔵器周辺に認められる数個の礫も骨蔵器に伴うものと判断される。



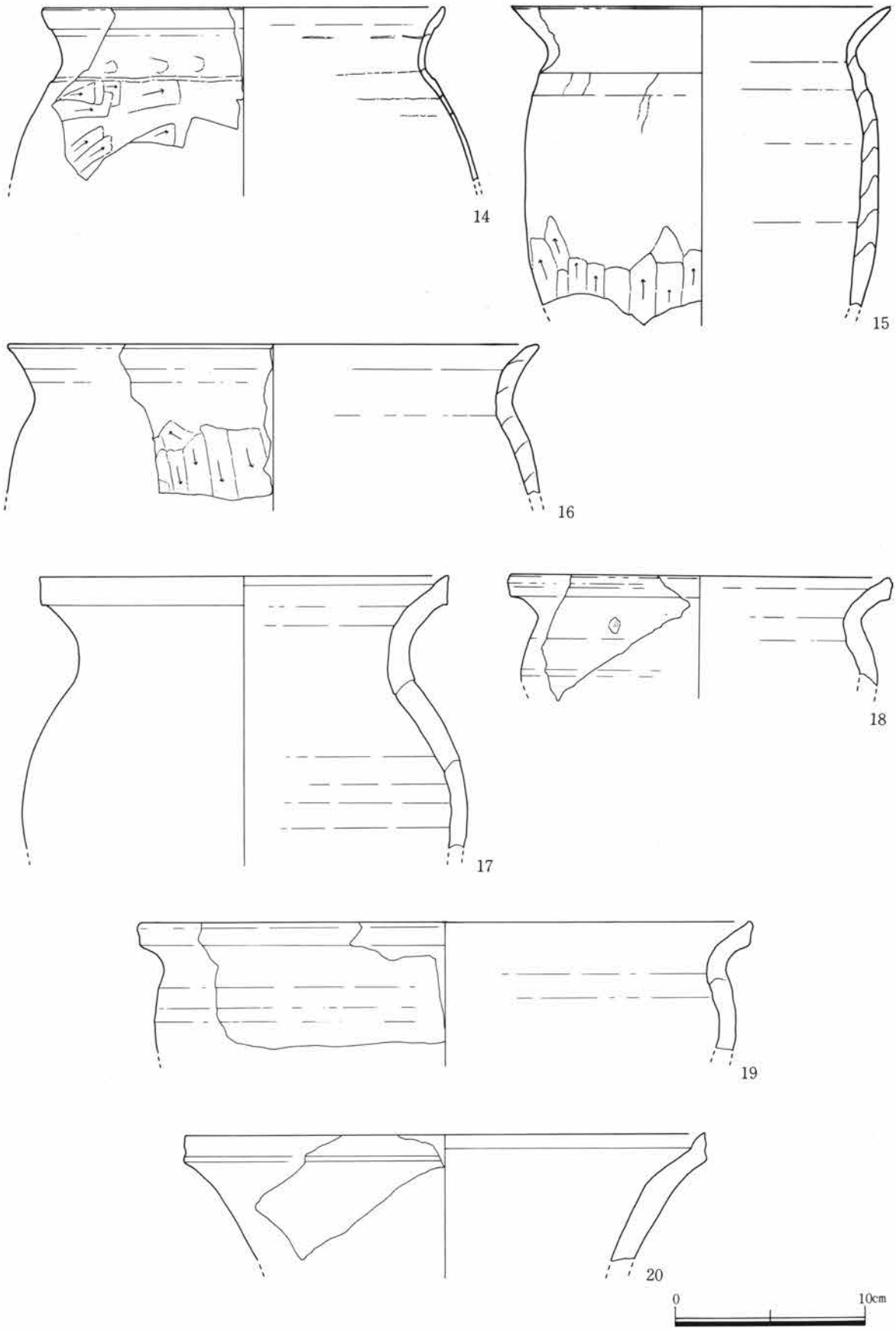
第39図　7号住居址実測図

7号候居址出土土器観察表（1）

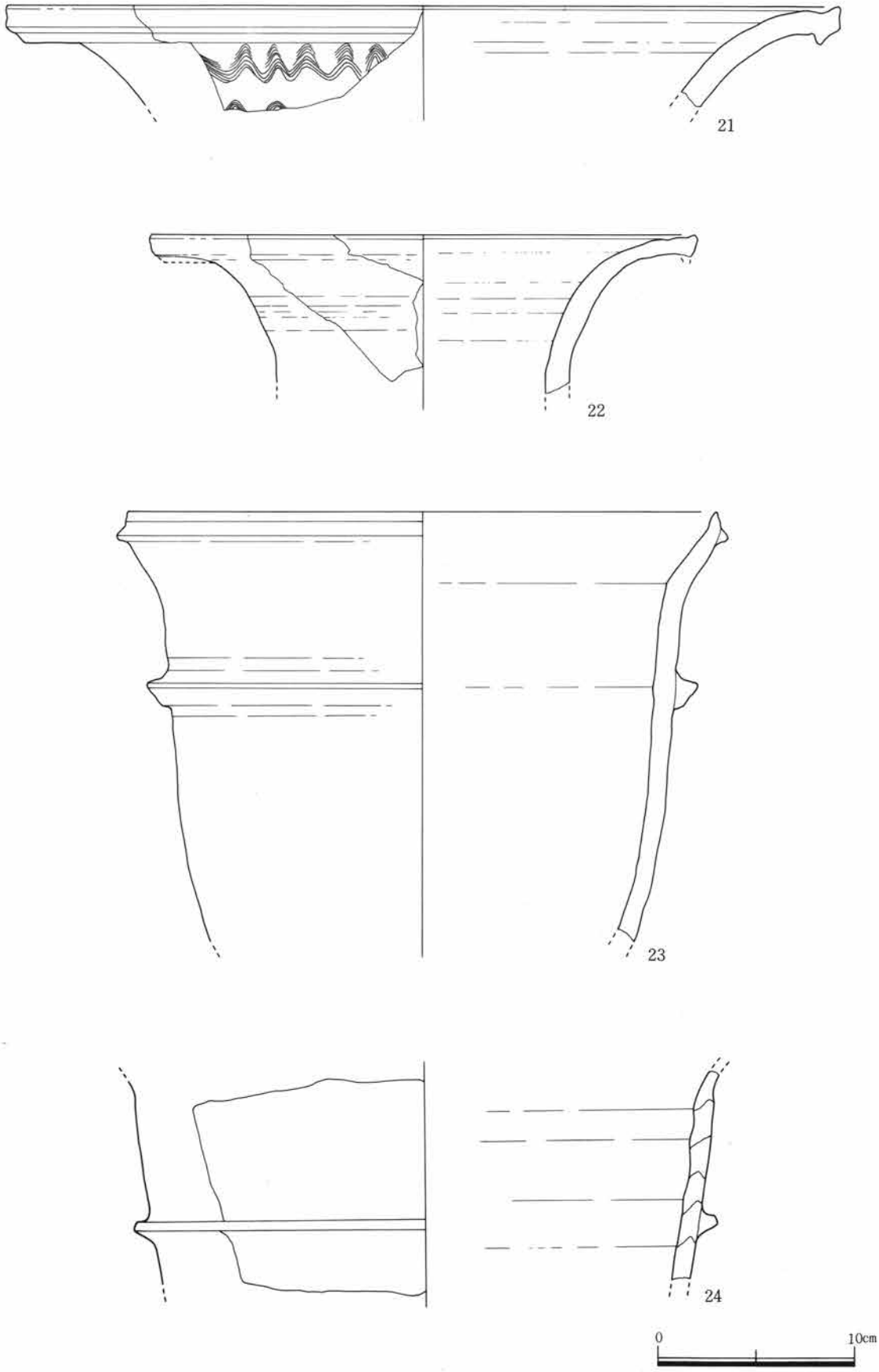
遺物番号（図版No）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
7H－1	須恵 坏	9.5	6.0	3.4	覆土	底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口辺部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	青灰色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
7H－2	須恵 坏	10.8	6.0	3.5	覆土	底部はわずかに段をもつ。体部にはロクロ目が残り、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H－3	須恵 坏 イブシ	12.0	6.0	4.0	覆土	底部から口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H－4（39－2）	須恵 坏	13.2	7.6	4.1	床面	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反ぎみ。底部は肉厚で底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部⅓ ④白色鉱物粒、石英粒を含む他、夾雑物が多い。



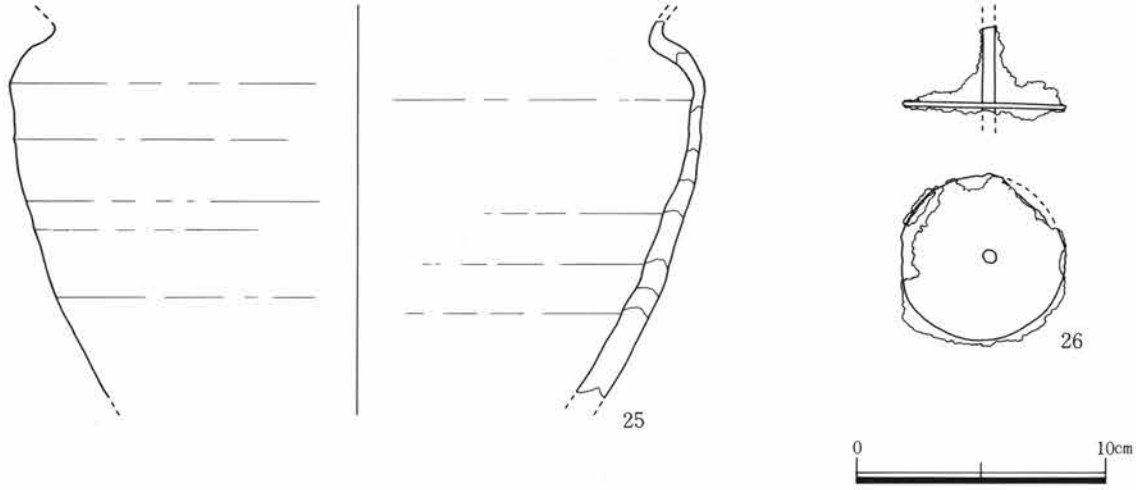
第40図　7号住居址出土土器(1)



第41図　7号住居址出土土器(2)



第42図　７号住居址出土土器(3)



第43図　7号住居址出土遺物(4)

7号住居址出土土器観察表（2）

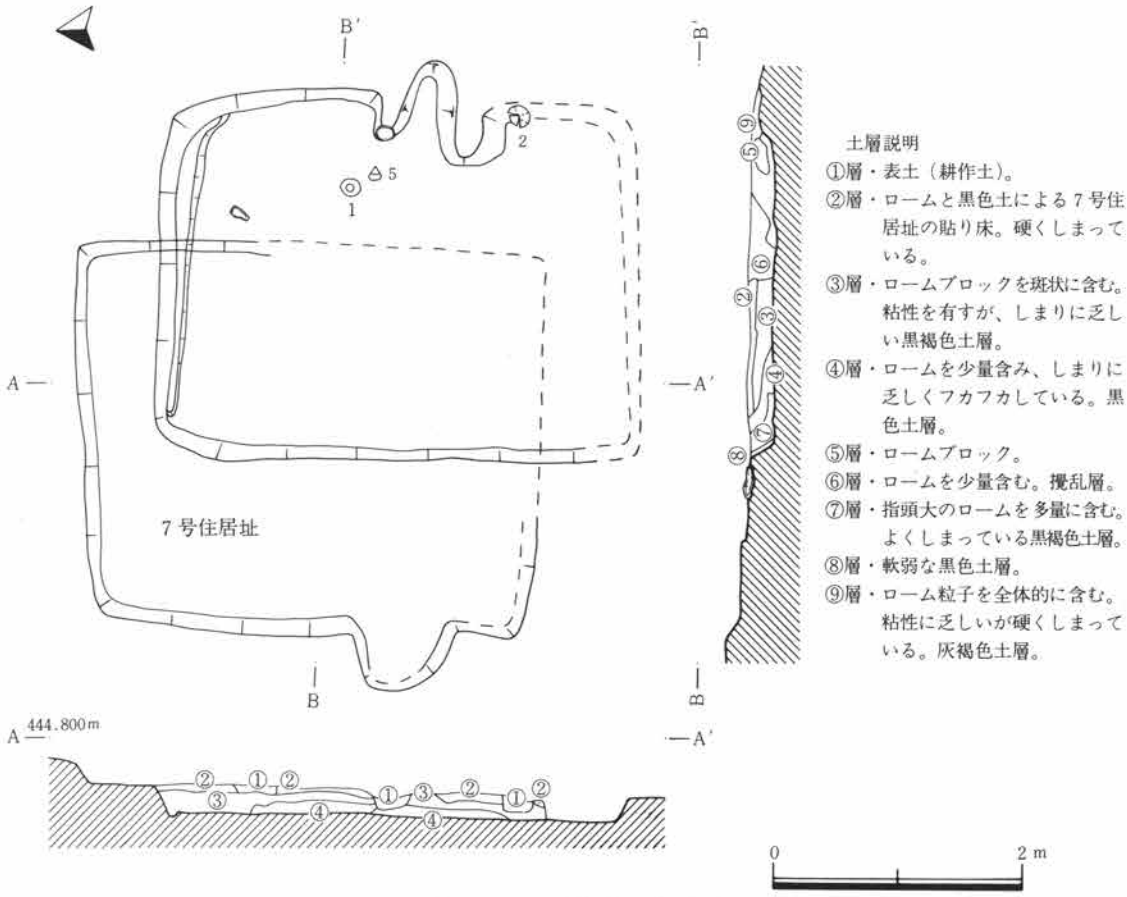
7H－5 (39－1)	須恵 坏 イブシ	12.0　6.2　3.5	床面	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖る。底部は肉厚で、底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④3㎜前後の小礫および石英粒が含まれる。
7H－6	須恵 坏	－　6.6　－	床面	底部縁辺が肉厚。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
7H－7	須恵 坏 イブシ	13.6　7.0　3.1	床面	体部は直線的でかなり強く開く。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅕　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
7H－8 (39－3)	須恵 椀 イブシ	15.4　7.0　－ (高台貼付部)	床面 覆土	高台部は全部剝落する。底面に回転糸切り痕。体部下半にわずかに脹らみをもち、口唇部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。	①灰白色　②還元　③½　④砂粒、白色鉱物粒の他に、石英粒も目立つ。
7H－9	須恵 椀	－　7.0　－ (高台部)	覆土	高台部は外側に張り出し、端部は丸みをもつ。貼付部に凹面をもつ。体部左回転。	①灰白色　②還元　③¼、口縁部欠　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
7H－10	須恵 椀	－　7.8　－ (高台部)	床面	高台部は短く、端部は平坦面をもつ。底面に回転糸切り痕。貼付は丁寧である。	①灰褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
7H－11	須恵 椀	－　8.6　－ (高台部)	床面	高台部は短く外側に張り出し、端部は平坦面をもち中央に凹線がみられる。貼付は丁寧である。底面に回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒を多く含む。
7H－12 (39－4)	小型甕	11.2　－　－	覆土	口縁部はくの字状に屈曲し、口唇部は丸みをもちわずかに肥厚する。横ナデ調整を行う。	①灰褐色　②酸化　③¼　④砂粒、白色鉱物粒を含む。　⑤二次焼成をうけた痕跡あり。
7H－13 (39－5)	小型甕	12.0　－　－	覆土	口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は丸みをもつ。口縁部に最大径をもつ。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。　⑤頸部内側にカーボン付着。
7H－14 (39－6)	土師 甕	21.2　－　－	床面 覆土	コの字状口縁をもつ。屈曲部両端は工具による横ナデが行われる。体部上半は左下から右上への斜位ヘラ削り。	①褐色　②酸化　③⅕　④砂粒、白色鉱物粒を含む。石英粒もわずかにみられる。

7号住居址出土遺物観察表（3）

7H−15 (39−7)	須恵甕	20.0 − −	床面	口縁部はくの字状に外反。頸部下端は強い横ナデが行われわずかに稜をもつ。口唇部は尖りぎみ。体部下半には下から上への縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
7H−16 (39−8)	土師甕	28.0 − −	床面	口縁部はくの字状に外反する。口縁部は横ナデ。体部は下から上方向への縦位ヘラ削り。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む。石英粒もみられる。
7H−17 (39−10)	須恵甕	21.4 − −	覆土	最大径を口縁部にもつ。体部はゆるやかに彎曲し、口唇部は外側に面をもち尖りぎみに立ち上る。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
7H−18 (39−9)	須恵甕	20.0 − −	覆土	頸部は屈曲し口縁部は外側に面をもつ。口唇部は直立し尖る。横ナデが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。 ⑤器外面に炭素吸着。
7H−19 (40−1)	須恵甕	32.0 − −	覆土	頸部は屈曲し口縁部外反。口縁部は短く外側に面をもつ。口唇部は直立し尖りぎみとなる。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒を含む。
7H−20 (40−2)	須恵甕	27.2 − −	床面	口縁部はゆるやかに外反する。口縁上部に断面三角形の稜を一段もち、口唇部は直立し尖る。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
7H−21	須恵甕	42.4 − −	床面	大型の甕。口縁部は大きく外反する。口縁部下端は断面三角形の凸帯が付き、口唇部は直立し尖る。外面に波状の櫛描文が施される。	①灰褐色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
7H−22	須恵甕	27.8 − −	覆土	頸部から口縁部にかけ大きく外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は直立し尖る。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含み、わずかに石英粒もみられる。
7H−23 (40−3)	甑	30.0 − −	床面	体部から口縁部にかけてゆるやかに広がる。鍔は断面三角形を呈し、やや上向きである。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒および、石英粒を含む。
7H−24 (40−4)	甑	− − −	床面	頸部はやや丸味をもち、口縁部は外反ぎみに開く。鍔はやや上向きで、貼付は丁寧である。	①褐色 ②酸化 ③⅕ ④砂粒、白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
7H−25 (40−5)	須恵甕	− 24.4 − (頸部)	床面	体部上半に強く張りをもつ。輪積み痕が比較的明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③体部⅓ ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H−26 (40−6)	鉄製紡錘車	径 6.5 軸径 0.5	床面		①− ②− ③軸部分は大半欠。

8号住居址（第44図、図版7−2）

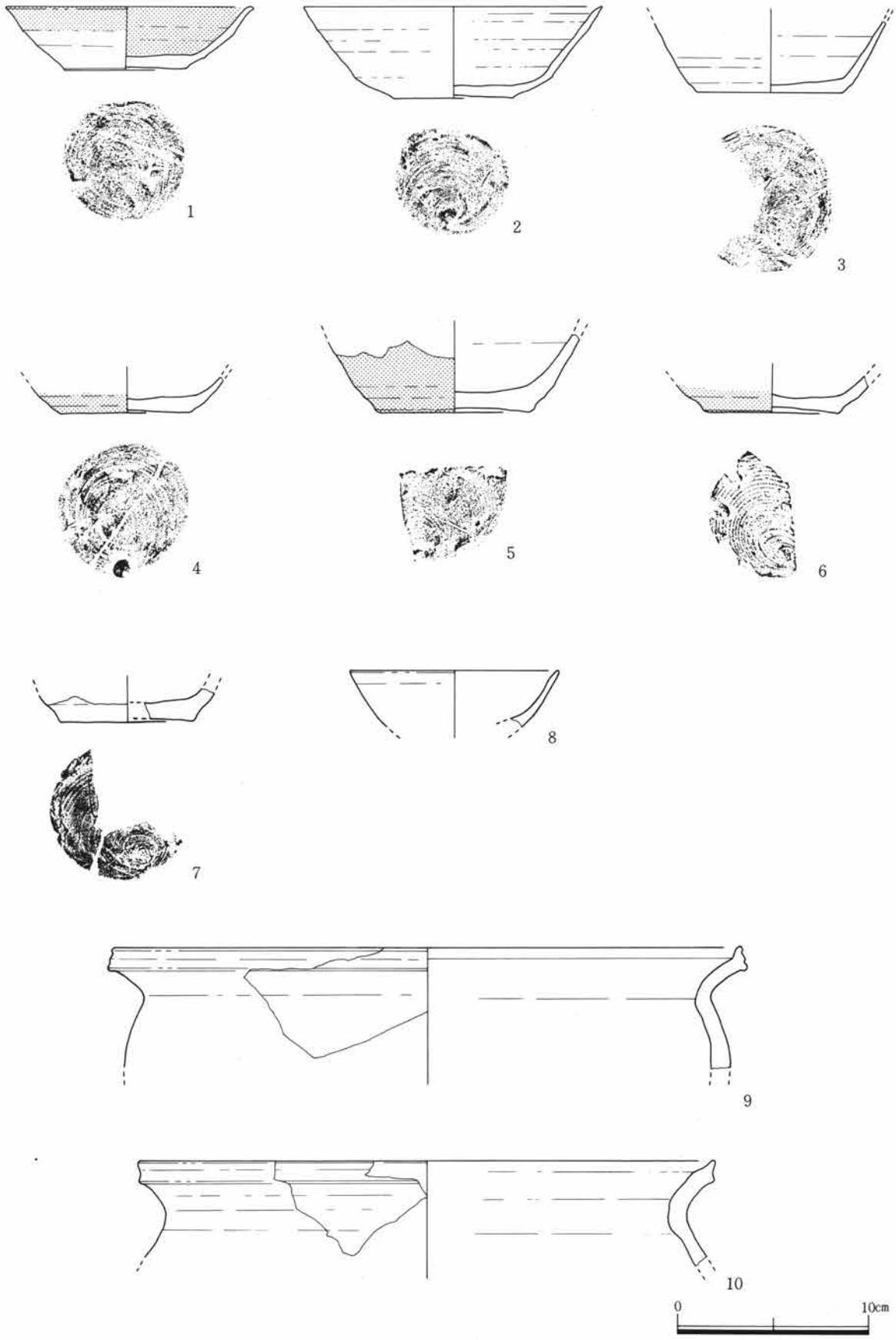
L・M−76・77グリッドに位置し、東半部は7号住居址により切られる。平面形は長辺3.8m、短辺2.95mの長方形プランを呈し、面積は約11.4m²、主軸方位はN−90°−Eを測る。床面はローム面に構築され固く良好でほぼ水平である。壁は直に立ち上がり、残存壁高は北壁15cm、西壁13cm、南側は消失している。柱穴はみられない。周溝は北壁に沿って幅7cm、深さ5cm、長さ cmの規模をもつ。カマドは東壁中央に設けられる。残存状態は極めて悪く、掘り方下部が検出されたのみである。地山を掘り残し袖部をつくり出し、北側には袖石が1個検出された。出土遺物は少なく、第45図に示した土器類の他は小破片が数点検出された。



第44図　8号住居址実測図

8号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
8H－1（40－7）	須恵 坏 イブシ	13.0	6.4	3.3	床面	体部上半にわずかな稜をもち、口縁部はやや外反する。口唇部は丸みをもつ。口径に比し器高は浅い。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を含む。
8H－2（40－8）	須恵 坏	15.6	6.2	4.7	床面	体部下半に稜をもち、口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部は尖る。器肉は薄く、底径に比し、口径が大きい。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
8H－3	須恵 坏	－	7.6	－	覆土	底部中央がやや薄くなるが、器厚は一定している。底面に左回転糸切り痕。切り直しがみられる。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を含む。隋
8H－4	須恵 坏 イブシ	－	7.0	－	覆土	体部下半はやや強く立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒を含む。



第45図　8号住居址出土土器

8号住居址出土土器観察表（2）

8H－5	須恵坏 イブシ	－　7.8　－	床面	全体的に肉厚。体部にロクロ目が残り下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を含む。
8H－6	須恵坏 イブシ	－　6.8　－	覆土	体部下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒を含む。
8H－7	須恵坏	－　7.0　－	覆土	体部下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒を含む。
8H－8	須恵坏	11.0　－　－	覆土	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。体部右回転。	①青灰色　②還元　③体部⅓　④白色鉱物粒を含む。
8H－9	須恵甕	32.7　－　－	覆土	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し外側に面をもち、口唇部は尖りぎみに直立する。口縁部横ナデ調整。	①青灰色　②還元　③口縁部片　④白色鉱物粒を含む。
8H－10	須恵甕	30.2　－　－	覆土	口縁部は強く外反し、外側に面をもち沈線が1条巡る。口唇部はやや丸みをもち直立する。口縁部横ナデ調整。	①灰白色　②還元　③口縁部片　④白色鉱物粒を含む。

住居址一覧表

No.	グリッド	形状	規模（m）	ピット規模（径×深さ）cm	カマド位置	主軸方位	時期
1	D－86、87 E－86、87	正方形	3.30×3.35≒11.06	①37×74　②70×48　③43×38 ④37×30	南	N－176°－E	10 C 前半
2	I－87、88 J－87、88 K－87、88	長方形	3.90×3.40≒13.26	①33×21　②38×34　③27×25 ④24×15　⑤46×30	東	N－101°－E	9 C 後半
3	F－85 G－85、86 H－85、86	正方形	4.05×4.10≒16.61		東	N－98°－E	9 C 後半
4	G－85、86 H－85、86	不整正方形	4.15×3.75≒15.56	①30×12　②40×66×20	西	N－64°－W	10 C 前半
5	H－86、87 I－86、87	長方形	3.00×4.20≒12.6	①55×30　②32×15	東	N－90°－E	10 C 中～後
6	J－79、80 K－79、80 L－79、80	不整正方形	4.10×4.35≒17.84	①37×28　②26×12　③36×30 ④41×5　⑤26×25	東	N－94°－E	9 C 後半
7	K－76、77 L－76、77	長方形	3.10×3.70≒11.47		西	N－90°－W	10 C 前半
8	L－76、77 M－76、77	長方形	2.95×3.85≒11.36		東	N－90°－E	9 C 後半

（2） 粘土採掘坑

本遺跡の調査により確認された遺構の中で最も規模が大きく特徴的なものは粘土採掘坑である。この採掘坑は連続的に掘削作業が行われているため、規模は大きなものから小さなものまで様々であり、一回の採掘作業を単位として把えることはかなり困難が生じる。ここでは採掘坑として連続しているものを群として把えることとし、以下その内容を記述する。

今回の発掘調査により第１群から第11群にわたる粘土採掘坑を検出し得た。各群ともローム層下に推積する白色粘土の採掘を目的としており、採掘坑底部の白色粘土を掘り取るとともに壁部分の粘土もえぐり取っている。規模の大きなものはこの作業が連続的に行われたことを示し、各群の規模の大小はこの作業の連続性に起因している。又、採掘坑は大半が遺跡北半に位置している。これは、この遺跡における白色粘土層の堆積状態によるものであり、南側に向かって粘土層が薄くなっており、効率的な作業を行うため北半に集中したものであろう。又、調査区北についても試掘調査を実施したが、採掘坑の存在は認められない。このことから、採掘坑は西側へ広がることが考えられるが、南・北及び東側は調査区域内で限定されると思われる。

採掘坑底面にはグリーンタフが多く含まれており壁部分にはほとんど見られないことから不純物の少ない良質の粘土のみを掘り取っていると考えられる。

本遺跡における採掘坑は竪坑を基本とし、これを連続的に拡張することにより粘土の採掘を行っている。この採掘方法を模式的に示すと次のようになる。（第46図）

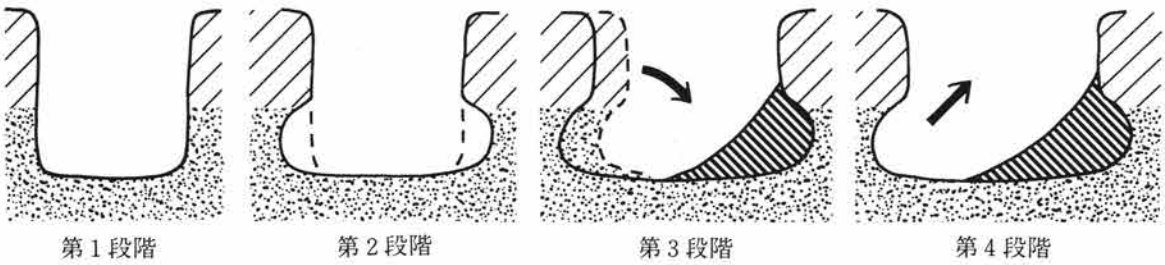
第１段階　竪坑の掘削の後、底部の粘土の採掘

第２段階　壁部分の粘土の採掘

第３段階　採掘坑の拡張及び旧坑の埋め戻し

第４段階　拡張部分の粘土の採掘

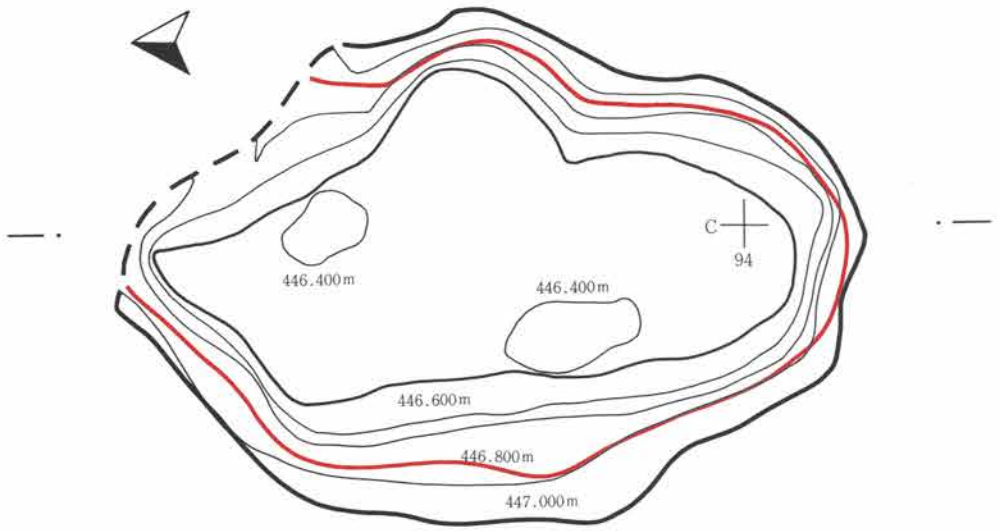
以上のような作業の連続的な繰り返しが粘土採掘坑の基本的な方法と考えられる。この間に廃坑となった採掘坑の凹みとして残っている部分に土器類の廃棄も行われている。採掘坑内から出土する遺物は概ね採掘坑廃棄後に流れ込んだ黒色土及び黒褐色土層中より検出される。

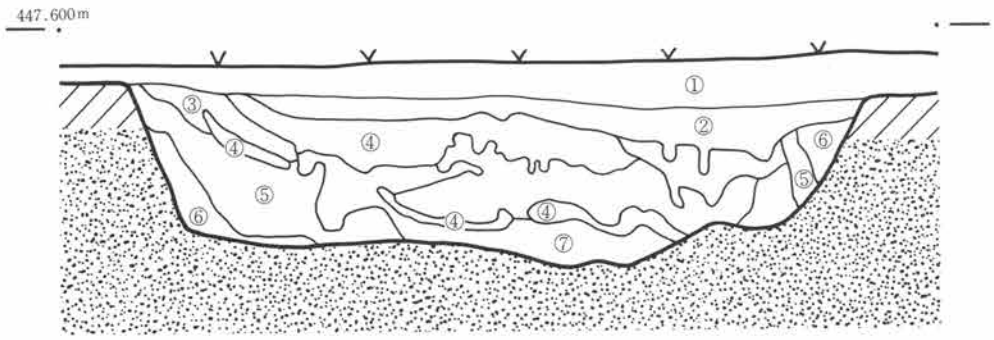


第46図　粘土採掘坑掘削模式図

第１群粘土採掘坑（第47図、図版８－１）

Ｂ・Ｃ－93・94グリッドに位置し、第３群および第４群粘土採掘坑の間に掘削される。北壁部は７号土坑により切られている。平面形は４ｍ×2.7mの不整楕円形プランを呈し、深さは80cmを測る。面積（開口部）は7.68m²、白色粘土採掘量は3.51m³である。１m²当たりの粘土採掘量は0.46m³となり、他群に比べ量も高い数値を示している。規模は比較的小さく、２回から３回程度の採掘作業が行われたものと考えられる。壁は直線的に立ち上がりオーバーハングする部分はみられない。底面は起伏をもち、グリーンタフの小礫が含まれている。遺物は出土していない。



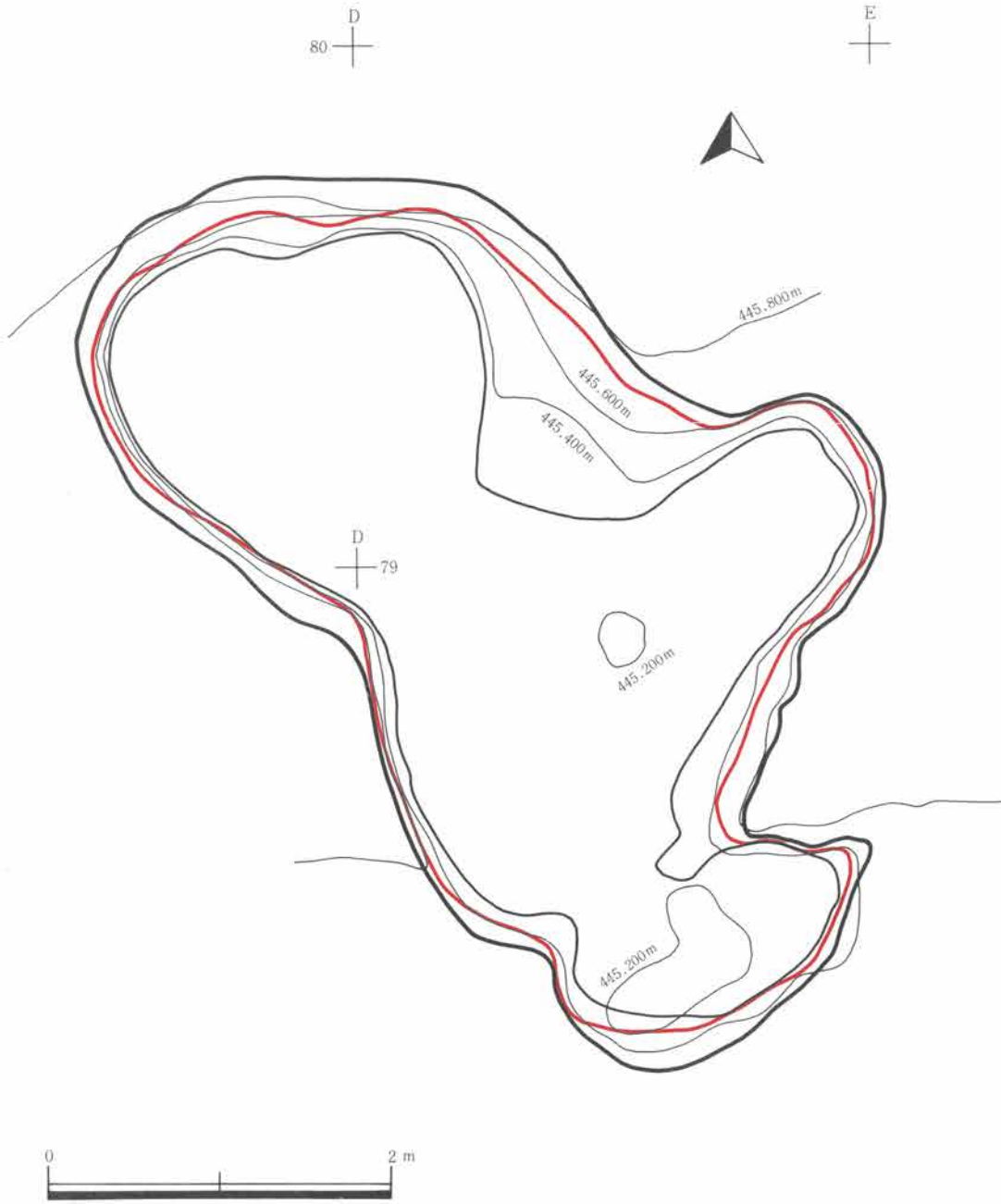


土層説明
①層・表土。
②層・黒褐色土層、ロームブロックを全体的に含む。土質しまっておりハード。
③層・黒色土を含むローム層。
④層・粘土ブロックを含むローム層。
⑤層・黒色土層、ロームブロック・ローム粒子を含む。土質しまっておりハード。
⑥層・ロームブロック。
⑦層・粘土とロームが混在する層。

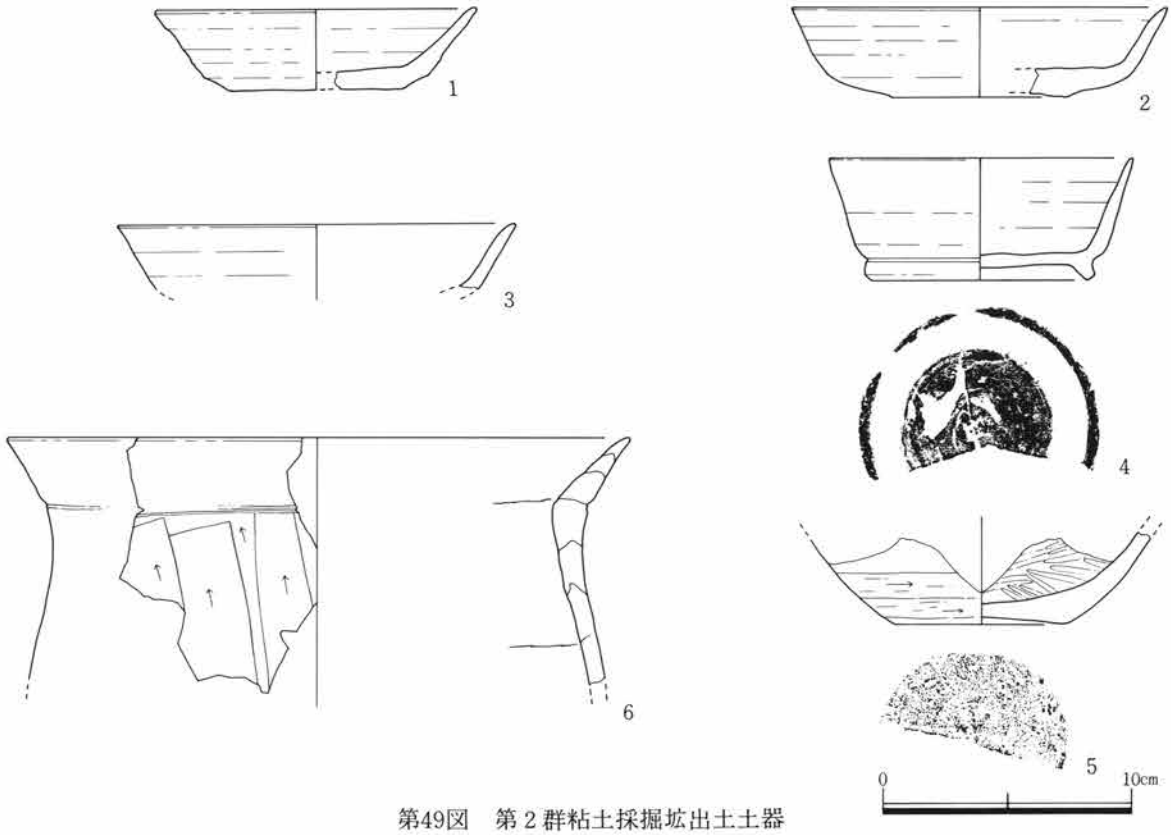
第47図　第１群粘土採掘坑実測図

第２群粘土採掘坑（第48図、図版８－２）

Ｃ・Ｄ―78・79グリッドに位置する。遺跡南側に掘り込まれた採掘坑は本址と第５群粘土採掘坑のみである。先に記したが、南側傾斜面にしたがい堆積する白色粘土層が薄くなっているため、効率的な採掘作業には適していない。実際掘削した面積に比べ、採掘された粘土量も遺跡北側に掘り込まれた採掘坑より少ないものとなっている。平面形は不整形を呈し、断面形は一部オーバーハングするが、全体的には鍋底状に立ち上がる。面積（開口部）は約13.57㎡、白色粘土採掘量は約3.56㎥を測る。１㎡当たりの粘土採掘量は0.26㎥である。遺物は量的には少ないが、覆土上部から須恵器の坏、甕等が出土している。（第49図）



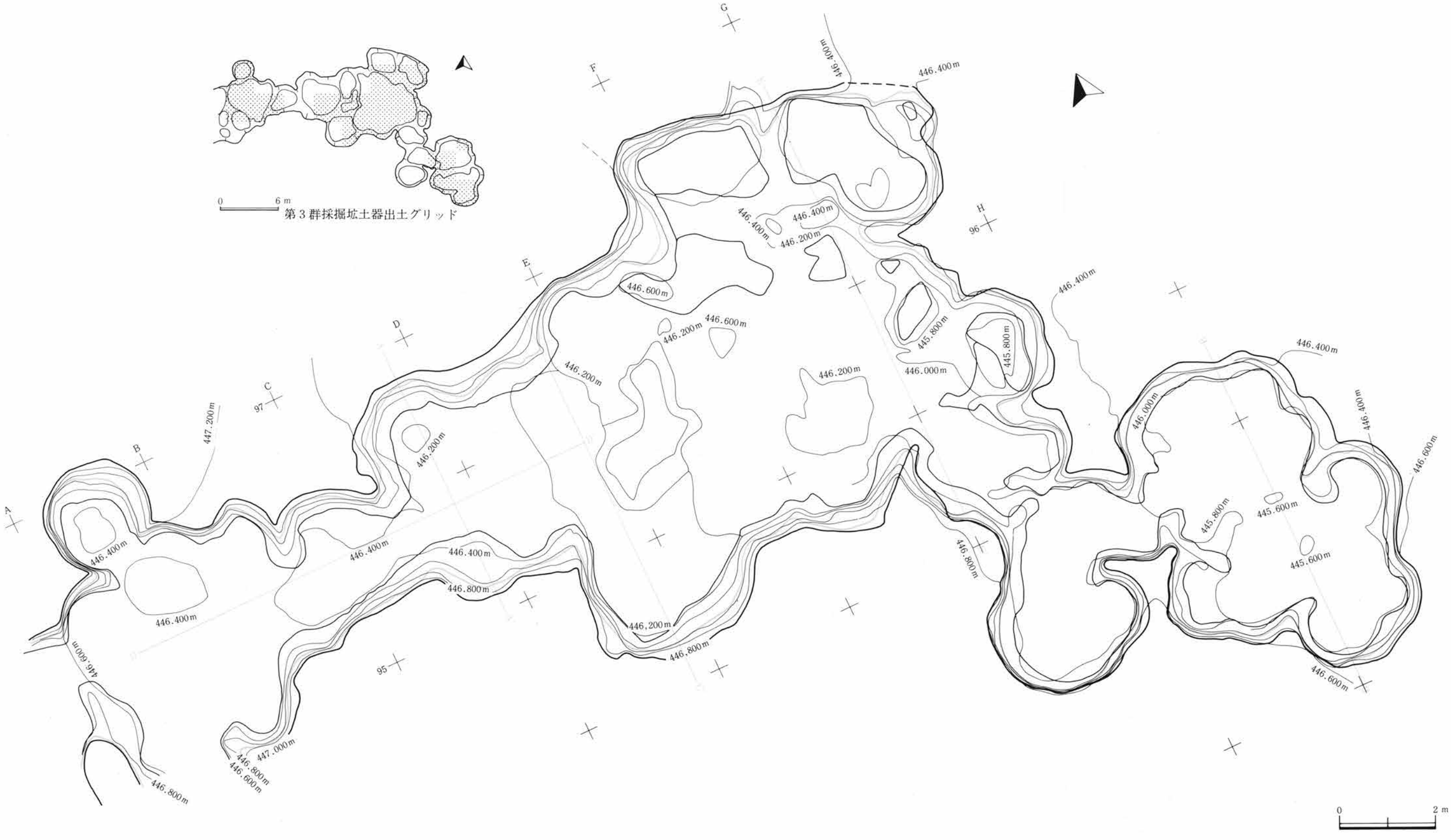
第48図　第２群粘土採掘坑平面図



第49図　第２群粘土採掘坑出土土器

第２群粘土採掘坑出土土器観察表

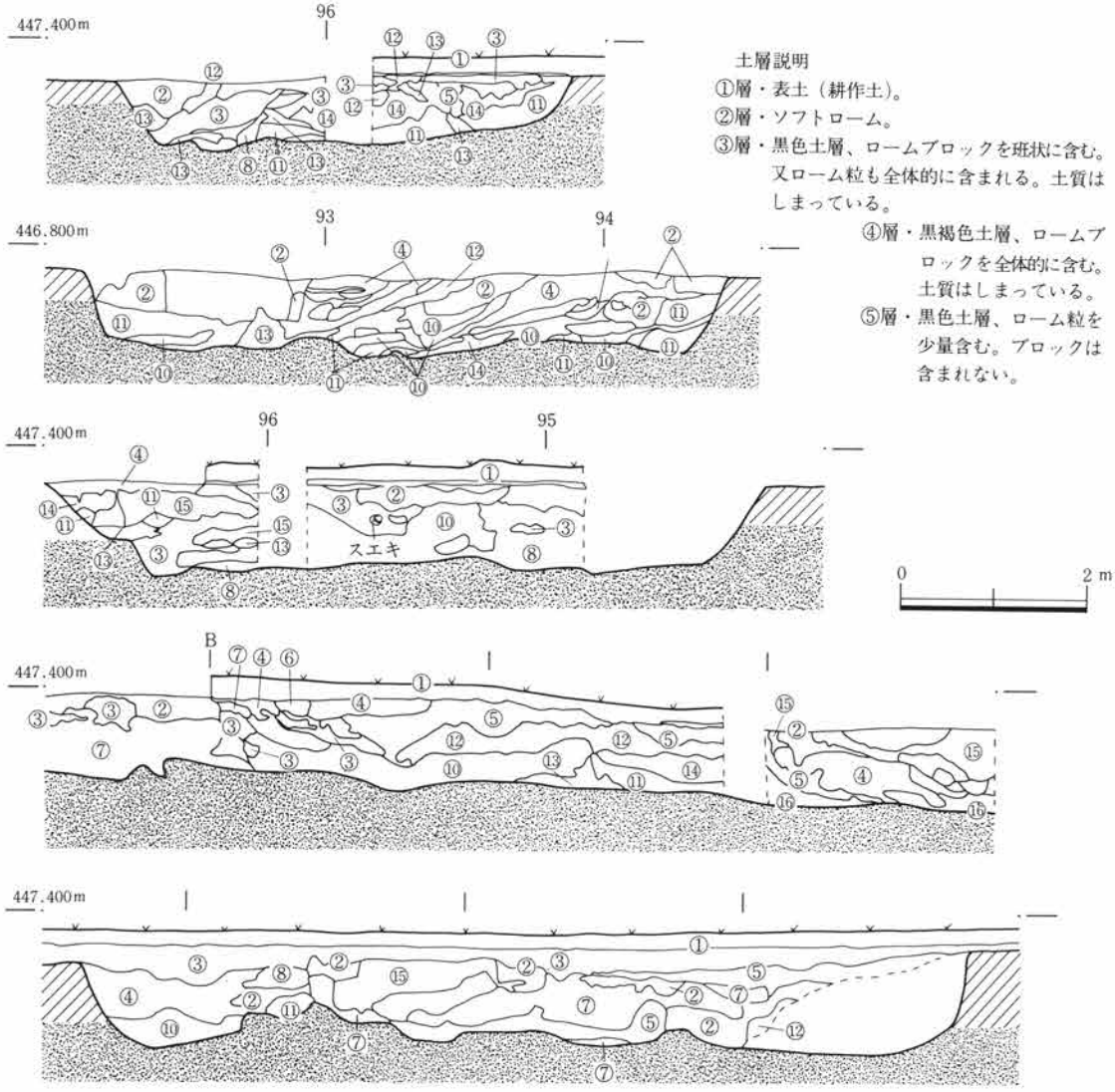
遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
2採－1	須恵坏	13.0	7.0	3.2	覆土2層	底部下端にヘラ削りが行われ、体部にロクロ目が残る。口唇部は肉厚であるがやや尖りぎみになる。底面に回転ヘラ切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
2採－2	須恵坏	15.1	7.0	3.5	覆土D－78	底部から体部にかけ大きく屈曲しながら立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
2採－3	須恵坏	16.0	－	－	覆土D－78	口唇部はやや尖りぎみ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③口縁部⅕ ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒も多少みられる。
2採－4（41－1）	須恵埦	12.3	8.6	4.9	覆土2層	底径と口径の差が少なく、体部は直立ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りやや内側に面をもつ。高台の貼付は良好で底面に左回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒も含まれる。
2採－5	須恵坏	－	7.0	－	覆土2層	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。器内面は全面的に磨きが行われ平滑である。底面は回転ヘラ切り。	①褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒が含まれる他、石英粒もわずかにみられる。
2採－6	甕	25.0（頸部）	21.2	－	覆土D－78	口縁部はゆるやかに外反し、頸部に２条沈線が巡る。口唇部は丸みをもつ。体部は下から上方向への縦位ヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒の他、砂粒が多く含まれる。



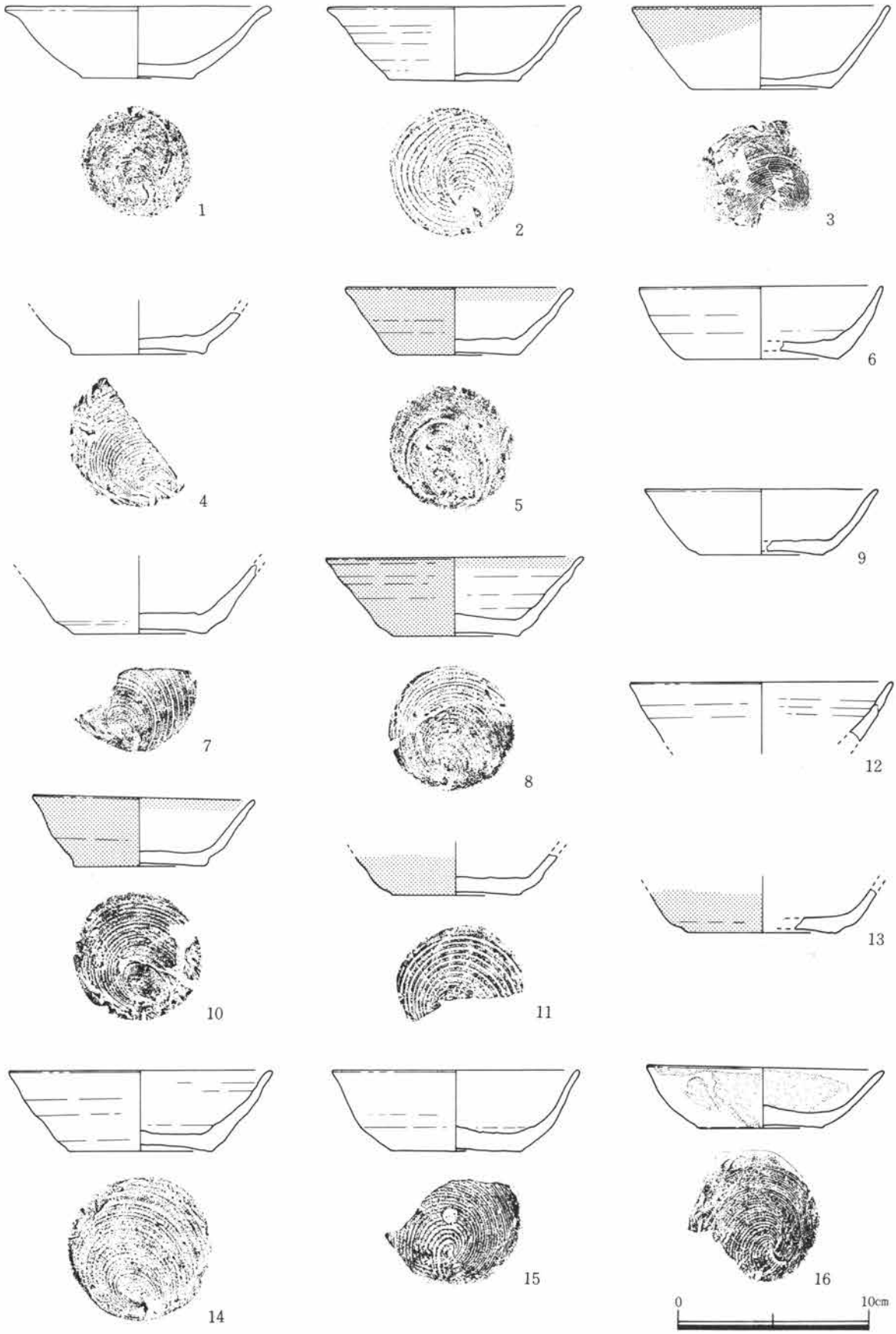
第50図　第３群粘土採掘坑平面図拡

第３群粘土採掘坑（第50・51図、図版９・10）

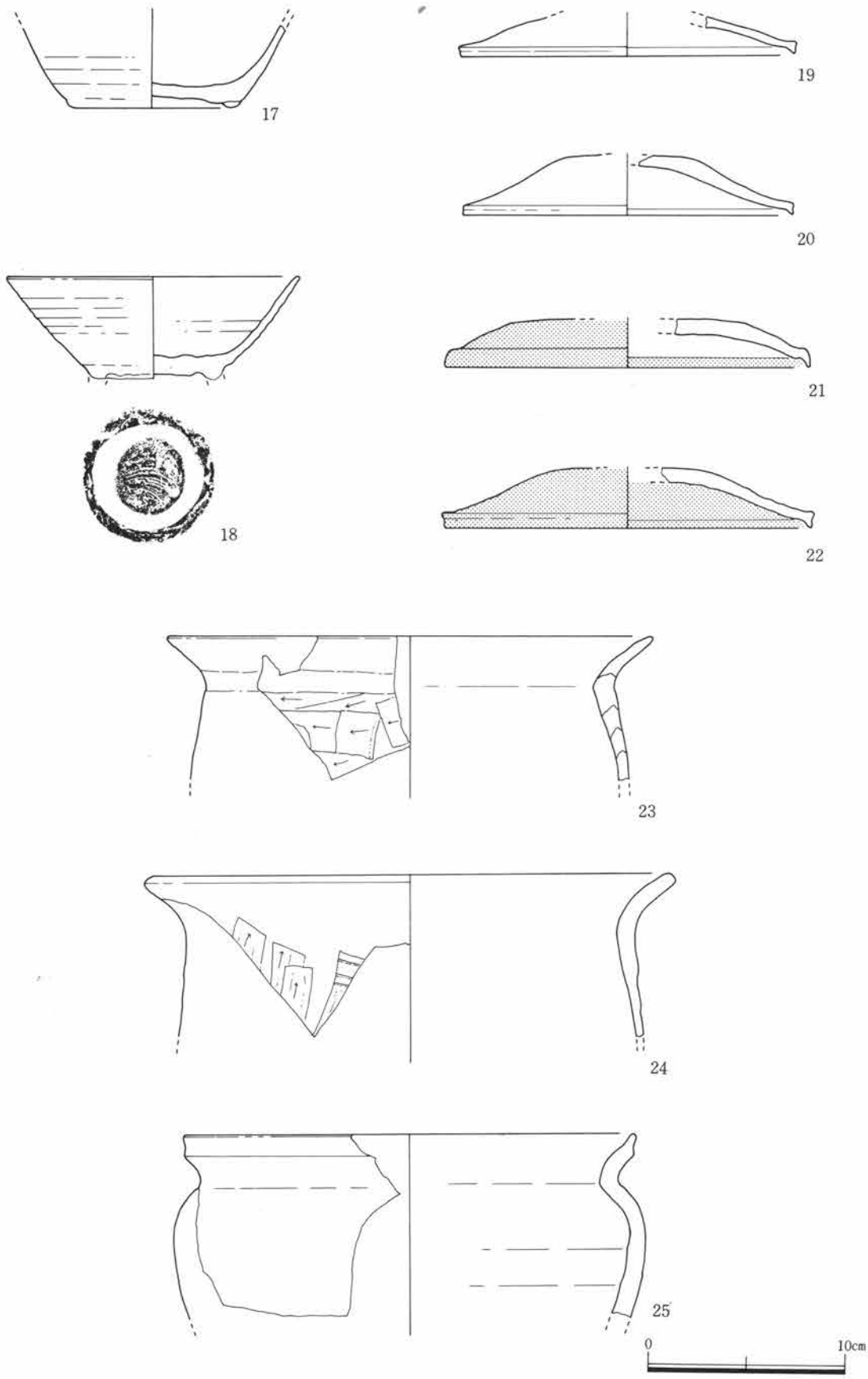
遺跡北側に位置し、36グリッドにわたり掘削される。規模としては第４群粘土採掘坑に次ぐ大きな採掘坑である。東端は第７群粘土採掘坑に接し、西端は調査区域外にのびているため不明である。面積（開口部）は約176.48㎡を測る。白色粘土採掘量は、総量59.75㎥、１㎡当りに換算すると0.34㎥となる。採掘坑の掘削の方法は第46図に示したものを基本としているが、作業の進行に関しては一定の方向性は看取できない。小・中規模の採掘坑が集中的に掘削されたことにより、最終的に本址のような形態に至ったものと判断される。遺物は須恵器の坏、甕、羽釜等が出土しているが、覆土上層（主に黒色土層）から検出されている。



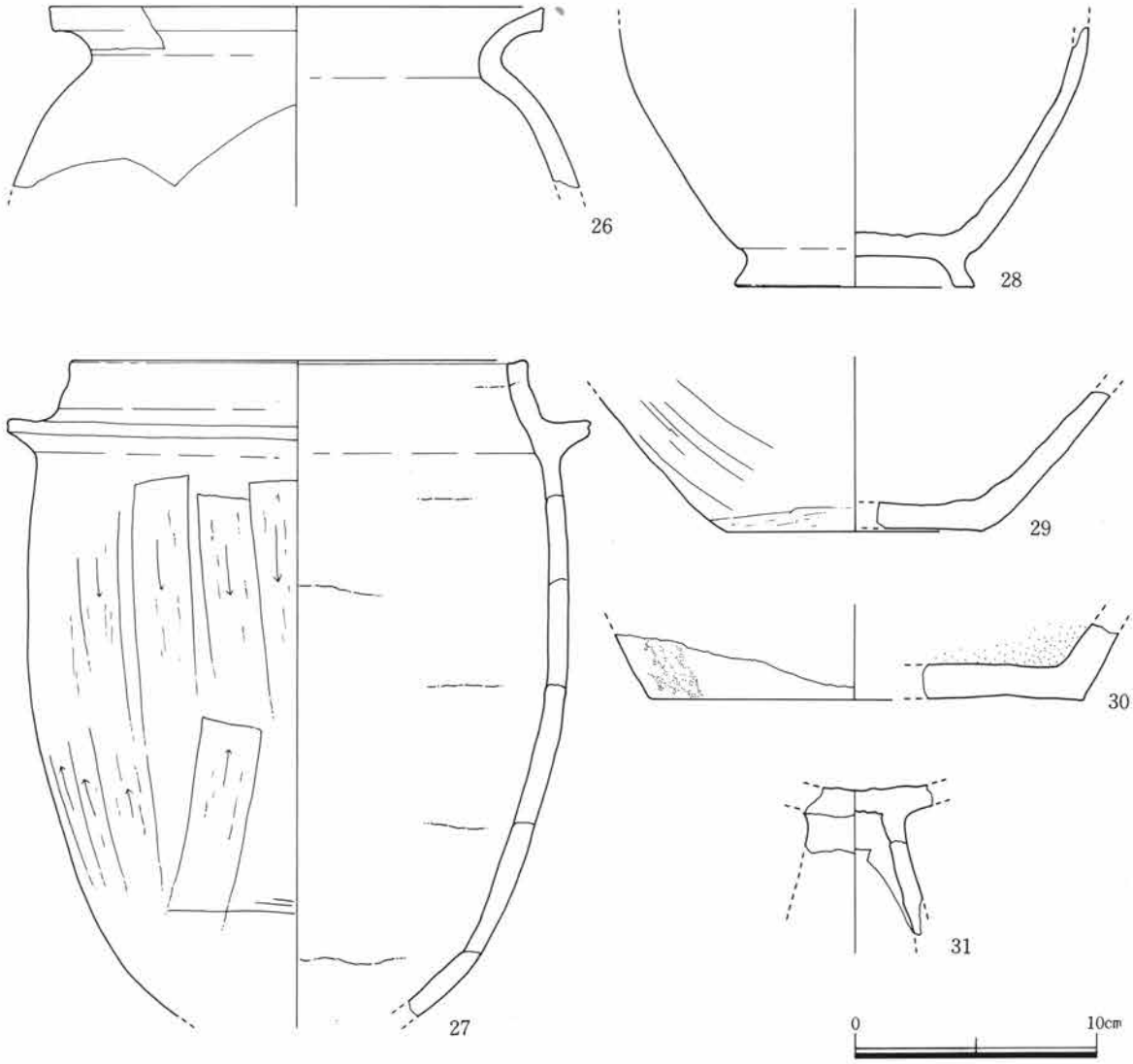
第51図　第３群粘土採掘坑土層断面図



第52図　第３群粘土採掘坑出土土器(1)



第53図　第３群粘土採掘坑出土土器(2)



第54図　第３群粘土採掘坑出土土器(3)

第３群粘土採掘坑出土土器観察表（１）

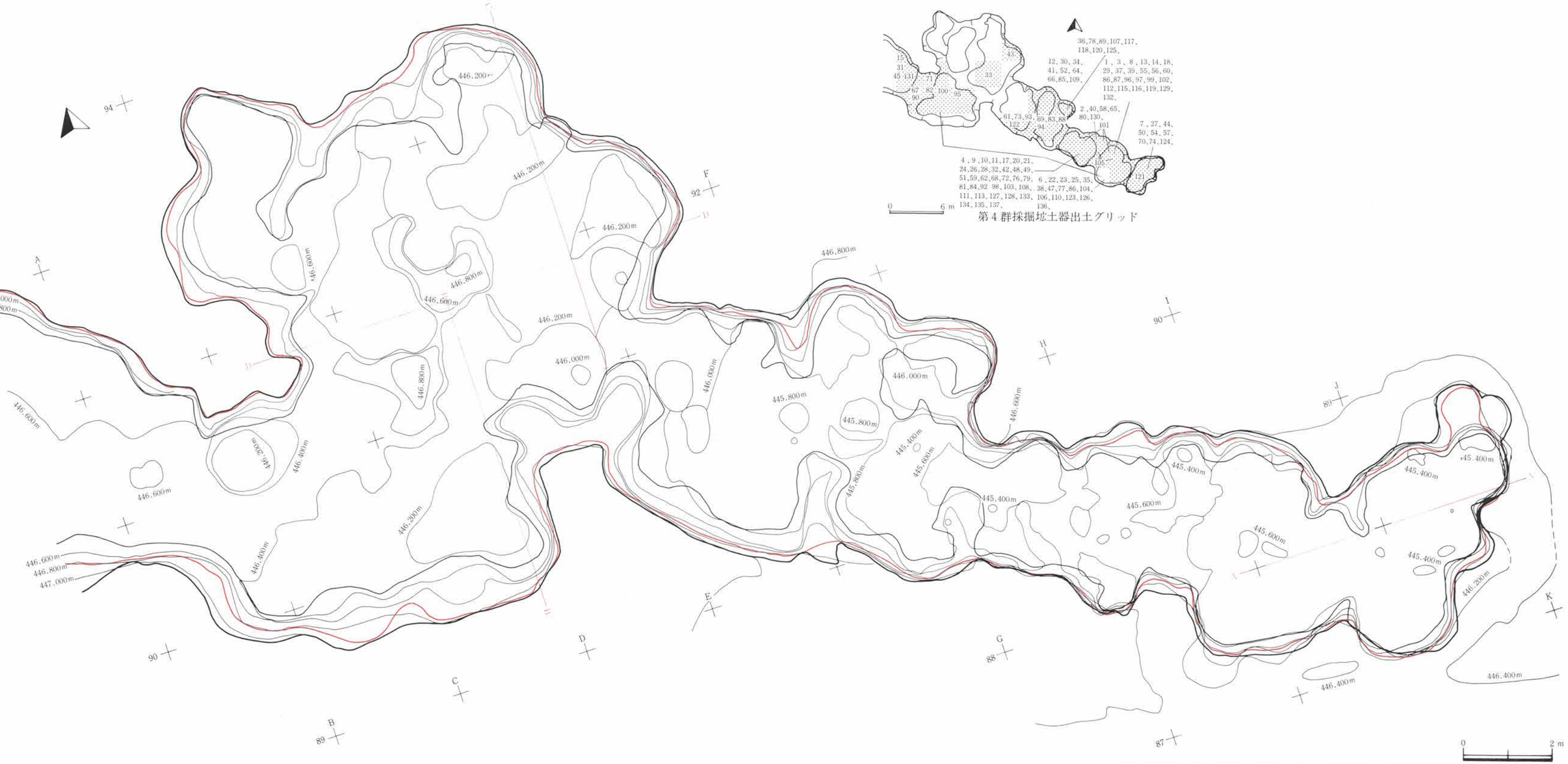
遺物番号(図版No.)	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
３採－１(41－２)	須恵坏	14.0	5.8	3.7	覆土 Ｉ－94	器高が低く体部は大きく開く。口縁部は外反し口唇部は丸みをもつ。胎土は砂質でザラつく。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
３採－２(41－３)	須恵坏	13.4	6.8	3.8	覆土 Ｇ－95	体部は大きく開き、ロクロ目が残る。口縁部は外反し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。体部は楕円形に歪んでいる。	①褐色 ②酸化 ③⅚ ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
３採－３(41－４)	須恵坏 イブシ	13.6	7.4	4.3	覆土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部上面に平坦面をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
３採－４	須恵坏	－	7.0	－	覆土 Ａ－96	底部は段状に残り、やや張り出しぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。

第３群粘土採掘坑出土土器観察表（２）

３採－５ (41－６)	須恵 坏 イブシ	12.0　6.4　3.5	実　５	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反ぎみに開く。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒を多量に含む。
３採－６	須恵 坏	12.6　8.0　3.8	覆土 Ｉ－92	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色および黒色鉱物粒の他石英粒を含む。
３採－７	須恵	－　7.0　－	覆土 Ｂ－95 １層	底部はやや肉厚で、体部は彎曲ぎみに立ち上る。底面に右回転糸切痕	①灰褐色　②酸化　③底部～体部½　④白色鉱物粒を含む。
３採－８ (41－５)	須恵 坏 イブシ	13.6　6.6　4.1	覆土 Ｈ－92	体部はほぼ直線的に立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部はやや丸みをもつが、内側に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒および石英粒を含む。
３採－９	須恵 坏	12.2　6.4　3.4	覆土 Ｅ－95	体部下半にやや膨らみをもち、口唇部は尖りぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①青灰色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を多量に含む。
３採－10 (41－７)	須恵 坏 イブシ	11.7　6.8　3.5	実　４	底部は段をもち、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
３採－11	須恵 坏 イブシ	－　6.6　－	覆土 Ａ－96	底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒を含む。
３採－12	須恵 坏	13.8　－　－	覆土 Ｆ－96 ２層	体部にロクロ目が残り、口唇部は丸みをもつ。体部右回転。	①灰白色　②還元　③¼、底部欠　④白色鉱物粒を含む。
３採－13	須恵 坏 イブシ	－　7.6　－	覆土 Ｉ－92	底部はやや段状に残り、わずかに歪みがみられる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部¾　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
３採－14 (41－８)	須恵 坏	13.8　7.6　4.2	実　７	体部にはロクロ目が明瞭に残り、口唇部は尖りぎみに丸みをもつ。底部はやや段状に残り、右回転糸切り痕がみられる。	①灰白色　②還元　③⅓　④白色および黒色鉱物粒を含む。
３採－15 (41－９)	須恵 坏	13.0　6.8　4.2	覆土 Ｂ－95	底部は肉厚で体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②還元　③⅓　④白色鉱物粒を多量に含む。
３採－16	須恵 坏	12.4　6.4　3.1	覆土 Ａ－96	体部は大きく楕円形に歪む。一部に自然釉が付着している。底面に左回転糸切り痕。	①　②還元　③½　④白色および黒色鉱物粒を含む。　⑤一部に自然釉
３採－17	須恵 埦	－　8.5　－ （高台部）	覆土 Ｆ－94 Ｆ－95	高台部は非常に低く一部を残しほとんど剝落している。	①灰褐色　②酸化　③口縁、高台部欠　④白色鉱物粒を含む。
３採－18 (41－12)	須恵 埦	15.0　6.7 （高台貼付部）	覆土 Ｈ－93	底径に比して口径は大きく開く。高台部は低く丸みをもつ。体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③½、高台部欠　④白色おもび黒色鉱物粒を含む。　⑤体部左回転
３採－19	須恵 蓋	16.8　－　－	覆土 Ａ－96	体部末端に稜をもち、口縁部は尖りぎみに垂下する。ロクロ成形左回転。	①灰白色　②還元　③ツマミ部欠　④白色および黒色鉱物粒を含む。

第３群粘土採掘坑出土土器観察表（３）

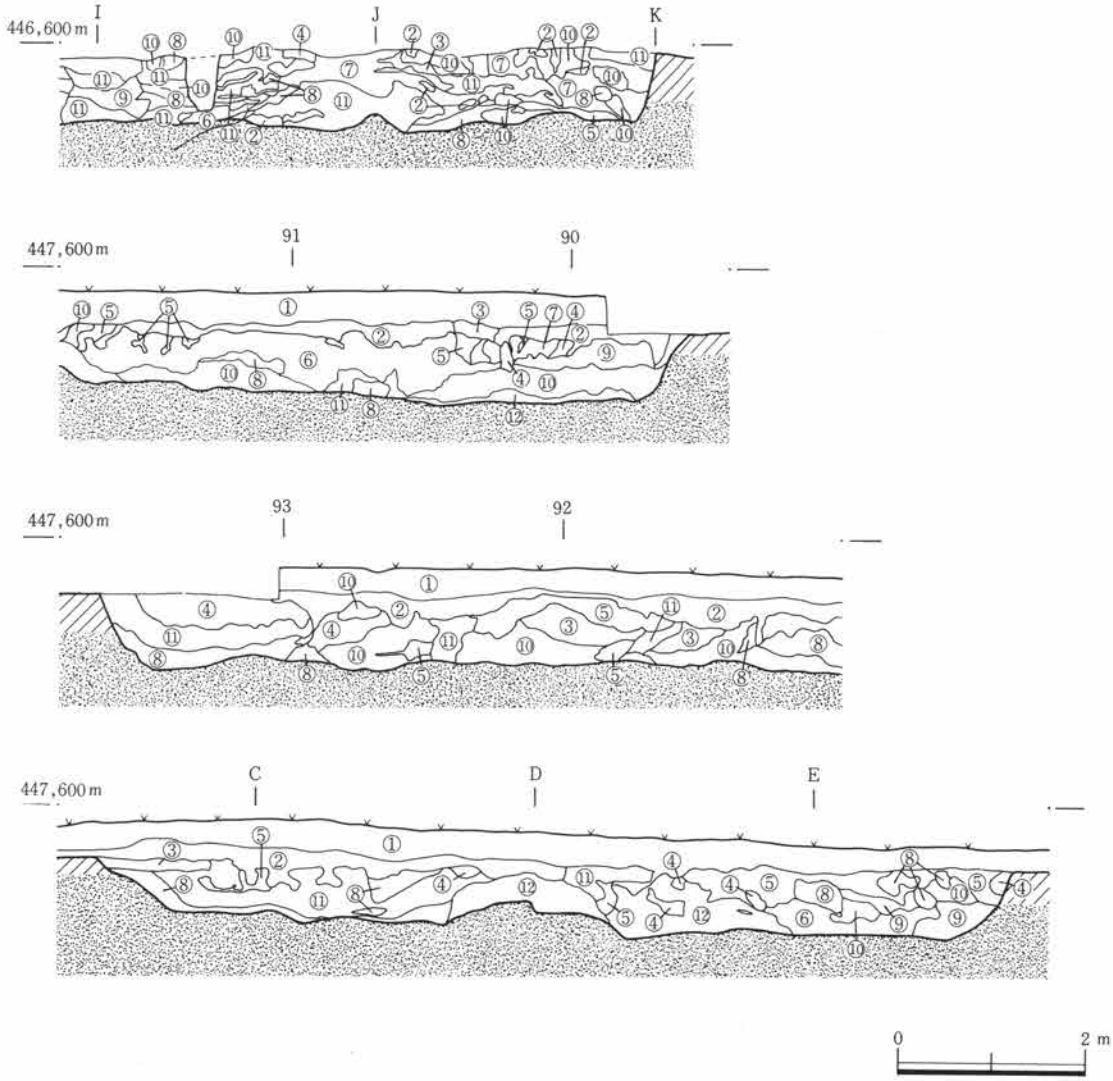
3採—20	須　恵 蓋	16.8　—　—	覆　土 D—95	体部末端にわずかに稜をもつ。口縁部は短く、尖りぎみに垂下する。天井部は回転ヘラ削りが施される。ロクロ成形右回転。	①灰褐色　②酸化　③⅙、ツマミ部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3採—21	須　恵 蓋 イブシ	18.6　—　—	覆　土 G—96	天井部には回転ヘラ削りが施される。器厚は天井部から体部にかけ一定する。口縁部は尖りぎみに垂下する。ロクロ成形左回転。	①灰褐色　②還元　③⅙、ツマミ部欠　④白色および黒色鉱物粒を含む。
3採—22	須　恵 蓋 イブシ	18.6　—　—	覆　土 H—92	天井部にはヘラ削りが施され、体部はゆるやかに開く。口縁部は直角に屈曲し、外側に面をもつ。口唇部は尖る。ロクロ成形左回転。	①褐色　②酸化　③⅙、ツマミ部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3採—23	甕	24.6　—　—	覆　土 A—95	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はやや丸みをもつ。口縁部横ナデ。体部は右から左方向への横位ヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③⅛　④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
3採—24	甕	26.8　—　—	覆　土 E—94	頸部はくの字状に屈曲し、口唇部は外反する。口唇部はやや肉厚で丸みをもつ。口縁部横ナデ。体部は下から上方向への縦位ヘラ削り。	①灰白色　②還元　③¼　④白色および黒色鉱物粒を含む。
3採—25 (41—10)	須　恵 甕	23.0　—　—	覆　土 A—96	口縁部は、くの字状に屈曲し、段をもち尖りぎみの口唇部へと立ち上る。	①褐色　②酸化　③⅙　④白色鉱物粒を含む。
3採—26	須　恵 甕	20.4　—　—	覆　土 B—95 E—94	口縁部は短く、口唇部は尖りぎみに直立する。頸部はくの字状に屈曲し、体部はゆるやかな丸みをもつ。	①青灰色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を含む。
3採—27 (42—1)	羽　釜	19.0　—　—	覆　土 G—96	体部上半に最大径をもつ。口唇部は内傾し、口唇部上面は平坦である。鍔はやや上向きで裁頭の三角形を呈する。	①灰褐色　②酸化　③½、底部欠　④白色鉱物粒を多量に含む。石英粒もわずかにみられる。
3採—28 (41—13)	須　恵 壺	—　10.0　— (高台部)	覆　土 D—95	壺の底部。高台の貼付は丁寧であるが一部に剝離がみられる。高台は強く張り出し、端部に平坦面をもつ。ロクロ成形右回転。	①灰白色　②還元　③底部　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
3採—29	甕	—　10.6　—	覆　土 I—92	底部下端に右から左方向への横位ヘラ削りが施される。表面に炭素が吸着する。	①褐色　②酸化　③底部¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3採—30	甕	—　18.0　—	覆　土 E—94	器表裏面に降灰による自然釉が付着する。	①灰白色　②還元　③底部¼　④白色および黒色鉱物粒を含む。
3採—31	高　坏	—　—　—	覆　土 D—95	器台部との接合は良好である。底面に右回転糸切痕	①灰白色　②還元　③破片　④黒色鉱物粒を多く含む。



第55図　第４群粘土採掘坑平面図

第４群粘土採掘坑（第55・56図、図版12―２、13―１）

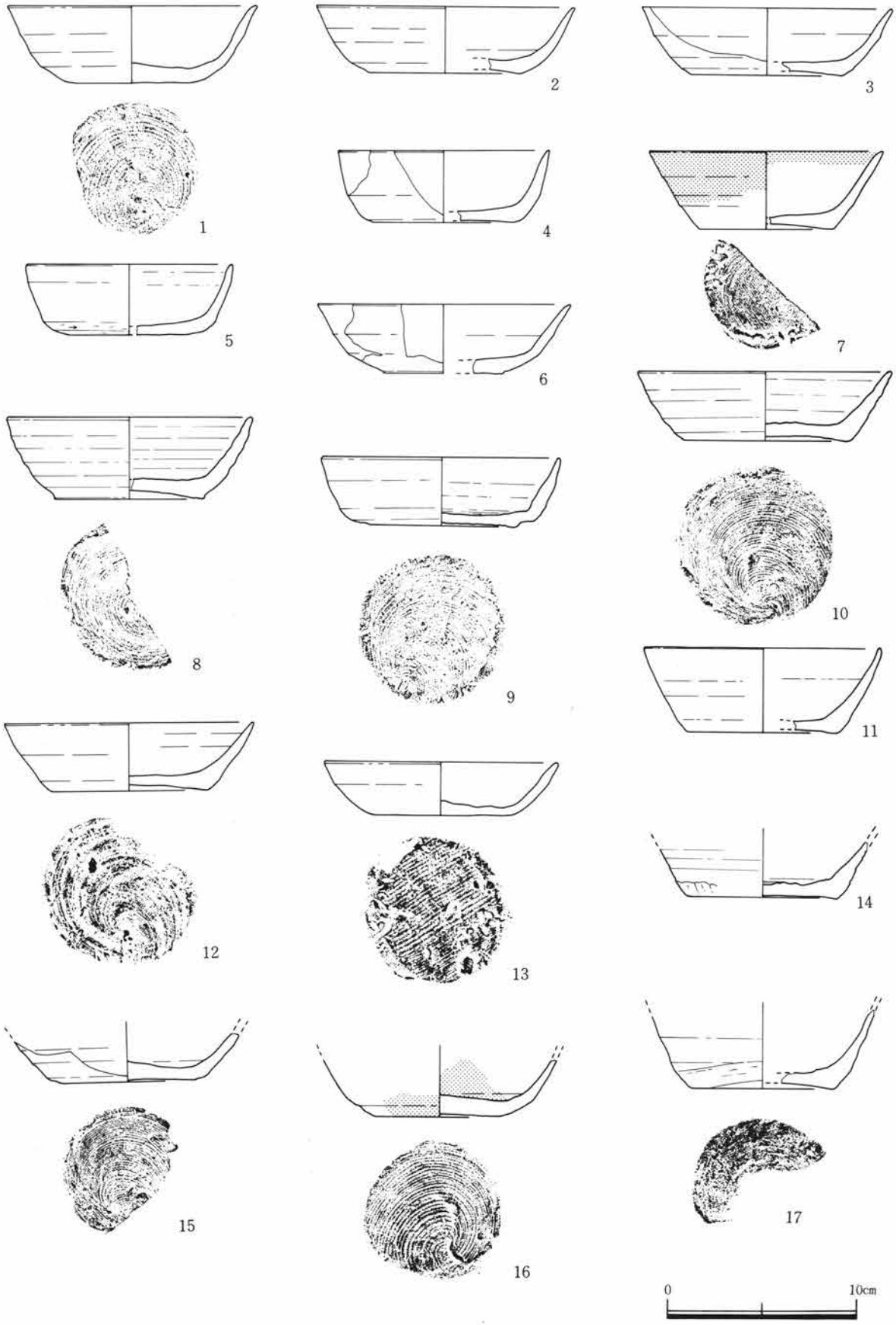
第３群粘土採掘坑の南側に位置する最も規模の大きな採掘坑である。西端部は調査区域外にのび、東端部は２号住居址及び５号住居址に切られている。又、第１群粘土採掘坑とも接している。面積(開口部)は223.15m²、白色粘土採掘量は83.55m³を測る。底面は起伏が著しく、多数回にわたる採掘作業の痕跡を残している。第11群粘土採掘坑を単一作業の採掘坑とすれば、本採掘坑は80回前後の採掘作業が連続的に行われた規模である。又、採掘作業についての方向性は認められず、比較的無作為に掘り進めていることが土層状態により判断される。遺物は覆土上部から須恵器の坏、埦・甕・壺等の土器類が多数出土している。



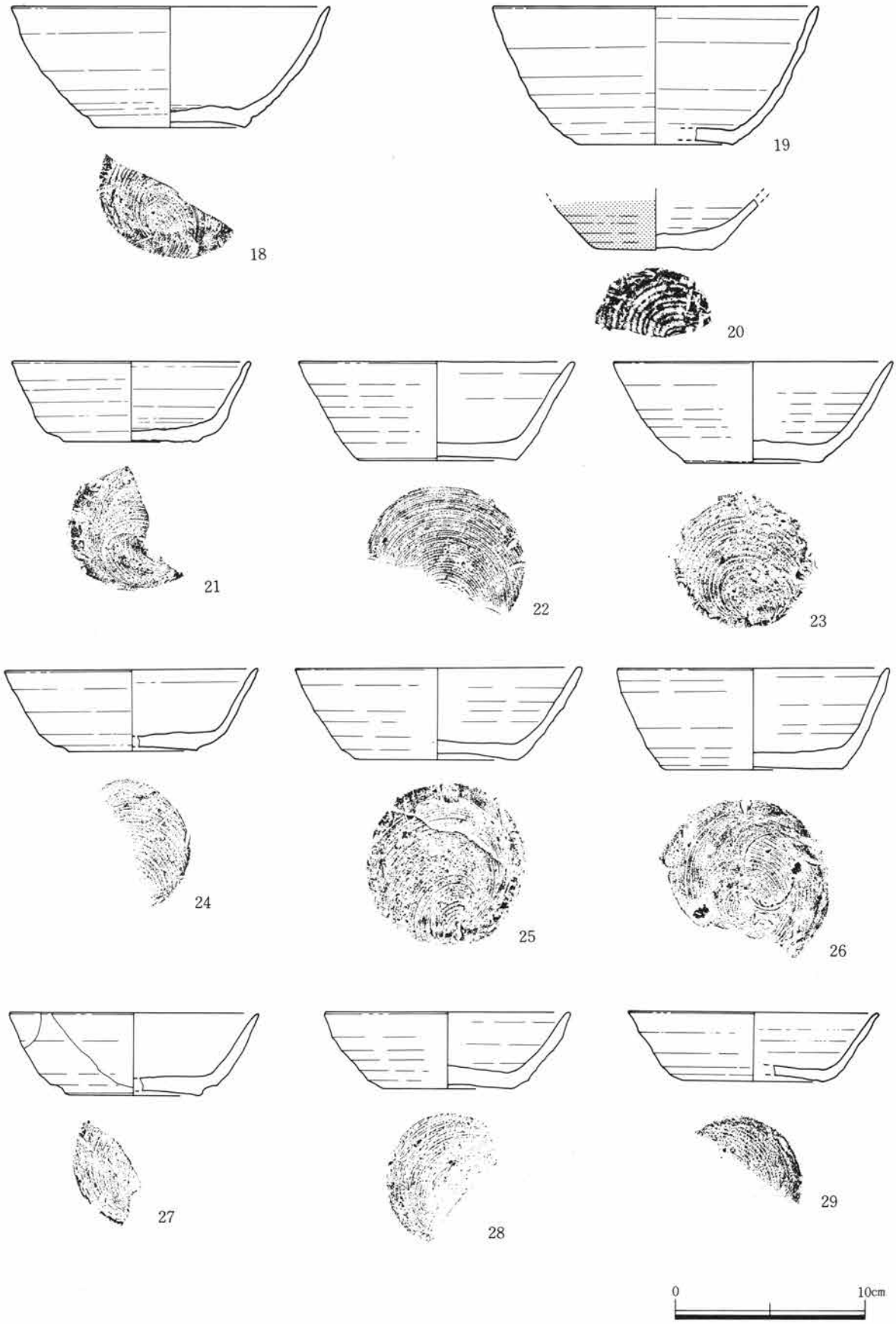
土層説明

①層・表土
②層・黒褐色土層　ロームブロックを全体的に含む。土質は締る。
③層・黒褐色土層　ロームブロックを多量に含む。
④層・ロームブロック
⑤層・黒色土層　粒子細かくローム若干含む。
⑥層・ロームブロック＋茶褐色土(ハードローム)の混在する層
⑦層・黒色土層　ロームブロックを多量に含む。
⑧層・粘土ブロック
⑨層・黒色土・ローム　半々にて構成される層。
⑩層・茶褐色土層（ハードローム）
⑪層・ローム＋粘土＋黒色土
⑫層・青白色粘土

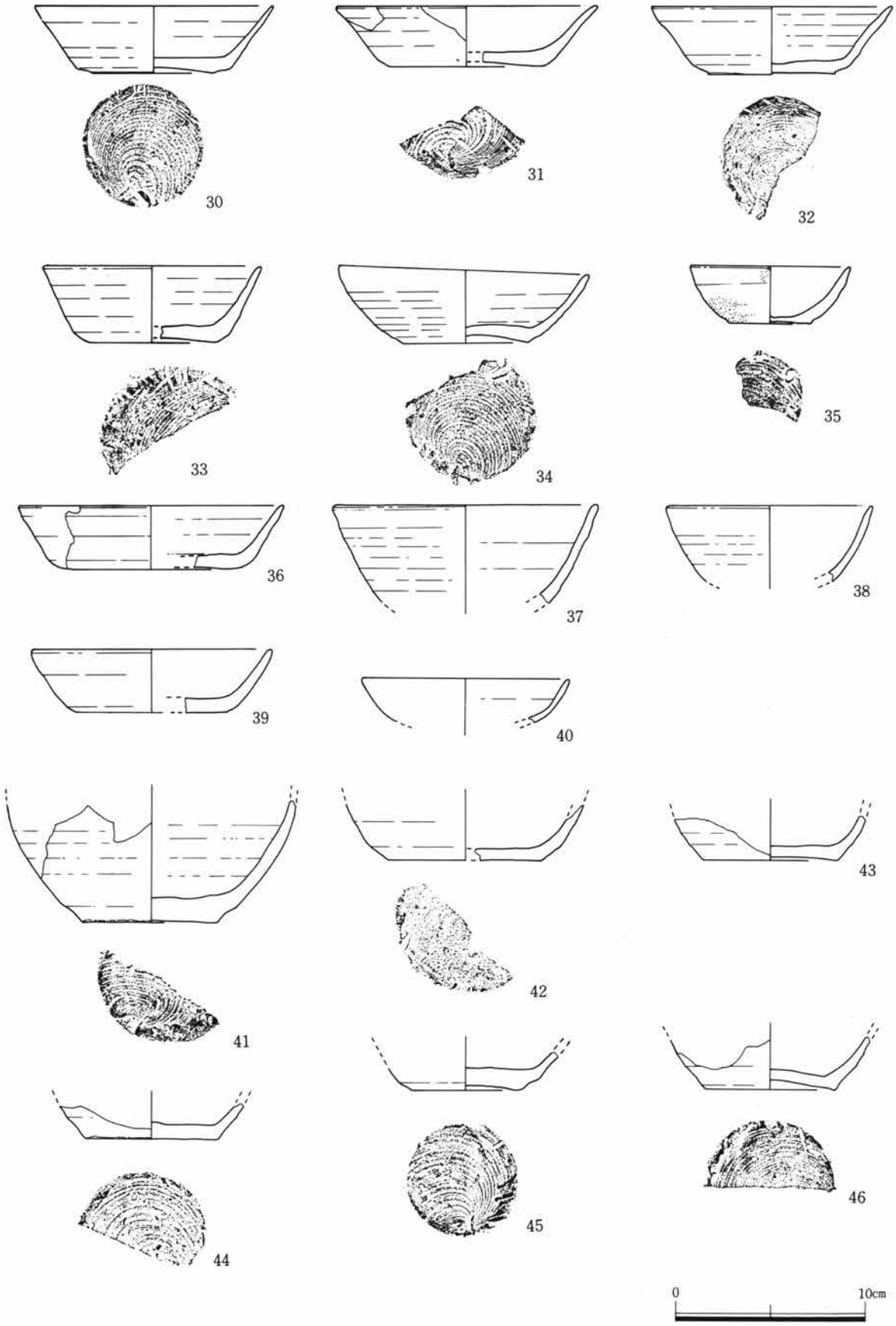
第56図　第４群粘土採掘坑土層断面図



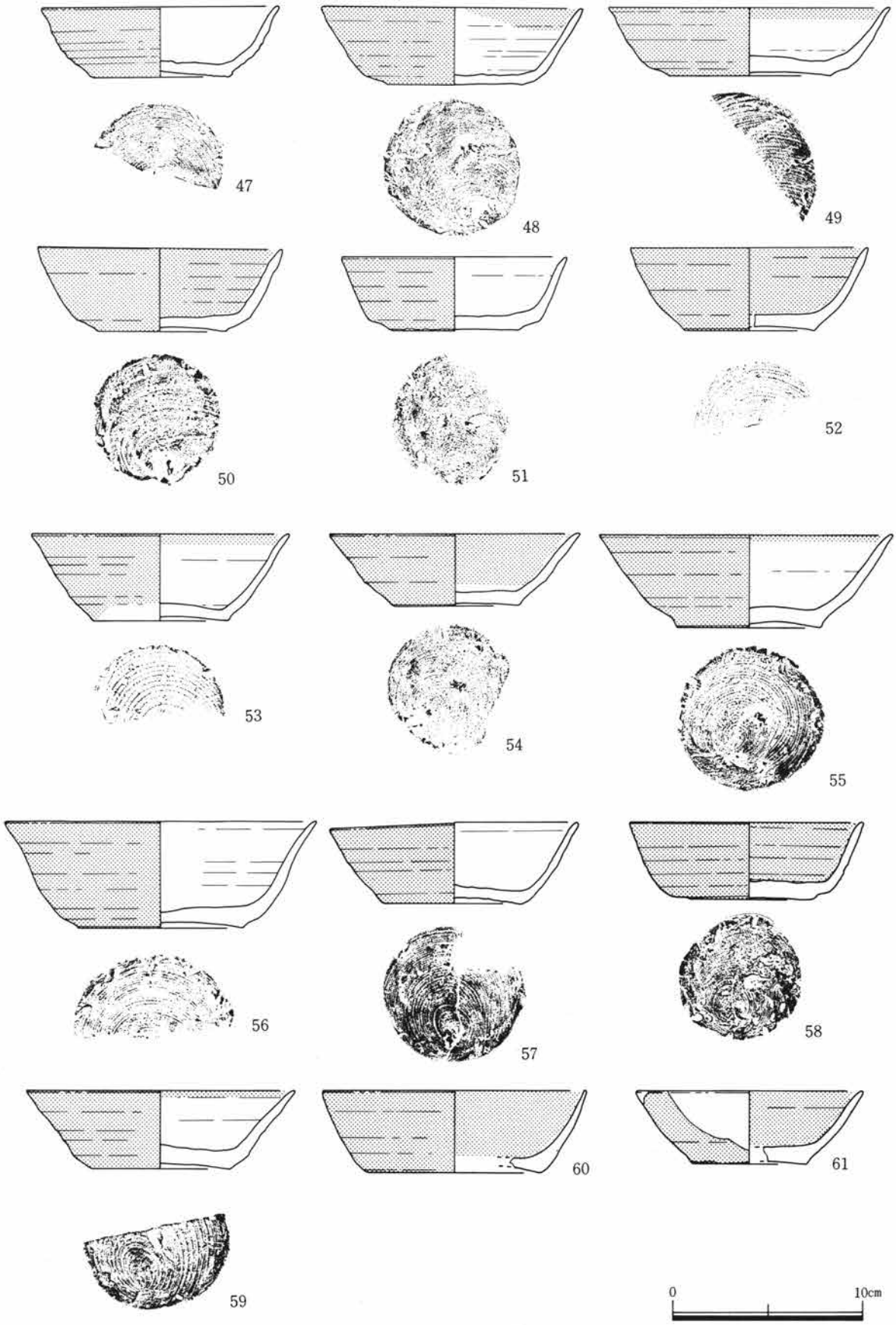
第57図　第４群粘土採掘坑出土土器(1)



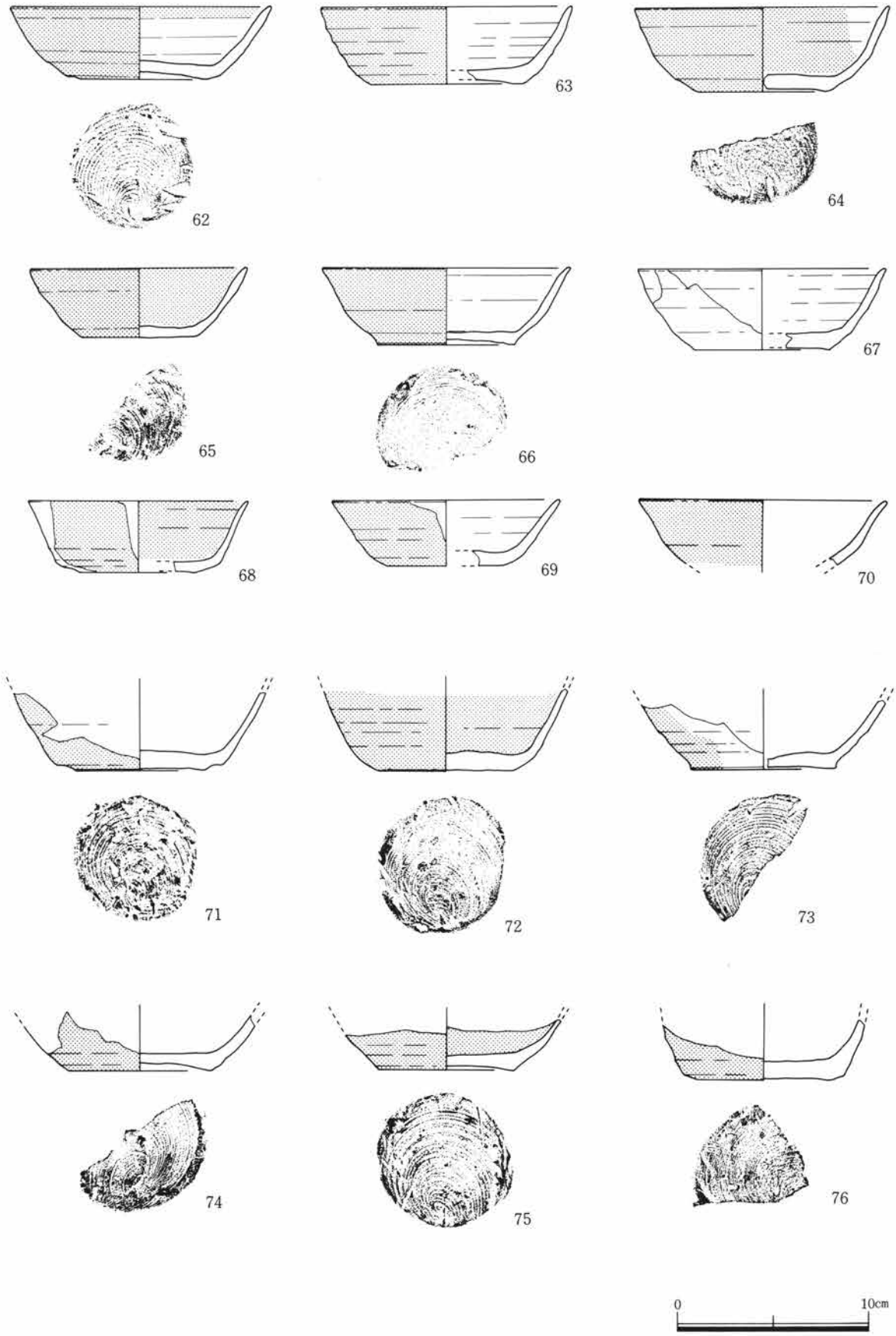
第58図　第４群粘土採掘坑出土土器(2)



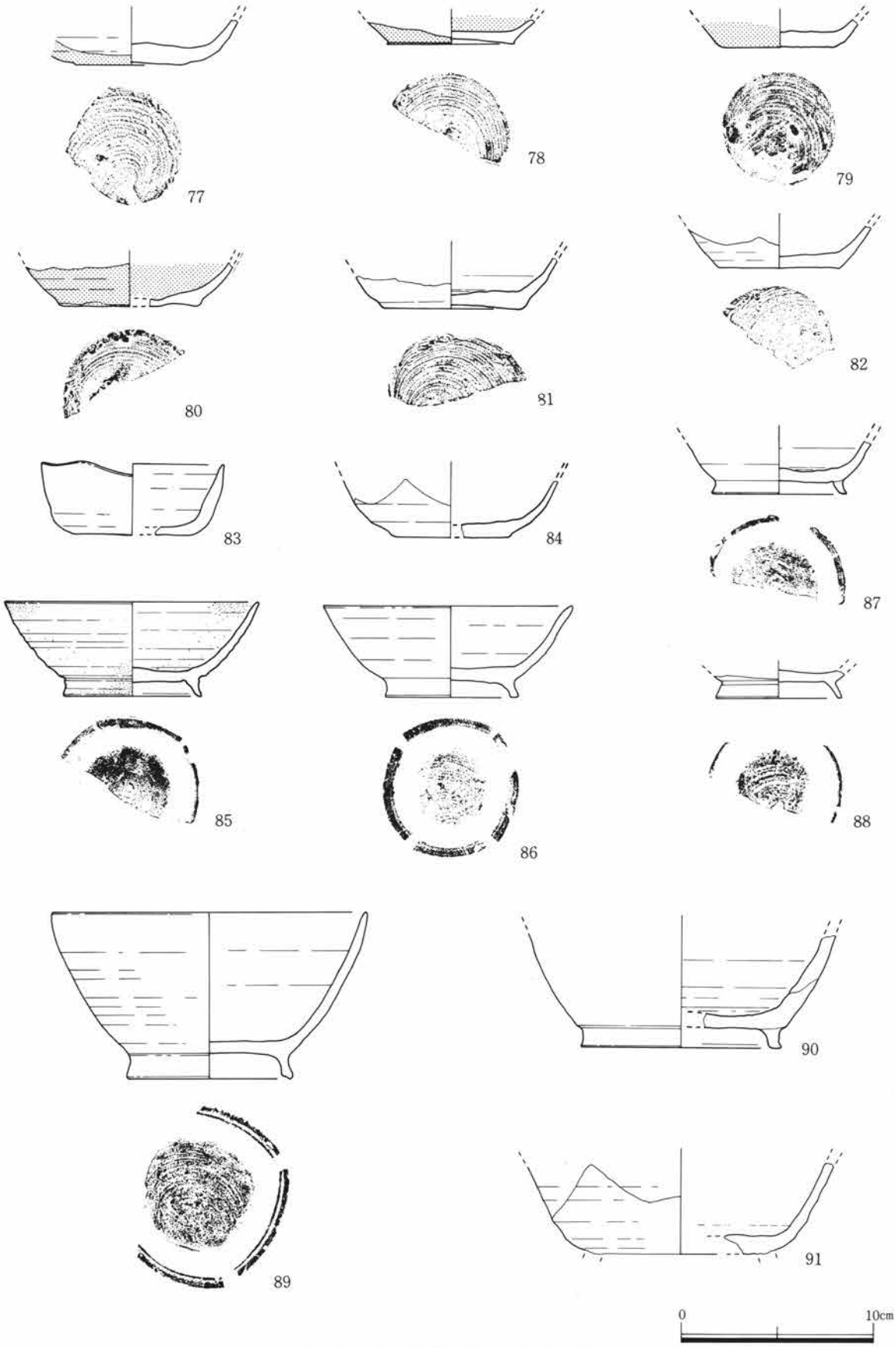
第59図　第４群粘土採掘坑出土土器(3)



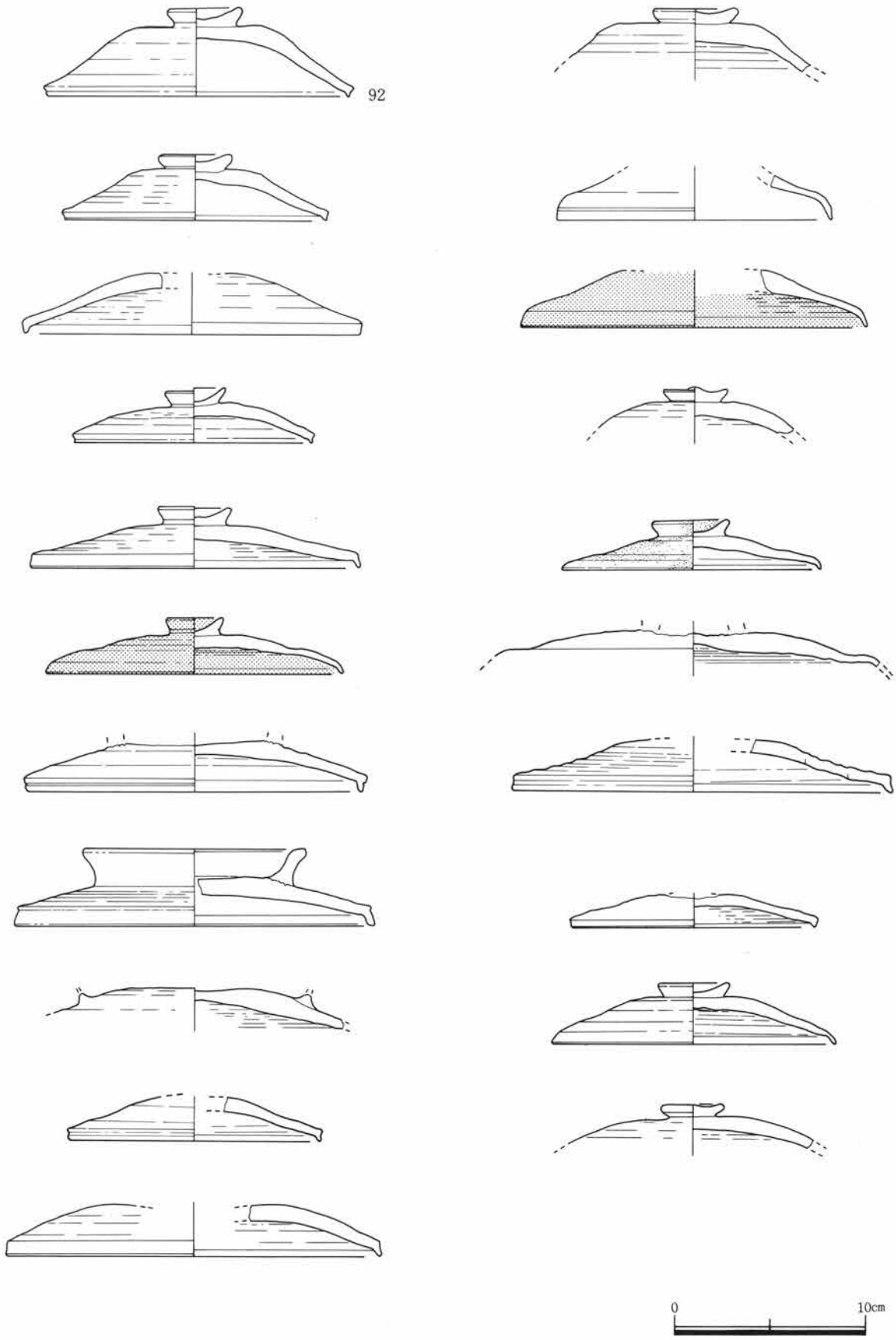
第60図　第４群粘土採掘坑出土土器(4)



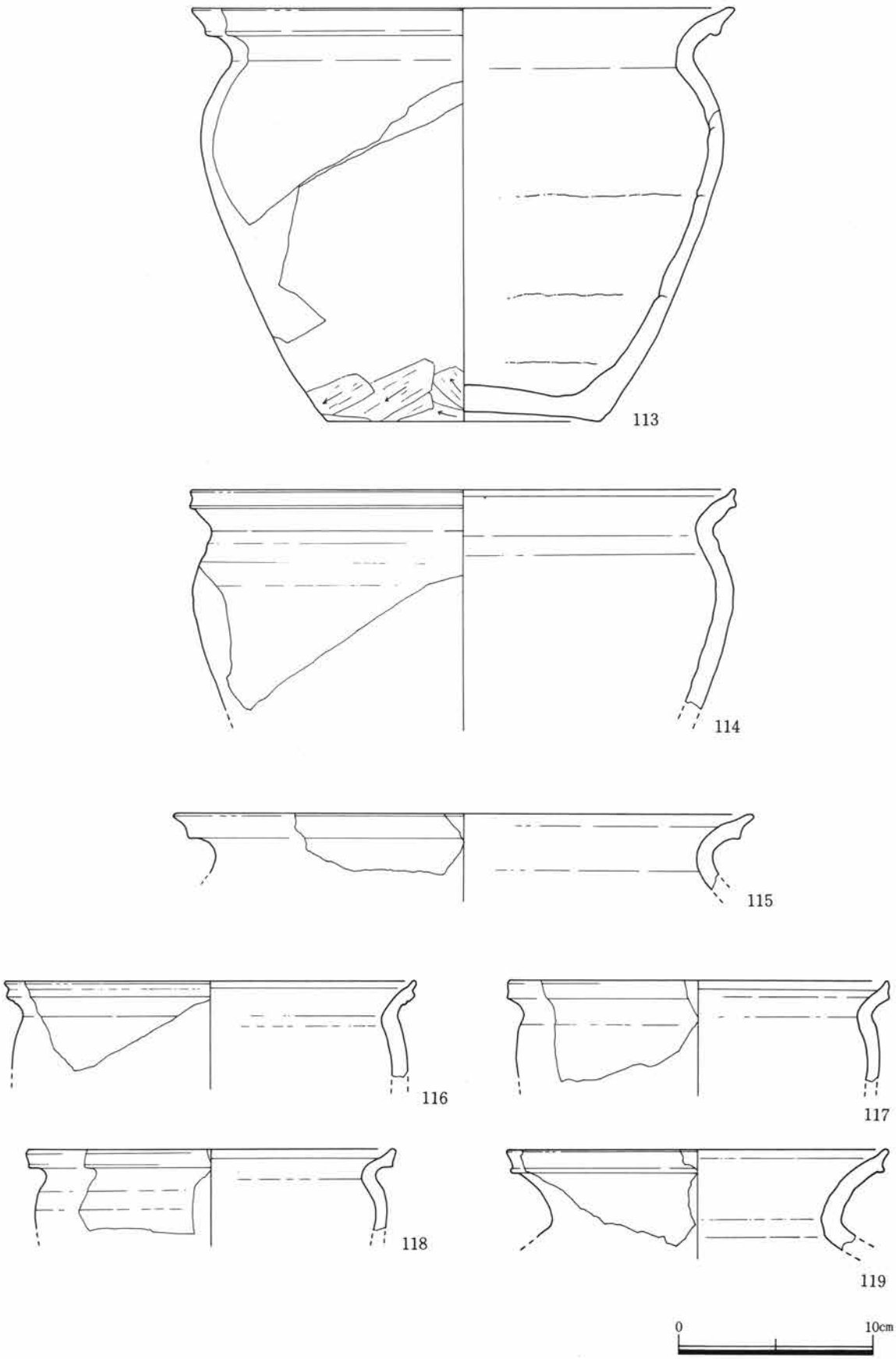
第61図　第４群粘土採掘坑出土土器(5)



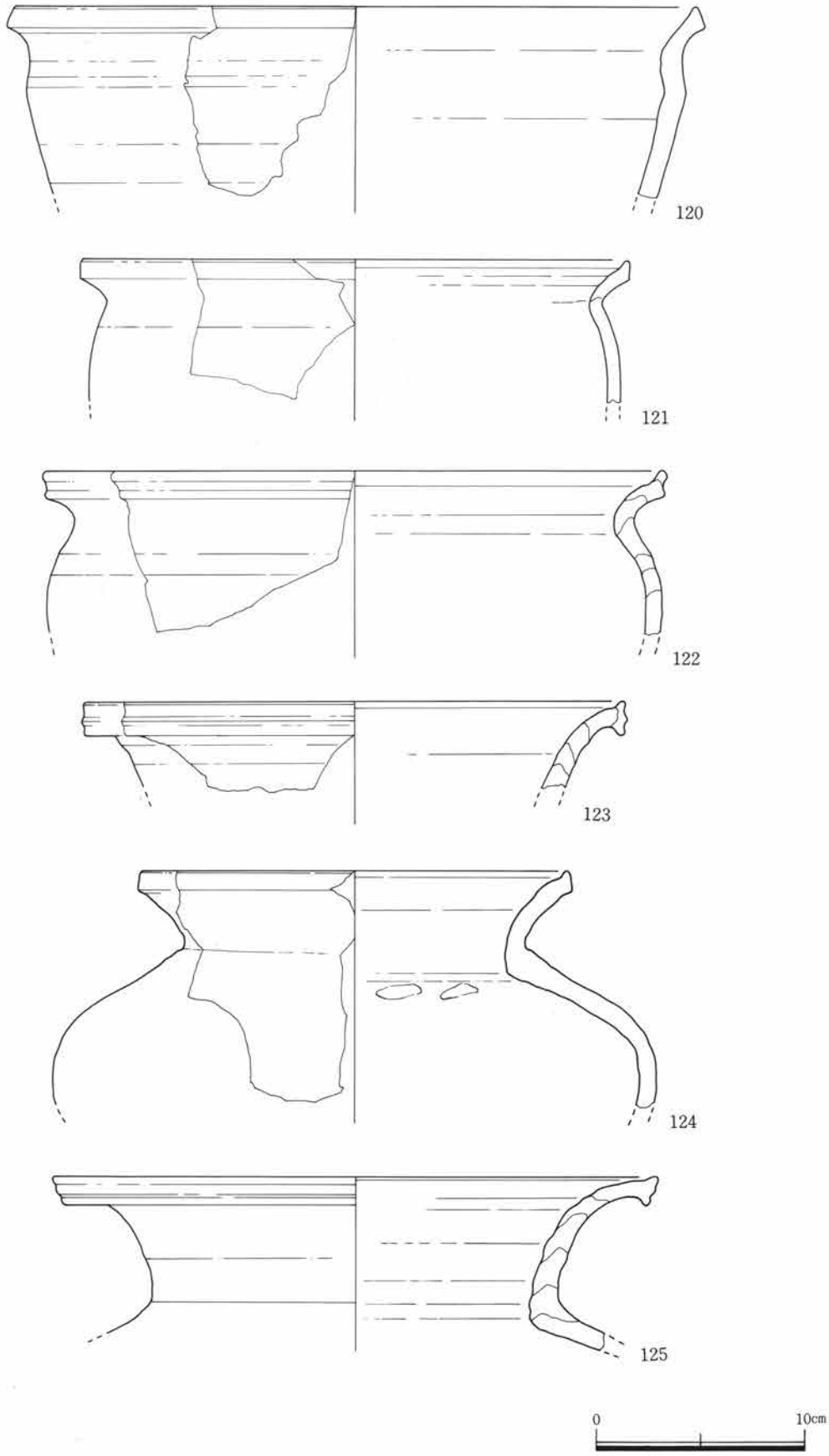
第62図　第４群粘土採掘坑出土土器(6)



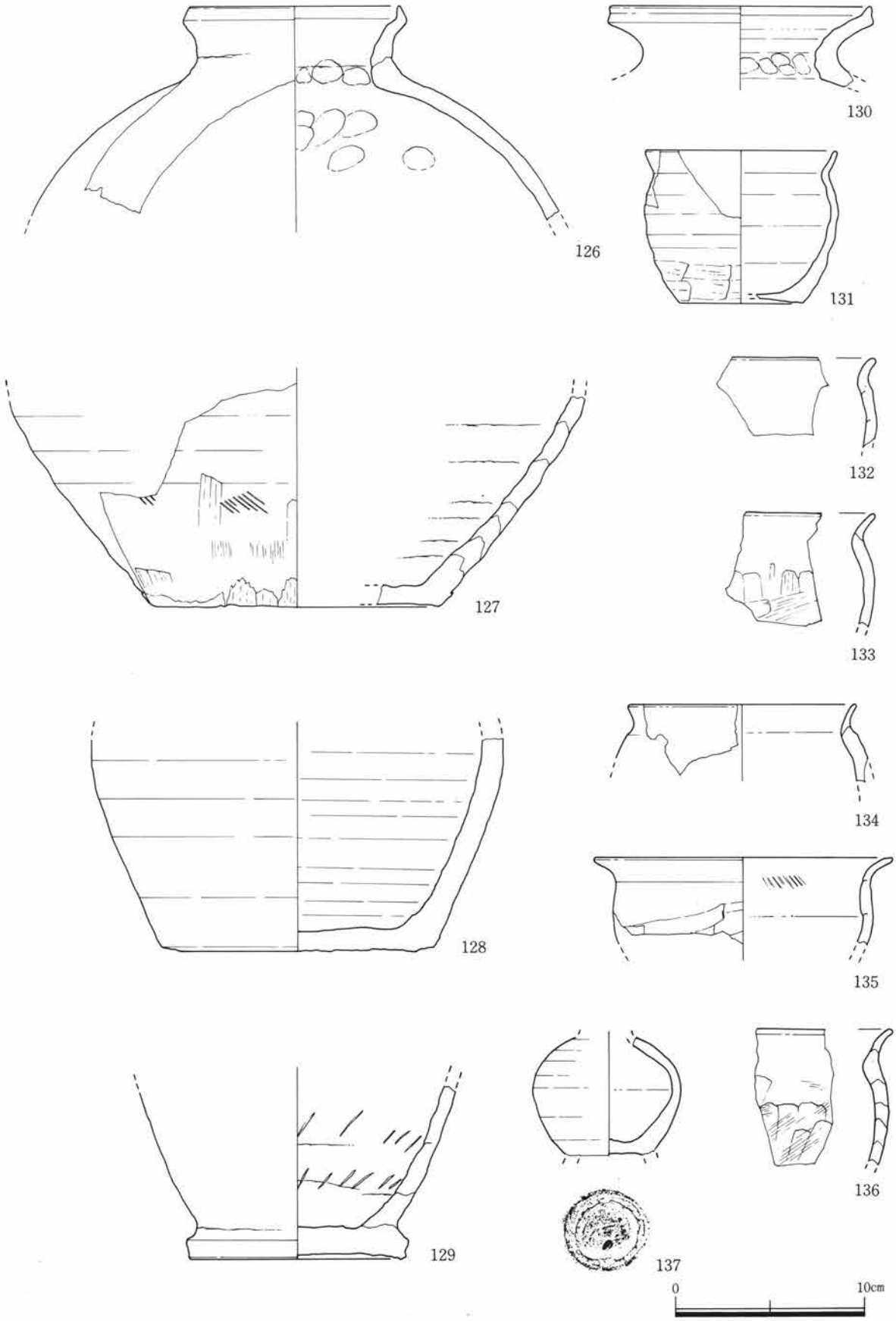
第63図　第４群粘土採掘坑出土土器(7)



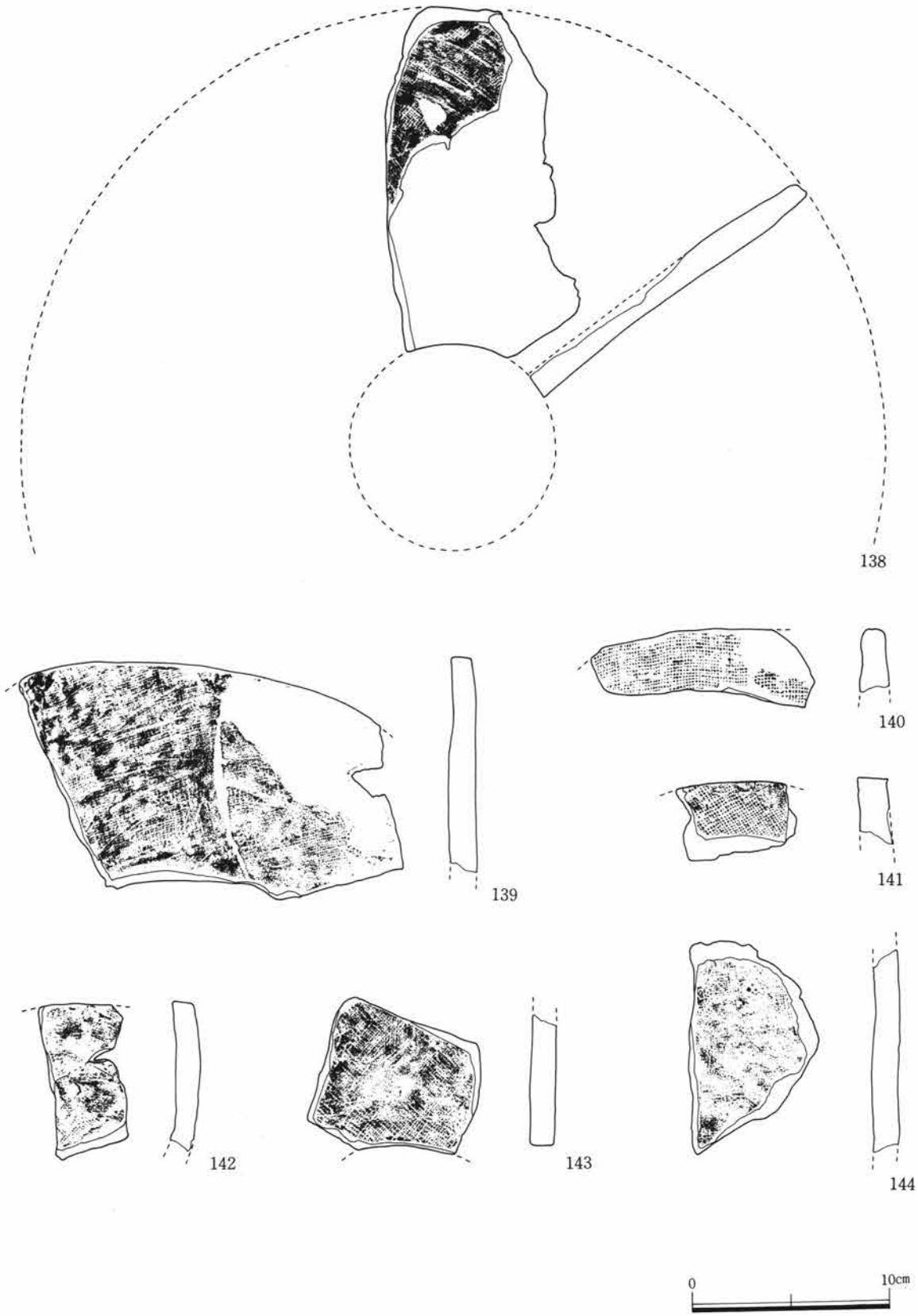
第64図　第４群粘土採掘坑出土土器(8)



第65図　第４群粘土採掘坑出土土器(9)



第66図　第４群粘土採掘坑出土土器(10)



第67図　第４群粘土採掘坑出土遺物(11)

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（１）

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
４採－１	須恵坏	13.2	7.0	4.0	覆土 Ｉ－88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒がやや含まれる。
４採－２	須恵坏	13.6	8.0	3.5	覆土 Ｈ－89	体部はゆるやかに彎曲し立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅕ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
４採－３	須恵坏	13.2	8.0	3.5	覆土 Ｉ－88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、上半部でわずかに屈曲する。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
４採－４	須恵坏	11.2	7.4	3.8	覆土 Ｈ－88	口径と底径の差が比較的少ない。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみに直立する。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
４採－５	須恵坏	11.0	7.0	3.7	覆土 Ｇ－88	体部は下端に右方向のヘラ削りが施され、口唇部に向ってやや内彎ぎみに立ち上がる。底面に右回転ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④鉱物粒がわずかに含まれる。
４採－６	須恵坏	13.4	6.2	3.6	覆土 Ｉ－87	体部下半に段をもち、直線的に立ち上る。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④黒色鉱物粒を多く含む。
４採－７（42－２）	須恵坏 イブシ	12.4	7.0	4.1	覆土 Ｊ－88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色、および黒色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
４採－８（42－３）	須恵坏	13.0	8.0	4.3	覆土 Ｉ－88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面はわずかに段状に残り、底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
４採－９（42－４）	須恵坏	12.7	7.8	3.6	覆土 Ｈ－88	底部は一部段状に残り、体部は短くほぼ直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採－10（42－５）	須恵坏	13.4	8.6	3.7	覆土 Ｈ－88	体部はほぼ直続的に立ち上がり、ロクロ目が残る。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採－11	須恵坏	12.5	8.0	4.4	覆土 Ｈ－88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はわずかに内彎する。底面に不明瞭ながら回転糸切り痕がみられる。体部右回転。	①灰白色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
４採－12（42－６）	須恵坏	13.2	8.3	3.6	覆土 Ｇ－89 Ｄ１層	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅔ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
４採－13（42－７）	須恵坏	12.4	7.0	2.8	覆土 Ｉ－88 １層	体部は比較的短く、上半部でわずかに彎曲する。口唇部は丸みをもつ。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
４採－14	須恵坏	－	7.8	－	覆土 Ｉ－88	体部は直線的に立ち上がり、一部に輪積み痕が残る。底面に左回転のヘラ削り。	①灰白色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を粒を含む。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（２）

４採―15	須恵坏	― 7.0 ―	覆土 A―92	体部下端に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部½ ④白色鉱物粒を含む。
４採―16	須恵坏 イブシ	― 6.6 ―	覆土 F―90	体部下半がやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
４採―17 (42―８)	須恵坏	― 7.6 ―	覆土 H―88	体部はほぼ直線的に立ち上がり、下端に左方向へのヘラ削りが施される。底面にも同様左回転ヘラ切り痕がみられる。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
４採―18 (42―９)	須恵坏	16.8 7.8 6.3	覆土 I―88	底部は段状に残り、体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を含む。
４採―19 (42―10)	須恵坏	17.2 8.0 7.2	覆土 G―88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。体部にはロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
４採―20	須恵坏 イブシ	― 6.0 ―	覆土 H―88 2層	底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部¼ ④白色鉱物粒を多量に含む。石英粒もわずかにみられる。
４採―21 (42―11)	須恵坏	12.6 7.0 4.2	覆土 H―88 上層	底部はやや段状に残り、体部は下半に脹らみをもって立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
４採―22 (42―12)	須恵坏	14.6 8.4 5.2	覆土 I―87	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他石英粒を含む。
４採―23 (43―１)	須恵坏	14.7 7.3 5.3	覆土 I―87 P10	体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
４採―24 (43―２)	須恵坏	13.4 6.8 4.3	覆土 H―88	底部はわずかに段状に残る。体部は下半はやや脹らみ、上半は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採―25 (43―３)	須恵坏	15.1 8.4 4.8	覆土 I―87	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。底部に焼成時のヒビが入る。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒を多量に含み、黒色鉱物粒もみられる。
４採―26 (43―４)	須恵坏	14.4 9.2 5.3	覆土 H―88 上層	体部はほぼ直線的に立ち上がり、上半部でわずかに内傾する。底面に右回転糸切り痕。切り直しがみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もみられる。
４採―27	須恵坏	13.2 7.0 4.3	覆土 J―88	底部は段状に残る。体部は下半でやや彎曲し、上半はほぼ直線的に立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
４採―28 (43―５)	須恵坏	13.0 6.8 4.0	覆土 H―88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採―29 (43―６)	須恵坏	13.2 7.4 3.6	覆土 I―88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を多量に含む他、石英粒もみられる。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（３）

４採—30 (43—７)	須恵 坏	12.6	6.4	3.5	覆土 G—89	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。体部下端に面をもち、底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
４採—31	須恵 坏	13.8	8.0	3.2	覆土 A—91 １層下	体部は直線的に立ち上がり、上半分でわずかに外反ぎみに開く。口径に比し器高は低い。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒の他、小礫も多少含まれる。
４採—32 (43—８)	須恵 坏	12.7	6.7	3.5	覆土 H—88	底部は段状に残り、体部はやや外反ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒もみられる。
４採—33 (43—９)	須恵 坏	11.6	6.5	4.0	覆土 D—91	体部は直線的に立ち上がる。底径は比較的大きく底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒の他、夾雑物が多い。
４採—34 (43—10)	須恵 坏	13.2	6.6	3.5 〜 4.0	覆土 G—89	体部は大きく楕円形に歪む。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒も多く含まれる。
４採—35	須恵 坏	8.4	4.4	3.0	覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。一部に自然釉が付着する。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。
４採—36	須恵 坏	14.0	9.0	3.3	覆土 G—90	口径に比し体部は低く、直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に左回転のヘラ削りがみられる。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒が含まれる。
４採—37	須恵	14.0	—	—	覆土 I—88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③⅓、底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
４採—38	須恵 坏	11.0	—	—	覆土 I—87	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみに直立する。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
４採—39	須恵 坏	12.7	8.0	3.3	覆土 I—88	体部は口径に比し低く、直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒も含まれる。
４採—40	須恵 坏	10.9	—	—	覆土 H—89 １層	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
４採—41	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 G—89 １層	体部は彎曲ぎみに立ち上り、ロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
４採—42	須恵 坏	—	8.0	—	覆土 H—88	底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
４採—43	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 E—92	体部はやや彎曲ぎみに立ち上る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部¼ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
４採—44	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 J—88	底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物の他、石英粒が含まれる。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（４）

４採―45	須恵坏	―	5.6	―	覆土 A―91	底部は一部段状に残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部　④鉱物粒及び石英粒を含む。
４採―46	須恵坏	―	7.0	―	覆土	底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物を多く含む。
４採―47 (43―11)	須恵坏 イブシ	12.6	7.2	3.6	覆土 I―87	体部はやや彎曲ぎみに立ち上り、上部でわずかに外反し、丸みをもつ口唇部につづく。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色　②還元　③½　④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみられる。
４採―48 (43―12)	須恵坏 イブシ	13.8	7.0	4.0	覆土 H―88 上層	底部は一部段状に残る。体部は下部でやや彎曲し、口唇部にかけて直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¾　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―49 (43―13)	須恵坏 イブシ	14.8	8.4	3.6	覆土 H―88	底部はやや段状となる。体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上り、ロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
４採―50 (43―14)	須恵坏 イブシ	12.9	6.8	4.3	覆土 J―88	体部は楕円形に歪む。口唇部は尖りぎみとなる。底部はやや段状に残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採―51 (44―１)	須恵坏 イブシ	12.0	6.6	3.8	覆土 H―88	底部は段状に残り、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採―52 (44―２)	須恵坏 イブシ	12.5	6.8	4.3	覆土 G―89	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―53 (44―３)	須恵坏 イブシ	13.6	7.0	4.5	覆土 B―90 I―87	体部は直線的に立ち上がり、ロクロ目が残る。口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒、ガラス質の黒色鉱物粒が含まれる。
４採―54 (44―４)	須恵坏 イブシ	13.3	6.6	3.8	覆土 J―88	底部はやや段状に残り、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒が多く含まれる。
４採―55 (44―５)	須恵坏 イブシ	15.4	7.6	4.8	覆土 I―88 １層	底部はやや段状に残り、体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¾　④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もみられる。
４採―56 (44―６)	須恵坏 イブシ	16.4	8.7	5.6	覆土 I―88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、上部はやや外反する。口唇部は尖りぎみとなる。底部は段状に残り、底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
４採―57 (44―７)	須恵坏 イブシ	13.2	7.4	4.3	覆土 J―88	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―58 (44―８)	須恵坏 イブシ	12.3	6.5	4.0	覆土 H―89	底部はわずかに段状を呈し、体部は直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採―59 (44―９)	須恵坏 イブシ	14.2	7.2	4.0	覆土 H―88	体部はやや外反ぎみに開く。口唇部は尖りぎみ。体部にロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英粒もわずかにみられる。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（５）

４採—60	須恵坪 イブシ	14.0	9.0	4.3	覆土 Ｉ—88	体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は尖る。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を多く含む。
４採—61	須恵坪 イブシ	12.0	6.0	3.8	覆土 Ｅ—89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底部はやや段状を呈し、底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③⅙　④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
４採—62 (44—10)	須恵坪	13.6	6.6	3.8	覆土 Ｅ—89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底部はやや段状を呈し、底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③⅙　④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
４採—63	須恵坪 イブシ	13.2	8.0	4.0	覆土 Ｆ—90	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。体部にはロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒石英粒を含む。
４採—64	須恵坪 イブシ	13.3	6.6	4.4	覆土 Ｇ—89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
４採—65	須恵坪 イブシ	11.4	6.0	3.6	覆土 Ｈ—89 １層	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。炭素吸着面の剝離が著しい。	①灰褐色　②酸化　③½　④白色鉱鉱物粒を含む。
４採—66	須恵坪 イブシ	13.0	7.2	4.0	覆土 Ｇ—89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はわずかに外反ぎみに開く。底部はやや段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採—67	須恵坪	13.0	7.0	4.2	覆土 Ａ—90	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや外反ぎみに開き尖る。底面に回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を含む。
４採—68	須恵坪 イブシ	11.4	5.8	3.7	覆土 Ｈ—88	体部下半で屈曲し、上半は直線的に立ち上がり口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③⅙　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—69	須恵坪 イブシ	12.0	6.0	3.4	覆土 Ｆ—89	体部下半から彎曲ぎみに立ち上がり、上半は直線的にやや尖りぎみの口唇部に至る。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—70	須恵坪 イブシ	13.0	—	—	覆土 Ｊ—88	体部中央に稜をもち、口唇部はやや外反ぎみに開く。器表面及び口唇部に部分的にカーボン付着する。	①灰褐色　②酸化　③⅓、底部欠　④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—71	須恵坪 イブシ	—	6.6	—	覆土 Ｂ—91	底部はわずかに段状に残る。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③⅙、口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—72	須恵坪 イブシ	—	7.0	—	覆土 Ｈ—88	底部は段状に残り、底面に右回転糸切り痕。体部は下半でやや彎曲するが上半へは直線的に立ち上がる。	①褐色　②酸化　③⅙、口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—73	須恵坪 イブシ	—	7.6	—	覆土 Ｅ—89	底部は粘土がやや検出する。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—74	須恵坪 イブシ	—	7.4	—	覆土 Ｊ—88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、下端部に凹面をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（６）

４採―75	須恵 坏 イブシ	―　7.0　―	覆土 G―88	体部は下半から彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒を含む。
４採―76	須恵 坏 イブシ	―　7.0　―	覆土 H―88	比較的底径の大きな坏。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部¼　④白色鉱物粒を含む。
４採―77	須恵 坏 イブシ	―　5.6　―	覆土 I―87	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底部はわずかに段状に残り、底面に左回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部⅙　④白色物粒、石英粒を含む。
４採―78	須恵 坏 イブシ	―　6.6　―	覆土 G―90	底部は粘土がわずかに突出する。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採―79	須恵 坏 イブシ	―　5.6　―	覆土 H―88 上層	底面に右回転糸切り痕。器表面の剥離が著しい。	①褐色　②酸化　③底部　④白色鉱物粒、石英粒を含む 。
４採―80	須恵 坏 イブシ	―　7.2　―	覆土 H―89	底部はわずかに段状に残る。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採―81	須恵 坏	―　7.2　―	覆土 H―88	体部下端にやや脹らみをもつ。体部が彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採―82	須恵	―　6.2　―	覆土 B―90	底面に右回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採―83	須恵 坏	9.5　6.0　3.7	覆土 F―89	口径と底径の差が少ない坏。体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。体部左回転。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒を含む。
４採―84	須恵 坏	―　6.2		体部下端に凹面をもち、彎曲ぎみに立ち上がる。底部は粘土がわずかに突出し、底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色　②還元　③底部⅓　④白色および黒色鉱物粒、石英粒を含む。
４採―85 (45―１)	埦	13.2　7.2　4.9 (高台部)	覆土 G―89	高台の貼付はしっかりしている。端部はやや尖りぎみで内側に面をもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。体部左回転。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を含む。⑤一部に自然釉付着。
４採―86 (44―11)	須恵 埦	12.8　6.9　4.7 (高台部)	覆土 I―87	高台の貼付はしっかりしている。端部はやや器厚を増し、平坦面をもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみ。体部左回転。	①灰白色　②還元　③½　④白色鉱物粒を含む。
４採―87	須恵 埦	―　7.0　― (高台部)	覆土 I―88 １層	高台の貼付はしっかりしており、端部は尖りぎみで内側に面をもつ。底面には回転ヘラ切り痕。体部右回転。	①青灰色　②還元　③½　④白色鉱物粒を含む。
４採―88	須恵 埦	―　6.5 (高台部)	覆土 F―89	高台の貼付はしっかりしている。やや彎曲ぎみで端部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色　②還元　③高台部½　④白色鉱物粒を含む。
４採―89 (44―12)	須恵 埦	16.4　8.4　8.6 (高台部)	覆土 G―90	法量の大きな埦。高台の貼付はしっかりしており、端部は平坦で中央に凹面をもつ。体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒を含む。　⑤底面に回転糸切り痕、体部右回転。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（７）

４採—90	須恵 埦	— 10.4 —	覆土 A—90 1層	高台の貼付はしっかりしており、端部は平坦面をもつ。	①青灰色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
４採—91	須恵 埦	— 10.0 — （高台貼付部）	覆土 F—90	高台は貼付部から全部剝落する。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
４採—92 (45—４)	須恵 蓋	15.8 3.9 4.5 （ツマミ部）	覆土 H—88 I—88	天井部は高く中央に中くぼみツマミが付く。口縁部に凹面をもち、尖りぎみの端部がわずかに突出する。天井部は右回転のヘラ削り。	①青灰色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含む。
４採—93 (45—２)	須恵 蓋	— 4.5 — （ツマミ部）	覆土 E—89	天井部中央にボタン状ツマミが付く。	①灰白色 ②還元 ③½、口縁部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—94	須恵 蓋	13.6 3.8 3.4	覆土 F—89	天井部中央に中くぼみのツマミが付く。天井部は右回転のヘラ削りが施される。口縁部は外側に凹面をもち、端部は尖りぎみでわずかに突出。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—95	須恵 蓋	14.4 — —	覆土 C—90	体部から口縁部にかけ曲線的に連続する。口縁部はやや彎曲し、尖りぎみの端部に至る。	①灰白色 ②還元 ③体部⅛ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—96	須恵 蓋	17.4 — —	覆土 I—88	天井部から体部はなだらかに連続し、口縁部は直に屈曲する。端部は尖りぎみ。天井部には右回転のヘラ削りが施される。	①灰白色 ②還元 ③⅙、ツマミ部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—97	須恵 蓋 イブシ	18.0 — —	覆土	天井部には右回転ヘラ削りが施される。体部から口縁部はなだらかに屈曲し、端部は丸みをもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③⅙、ツマミ部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
４採—98 (45—３)	須恵 蓋	12.4 3.2 2.8 （ツマミ部）	覆土 H—88	天井部から体部にかけやや彎曲ぎみに開く。天井部は右回転ヘラ削り。中央に中くぼみツマミが付く。口縁部は外側に凹面。端部は尖る。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採—99	須恵 蓋	— 3.4 （ツマミ部）	覆土 I—88 1層	天井部は右回転のヘラ削りが施され、中央部にボタン状ツマミが付く。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
４採—100	須恵 蓋	17.2 3.8 3.2 （ツマミ部）	覆土 B—90	天井部はわずかに高まり、中央に中くぼみツマミが付く。体部は直線的に開き、口縁部は直に屈曲し、端部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
４採—101 (45—５)	須恵 蓋	13.6 4.1 2.6 （ツマミ部）	覆土 G—89 I—88	天井部はわずかに高く、体部は直線的に開き、口唇部は彎曲ぎみに屈曲する。端部はやや尖りぎみ。外面に自然釉付着。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
４採—102	須恵 蓋 イブシ	15.4 3.0 2.9	覆土 I—88	天井部中央に中くぼみツマミが付く。体部はやや彎曲し、口縁部へゆるやかに屈曲する。端部は丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③⅕ ④白色鉱物粒を含む。
４採—103 (45—６)	須恵 蓋 イブシ	— 5.5 （ツマミ貼付部）	覆土 H—88	リング状ツマミは接合部から全部剝落する。天井部は肉厚で回転ヘラ削りが施される。器体に歪みがある。	①灰褐色 ②酸化 ③ツマミ、口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—104 (45—８)	須恵 蓋	17.6 9.2 — （ツマミ貼付部）	覆土 I—87	天井部に左回転糸切り痕。リング状ツマミは接合部から全部剝落する。体部は直線的に開き、口縁部は直に屈曲し外側に沈線が巡る。	①灰白色 ②還元 ③ツマミ部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（８）

４採―105	須恵蓋	19.8　―　―	覆土 H―88 I―88	天井部に右回転ヘラ削りが施される。体部にはロクロ目が残り、口縁部は直に屈曲し、外側にやや凹面をもつ。端部は尖りぎみ。	①灰白色　②還元　③⅓、ツマミ部欠　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―106 (45―９)	須恵蓋	18.8　11.6　4.0 (ツマミ部)	覆土 I―87	リング状ツマミは肉厚で上端部に平坦面をもつ。一部接合部から剝落する。体部はやや彎曲し、末端がわずかに突出し、口縁部は直に屈曲する。	①灰白色　②還元　③½　④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採―107	須恵蓋	12.6　―　―	覆土 G―90	ツマミは接合部から剝落。天井部はわずかに高まり、体部はほぼ直線的に開く。口縁部は短く屈曲し、端部は尖りぎみである。	①灰白色　②還元　③⅓、ツマミ部欠　④白色鉱物粒を含む。
４採―108	須恵蓋	―　12.2　― (ツマミ貼付部)	覆土 H―88	リング状ツマミ内側に左回転ヘラ削りが施される。天井部は中央が器厚が厚く、周辺部が肉厚となる。	①灰褐色　②酸化　③天井部　④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
４採―109 (45―７)	須恵蓋	14.8　3.8　3.2	覆土 G―89	天井部中央に中くぼみツマミが付く。体部はほぼ直線的に開き、口唇部へなだらかに続く。端部は丸みをもつ。天井部には左回転ヘラ削り。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色および黒色鉱物粒を含む。
４採―110	須恵蓋	13.2　―　―	覆土 I―87	天井部からゆるやかに体部に続き、口縁部は直角に屈曲し、外側に凹面をもつ。端部はやや尖りぎみ。天井部には左回転ヘラ削りが施される。	①灰白色　②還元　③½、ツマミ部欠　④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
４採―111	須恵蓋	―　3.4　―	覆土 H―88	天井部には左回転ヘラ削りが施され、中央部にボタン状ツマミが付く。	①褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採―112	須恵	19.8　―　―	覆土	天井部から体部にかけ彎曲ぎみに開く。口縁部は体部末端から垂下し、端部はやや尖りぎみ。	①灰白色　②還元　③⅙、ツマミ部欠　④白色鉱物粒を含む。
４採―113 (45―10)	須恵甕	28.0　14.0　21.0	覆土 H―88	最大径を口縁部及び体部上半にもつ。体部は上半に向って開きぎみに立ち上がり、頸部はくの字状に外反する。口縁部は外側に面をもつ。	①灰褐色　②酸化　③口縁部¾欠　④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。　⑤図上復元。
４採―114 (46―１)	須恵甕	28.2　―　―	覆土 J―87	頸部はくの字状を呈し、口縁部は短く、外側に凹面をもつ。口唇部は尖りぎみに直立する。最大径は口縁部及び体部上半にある。	①灰白色　②還元　③¼　④白色鉱物粒、3㎜前後の黒色鉱物粒を含む。
４採―115	須恵甕	29.8　―　―	覆土 I―88	頸部は彎曲ぎみに外反し、口縁部に稜をもつ。口唇部は尖りぎみで、外側にのびる。	①灰褐色　②酸化　③口縁部片　④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
４採―116	須恵甕	21.0　―　―	覆土 I―88 1層	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に凹面をもつ。口唇部は尖りぎみで、やや外側に立ち上がる。	①灰白色　②還元　③口縁部⅙　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―117	須恵甕	19.6　―　―	覆土 G―90	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰白色　②還元　③口縁部⅕　④白色鉱物粒を多く含む。
４採―118	須恵甕	19.0　―　―	覆土 G―90	最大径を口縁部をもつ。口縁部は強く外反し外側に面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰褐色　②酸化　③口縁部⅙　④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含み、石英粒もみられる。
４採―119	須恵甕	19.6　―　―	覆土 I―88	口縁部は強く外反し、外側に凹面をもつ。口唇部は尖りぎみで、外側に立ち上がる。	①灰白色　②還元　③口縁部⅕　④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。

第４群粘土採掘坑出土土器観察表（９）

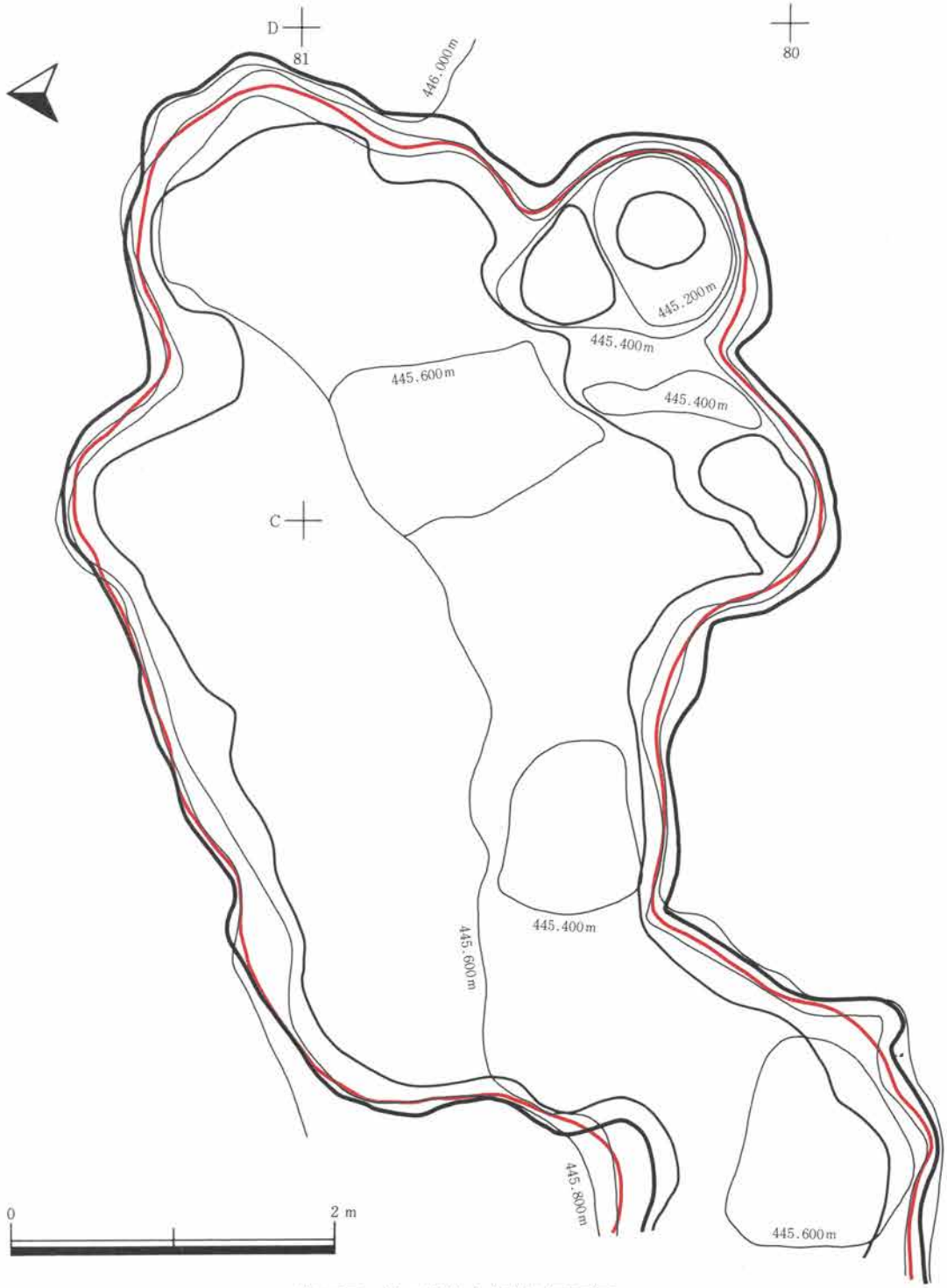
４採—120	須恵甕	32.6	—	—	覆土 G—90	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部⅙ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
４採—121	須恵甕	26.2	—	—	覆土 J—87	最大径を口縁部にもつ。体部上半はあまり彎曲せず、頸部でくの字状に外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖りぎみに直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部⅙ ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒を多く含む。
４採—122 (46—２)	須恵甕	30.0	—	—	覆土 E—89	最大径を口縁部にもつ。口縁部は強く外反し、外側に面をもつ。口唇部は丸みをもち直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部⅕ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒及び石英粒が含まれる。
４採—123 (46—３)	須恵甕	25.8	—	—	覆土 I—87	口縁部は強く外反し、段をもつ。段外面には稜をもち、口唇部はやや尖りぎみで直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部⅕ ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒が多く、石英粒もわずかに含まれる。
４採—124 (46—４)	須恵甕	20.5	—	—	覆土 J—88	肩部は張り、頸部に向かってすぼまり、口縁部は開く。最大径を肩部にもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部⅙ ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採—125 (46—５)	須恵甕	29.0	—	—	覆土 G—90	体部は頸部から強く張り出す。口縁部はゆるやかに外反し、段状の口縁となり外側に面をもつ。	①青灰色 ②還元 ③口縁部⅕ ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒が含まれる。
４採—126	須恵壺	11.2	—	—	覆土 I—87	体部は大きく脹らむ。口縁部は短く、やや開きぎみで径は小さい。口唇部は尖りやや内傾する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部⅕ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。
４採—127	須恵甕	15.0	—	—	覆土 H—88 上層	器肉は一定している。器内外面に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部¼ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
４採—128 (46—７)	須恵底部	14.4	—	—	覆土 H—88	体部に比し、底部はやや器肉が薄い。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒の他に黒色鉱物粒も多く含まれる。
４採—129 (47—１)	須恵底部	11.1	—	—	覆土 I—88	底部は段状に張り出す。器内面には輪積み痕が残り、ヘラ押えによる整形痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
４採—130 (47—６)	須恵甕	13.6	—	—	覆土 H—89 1層	口縁部は強く外反し、口唇部は尖りぎみに直立する。体部は強く張り出す。	①青灰色 ②還元 ③口縁部¼ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
４採—131	土師小型甕	10.0	6.6	9.0	覆土 A—91	最大径を口縁部及び体部上半にもつ。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は短く、やや外反する。体部下端に横位のヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。
４採—132	土師小型甕	—	—	—	覆土 I—88	口縁部は彎曲ぎみに外反し、口唇部は丸みをもつ。口縁部から体部にかけて横ナデ整形が行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—133	土師小型甕	—	—	—	覆土 H—88 2層	体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部はゆるく外反する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採—134	土師小型甕	11.8	—	—	覆土 H—88 2層	器肉は体部から口縁部にかけかなり薄くなる。口縁部横ナデ整形。	①褐色 ②酸化 ③口縁部⅙ ④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。

第４群粘土採掘坑出土遺物観察表（10）

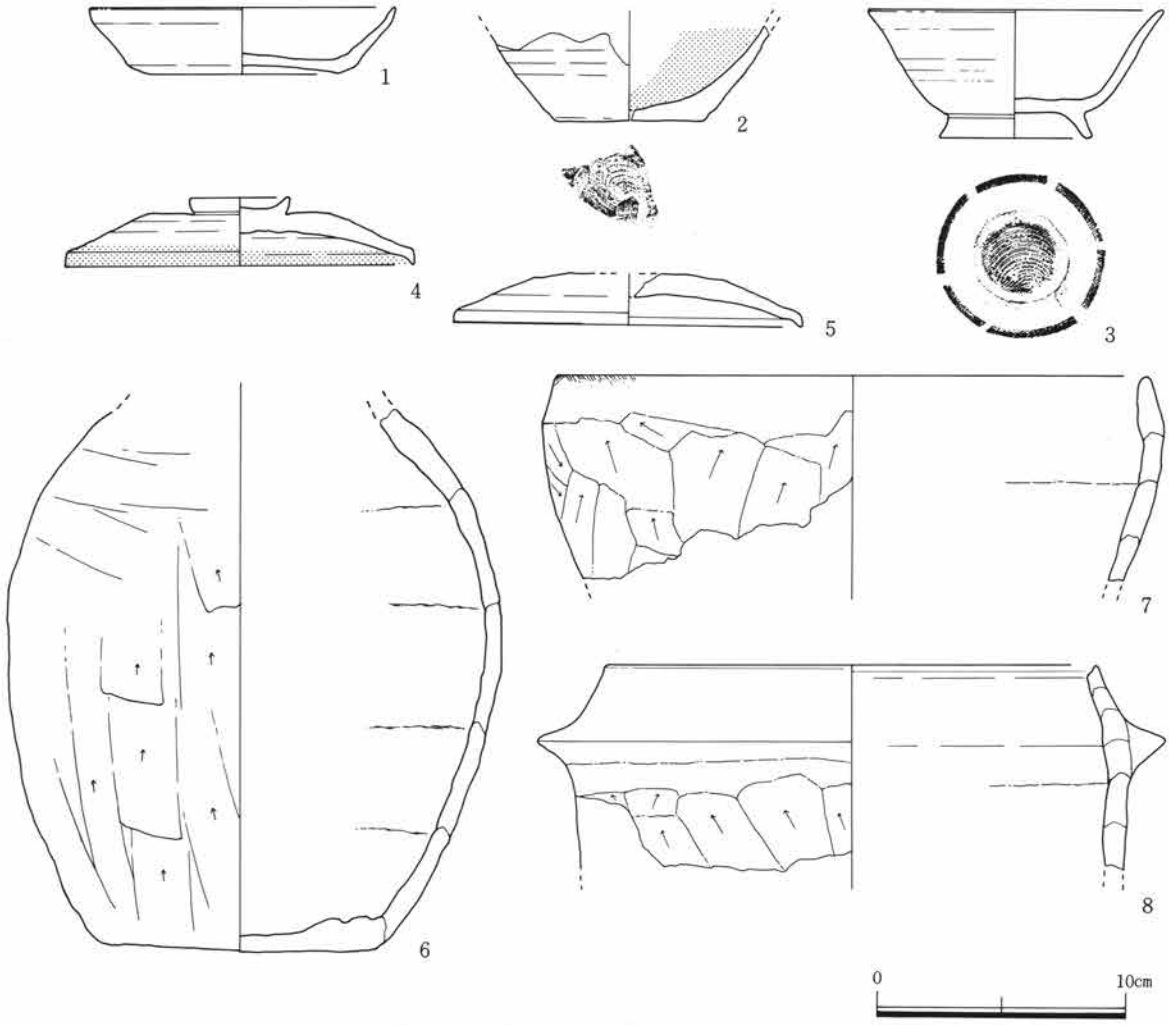
４採－135	土　師 小型甕	15.6　－　－	覆　土 Ｈ－88	最大径を口縁部にもつ。口縁部は強く開き、口唇部は丸みをもつ。	①灰褐色　②酸化　③口縁部¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採－136	土　師 小型甕	－　－　－	覆　土 Ｉ－87	口縁部はゆるく外反する。口縁部から体部上半にかけては横ナデ、以下は斜位方向の整形痕が認められる。	①灰褐色　②酸化　③口縁部片　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
４採－137 （47－２）	須　恵 壺	－　4.7　－ （高台接合部）	覆　土 Ｈ－88	体部は球状に脹らみ、中位に最大径をもつ。高台は、貼付部から全部剝落する。	①青灰色　②還元　③体部⅔　④白色鉱物粒を多く含む。
４採－138	相　輪	径43.5　穴径10.4	覆　土 Ｇ－90	両面に布目痕がみられる	①褐色　②酸化　③⅛　④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英粒もわずかにみられる。
４採－139	同　上		覆　土 Ｇ－90	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上
４採－140	同　上		覆　土 Ｇ－88	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上
４採－141	同　上		覆　土 Ｇ－89 １層	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上
４採－142	同　上		覆　土 Ｆ－89	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上
４採－143	同　上		覆　土 Ｇ－88	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上
４採－144	同　上		覆　土 Ｃ－90	同　　上	①褐色　②酸化　③破片 ④同上

第５群粘土採掘坑（第68図）

第２群粘土採掘坑の北側1.2mに位置する。西側は調査区域外にのびており、南側壁部は１号土坑・２号土坑により切られる。規模は西端部は不明であるが、面積（開口部）は23.35m²、粘土採掘量は6.46m³を測る。１m²当たりの粘土採掘量は0.28m³であり、第２群粘土採掘坑同様に掘削規模に比し少ない量を示している。出土遺物は第69図に示すが、出土状態は覆土上部より散発的に検出された。他に小破片が若干出土している。



第68図　第５群粘土採掘坑平面図



第69図　第５群粘土採掘坑出土土器

第５群粘土採掘坑出土土器観察表（１）

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法量 口径	底径	器径	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
5採－1 (47－4)	須恵 坏	12.3	7.6	2.6	覆土	底径が大きく、器高の底い坏。口縁部はやや直立ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。体部下半に右方向へのヘラ削り。	①灰白色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒を含む。
5採－2	須恵 坏 イブシ	－	6.0	－	覆土 B－81	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼、口縁部欠 ④白色鉱物粒を含む。
5採－3 (47－6)	須恵 埦	11.9	6.0	5.1	覆土 B－83	体部にはロクロ目が残り、口縁部はわずかに外反ぎみ、口唇部は丸い。高台の成形は丁寧で端部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②酸化 ③⅙ ④白色鉱物粒を含む。
5採－4	須恵 蓋 イブシ	14.0	4.0	2.7	覆土	天井部中央にボタン状ツマミが付く。体部は短く、口唇部は垂直に屈曲し尖る。口縁部内外面に炭素の吸着がみられる。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。

第５群粘土採掘坑出土土器観察表（２）

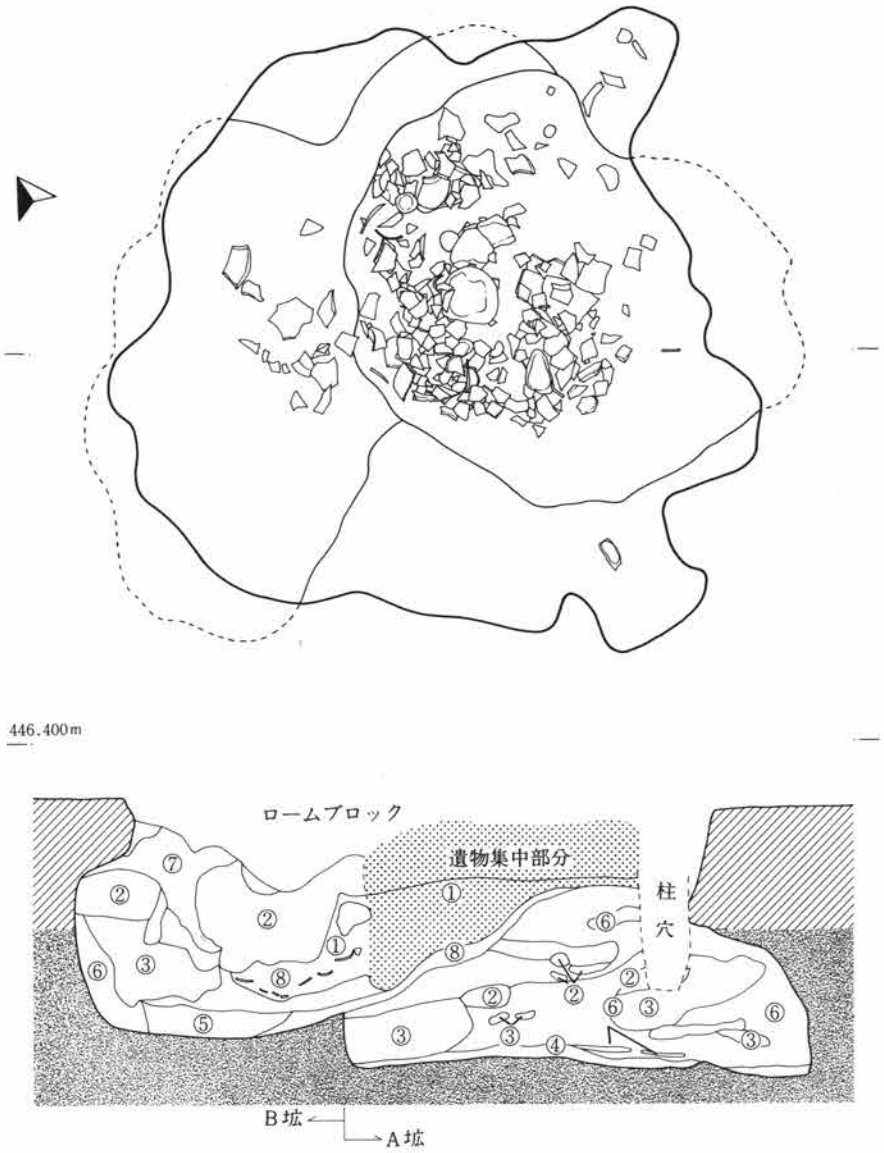
５採－５	須恵蓋	14.0 － －	覆土	口縁部にやや段をもち、口唇部は外側に凹面をもつ。端部はやや丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③ツマミ欠 ④白色鉱物粒を含む。
５採－６（47－３）		－ 11.0 －	覆土 B－81	底径が大きく、体部中央に最大径をもつ。体部には上方向への	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を含む。
５採－７（47－５）	鉢	23.8 － －	覆土 B－81	鉄鉢状の鉢。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部はやや肉厚で直立ぎみに立ち上がる。体部は上方向へのヘラ削り。口縁部は横ナデ。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。
５採－８（47－７）	羽釜	19.8 － －	覆土 B－81	口縁部は内傾し、口唇部は尖りぎみで内側に凹面をもつ。鍔は三角形を呈し付着は丁寧。体部は上方向へのヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を含む。

第６群粘土採掘坑（第70図、図版13－２、14、15）

Ｌ・Ｍ－85・86グリッドに位置する比較的小規模の採掘坑である。この採掘坑は土層断面の観察により最低２回の採掘作業が行なわれていることが看取される。まずＡ坑が掘削され、底部及び壁部の粘土採掘が行なわれた後、西側の壁を崩しＢ坑を掘り進めている。Ａ坑の覆土はこの壁部の土層、ローム層及び一旦掘り上げられた白色粘土のブロック等が堆積している。Ｂ坑はＡ坑より浅いが同じように底部、壁部の白色粘土を採集している。又西側壁部は大きくオーバーハングするが、東側壁部（Ａ坑と重複する側）はゆるやかに立ち上がり、この部分に白色粘土が帯状に残っていることから、粘土採集の際は掘り取った粘土を掻き上げながら作業を進めたと判断される。採掘終了後、壁の崩壊、黒色土の流れ込み等により堆積しており、この段階で凹みとして残っている部分に第72～78図に示す遺物が一括廃棄されている。

第６群粘土採掘坑出土土器観察表（１）

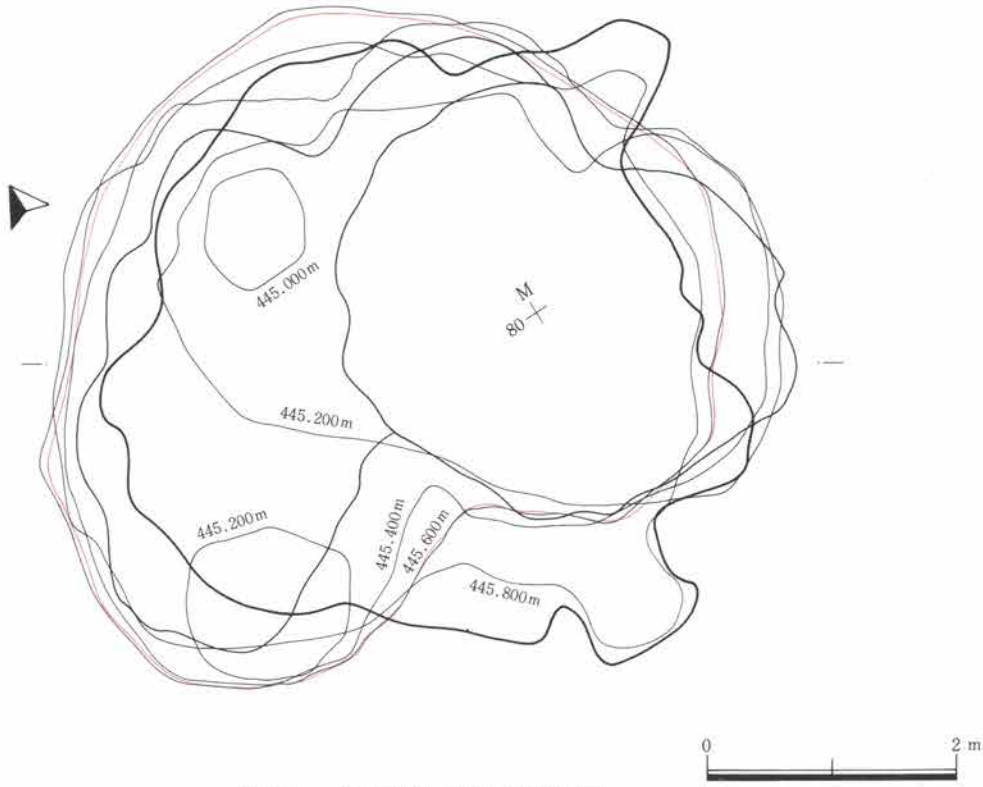
遺物番号（図版No）	器種 器形	法量 口径 底径 器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
６採－１（47－８）	須恵坏	12.0 6.6 3.8	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。口唇部は丸みをもつが外側にわずかな稜をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③½ ④白色および黒色鉱物粒を含む。 ⑤底面にヘラによる「メ」印あり。
６採－２（47－９）	須恵坏 イブシ	13.0 7.0 4.0	覆土 No60	体部下半にわずかな彎曲部をもち、上半は直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。器表一部に炭素吸着。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒も少量みられる。
６採－３	須恵坏 イブシ	－ 6.6 －	覆土	底面に回転糸切り痕。体部左回転	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
６採－４（47－10）	須恵坏 イブシ	13.1 7.5 3.8	覆土	底面はわずかに段をもち、体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③¾ ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。



土層説明

①層・ローム粒及びブロックを含む黒色土層。遺物は、ほとんどこの層から出土。
②層・ロームブロック（ソフト）。
③層・ロームブロック（ハード）。
④層・ロームブロックを含む粘土層。
⑤層・ロームと粘土の混在する層。
⑥層・粘土ブロック。
⑦層・粘土及び黒色土
⑧層・粘土及び黒色土を混入するローム。
⑦層・黒褐色土層。

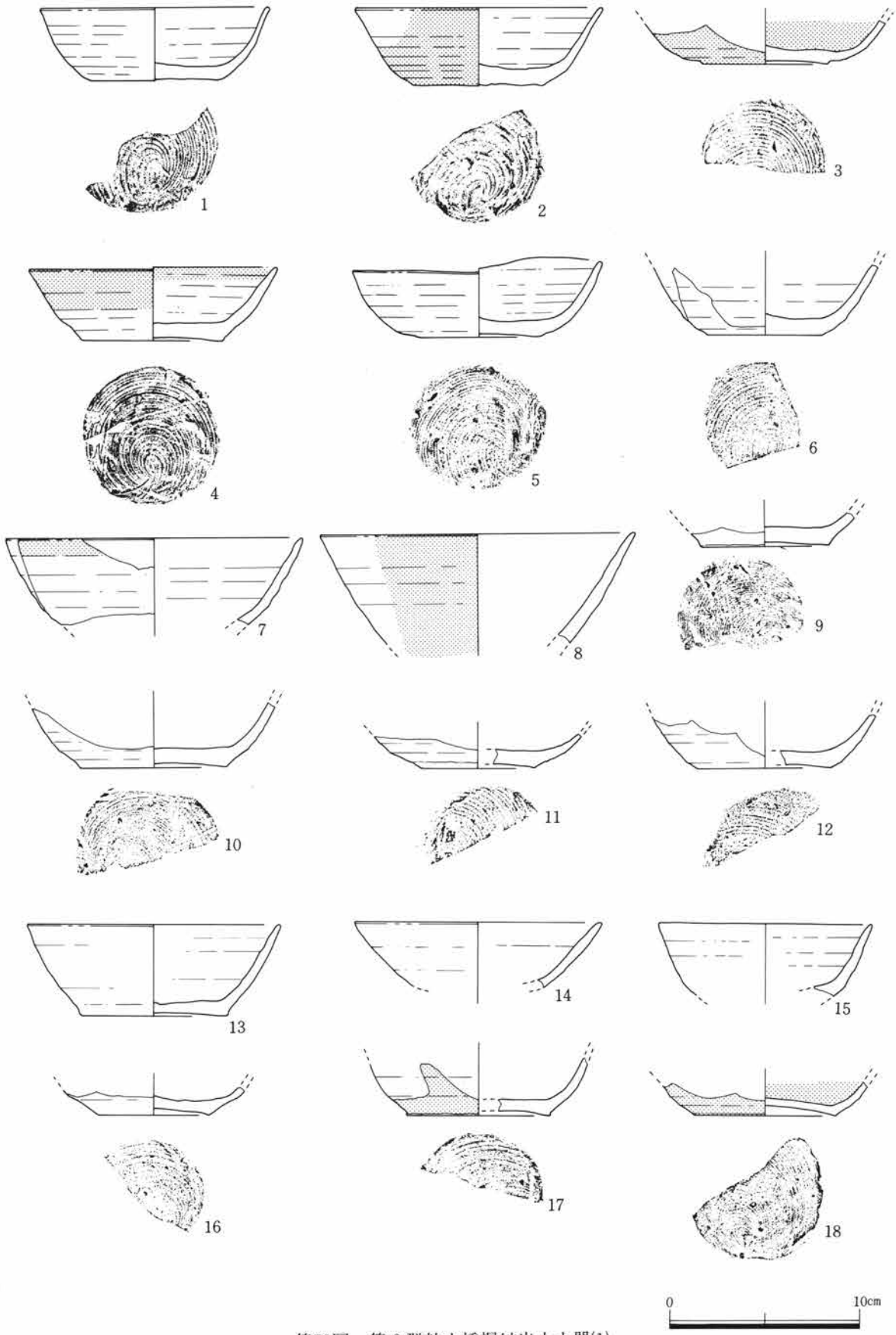
第70図　第６群粘土採掘坑実測図



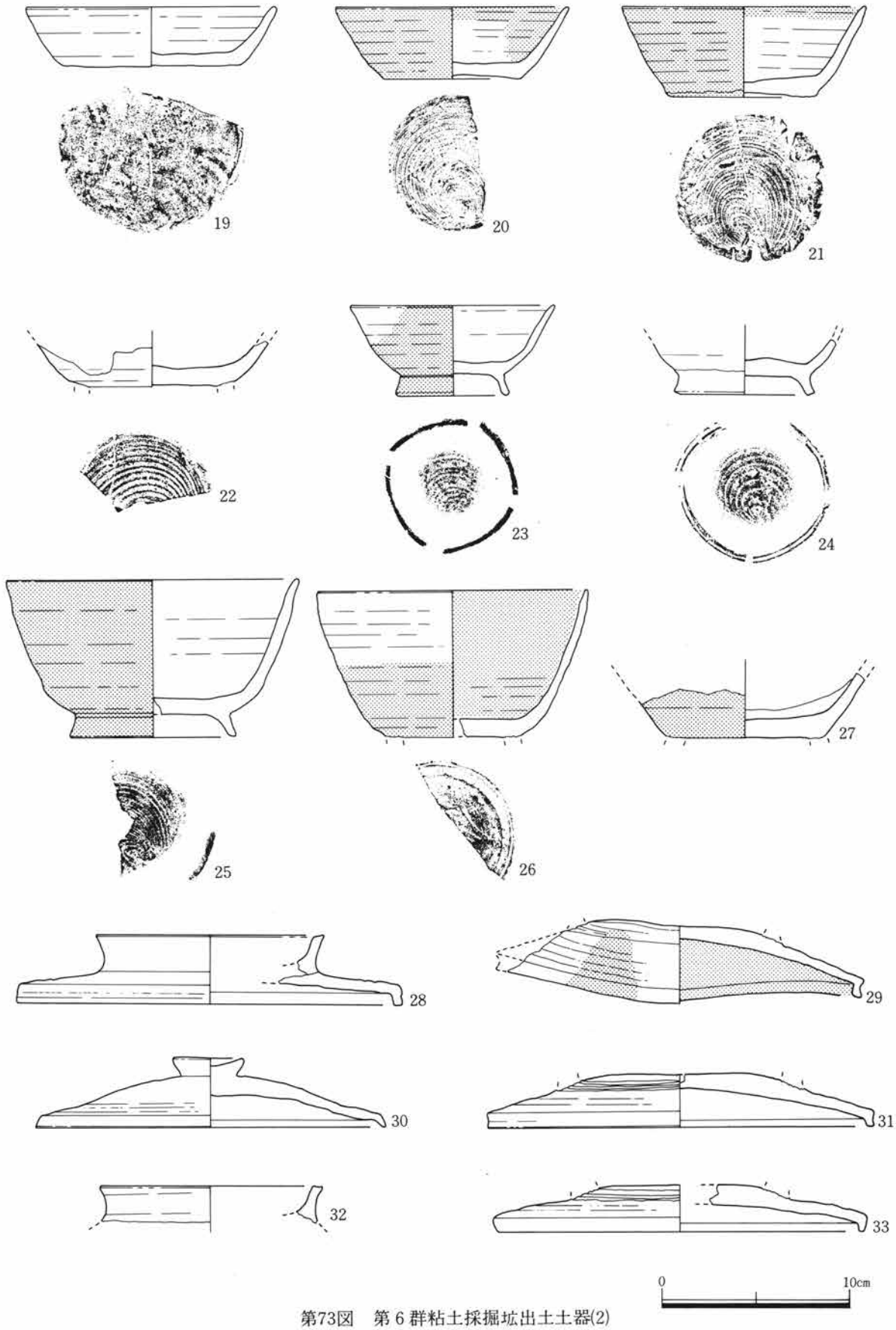
第71図　第６群粘土採掘坑平面図

第６群粘土採掘坑出土土器観察表（２）

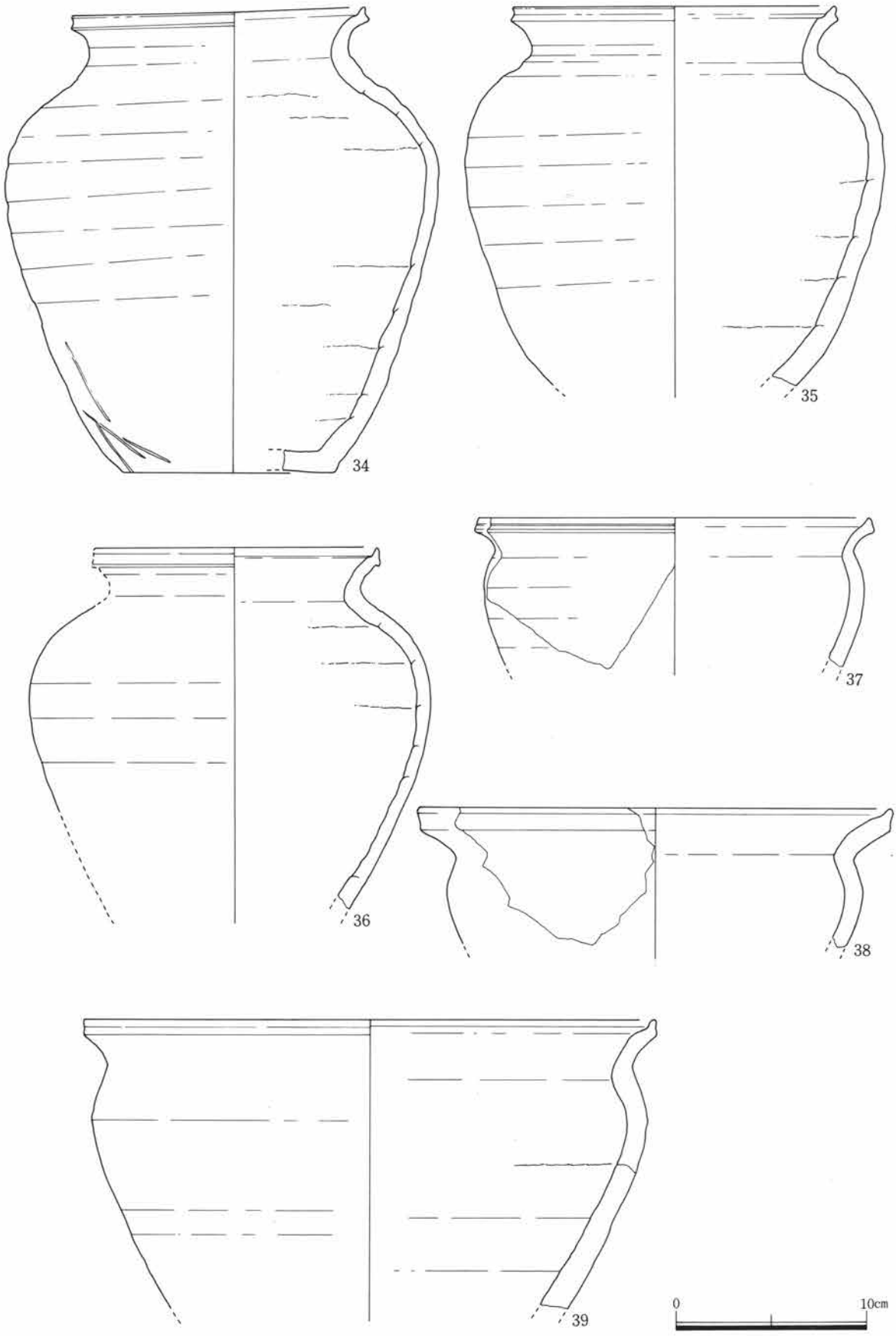
6採－5 (47－11)	須恵 坏	13.1	6.4	3.6 ～ 4.1	覆土	体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。一部に切り損じがみられる。器自体は成形時の歪みがある。	①灰白色　②還元　③完形　④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
6採－6	須恵 坏	－	6.0	－	覆土	体部下半にやや脹らみをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③底部¼　④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。
6採－7	須恵 坏 イブシ	15.6	－	－	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部は尖りぎみに直立する。体部右回転。	①褐色　②酸化　③⅓、底部欠　④白色鉱物粒を多く含む。
6採－8	須恵 坏 イブシ	16.6	－	－	覆土	体部は直線的で大きく開く。口唇部は丸みをもつ。体部左回転。	①灰褐色　②酸化　③⅓、底部欠④白色鉱物粒を多く含む。
6採－9	須恵 坏	－	6.7	－	覆土	底面わずかに段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③底部⅔　④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
6採－10	須恵 坏	－	7.6	－	覆土	体部は底部からやや彎曲ぎみに立ち上る。底面に右回転糸切痕。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒も含まれる。
6採－11	須恵 坏	－	6.0	－	覆土	底部はわずかに段状に残る。底面に左回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部½　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。



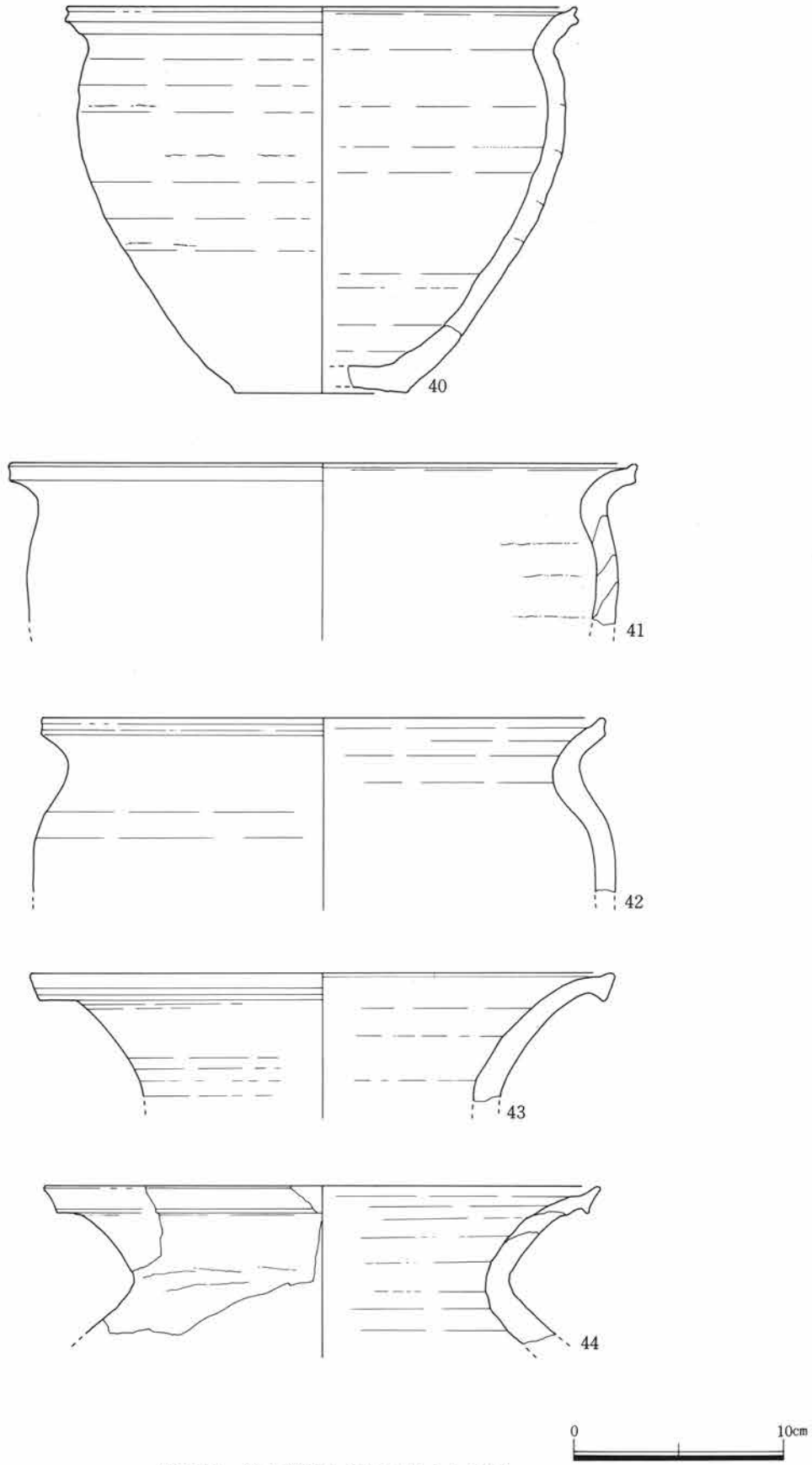
第72図　第６群粘土採掘坑出土土器(1)



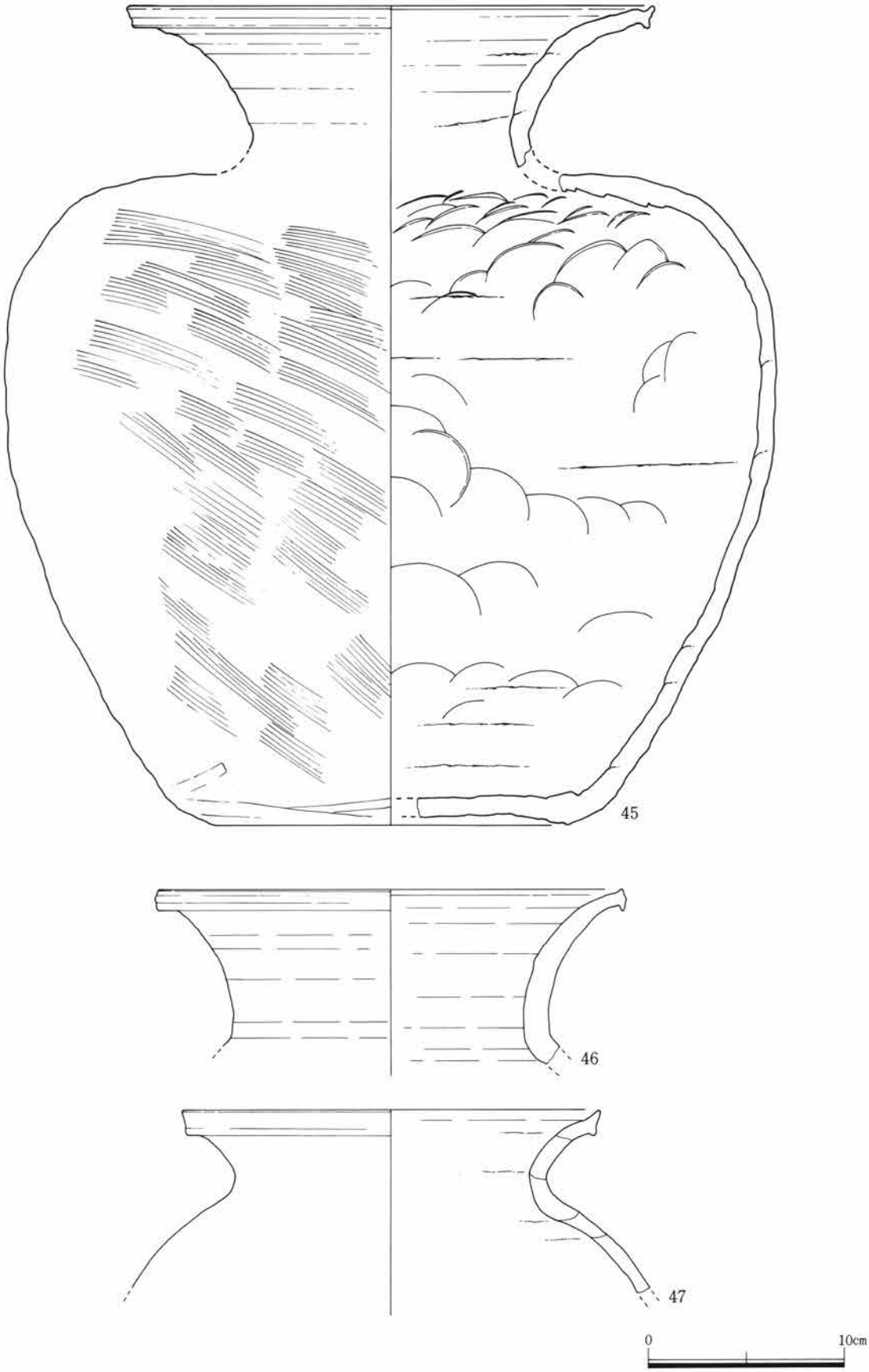
第73図　第６群粘土採掘坑出土土器(2)



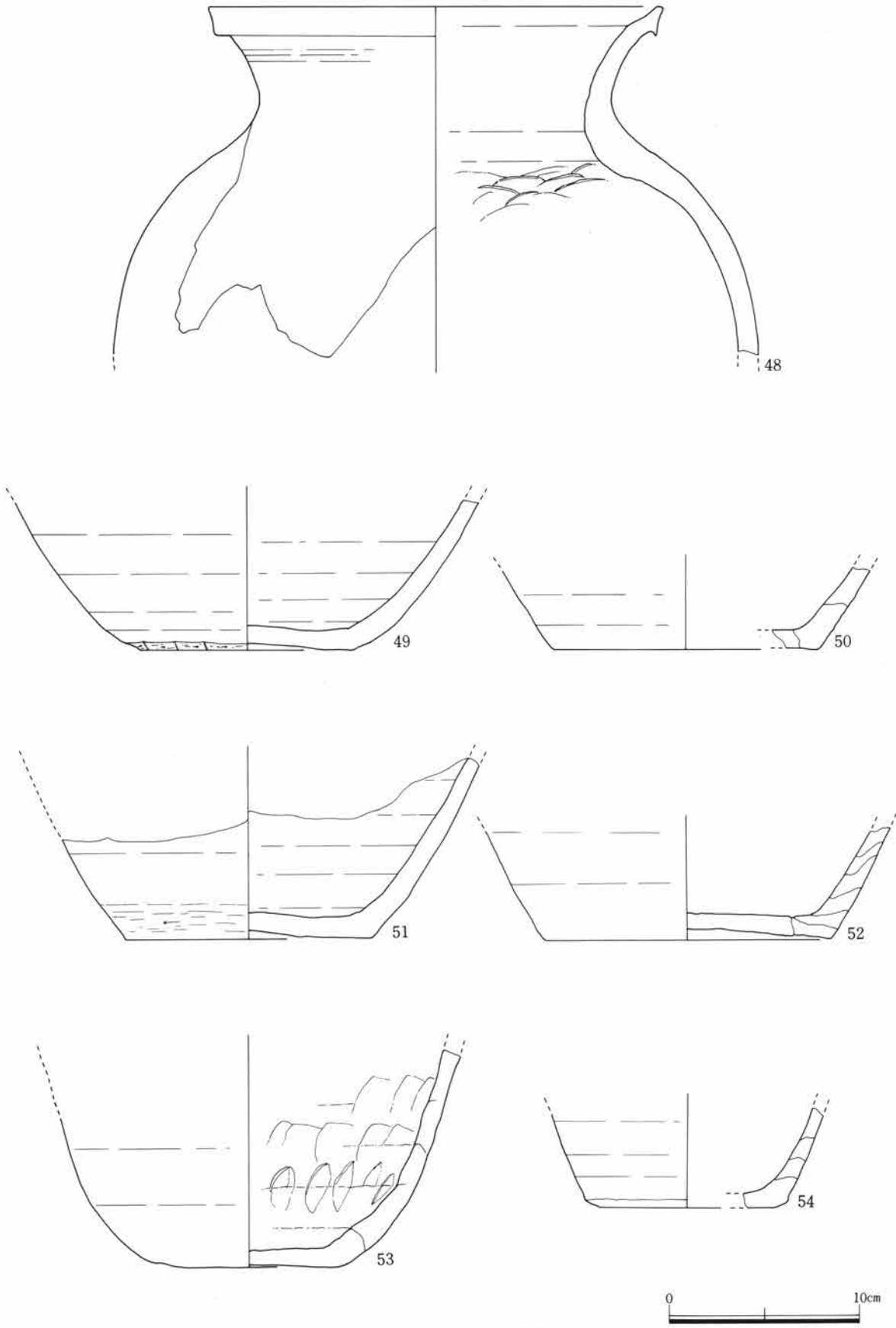
第74図　第６群粘土採掘坑出土土器(3)



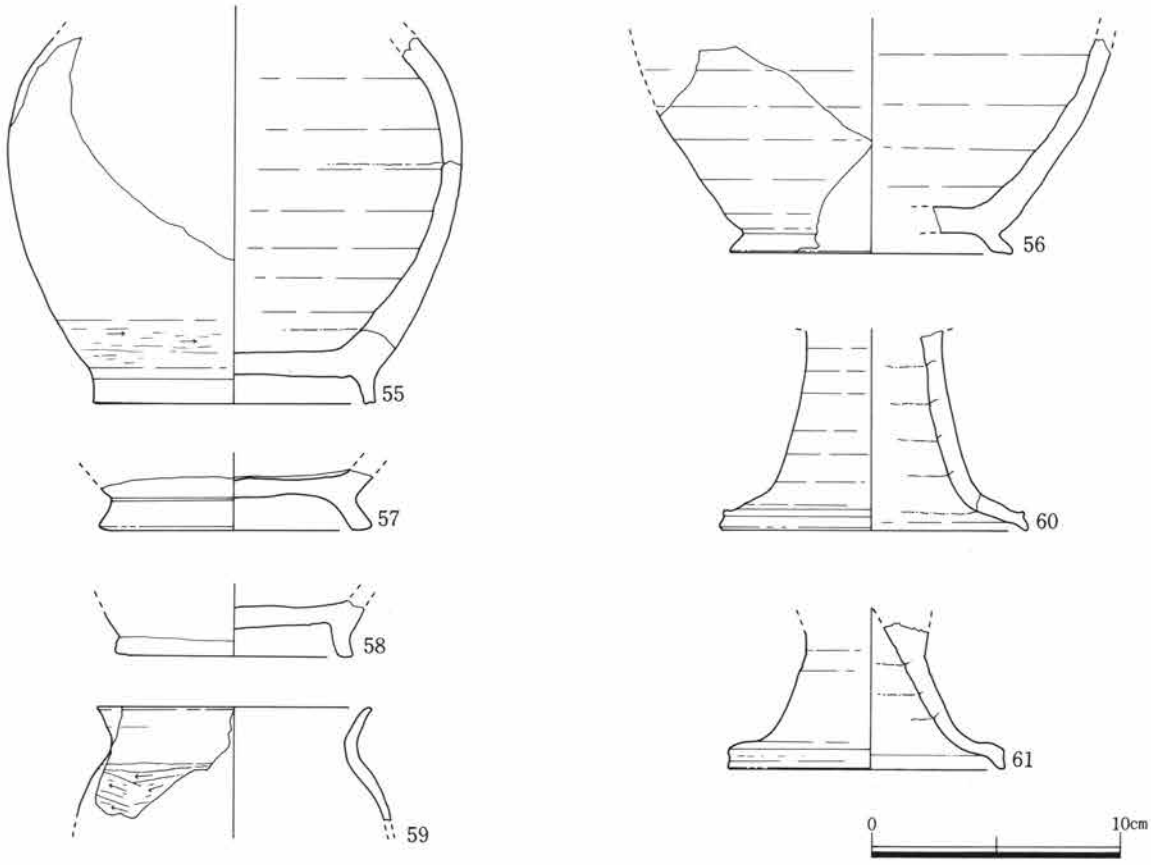
第75図　第６群粘土採掘坑出土土器(4)



第76図　第６群粘土採掘坑出土土器(5)



第77図　第６群粘土採掘坑出土土器(6)



第78図　第６群粘土採掘坑出土土器(7)

第６群粘土採掘坑出土土器観察表（３）

6採—12	須恵坏	—	7.0	—	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色　②酸化　③底部⅓　④白色鉱物粒、石英粒を多く含む。
6採—13	須恵坏	13.4	7.6	4.8	覆土	体部はわずかに彎曲する。口唇部は丸みをもつが、やや尖りぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③1/12　④白色鉱物粒を多く含む。
6採—14	須恵坏	13.0	—	—	覆土	体部上半はやや肉厚となる。口唇部は丸みをもち、体部にはロクロ目が残る。体部右回転。	①灰白色　②還元　③体部⅕　④白色鉱物粒、石英粒をわずかに含む。
6採—15	須恵坏	11.2	—	—	覆土	体部は楕円形に歪み、底部は接合部から剝落している。体部下半はやや彎曲し、口唇部にかけて直線的に立ち上がる。	①灰白色　②還元　③¼、底部欠④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
6採—16	須恵坏	—	5.8	—	覆土	体部は下半でやや屈曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①青灰色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒を多く含む。

第6群粘土採掘坑出土土器観察表（4）

6採—17	須恵 坏 イブシ	— 7.6 —	覆土	体部下半はやや彎曲し立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部⅓ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6採—18	須恵 坏 イブシ	— 7.4 —	覆土	底面は内側にやや彎曲し、右回転糸切り痕がみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③底部½ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6採—19 (48—1)	須恵 坏	13.4 9.5 3.2	覆土	底径が大きく、器高の低い坏。底面にはヘラ削りが施される。	①灰白色 ②還元 ③½ ④
6採—20 (48—2)	須恵 坏 イブシ	12.5 7.4 4.8	覆土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。体部にはロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③½ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒をわずかに含む。
6採—21 (48—3)	須恵 坏 イブシ	13.0 7.8 4.8	覆土	底部はわずかに段状に残る。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。
6採—22	須恵 埦	— 8.5 — (高台貼付部)	覆土	高台部は貼付部から全部剝落している。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色 ②還元 ③底部½ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
6採—23 (48—4)	須恵 埦 イブシ	11.0 6.0 4.7 (高台部)		法量の比較的小さな埦。高台の貼付は丁寧で外側に張り出し、端部は丸みをもつ。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
6採—24 (48—5)	須恵 埦	— 7.4 — (高台部)	覆土	底部は肉厚で、高台の貼付はしっかりしている。外側に張り出し、端部は平坦面をもつ。底面に回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
6採—25 (48—6)	須恵 埦 イブシ	15.6 8.8 8.3 (高台部)	覆土 J—81 2層	口径・器高とも大きい。高台貼付はしっかりしており、端部は丸みをもつ。体部にロクロ目。口唇部はやや尖りぎみ。底面回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
6採—26 (48—7)	須恵 埦 イブシ	14.5 7.2 — (高台貼付部)	覆土	法量の大きな埦。体部はロクロ目が残り、やや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部尖りぎみ。高台は貼付部から全部剝落している。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③¼、高台部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6採—27	須恵 埦	— 8.4 — (高台貼付部)	覆土	高台部は貼付部から全部剝落する。全体的に器肉が厚い。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁・高台部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もみられる,
6採—28 (48—8)	須恵 蓋	20.4 12.1 3.6 (ツマミ部)	覆土	天井部から体部にかけ直線的に連続し、口縁部は短く屈曲し端部は平坦。天井部に大きなリング状ツマミが付く。ツマミ上端部は平坦面あり。	①灰白色 ②還元 ③⅔ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6採—29 (48—9)	須恵 蓋 イブシ	19.4 11.4 — (ツマミ貼付部)	覆土	体部は大きく歪む。天井部回転ヘラ削り。体部にはロクロ目が残り、末端部はやや張り出す。口縁部は直角に屈曲し、端部は平坦面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③⅚ ④白色鉱物粒を含む ⑤リング状ツマミは貼付部から剝落
6採—30 (49—1)	須恵 蓋	18.6 3.8 3.7	覆土	天井部は右回転のヘラ削りが施され、中央部に中くぼみツマミが付く。口縁部は体部からやや開きぎみに屈曲し、端部は尖りぎみとなる。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
6採—31	須恵 蓋	20.6 13.0 — (ツマミ貼付部)	覆土	天井部はやや肉厚となるが、体部にかけてあまり変化なく開く。口縁部は直角に屈曲し端部は平坦。リング状ツマミは貼付部から全部剝落。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色および黒色鉱物粒を含む。

第６群粘土採坑出土土器観察表（５）

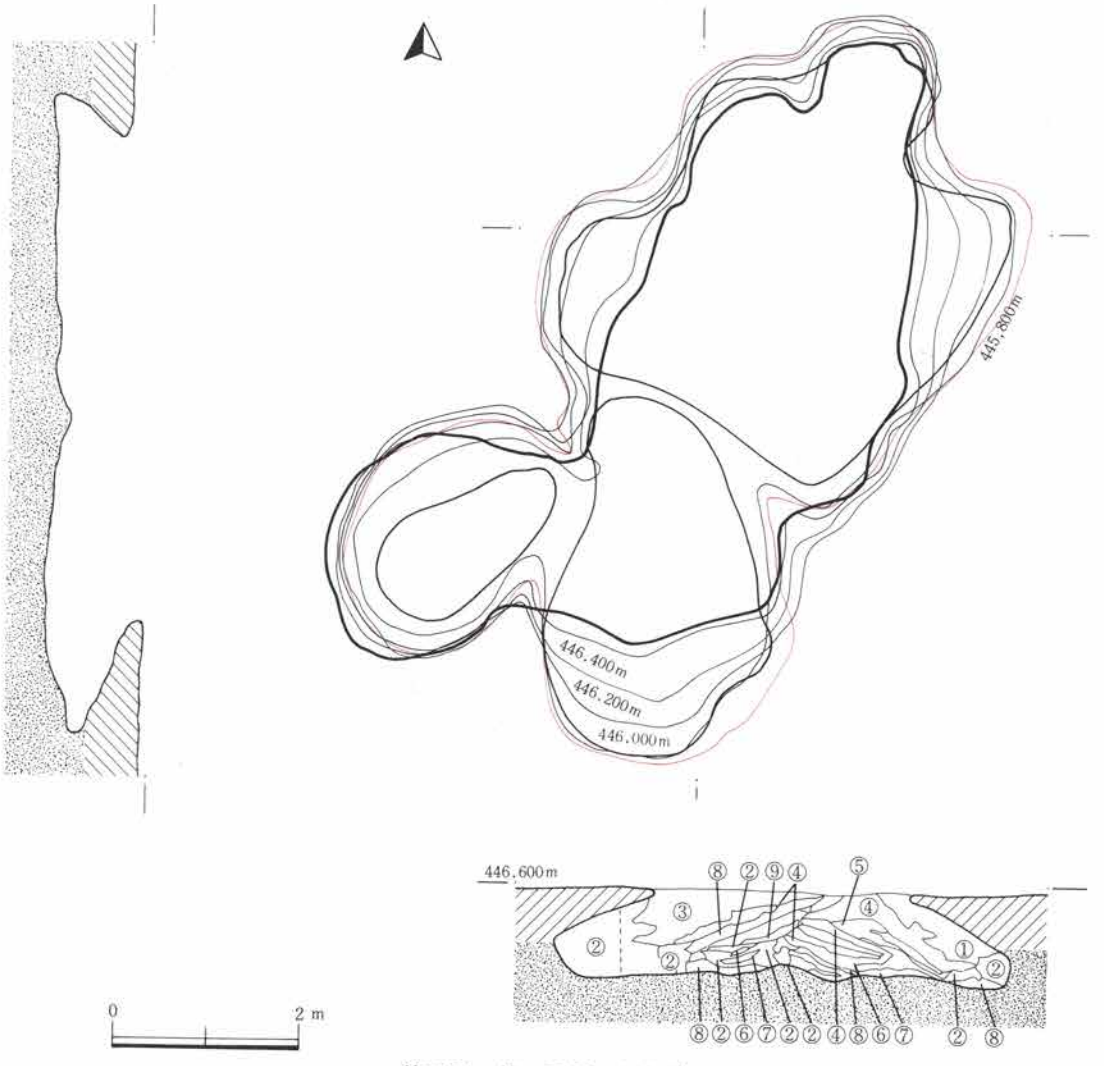
6採—32	須恵蓋	— 11.8 — （ツマミ部）	覆土	貼付部から剝落する。上端部に凹面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③ツマミ部 ④白色鉱物粒を含む。
6採—33	須恵蓋	19.4 11.6 — （ツマミ貼付部）	覆土	天井部は肉厚となるが、器高は扁平である。天井部に付けられるリング状ツマミは貼付部から全部剝落する。口縁部は短く体部から垂下する。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む。
6採—34 (48—10)	須恵甕	15.4 11.2 23.8	覆土	体部上半に最大径をもつ。口縁部は外反し、外側に面をもつ。器内外面には横方向の整形痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③体部一部欠 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれる。
6採—35 (49—3)	須恵甕	17.0 — —	覆土	体部は丸みをもって、立ち上がり、上半に最大径をもつ。口縁部は短く、くの字状に外反し、外側に凹面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③½、底部欠④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が多く含まれる。
6採—36 (49—7)	須恵甕	15.0 — —	覆土	体部は丸みをもって立ち上がり、上半に最大径をもつ。口唇部は短く、外反し外側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6採—37 (49—2)	須恵甕	20.5 — —	覆土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は短く、外側に凹面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色および黒色鉱物粒を含む他石英粒もみられる。
6採—38 (49—5)	須恵甕	24.8 — —	覆土 黒色土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に強く外反し、口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒はみられない。
6採—39 (49—4)	須恵甕	30.0 — —	覆土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。石英粒はみられない。
6採—40 (49—8)	須恵甕	24.2 8.2 8.2	覆土	最大径を口縁部にもつ。体部は上半に向って丸みをもって立ち上がり、頸部はくの字状に外反する。口縁部は外側に凹面をもつ。	①青灰色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6採—41 (49—6)	須恵甕	30.0 — —	覆土	最大径を口縁部にもつ。体部上半はあまり脹らみをもたず、頸部は強く外反する。口縁部は短く外側に凹面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。
6採—42 (50—1)	須恵甕	26.8 — —	覆土	最大径を体部上半にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は外側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒、石英粒も多少みられる。
6採—43 (50—2)	須恵甕	27.8 — —	覆土	口縁部はゆるやかに外反し、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含み、石英粒もみられる。
6採—44 (50—31)	須恵甕	26.5 — —	覆土	口縁部は外反し、外側に面をもつ。口唇部は尖り、外側にやや開く。	①青灰色 ②還元 ③½ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。
6採—45 (50—4)	須恵甕	26.8 18.0 41.0	覆土	体部は丸みをもって立ち上がり、上半に最大径をもつ。口縁部は彎曲ぎみに外反し、外側に凹面をもつ。体部には叩き目が施される。	①青灰色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む。⑤図上復元
6採—46 (50—5)	須恵甕	23.6 — —	覆土	口縁部はゆるやかに外反する。外側に面をもち凹線が巡る。口唇部は尖り、直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。

第6群粘土採掘坑出土土器観察表（6）

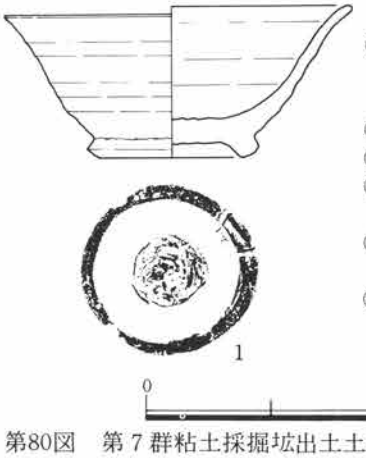
6採—47 (50—6)	須恵 甕	21.2 — —	覆土	体部上半に最大径をもつ。頸部はくの字状に外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖り直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁⅓ ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6採—48 (51—3)	須恵 甕	24.0 — —	覆土	体部は球状を呈し、口縁部は外反ぎみに開き、段状となり外側に面をもつ。体部上半にあて目と叩き目が認められる。器面に釉が付着する。	①青灰色 ②還元 ③¼、底部欠④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含み、石英粒も認められる。
6採—49 (51—1)	須恵 底部	11.0 — —	覆土	体部下端および底面に左回転のヘラ削りが施される。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部½ ④白色鉱物粒および黒色鉱物が多く含まれる。
6採—50 (51—4)	須恵 底部	14.0 — —	覆土	底部に比し体部がやや肉厚となる。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。体部内面に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部⅔ ④白色鉱物粒が多く含まれる。黒色鉱物粒もみられる。
6採—51 (51—2)	須恵 底部	13.0 — —	覆土	体部下端にヘラ削りが施される。内面には輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が多く含まれる。
6採—52	須恵 底部	15.0 — —	覆土	底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部⅓ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
6採—53	須恵	9.6 — —	覆土	体部は丸みをもって立ち上がる。内面には輪積を痕とともに整形痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部⅔ ④白色鉱物粒を多く含む。
6採—54	須恵	9.2 — —	覆土	底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部⅓ ④白色鉱物粒を多く含む。
6採—55 (51—6)	須恵 壺	— 11.3 —	覆土	高台は円筒状を呈し、端部は平坦面をもつ。貼付は丁寧。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③½、口縁部欠④白色鉱物粒を外く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6採—56 (51—7)	灰釉 壺	— 11.3 — (高台部)	覆土	高台は外側に張り出す。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部¼ ④石英粒がわずかに含まれる。
6採—57	須恵 壺	— 11.0 — (高台部)	覆土	壺の高台部と思われる。やや外側に張り出し、端部に平坦面をもつ。接合部で剝落する。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒がわずかに含まれるが、夾雑物は少ない。
6採—58	須恵 壺	— 9.5 — (高台部)	覆土	壺の高台部と思われる。高台は内筒状を呈し、端部に平坦面をもつ。底面にヘラ切り痕がみられる。接合部で剝落する。	①青灰色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
6採—59	土師 小型甕	11.0 — — (高台部)	覆土 H—80 1層	口縁部はゆるやかに外反し、横ナデ整形、体部には横位のヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
6採—60 (51—8)	須恵 高坏	12.4 — (脚部)	覆土	柱部内面には輪積み痕が明瞭に残る。裾部は強く開き、末端に稜をもつ。端部は尖り、やや外側に張り出す。	①灰白色 ②還元 ③脚部⅓ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もみられる。
6採—61	須恵 高坏	11.2 (脚部)	覆土 黒色土	柱部内面に輪積み痕が残る。裾部は強く開き、端部は外側に面をもち、尖りぎみに垂下する。	①灰白色 ②還元 ③脚部⅔ ④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。

第７群粘土採掘坑（第79図、図版16－１）

第３群粘土採掘坑に東接して掘り込まれる。面積（開口部）は20.30m²の規模をもち、粘土採掘量は8.22m²を測る。壁部は大きくオーバーハングし、白色粘土がかき出されている。土層断面図Ａ－Ａ′にその状況が看取され、この部分では西側の粘土採掘終了後、東側へと移動している。１m²当たりの採掘量は0.40m³である。



第79図　第７群粘土採掘坑実測図



土層説明

①層・ロームブロック　壁が崩れ堆積したものであり部分的に黒色土を混入する。

②層・ロームブロック（ハード）

②′層・②層に粘土を混入する層。

③層・ロームブロックを含む軟弱な黒褐色土層。

④層・ロームブロック及び粘土ブロックの混在する層。

⑤層・ロームブロックを混入する白色粘土層。

⑥層・粘土ブロックを混入するローム（ハード）層。

⑦層・　〃　（ソフト）層。

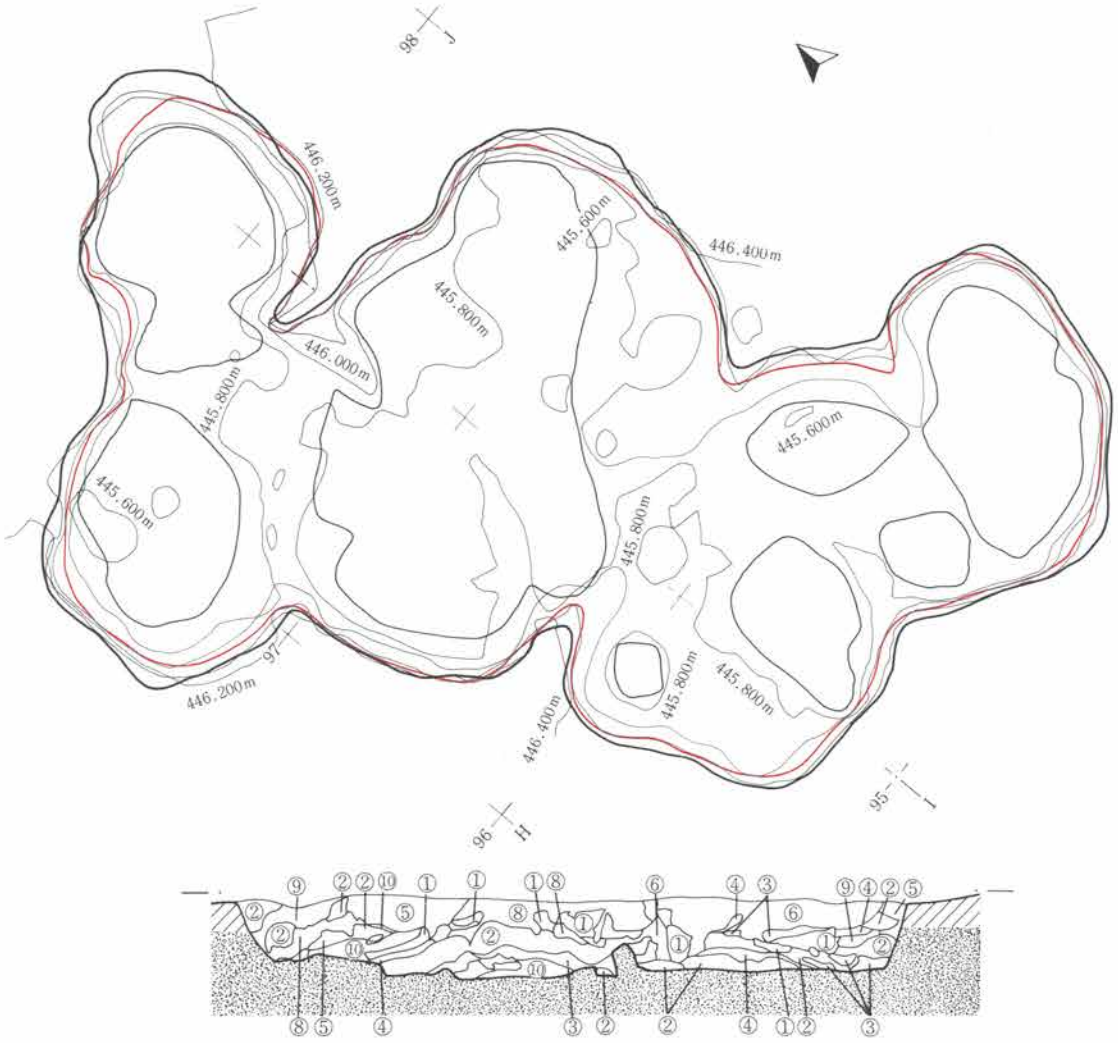
⑧層・ローム（ハード）と粘土が汚なく混在する層。

⑨層・ロームブロック（ソフト、ハード）混在する層。

第80図　第７群粘土採掘坑出土土器

第８群粘土採掘坑（第81図、図版16－２）

遺跡北側に位置し、10グリッドにわたり掘り込まれている中規模の採掘坑である。西側は第３群粘土採掘坑、東側は第９群粘土採掘坑に接している。壁面はほぼ垂直もしくは傾斜をもって立ち上がり、オーバーハングする部分は少ない。底面は細かい起伏があり多数回にわたる採掘作業の痕跡を残している。面積（開口部）は52.51㎡、白色粘土採掘量は20.31㎥を測る。１㎡当たりの粘土採掘量は0.38㎥となり、遺跡北側に位置する他群採掘坑とほぼ同様の傾向を示す。本採掘坑からは遺物の出土はない。



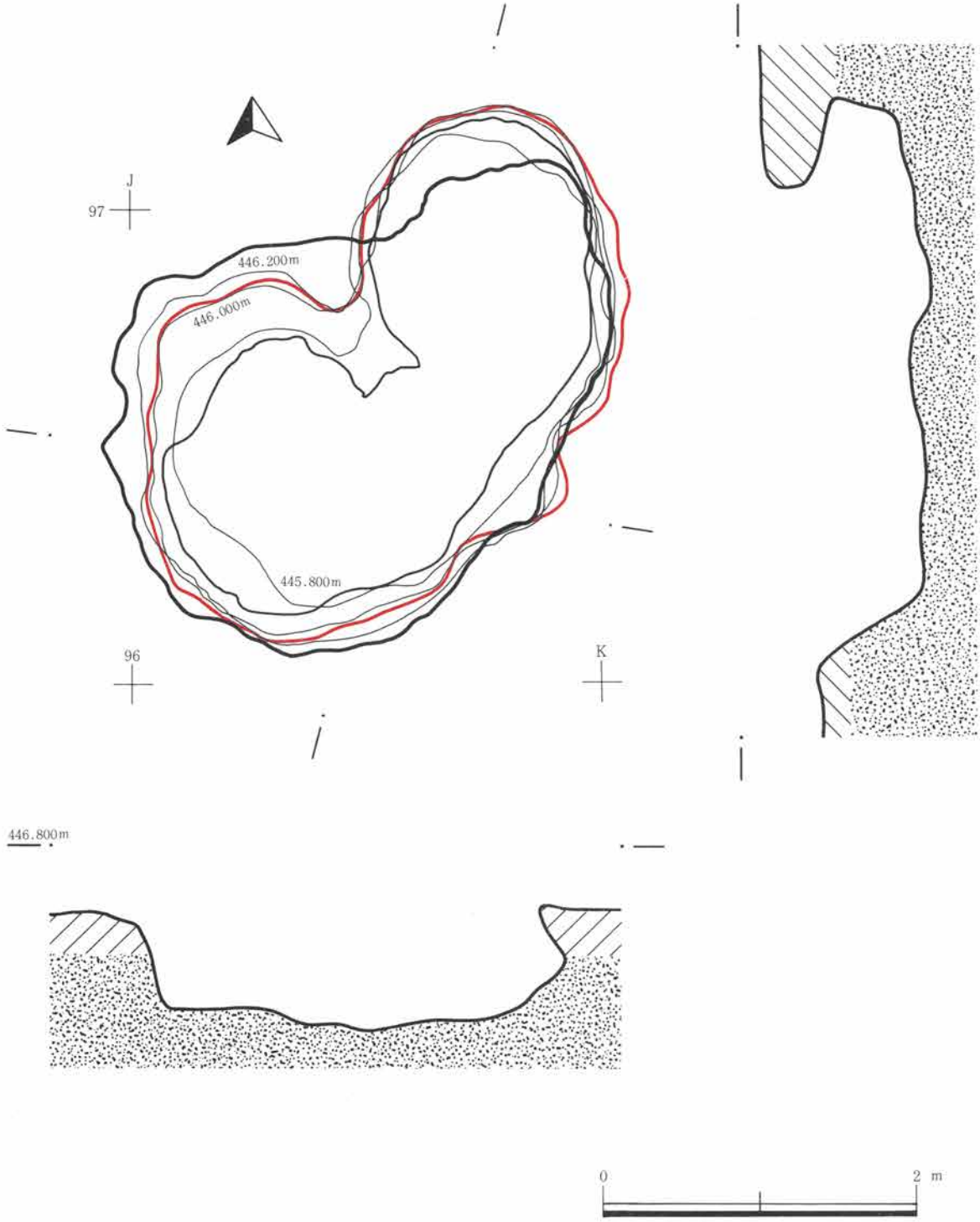
土層説明

①層・ソフトローム。
②層・ハードローム。ブロック状の層となる。色調は白色を帯びる。
③層・ロームブロックを含む黒褐色土層。
④層・ハードローム（２層）と白色粘土層（３層）の混じった土層。
⑤層・ローム粒子を含む黒色土層。
⑥層・ロームブロックを含む黒色土層。
⑦層・ローム（ソフト）ブロックを多く含む黒色土層。
⑧層・ローム粒子を多量に含む黒色土層。
⑨層・ハードローム（２層）とソフトローム（１層）との混った土層。
⑩層・粘土、黒色土、ソフトロームの混じった土層。

第81図　第８群粘土採掘坑平面図

第９群粘土採掘坑（第82図、図版16－２、17－１）

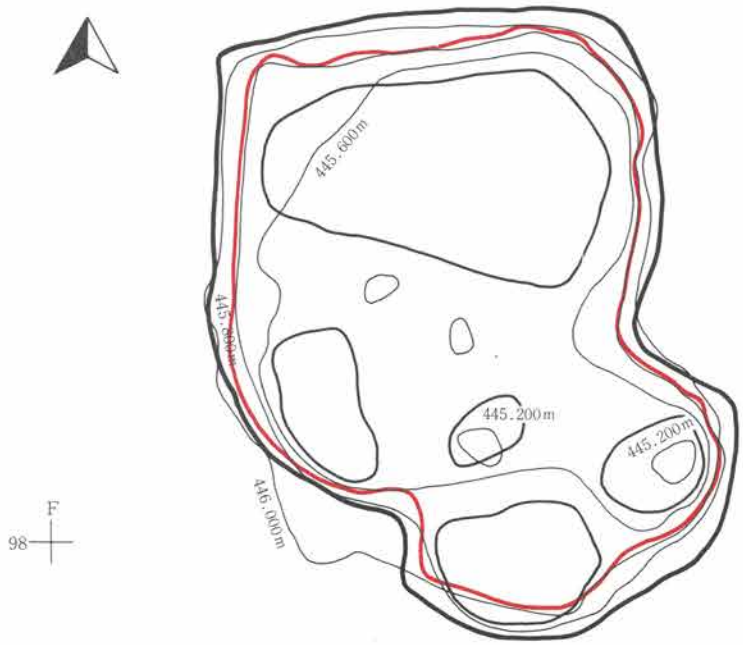
第８群粘土採掘坑に東接して掘り込まれるが、新旧関係については不明である。開口部の面積は6.82㎡、深さは約80cmを測る。壁部は北側及び東側において白色粘土が抉り取られているが、他の部分は梯形断面を呈する。白色粘土採掘量は約3.08㎥であり、１㎥あたり採掘量は0.45㎥を測る。遺物はグリット調査時において土器片が数点出土したのみである。



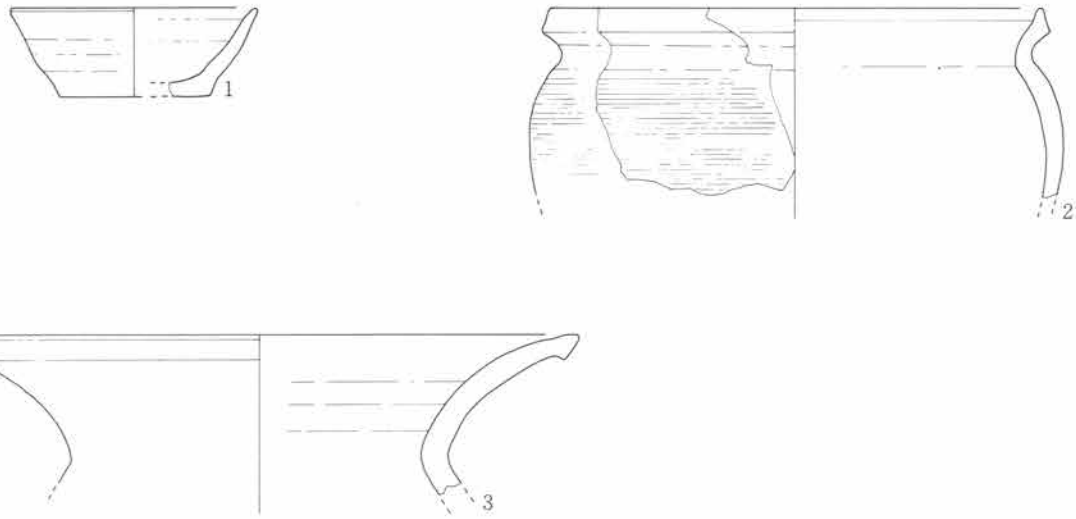
第82図　第９群粘土採掘坑実測図

第10群粘土採掘坑（第83図）

遺跡北端部、F・G—97・98グリッドに位置する。本採掘坑北側も確認調査を行ったが粘土採掘坑及びその他の遺構は検出されなかった。面積（開口部）は6.96m²を測り、第9群粘土採掘坑と同様の規模であるが、粘土採掘量は1.61m³で、1m²当たりの採掘量は0.23m³となっている。この採掘量は、今回検出された採掘坑の中で最も少なく、遺跡北端部においても南半部と同じように効率的な採掘作業には適していなかったことが示される。



第83図　第10群粘土採掘坑平面図

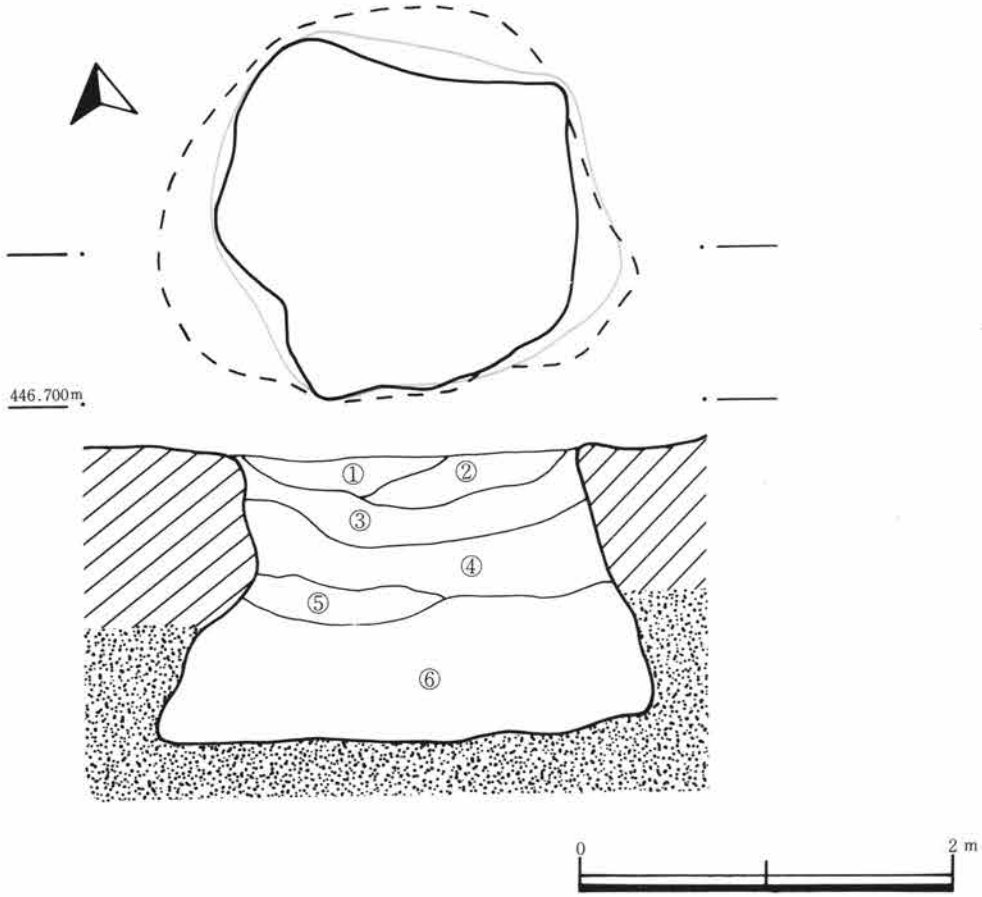


第84図　第10群粘土採掘坑出土土器

第11群粘土採掘坑（第85図、図版17－２）

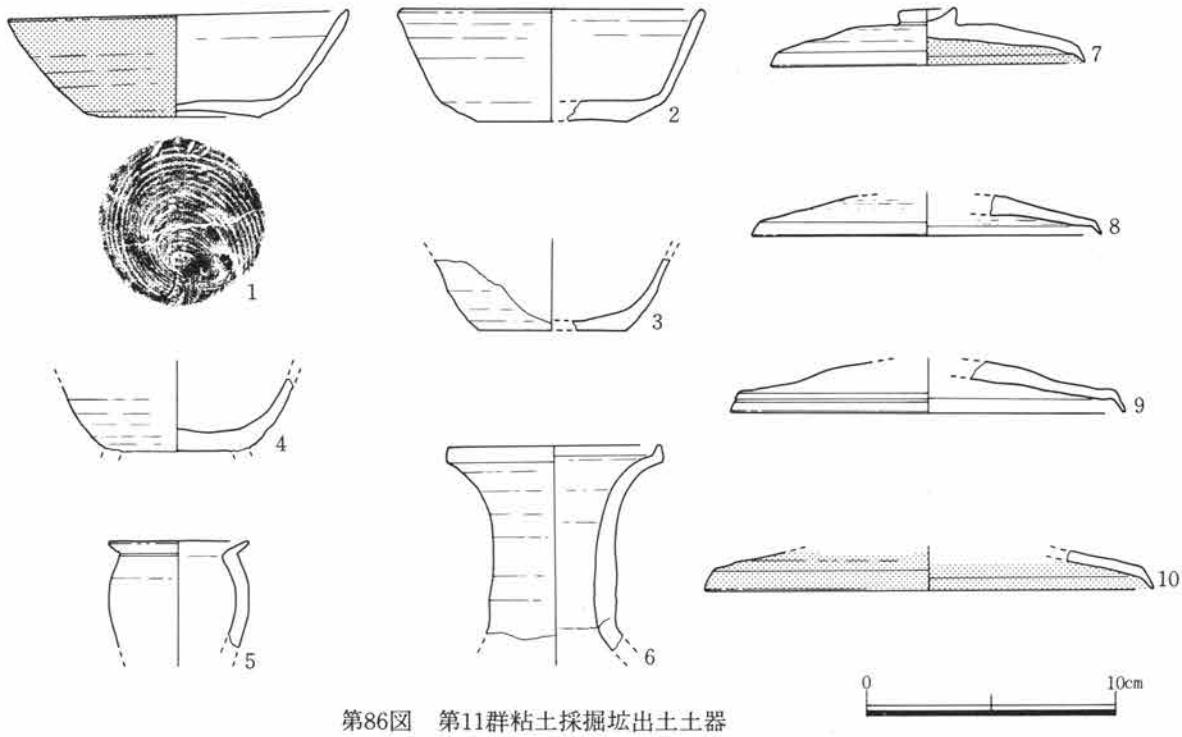
Ｈ－89グリッドに位置し、第４群粘土採掘坑の北側に近接して掘り込まれる。今回の調査により検出された採掘坑の中で最も小規模のものである。平面形は口径１ｍの不整円形を呈し、深さは80cmを測る。白色粘土層から下部は壁部が抉り取られオーバーハングし、底径は1.4ｍを測る。底部の粘土中にはグリーンタフの小礫が含まれるが壁部には含まれないことから、他の採掘坑と同じように含有物の少ない良質の白色粘土のみを目的として採掘している。開口部面積は2.69㎡、粘土採掘量は0.94㎥であり、１㎡あたりの採掘量は0.35㎥を測る。遺物は覆土上部から坏、甕等の土器類が出土している。（第86図）

本採掘坑はその規模から考えて、人間一人が作業できる大きさであり、粘土採掘作業の基本的な一単位と把えることができ、第46図の掘削工程の第２段階で終了したものである。



土層説明
①層・ロームブロックを含む黒褐色土層。やや軟質。
②層・ローム粒を含む黒褐色土層。
③層・ローム及び粘土ブロックを含む茶褐色土層。焼土も若干みられる。硬くしまっている。
④層・ローム、及び焼土ブロックを含む黒色土層。硬くしまっている。
⑤層・ローム及び粘土ブロックの混在する層。ややもろい。
⑥層・粘土、ローム、黒褐色土が混在する層。

第85図　第11群粘土採掘坑実測図



第86図　第11群粘土採掘坑出土土器

第11群粘土採掘坑出土土器観察表（1）

遺物番号(図版No.)	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
11採－1 (52－1)	須恵 坏 イブシ	13.7	6.5	4.3		体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。器外面は磨滅が著しい。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他、砂粒を多く含む。
11採－2	須恵 坏	12.4	6.0	4.5	覆土	体部下半に稜をもち、口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物も含まれる。
11採－3	須恵 坏	－	6.0	－	覆土	体部は底部からやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒も多少みられる。
11採－4	須恵 埦	－	5.8 (高台貼付部)	－	覆土	高台は貼付部より全部剝落している。外面にロクロ目が残り、底面に回転糸切り痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③体部½ ④白色鉱物粒の他、石英粒もみられる。
11採－5	須恵 小型甕	5.6	－	－	覆土	体部は球状を呈し、頸部でくびれ、口縁部は短く、くの字状に外反する。	①灰白色 ②還元 ③¼、底部欠④白色鉱物粒を多く含む。
11採－6 (52－3)	須恵 長頸壺	8.6	－	－	覆土	頸部は円柱状に立ち上がり、口縁部は開く。口唇部は尖りぎみで直立する。頸部下半内側に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③口縁～頸部④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
11採－7 (52－2)	須恵 蓋 イブシ	12.6	2.4 (ツマミ部)	2.2	覆土	天井部は左方向のヘラ削りが施され、中央部に中くぼみツマミが付く。体部はやや彎曲ぎみに開き、口唇部は尖りぎみである。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含み、石英粒もわずかにみられる。

第11群粘土採掘坑出土土器観察表（2）

11採－8	須恵蓋	14.0　－　－	覆土	体部左回転。口唇部はやや開きぎみで端部は尖る。	①青灰色　②還元　③体部 1/6　④白色鉱物粒を多く含む。
11採－9	須恵蓋	15.8　－　－	覆土	体部から口縁部にかけてわずかに彎曲ぎみに開く。口唇部は尖り、開きぎみとなる。体部左回転	①灰白色　②還元　③体部 1/6　④白色鉱物粒を多く含む。
11採－10	須恵蓋 イブシ	18.0　－　－	覆土	口唇部はやや尖りぎみで強く開く。	①褐色　②酸化　③体部 1/6　④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。

第７群及び第10群粘土採掘坑出土土器観察表

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法量 口径　底径　器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調　②焼成　③残存 ④胎土　⑤備考
7採－1 (51－10)	須恵 埦	14.0　5.8　6.0 (高台部)	覆土 J－93	体部やや彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸みをもつ。器台は肉厚で、端部がやや張り出しぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③口縁部一部欠　④白色鉱物粒が多く含まれる。石英粒も多少みられる。
10採－1	須恵 坏	19.6　－　－	覆土 G－98	小型の坏である。体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③1/5　④白色鉱物粒が多少含まれる。
10採－2	須恵 甕	10.0　6.0　3.5	覆土 F－98	最大径を体部上半にもつ。口縁部は短く、やや外反し、口唇部は尖りぎみでやや内傾する。	①灰褐色　②酸化　③口縁部片　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒も多少みられる。
10採－3	須恵 甕	25.5　－　－	覆土	口縁部は外側に大きく開き、外側に段状の面をもつ。口唇部はやや丸みをもつ。	①青灰色　②還元　③口縁部片　④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみられる。

粘土採掘坑一覧表

採掘坑	採掘面積(m²)	白色粘土採掘量(m³)	1m²当りの採掘量(m³)	備考
第 1 群	7.68	3.51	0.46	
第 2 群	13.57	3.56	0.26	
第 3 群	176.48	59.75	0.34	
第 4 群	223.15	83.55	0.37	西端部は未調査
第 5 群	23.35	6.46	0.28	西端部は未調査
第 6 群	2.49	2.07	0.44	西端部は未調査
第 7 群	20.30	8.22	0.40	
第 8 群	52.51	20.31	0.38	
第 9 群	6.82	3.08	0.45	
第 10 群	6.96	1.61	0.23	
第 11 群	2.69	0.94	0.35	粘土採掘坑最少単位

（3） 土　坑

土坑として確認された遺構は計27基である。各土坑は、遺跡中央部の台地平坦部に位置し南側斜面にはほとんど検出されていない。又、遺跡北半部には粘土採掘坑が大きく掘り込まれており、土坑と重複している。このことにより、土坑の平面プランの確認には困難が生じたため、採掘坑に関わる土坑についてグリッド調査による断面確認を行った。当然採掘坑より古い土坑は検出し得ないが、新しいものは実数に近い基数を検出し得るよう調査を行った。各土坑の時期は出土遺物により平安時代に属するものが６基、近世(江戸時代)に属するものが15基確認された。その他遺物の出土をみない土坑が６基存在する。

１号土坑（第87図、図版18－１）

Ｃ－80グリッドに位置し、第５群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形は口径130cm、底径115cmの円形プランを呈し、深さは80cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面も平坦である。覆土はロームブロック（ソフト）を含み締まりに乏しく軟弱な黒褐色土の上層とローム粒子、粘土及び炭火物を少量含み締まりに乏しい黒色土の下層に分層できる。下層は底面から平均20前後の厚さで堆積している。遺物はほとんど覆土上層から出土し、下層からは土器片３点のみ検出された。

２号土坑（第87図、図版18－２）

１号土坑の西側150cmに位置し、同様に第５群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。又、２号掘立柱建物址北西コーナーの柱穴により北壁の一部が切られている。平面形は口径125cm、底径100cmの円形プランを呈し、深さは40cmを測る。壁は粘土採掘坑を切っている関係から、ローム及び粘土ブロックを含む黒色土からなる不安定なものであり、底面は白色粘土層で作られている。覆土はこぶし大のローム、粘土ブロックを含む硬く締まった黒褐色土である。遺物は北東部壁際に底面から10cm上部に須恵器の坏が出土している。

３号土坑（第87図、図版18－３）

Ｅ－79グリッドに位置し、ローム面において検出された。平面形は開口部85cm×62cmの楕円形プランを呈し、深さは22cm、長軸方位はＮ－70°－Ｅを測る。底面は平坦であり、壁は鍋底状を呈しゆるやかに立ち上がっている。覆土はロームブロックを含む黒色土層である。遺物は須恵器の坏が６点、椀１点、土師器の甕片が出土している他、人頭大の凝灰岩も出土している。

４号土坑（第87図、図版18－４）

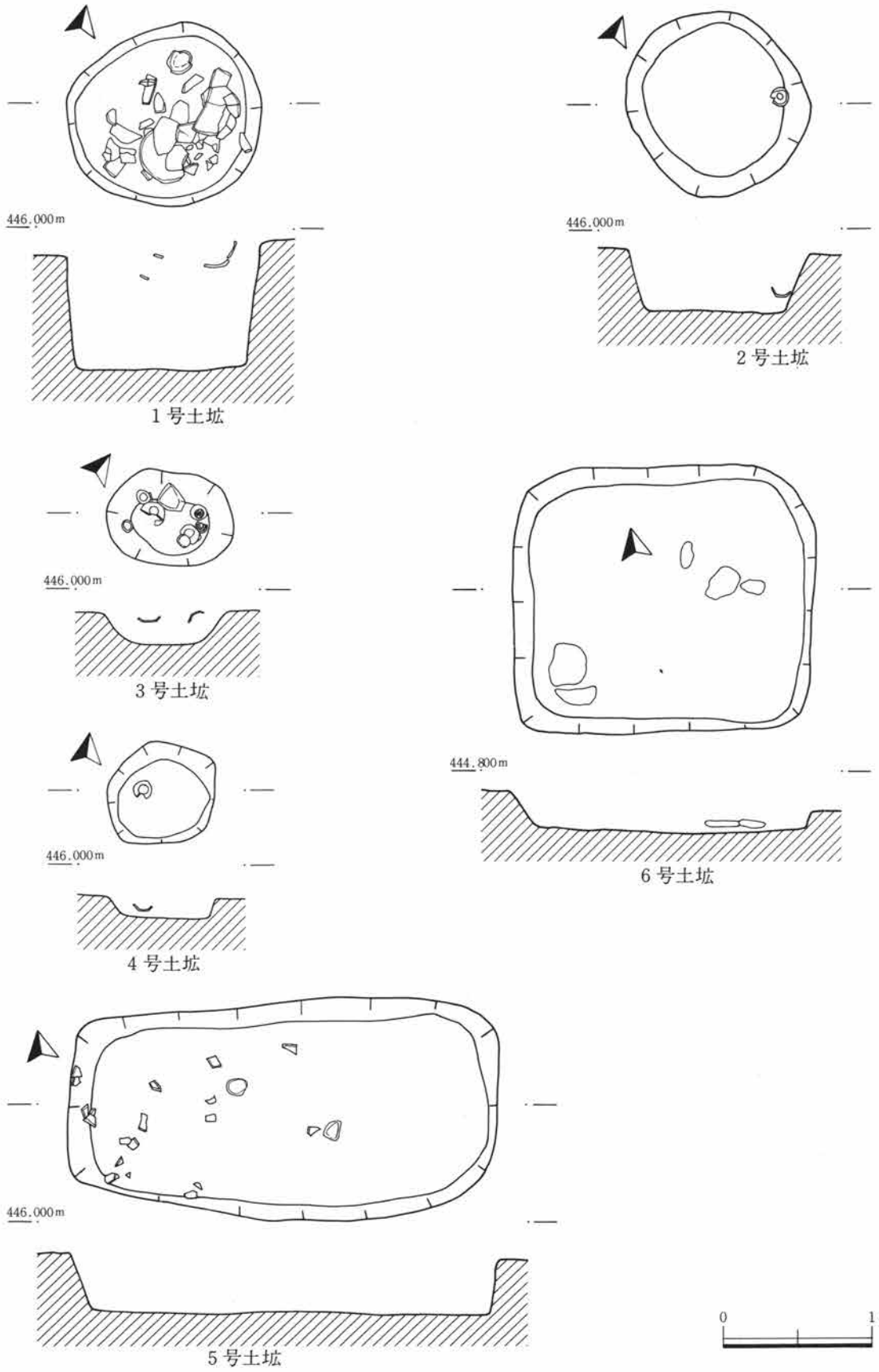
Ｅ－80グリッドポイントを中心に位置し、ローム面において検出された。平面形は口径70cm、底径55cmの円形プランを呈し、深さは15cmを測る。底面はほぼ平坦であり、壁は西側においてゆるやかなものとなっている。覆土はロームブロックを含む黒褐色土であり、遺物は須恵器の坏が１点出土している。

５号土坑（第87図、図版18－５）

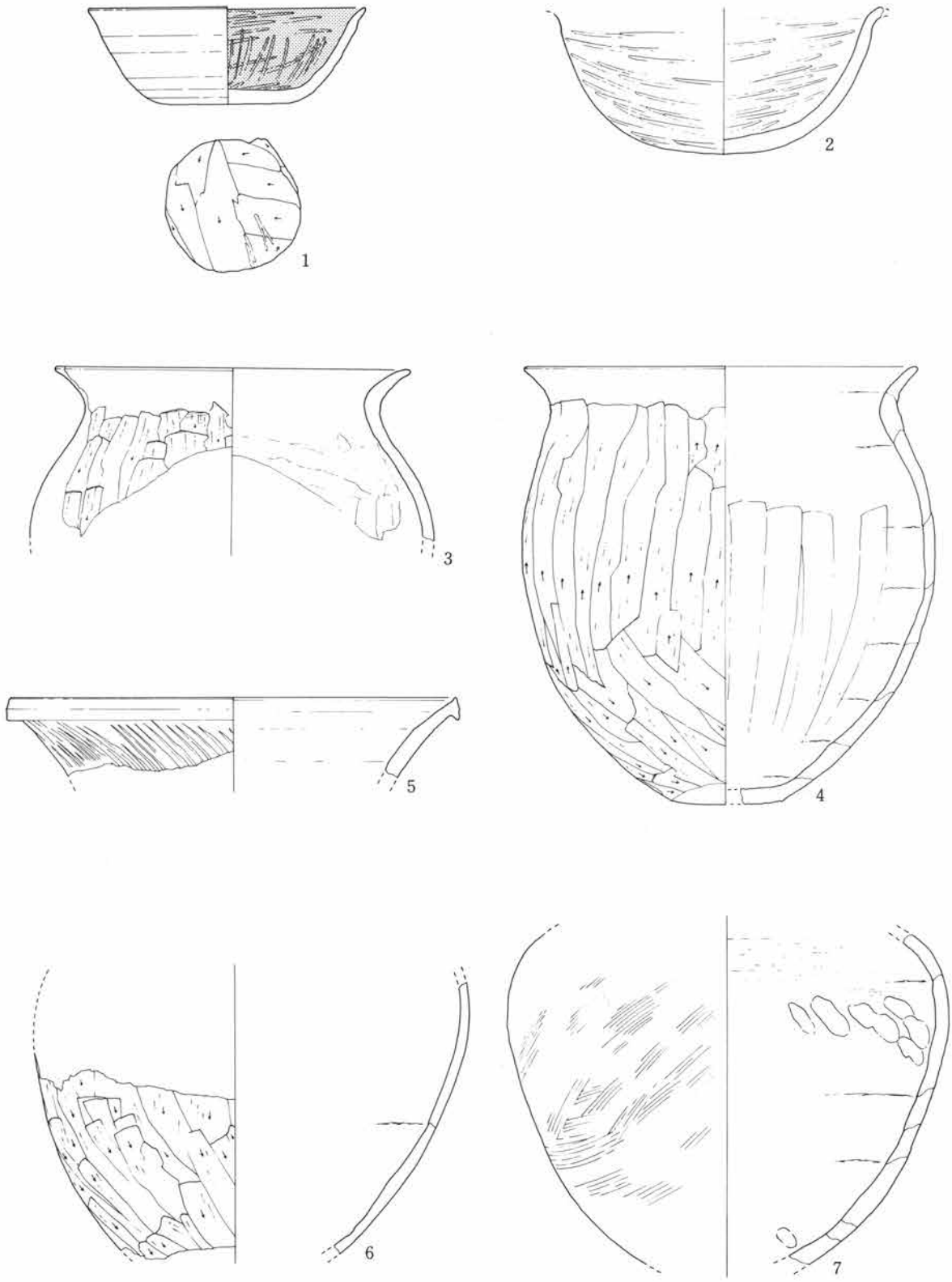
Ｊ、Ｋ－87グリッドに位置する。２号住居址南西コーナー部分を切って掘り込まれている。平面形は開口部288cm×144cmの楕円形プランを呈し、深さは42cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

６号土坑（第87図、図版18－６）

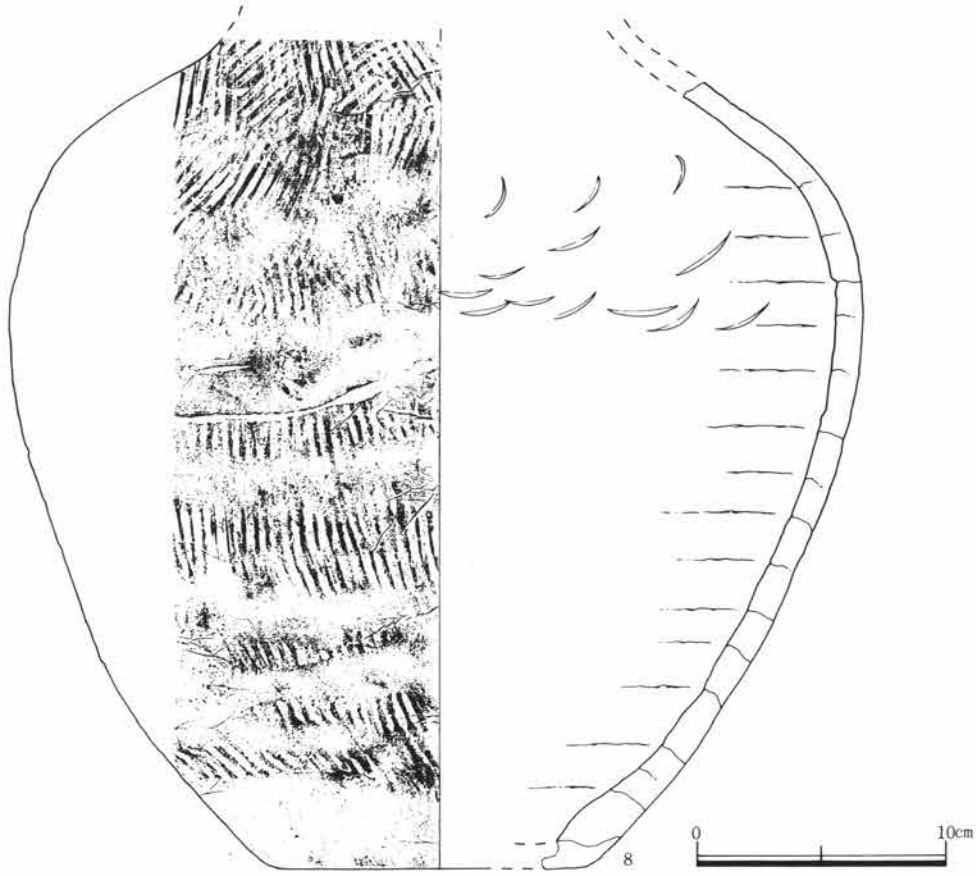
Ｊ・Ｋ－76グリッドに位置する。７号住居址西側に接して検出された。平面形は長辺２ｍ×短辺1.7ｍの長方形を呈するが、各コーナーは丸みをもつ。残存壁高は西側で22cm、東側で12cmを測り、底面は細かい起状がみられるがほぼ平坦である。又土坑内には偏平な河原石が数個検出されているが、使用痕もしくは焼火等の痕跡は認められない。遺物は床面に接して須恵器の破片が数片出土している。


446.000m
1号土坑
446.000m
2号土坑
446.000m
3号土坑
446.000m
4号土坑
444.800m
6号土坑
446.000m
5号土坑
0
1 m

第87図　土坑実測図



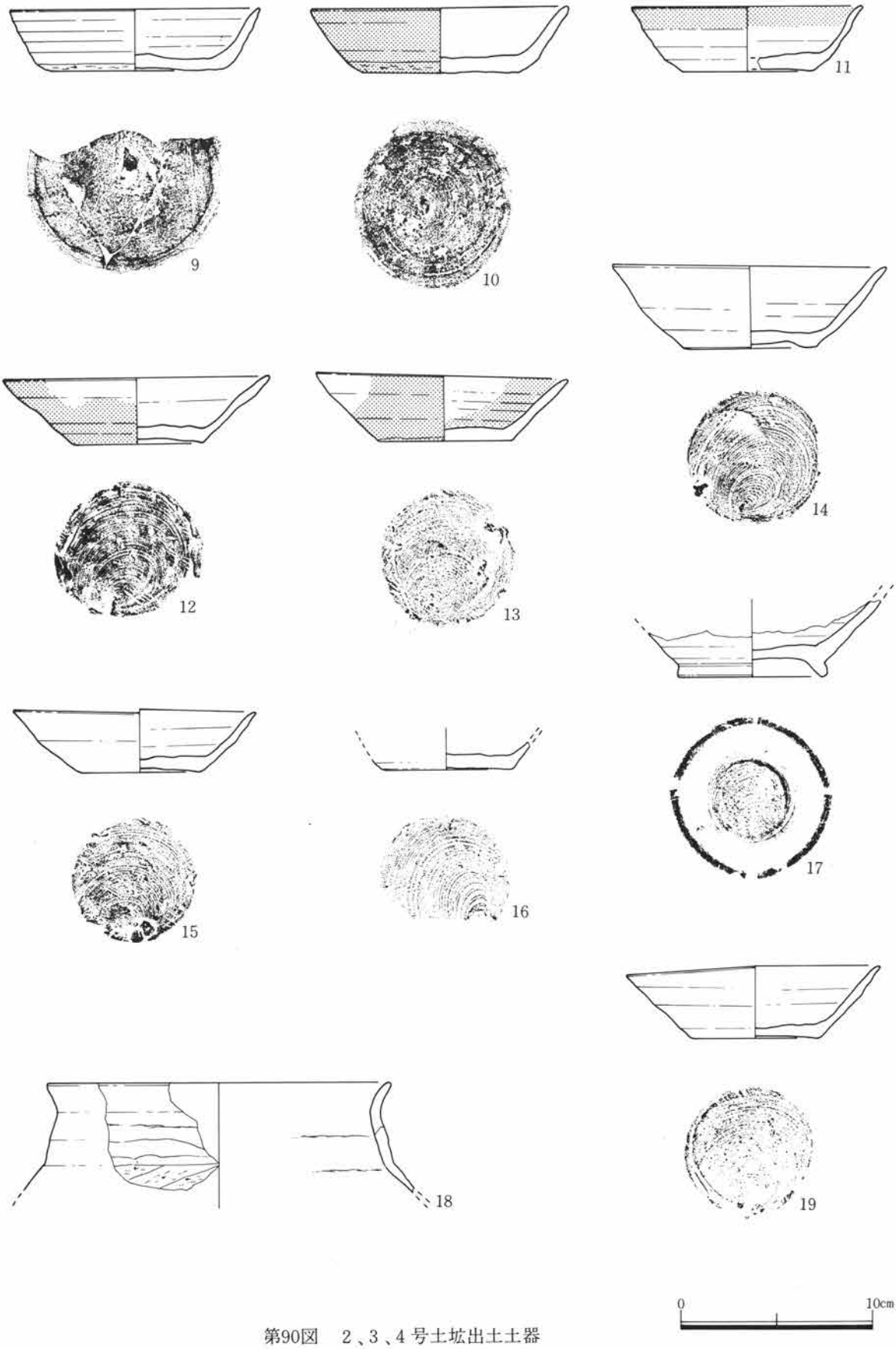
第88図　1号土坑出土土器(1)



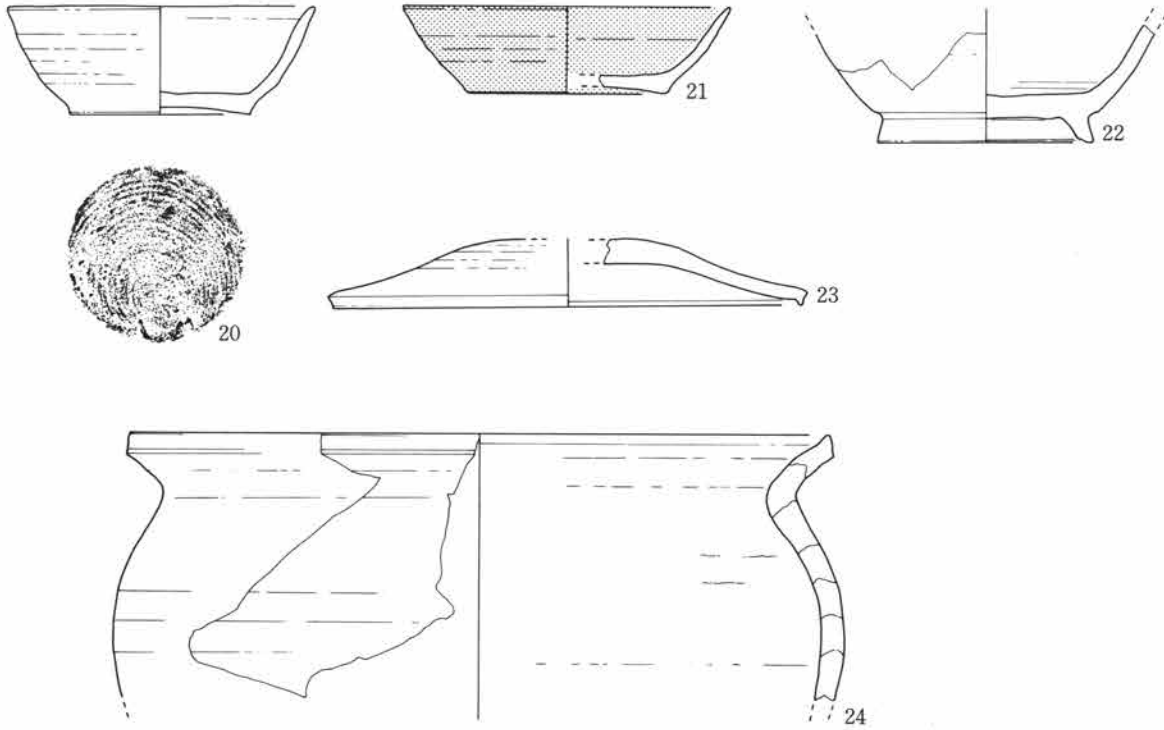
第89図　1号土坑出土土器(2)

1号土坑出土土器観察表

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調　②焼成　③残存 ④胎土　⑤備考
1 (53—1)	土師 坏 内黒	18.4	8.7	6.4	1土坑	法量の大きな坏である。内面は不充分な内黒処理が行なわれ、体部にはロクロ目が残る。底面はヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③⅓　④鉱物粒を含む。
2	土師 鉢	—	—	—	1土坑	底部から体部は彎曲しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横ナデ、体部内外面は横位の磨ぎが　　に行われる。	①褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3 (53—2)	土師 甕	23.5	—	—	1土坑	口縁部はくの字状に外反し、口唇部は丸みをもつ。口縁部は横ナデ、体部は上から下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③体部欠　④白色鉱物粒を含む。
4 (53—3)	土師 甕	25.9	7.3	28.6	1土坑	口縁部はくの字状に外反し、体部は球状を呈する。口縁部は横ナデ。体部上半は上方向への、下半は下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③⅚　④鉱物粒を含む。
5	須恵 甕	29.4	—	—	1土坑	口唇部は尖りぎみで、外側に面をもつ。口縁部は大きく外反する。	①灰白色　②還元　③口縁部⅓　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。 ⑤8と同一個体と思われる。
6 (53—4)	土師 甕	—	—	—	1土坑	体部下半部。右方向へのヘラ削りが施される。	①褐色　②酸化　③体部⅔　④砂粒、鉱物粒を含む。



第90図　2、3、4号土坑出土土器



第91図　5号土坑出土土器

1・2・3・4号土坑出土土器観察表

7	甕		1土坑	体部は球状を呈す。器内外面に整形痕が明瞭に残る。	①褐色　②酸化　③体部⅓　④白色鉱物粒を含む。
8 (53－6)	須恵 甕	－　14.5　－		器内外面にタタキ目整形痕が明瞭に残る。	①灰白色　②還元　③口縁部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
9 (54－1)	須恵 坏	13.1　9.0　3.2	2土坑	器高が低く、底径の大きな坏である。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面はヘラ削りが行なわれ、体部下端に一条ヘラ削りがみられる。	①灰白色　②還元　③½　④白色鉱物粒を含む。
10 (54－2)	須恵 坏 イブシ	13.6　8.1　3.4	2土坑	器高が低く、底径の大きな坏である。底面及び体部下端に左回転ヘラ削りが行なわれる。	①灰褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒を多量に含む他、石英粒もみられる。
11 (54－3)	須恵 坏 イブシ	12.1　7.0　3.4	3土坑	体部にロクロ目が残り、口唇部は丸みをもちやや外反する。底面に右回転転糸切り痕。口縁部に沿って炭素の吸着がみられる。	①褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
12 (54－4)	須恵 坏 イブシ	14.0　6.7　3.4	3土坑	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
13 (54－5)	須恵 坏 イブシ	13.3　7.0　3.4	3土坑	口縁部が大きく歪む。体部は直線的に立ち上がり口唇部は尖りぎみ。底面に左回転糸切り痕。炭素の吸着は不完全だが、器内外面にみられる。	①灰褐色　②酸化　③¾　④白色鉱物粒、石英粒を含む。

3・4・5号土坑出土土器観察表

14 (54－6)	須恵 坏	14.3　7.0　4.1	3土坑	体部はわずかに彎曲し、口縁部はやや外反ぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③¾　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
15 (54－7)	須恵 坏	12.7　6.3　3.1	3土坑	口縁部がやや歪み器体に亀裂が入る。体部はやや脹らみをもち、口縁部は外反ぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③完形　④白色鉱物粒を含む。
16	須恵 坏	－　6.7　－	3土坑	底面に左回転糸切り痕。	①褐色　②酸化　③底部⅔　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
17 (54－8)	須恵 埦	－　7.8　－ (高台部)	3土坑	高台の貼付は丁寧であり、底面に回転糸切り痕。高台は低く丸みをもちやや張り出しぎみである。	①灰褐色　②酸化　③口縁部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
18	土師 甕	18.0　－　－	3土坑	コの字状口縁を呈する甕である。	①褐色　②酸化　③口縁部片　④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
19 (54－9)	須恵 坏	13.3　6.6　3.7	4土坑	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色　②還元　③完形　④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
20 (54－10)	須恵 坏	12.3　7.2　4.3	5土坑	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③⅓　④白色鉱物粒および石英粒を含む。
21	須恵 坏 イブシ	13.1　8.0　3.5	5土坑	器厚は比較的薄く、体部はやや彎曲ぎみで口唇部は尖りぎみに立ち上がる。体部にはロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色　②酸化　③¼　④白色鉱物粒および石英粒を含む。
22	須恵 壺	－　8.6　－ (高台部)	5土坑	高台の貼付は丁寧である。体部上半欠。	①灰白色　②還元　③底部½　④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
23	須恵 蓋	18.8　－　－	5土坑	天井部から体部にかけやや彎曲ぎみに開く。口唇部は垂直に屈曲し外側に面をもつ。	①灰褐色　②酸化　③ツマミ部欠　④白色鉱物粒、石英粒を含む。
24	須恵 甕	28.0　－　－	5土坑	口縁部は短く、くの字状に外反する。口唇部は尖りぎみに直立し外側に面をもつ。	①灰褐色　②酸化　③口縁～体部片　④白色鉱物粒を含む。

（4）　骨蔵器出土遺構

骨蔵器を伴う遺構は２ケ所検出された。第１群粘土採掘坑と重複する７号土坑から№１・№２骨蔵器が検出されている。№３骨蔵器を出土するＬ―76グリッド遺構はわずかに掘り込みが確認されたが、全体的には撹乱が著しく土坑としての形状は把握できなかった。

７号土坑（第92図、図版19―１）

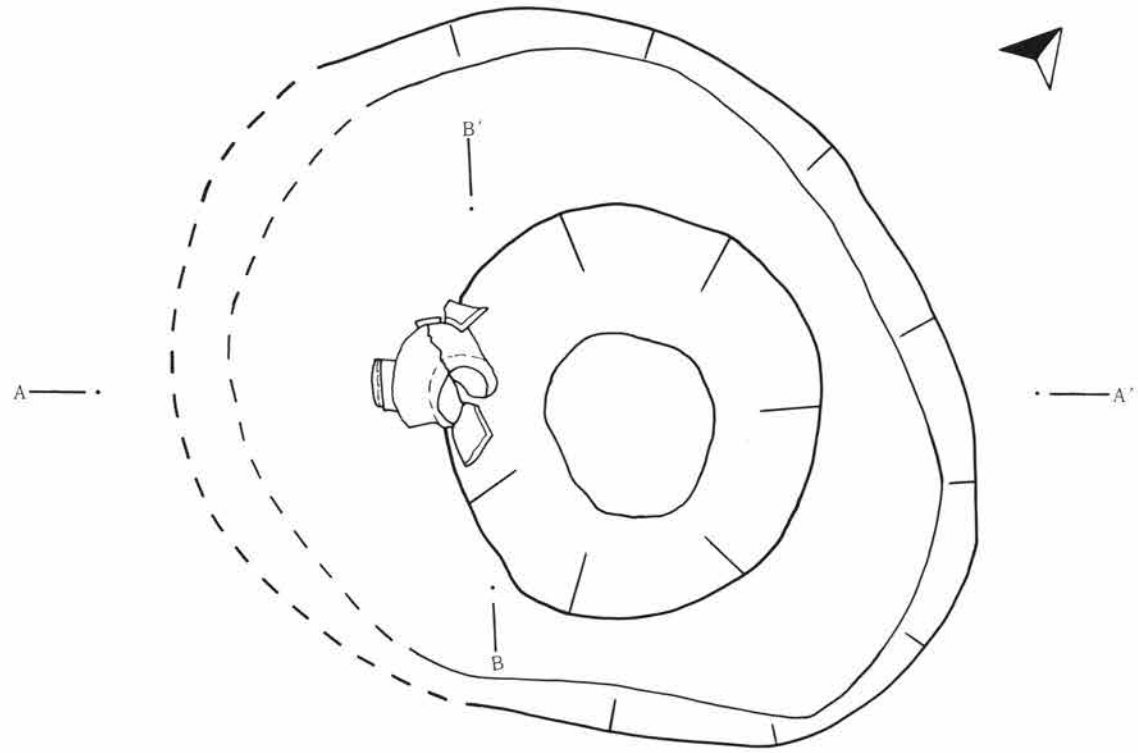
Ｃ―94グリッドに位置し、南壁部を第１群粘土採掘坑によって切られている。平面形は2.3m×1.8mの楕円形を呈し、中央部に径1.1m、深さ50cmの規模の円形の掘り込みがあり、段状の土坑となっている。№１骨蔵器は、土坑上段部に横倒し状態で検出された。口縁部及び底部を一部欠くがほぼ完形である。№２骨蔵器は、第１群粘土採掘坑に切られているため採掘坑側へ傾斜した状態で検出された。口縁の一部を欠くがほぼ完形である。その他覆土中から第94図１～３の土器類が出土している。

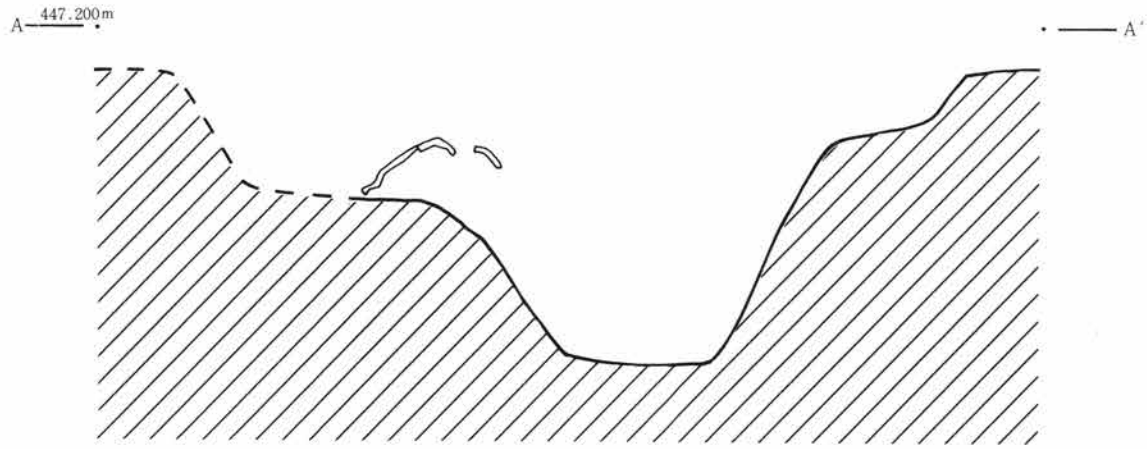
Ｌ―76グリッド遺構（第93図、図版19―４）

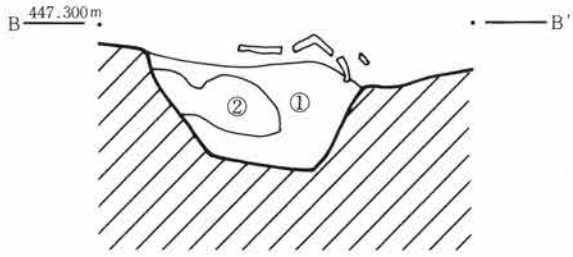
№３骨蔵器は予備調査の際検出され、７号住居址を切って埋置されている。掘り方は耕作等の撹乱によりほとんど残っていないが、トレンチ調査時土層断面下部にわずかに掘り込みが確認された。又７号住居址床面をわずかに掘り込んでいる。骨蔵器は口縁部及び体部の一部を欠き、耕作等により当初の原位置は失われているが、大きな移動はないと考えられる。骨蔵器内には土が詰っており、この中に骨片が検出されている。周囲には河原石による石組状のものが検出されている。これらの石も出土状態から№３骨蔵器に伴うものと判断されるが、やはり撹乱による移動が認められ、本来どのような形で用いられているのかは不明である。又、骨蔵器に伴うと考えられる蓋についてもすでに失われており検出されなかった。

７号土坑及びＬ―76グリッド出土土器観察表

遺物番号（図版№）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
1	須恵 坏 イブシ	12.9	6.5	3.5	７土坑	体部はやや彎曲し立ち上がり、ロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。燻焼成であるが、底部内外面には炭素の吸着はみられない。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
2	須恵 埦 イブシ	11.4	6.0	5.4	７土坑	体部は下半でやや彎曲し、上半は直立ぎみに立ち上がる。高台は貼付、成形ともに丁寧で端部は平坦。器内外面とも均一に炭素吸着する。	①灰白色 ②還元 ③⅓ ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
3	須恵 坏	―	6.8	―	７土坑	底面に右回転糸切痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒を含む。
4（19―２）	須恵 甕	29.4	13.9	21.8	７土坑	最大径を口縁部および体部上半にもつ。頸部は強く括れ、口縁部は短く、外側に凹面をもち、口唇部は尖りぎみに立ち上がる。	①青灰色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒も多少含まれる。
5（19―３）	骨蔵器	17.8	16.6	19.5	７土坑	体部は円筒状を呈し、口縁部は雑な成形である。	①灰白色 ②還元 ③一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
6（19―５）	須恵 壺	15.0	9.4	20.5	Ｌ―76	底面に左回転糸切痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒の他石英粒も多少含まれる。

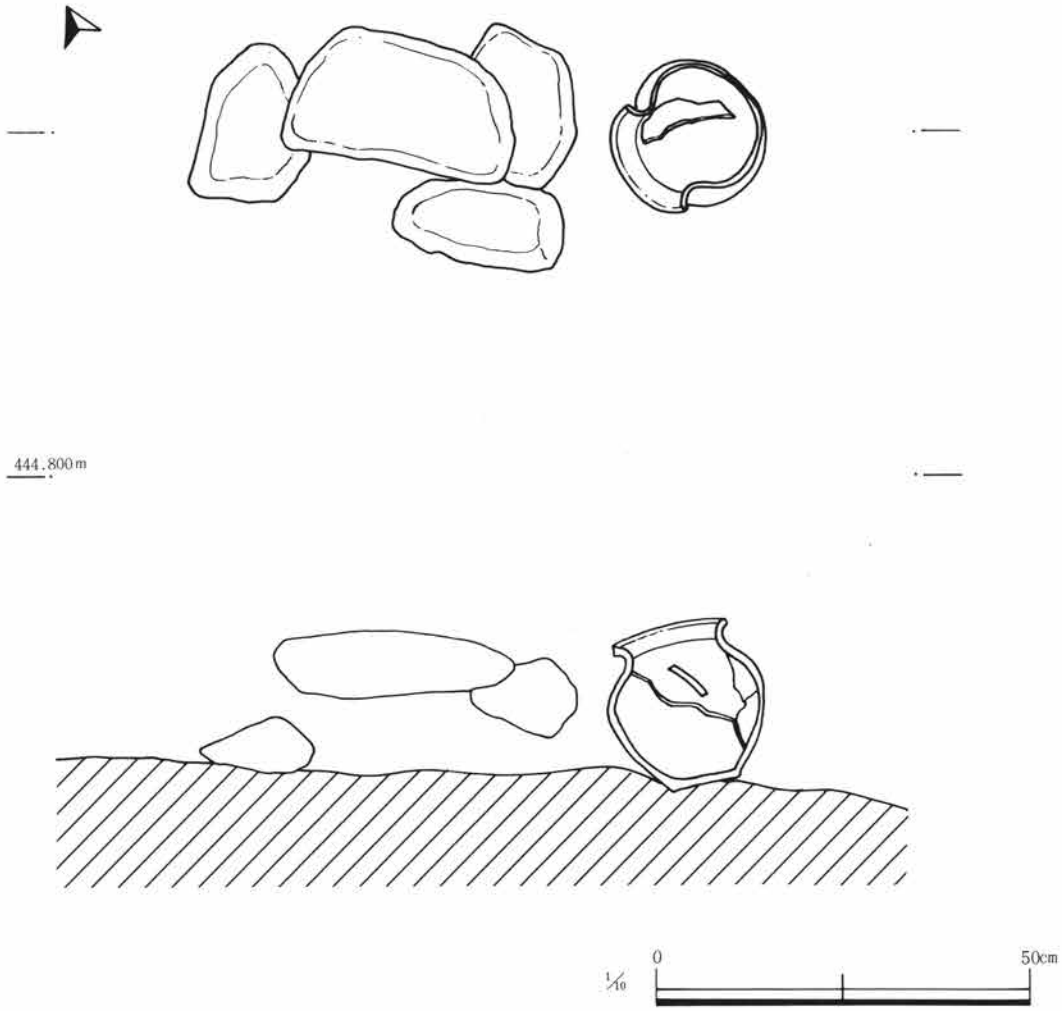


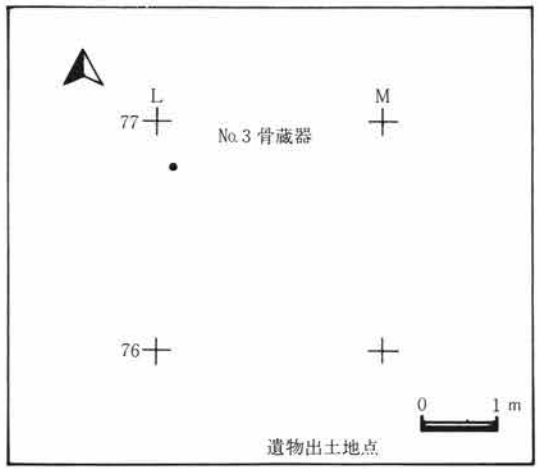




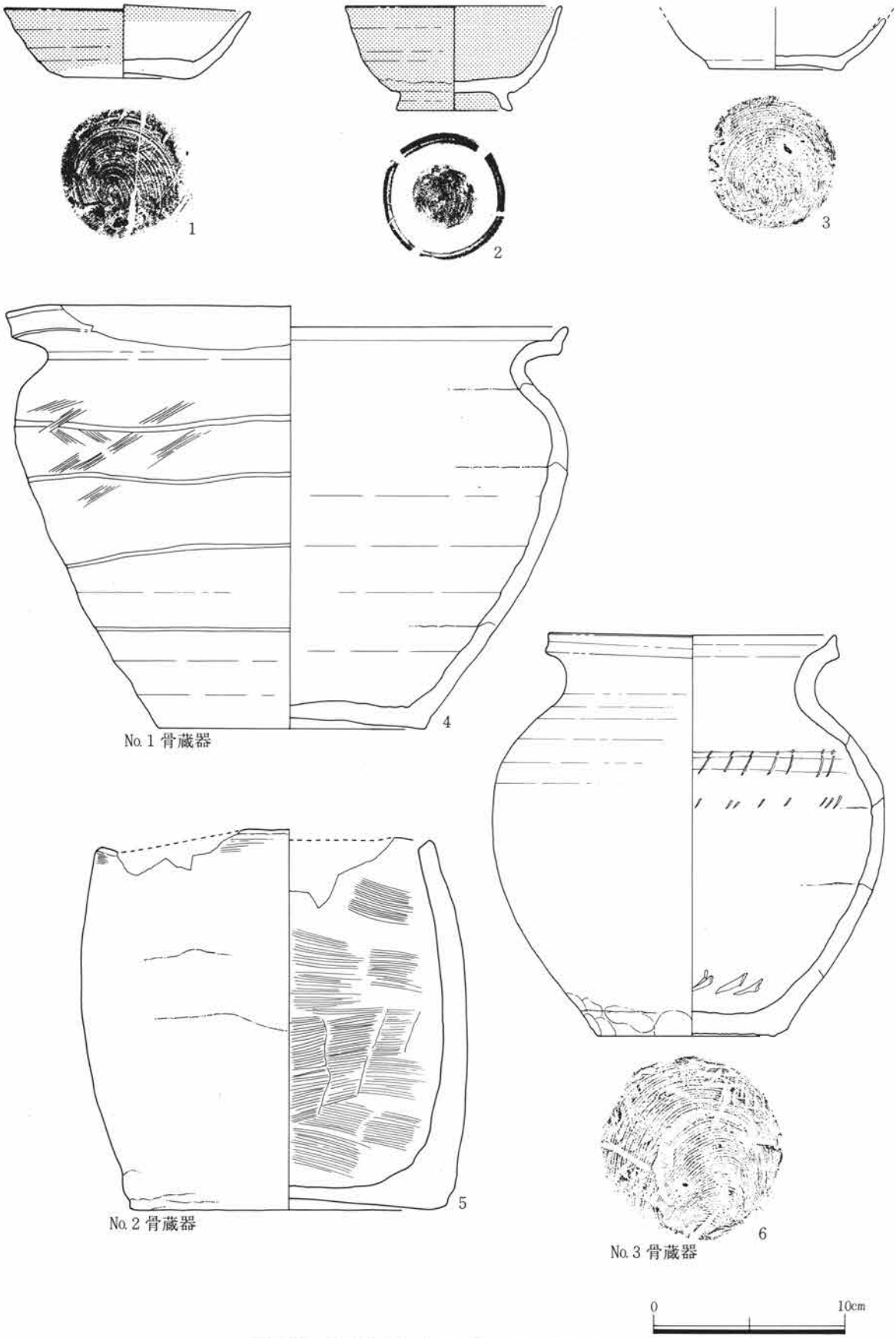
土層説明
①層・ローム粒子を含む黒色土層。
②層・黒色を少し含むローム層。

第92図　7号土坑実測図

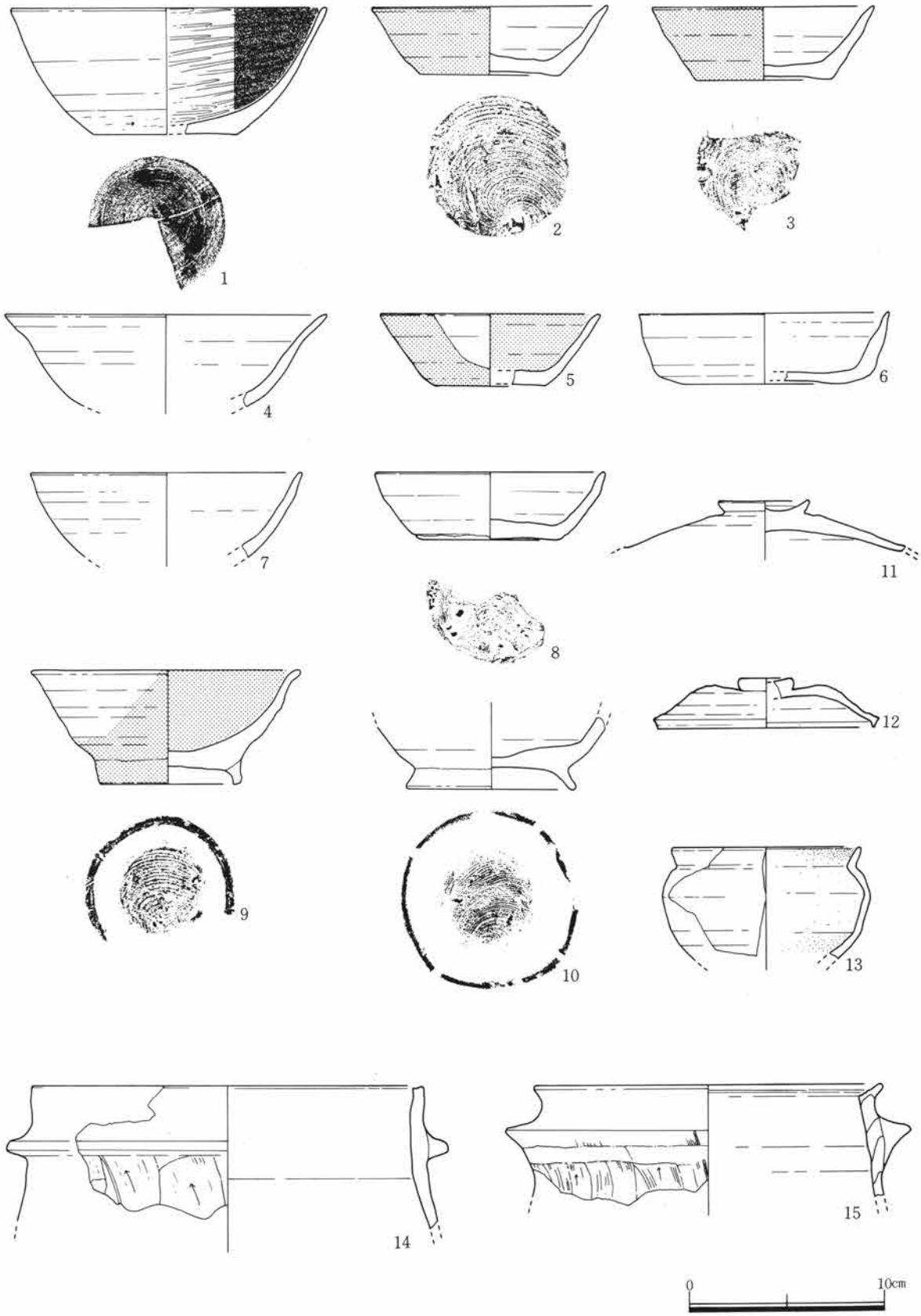




第93図　No.3 骨蔵器出土状態図（L−グリッド）



第94図　7号土坑、L-76グリッド出土土器



第95図　グリッド出土土器

グリッド出土土器観察表

遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
1 (52—4)	土師 坏 内黒	16.2	7.2	6.4	3トレ	体部は彎曲ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。内黒の坏である。内面はよく磨かれ光沢をもつ。底面は右回転ヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③¾ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
2 (52—5)	須恵 坏 イブシ	12.0	7.2	3.4	C—76	体部はわずかに張らみ、口縁部はやや外反ぎみに開く。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒が多く含まれる他、夾雑物は少ない。
3	須恵 坏 イブシ	11.4	7.0	3.7	B—83	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒が多く含まれる。
4	須恵 坏	16.5	—	—		体部はやや丸みをもち、口縁部はゆるやかに外反する。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓、底部欠④石英粒がわずかに含まれる。
5	須恵 坏 イブシ	11.3	5.6	3.7	B—83 1層	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。器外面及び口縁部内側に炭素の吸着がみられ黒色を呈する。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③¼ ④白色鉱物粒を多く含む。
6	須恵 坏	12.8	8.0	3.6	J・K—82・83	底径が大きく、器高が低い。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり器肉が厚く、口唇部は尖りぎみである。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③⅓ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む他、石英粒もわずかにみられる。
7	須恵 坏	14.0	—	—	B—83 1層	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みをもち、わずかに外傾する。	①青灰色 ②還元 ③¼、底部欠④白色鉱物粒を多く含む。
8	須恵 坏	11.8	7.0	3.3	B—82 1層	体部はやや彎曲し、口唇部は丸みをもつ。底部は肉厚で底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③¼ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
9 (52—6)	須恵 椀 イブシ	13.8	7.3	5.8	B—87	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部はやや外反する。口唇部は丸みをもつ。高台部は円筒状を呈し、端部は平坦、底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒も含まれる。
10	須恵 椀	— (高台部)	8.7	—	C—76	高台の貼付は丁寧で、強く張り出し端部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
11	須恵 蓋	— (ツマミ部)	4.7	—	B—83 1層	天井部中央に扁平なボタン状ツマミが付く。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。
12 (52—8)	須恵 蓋	11.0 (ツマミ部)	2.8	2.5		天井部は高く、口縁部に稜をもつ。口唇部は垂直に屈曲し、端部は尖り外側に凹線が巡る。	①灰白色 ②還元 ③⅔ ④石英粒がわずかに含まれる。
13	須恵 小型甕	9.6	—	—	F—86 1層	口縁部は短く、くの字状に外反し、口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③⅙ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
14 (52—10)	須恵 羽釜	20.0	—	—	4トレ	口縁部はほぼ直立し、口唇部は平坦面をもつ。鍔は丸みをもち、しっかり付着する。体部には下から上方向へのヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む他石英粒もみられる。
15 (52—9)	須恵 羽釜	17.8	—	—	B—83	口縁部は短く、口唇部は外側に強く張り出し、上面には凹線が数条巡る。鍔は三角形を呈し、体部は下から上方向へのヘラ削りが施される。	①灰白色 ②還元 ③口縁部¼ ④黒色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒もわずかにみられる。

2、近世の遺構と遺物

（1）　掘立柱建物址

遺構（柱穴）は全てローム上面で検出される。この段階で柱穴プラン内の掘り下げ、及び半載を行い平面もしくは断面による柱痕の確認調査を行ったが、掘立柱建物址として摘出し得たものに関しては確認できなかった。又、掘立柱建物に伴うと考えられる柱穴は遺構中央部を中心にかなり多く検出されたが、建物址として摘出し得たものは6棟である。

1号掘立柱建物址（第97図、図版20－1）

2号掘立柱建物址と重複し、調査区域西端に接して検出され建物址西半は不明である。柱穴掘り方は円形であり、径は平均40cmを測り、主軸方位はN－16°－Eである。柱間は桁行7.8m、梁行は不明である。又、本址に伴う遺物は検出されていない。

2号掘立柱建物址（第99図、図版20－1）

本址西側で1号掘立柱建物址と重複し、一部は1号・2号及び3号土坑を切っている。規模は梁行2間(5.5m)×桁行2間(12.0m)、主軸方位はN－14°－Eを測る。柱穴掘り方は円形であり、径は平均45cm内外である。P5とP6間に存在すると考えられる柱穴は未検出である。西側にP8・P9が検出されたが、これは廂と考えられるが、P9に直交する北西部の柱穴は検出できなかった。柱間は梁行5.5m、桁行5.6m。

3号掘立柱建物址（第100図、図版20－2）

遺跡南半中央部に位置する。1間（6.0m）×1間（7.9m）の掘立柱建物址である。主軸方位はN－15°－Eを測る。柱穴掘り方は円形を呈し径は40cm内外である。検出されたP1からP4以外の柱穴は確認できなかった。

4号掘立柱建物址（第98図、図版21－1）

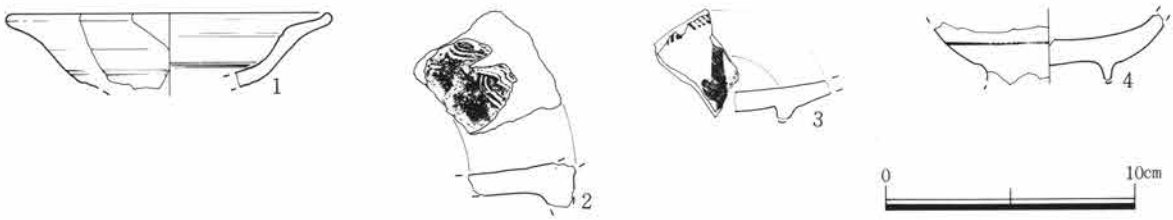
3号及び4号住居址の東側に位置する。又、P1は5号住居址南東コーナーを切って掘り込まれている。規模は1間（4.5m）×2間（5.4m）、主軸方位はN－8°－Eを測る。柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均45cm内外であり、P2及びP5内からは礫が検出されている。柱間は梁行4.5m、桁行2.7mである。

5号掘立柱建物址（第101図、図版21－2）

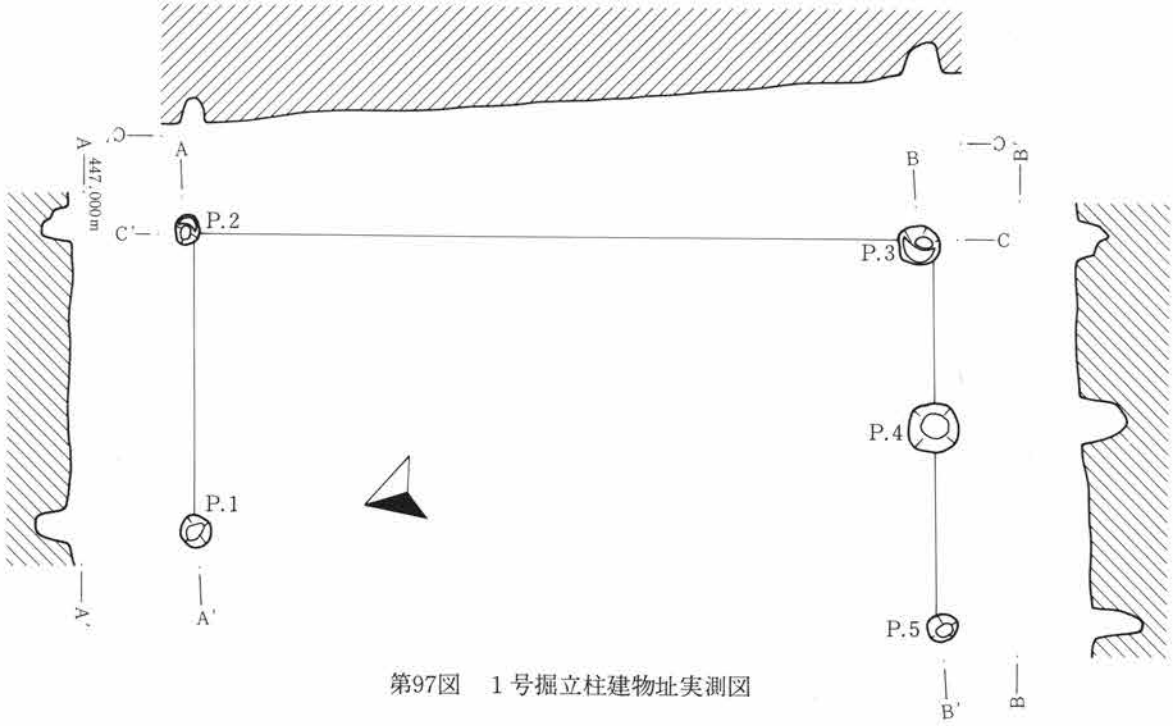
遺跡北半東側に位置する1間（4.0m）×2間（4.0m）の掘立柱建物址である。6号掘立柱建物址と大きく重複するが新旧関係は不明である。又、P6は12号土坑を切って掘り込まれている。主軸方位はN－6°－Eである。柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均40cm内外であり、柱間は梁行4.0m、桁行2.0mである。

6号掘立柱建物址（第102図、図版21－2）

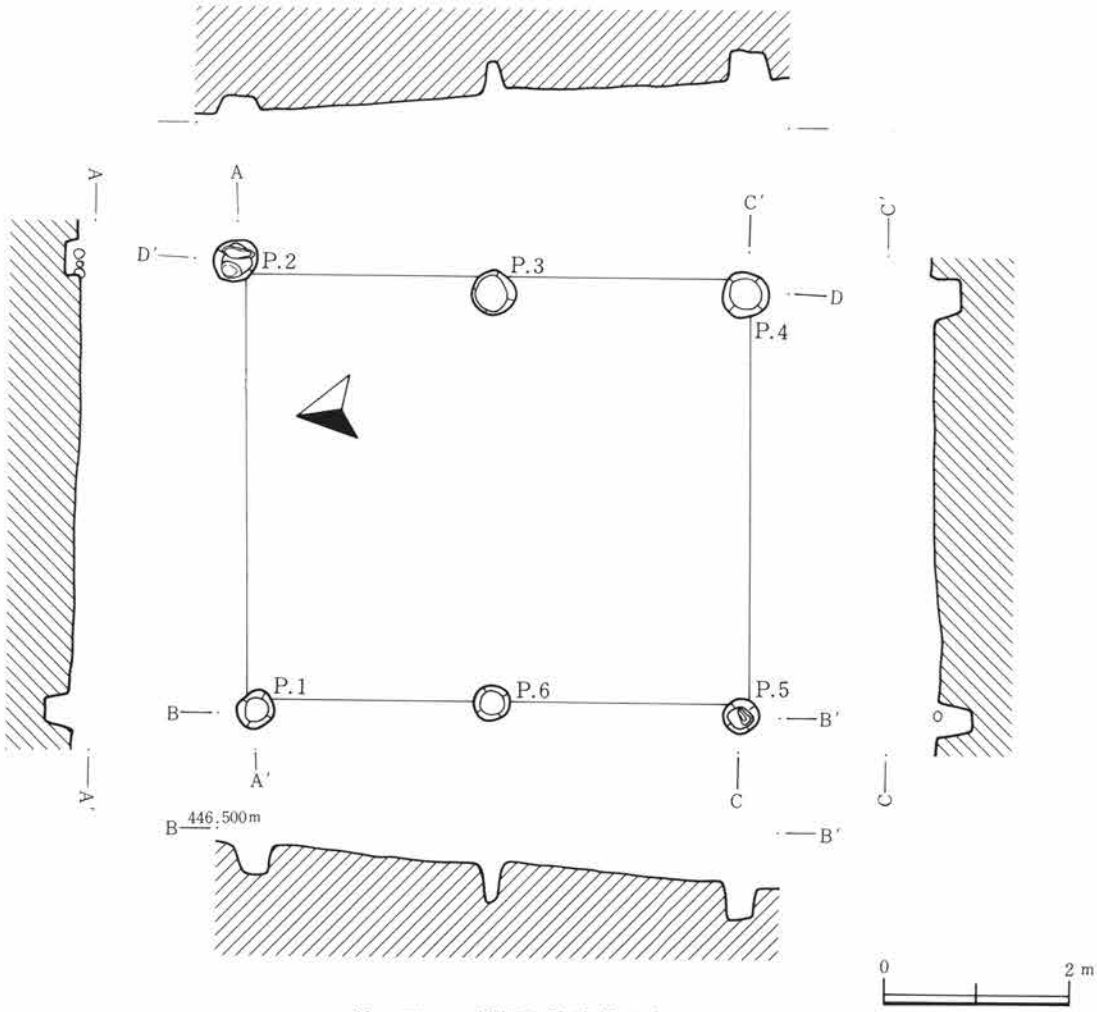
5号掘立柱建物址と重複する1間(3.85m)×2間(4.3m)の掘立柱建物址である。主軸方位はN－96°－Eを測り、柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均40cm内外である。柱間は梁行3.85m、桁行2.0mである。



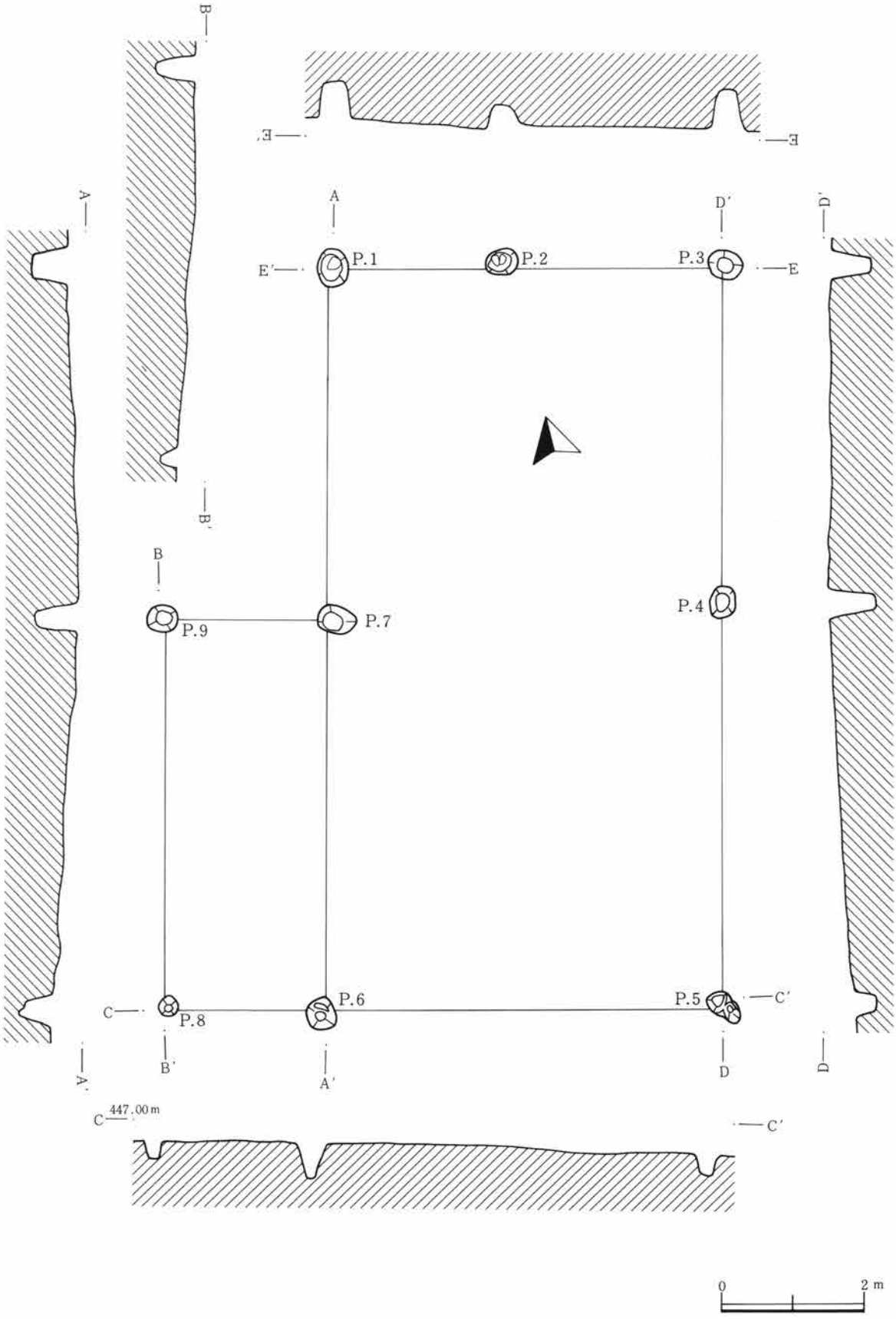
第96図　3・4号掘立柱建物址関係遺物



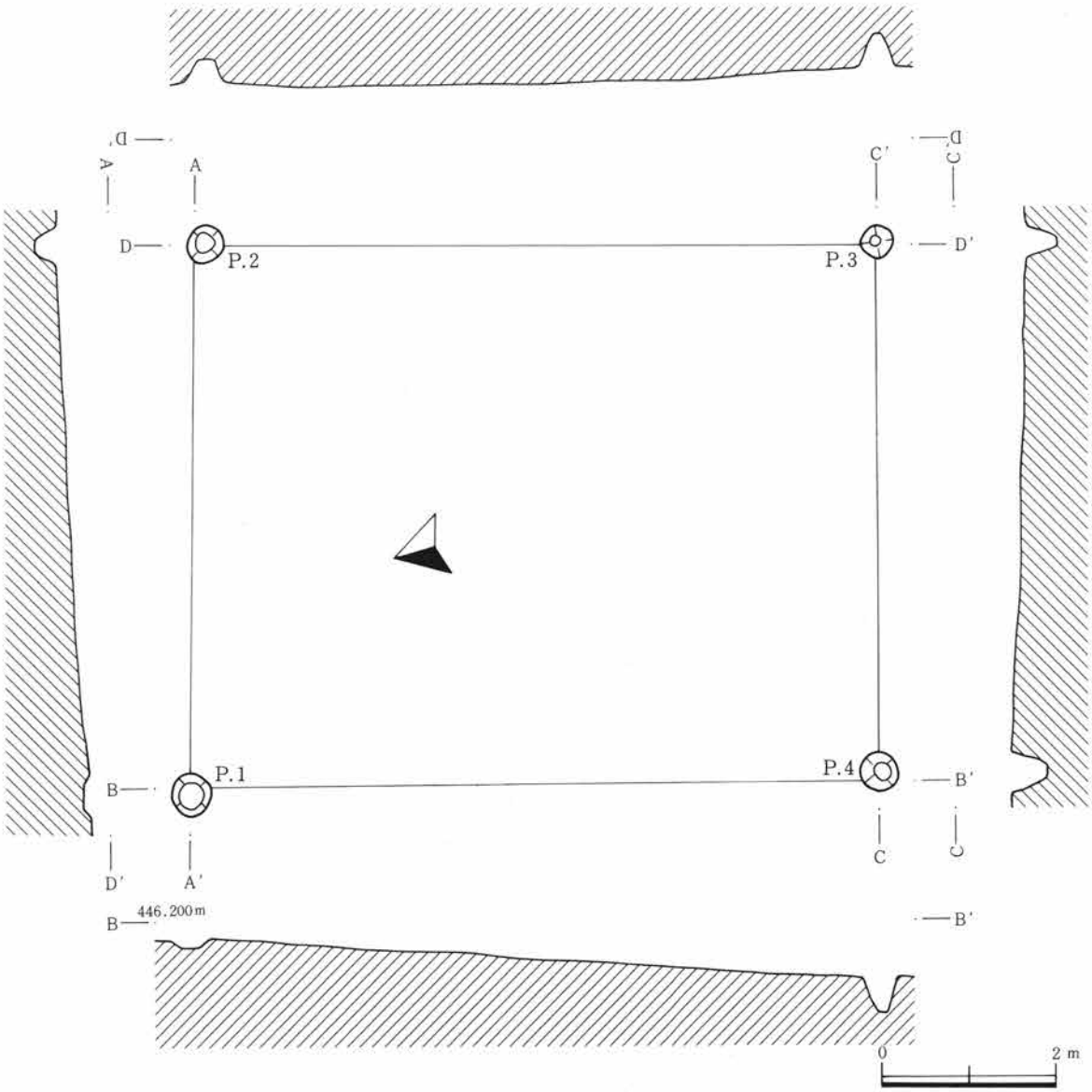
第97図　1号掘立柱建物址実測図



第98図　4号掘立柱建物址実測図



第99図　2号掘立柱建物址実測図



第100図　3号掘立柱建物址実測図

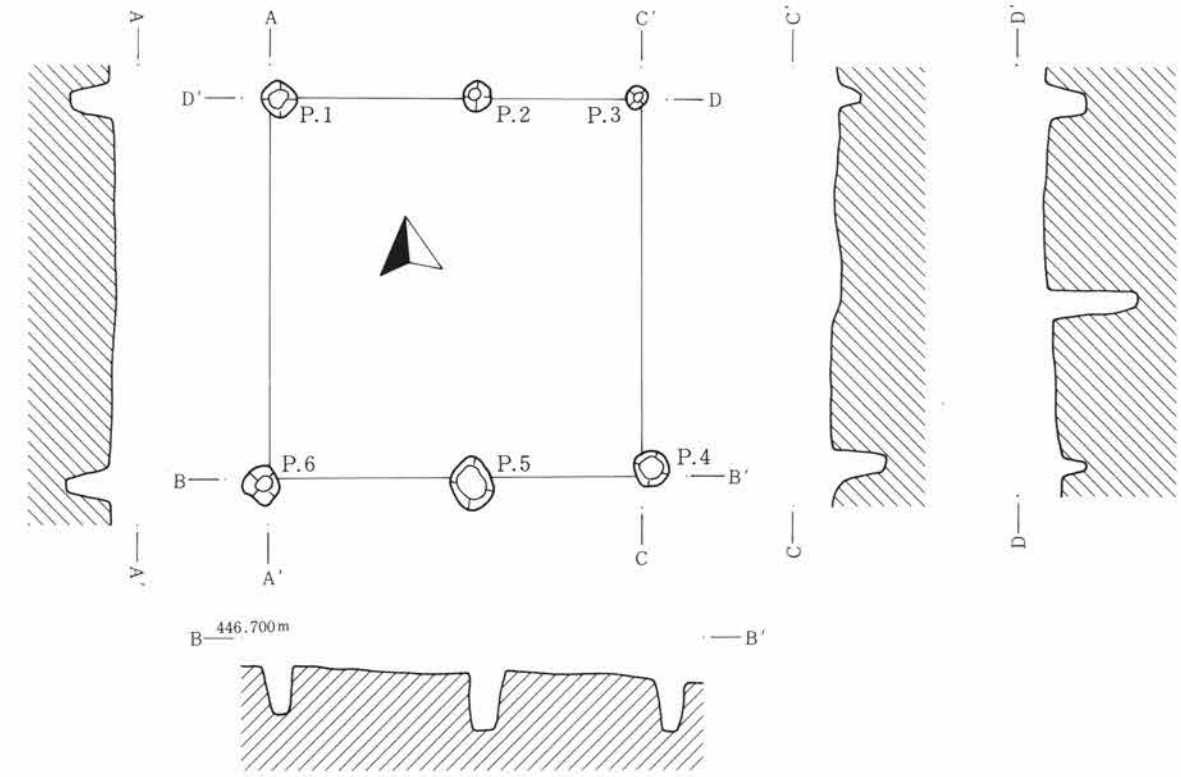
掘立柱建物址柱穴計測表（単位はcm）

No.		径	深さ
1号	P 1	35.0	36.0
	P 2	30.0	32.0
	P 3	44.0	35.0
	P 4	55.0	50.0
	P 5	32.0	54.0
2号	P 1	50.0	50.0
	P 2	43.0	34.0
	P 3	45.0	57.0
	P 4	40.0	68.0

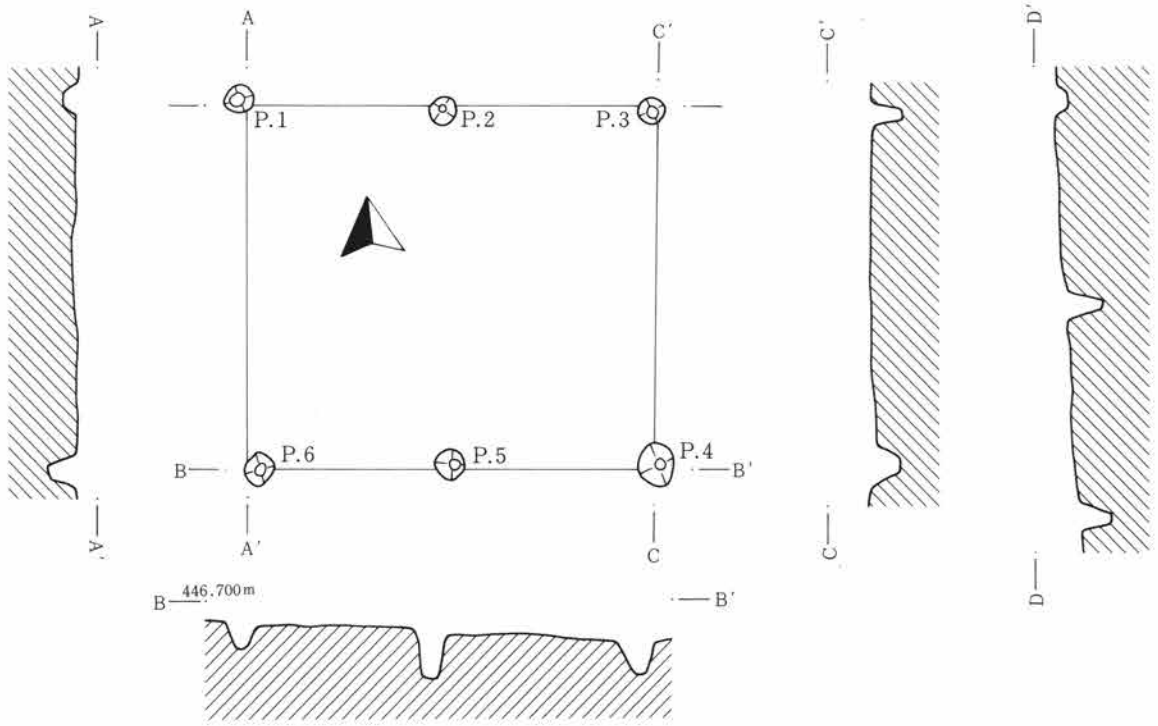
No.		径	深さ
2号	P 5	40.0	30.0
	P 6	42.0	50.0
	P 7	50.0	60.0
	P 8	28.0	22.0
	P 9	40.0	55.0
3号	P 1	48.0	10.0
	P 2	42.0	24.0
	P 3	38.0	38.0
	P 4	42.0	40.0

No.		径	深さ
4号	P 1	44.0	33.0
	P 2	46.0	16.0
	P 3	50.0	30.0
	P 4	50.0	30.0
	P 5	39.0	38.0
	P 6	40.0	45.0
5号	P 1	40.0	44.0
	P 2	30.0	92.0
	P 3	25.0	23.0

No.		径	深さ
5号	P 4	38.0	55.0
	P 5	48.0	60.0
	P 6	40.0	48.0
6号	P 1	30.0	15.0
	P 2	30.0	40.0
	P 3	30.0	33.0
	P 4	40.0	36.0
	P 5	32.0	50.0
	P 6	32.0	30.0



第101図　5号掘立柱建物址実測図



第102図　6号掘立柱建物址実測図

（2） 土　坑

発掘調査により土坑として確認し得た遺構は計27基であり、内6基は出土遺物により平安時代に属するものとして前述した。他の土坑は出土遺物及び形状により近世に属すると判断されるものである。これらの土坑はその形状により2種に分類される。1つは〝桶〟を埋置したと判断されるものと、他は覆土中に礫を多く含むものである。各土坑は遺跡南半、台地平坦部に集中して分布しており、平安時代に属する土坑とは立地が異なっている。その他、遺物等を全く出土しない土坑が6基検出されたが、これらについては所属する時期について確定できない。

a、桶を埋置した土坑

桶を埋置したと判断される土坑は7基検出された。この土坑の特徴は、掘り方と埋設する桶との間に粘土を裏込めとしていることである。桶自体は9号及び11号土坑において一部残存していたが、大半は消失している。しかし、裏込めとした粘土面に桶の胴部、底部に使用される〝タガ〟が痕跡として残っている。

8号土坑（第103図、図版22―1）

B―93グリッドに位置し、第4群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形（掘り方）は口径90cm底径70cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。底面には径70cm、幅5cm、深さ2cmを測る桶のいわゆる〝アシ〟部の痕跡が検出された。裏込めは白色粘土が用いられ、掘り方に沿って平均5cmの厚さで巡っている。礫は覆土上部に検出され、他出土遺物はない。

9号土坑（第103図、図版22―2）

B―89グリッドに位置する。平面形は口径50cm、底径45cmの円形プランを呈し、深さは20cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。粘土による裏込めは行われていない。底面及び壁面に桶の一部が残存していた。（第105図―6）

10号土坑（第103図、図版22―3）

E―90グリッドに位置し、第4群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形(掘り方)は、口径140cm、底径90cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。裏込めは白色粘土が用いられ、壁面に沿って巡り、この面に幅3cm、深さ2cmのタガの痕跡が1条検出された。底面はほぼ平坦であり縁辺に沿って径104cm、幅6cm、深さ2cmの桶のアシ部の痕跡が同様に検出された。覆土中から礫が8個及びキセルの吸口(第105図―2)が出土している。

11号土坑（第103図、図版22―4）

C・D―92・93グリッドに位置し、第4群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形（掘り方）は口径100cm、底径84cmの円形プランを呈し、深さは54cmを測る。裏込めは白色粘土に暗褐色が混在する土が壁に沿って巡り、幅4cm、深さ2cmのタガの痕跡が13cm間隔で2本検出された。底面はわずかに起伏をもつが、縁辺には径90cm、幅5cm、深さ2cmのアシ部分の痕跡が検出された。遺物は桶の底部と考えられる板材の一部（第105図―7）が底面に密着して検出され、覆土下部に礫が5個出土している。

12号土坑（第103図、図版22―5）

M―92グリッドに位置し、5号掘立柱建物址（P6）に切られている。平面形（掘り方）は162cm×98cmの楕円形のプランを呈し、深さは30cmを測る。残存状態は悪いが、底面に径90cmのアシ部分の痕跡が検出された。壁面の裏込めはみられない。遺物は寛永通宝、砥石（第105図―1・4・5）が出土している。

13号土坑（第103図、図版22―6）

N－90グリッドに位置する。西半はかなり削平され、又耕作による撹乱も受けており残存はあまり良くない。平面形（掘り方）は口径130cm、底径58cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。裏込めは暗褐色土を混在する白色粘土であり、壁に沿って巡っている。底面には径85cm、深さ８cmの円形の窪みがみられる。タガ及びアシ部の痕跡は検出されなかった。遺物は覆土下部よりキセルの吸口（第105図－３）が１点出土している。

14号土坑（第103図、図版23－１）

13号土坑の南側10cmに位置する。平面形（掘り方）は口径120cm、底径70cmの円形プランを呈し、深さは22cmを測る。裏込めは暗褐色土を混在する灰色粘土が用いられ、壁に沿って巡っている。タガの痕跡は認められなかった。底面に径100cm、幅10cm、深さ４cmの桶のアシ部の痕跡が検出された。遺物の出土は見られない。

６、礫を出土する土坑

これに属する土坑は計８基検出された。又、礫はほとんど覆土上層から出土する。

15号土坑（第104図、図版23－２）

A－90グリッドに位置し、第４群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形は２m×1.7mの楕円形プランを呈し、深さは残存高で24cmを測る、底部は若干起伏があり西へわずかに傾斜している。礫は計19個出土したが、ほとんどのものは底面から30～50cmの高さから検出された。

16号土坑（第104図、図版23－３）

11号土坑の南側70cmに位置し、第４群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形は1.1mの円形プランを呈し、深さは70cmを測る。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。礫は２個出土し、覆土下部より寛永通宝が２点（第106図－８）出土している。

17号土坑（第104図、図版23－５）

N－95グリッドに位置する。平面形は径1.2mの円形プランを呈し、深さは20cmを測る。礫は５個検出された。又、石臼（第113図－１）が礫に混在して出土している。底面はわずかに東側へ傾斜し、壁は鍋底状に立ち上がる。

18号土坑（第104図、図版23－４）

E・F－90グリッドに位置し、第４群粘土採掘坑を切って掘り込まれている。平面形は1.5m×1.3mの楕円形プランを呈し、深さは110cmを測る。底面は平坦であり梯形断面を呈する。礫は第３層に多く検出され下部からフイゴの羽口（第106図－10）が１点出土している。

19号土坑（第104図、図版23－６）

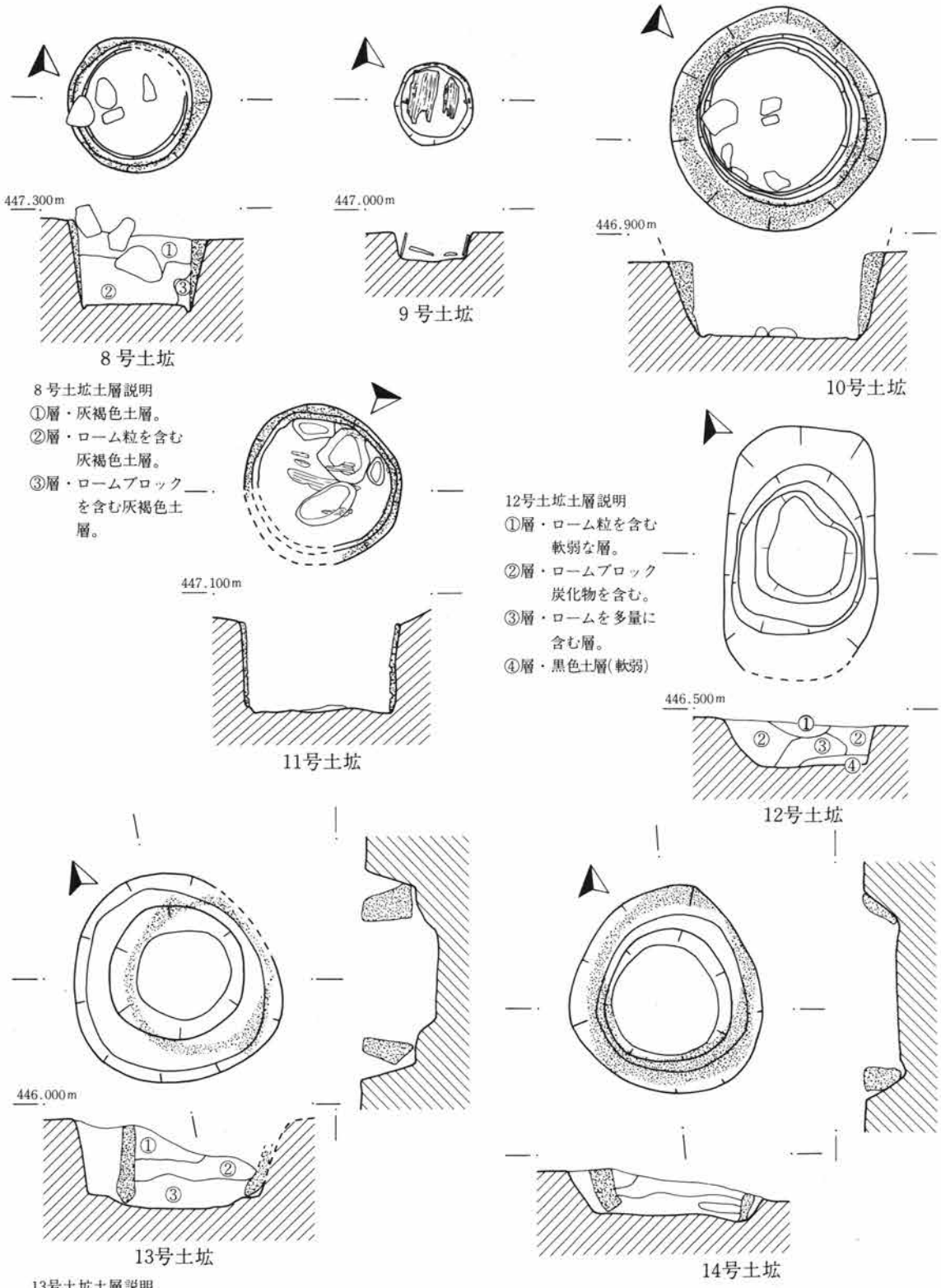
H－89グリッドに位置する。平面形は開口部1.3m×1.1mの楕円形プランを呈し、深さは48cmを測る。底面は平坦であり、梯形断面を呈する。礫は24個見られ、礫に混在して陶器片が混在して出土している。

20号土坑（第104図、図版24－２）

L－73グリッドに位置する。南側斜面に位置するものは本土坑のみである。平面形は径１mの円形プランを呈し、深さは土層断面の観察により96cmを測る。礫は１個のみであり、２層中に含まれる。

21号土坑（第104図、図版24－１）

19号土坑の東側20cmに位置する。平面形は1.3mの円形プランを呈し深さは36cmを測る。形態は19号土坑に類似する。礫は22個みられ、陶器片が混在して出土している。



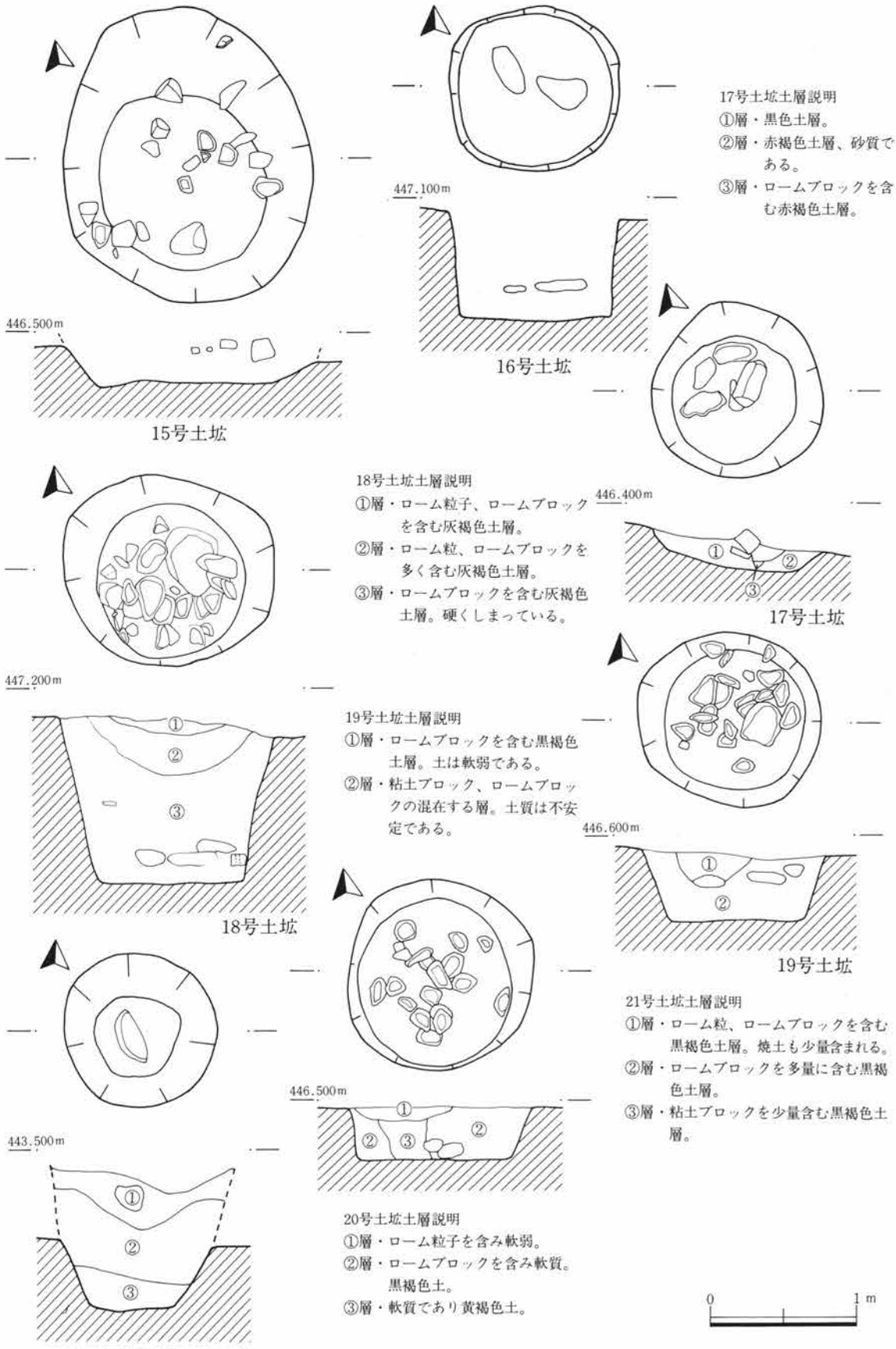
8号土坑土層説明
①層・灰褐色土層。
②層・ローム粒を含む灰褐色土層。
③層・ロームブロックを含む灰褐色土層。

12号土坑土層説明
①層・ローム粒を含む軟弱な層。
②層・ロームブロック炭化物を含む。
③層・ロームを多量に含む層。
④層・黒色土層(軟弱)

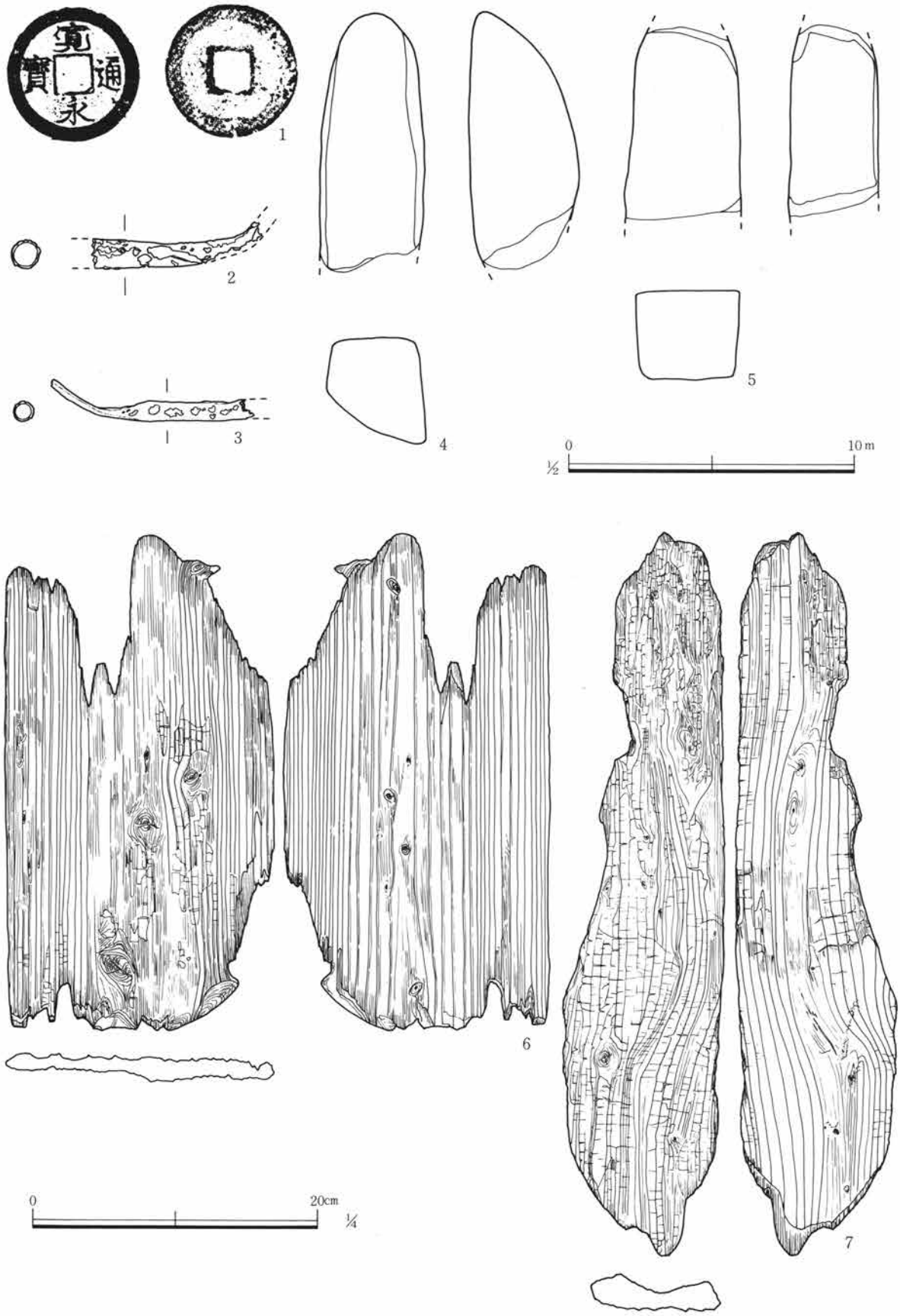
13号土坑土層説明
①層・ロームブロックを含む軟弱な黒色土層。
②層・粘土を多量に含む層。硬くしまっている。
③層・ロームを多量に含む軟弱な黒色土層。

14号土坑土層説明
①層・ローム、粘土を含む黒褐色土層。軟弱。
②層・粘土を多く含む層。
③層・ロームブロックを多く含む褐色土層。
④層・ローム、粘土を含むしまりのある褐色土層。

第103図　土坑実測図


446.500m
15号土坑
447.100m
16号土坑
17号土坑土層説明
①層・黒色土層。
②層・赤褐色土層、砂質である。
③層・ロームブロックを含む赤褐色土層。
446.400m
17号土坑
18号土坑土層説明
①層・ローム粒子、ロームブロックを含む灰褐色土層。
②層・ローム粒、ロームブロックを多く含む灰褐色土層。
③層・ロームブロックを含む灰褐色土層。硬くしまっている。
447.200m
18号土坑
19号土坑土層説明
①層・ロームブロックを含む黒褐色土層。土は軟弱である。
②層・粘土ブロック、ロームブロックの混在する層。土質は不安定である。
446.600m
19号土坑
21号土坑土層説明
①層・ローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土層。焼土も少量含まれる。
②層・ロームブロックを多量に含む黒褐色土層。
③層・粘土ブロックを少量含む黒褐色土層。
446.500m
443.500m
20号土坑
20号土坑土層説明
①層・ローム粒子を含み軟弱。
②層・ロームブロックを含み軟質。黒褐色土。
③層・軟質であり黄褐色土。
0
1 m

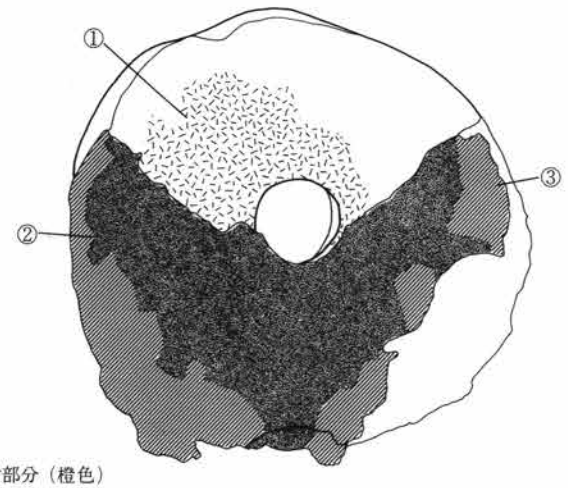
第104図　土坑実測図



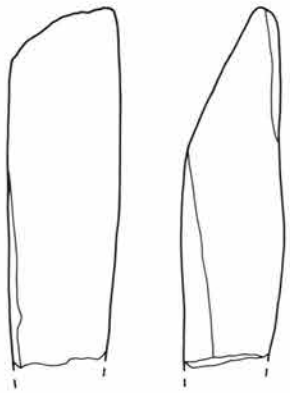
第105図　9・10・11・12・13号土坑出土遺物

8

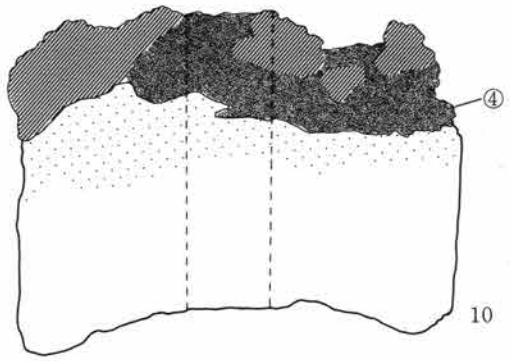
第106図　上段



1－二次焼付部分（橙色）
2－粘土中成分溶出付着部分
3－鉄成分付着部分
4－二次焼付部分（灰色）



9



10

第106図　16･18号土坑出土遺物

土坑出土遺物一覧表

No.	出土土坑	種　類	残　存	計測数値(cm)	材　質	備　考
1	12号土坑	古　銭	完	径2.3		寛永通宝
2	10号土坑	キセル吸口	破　片	長さ6.0径1.0	銅　銅	
3	13号土坑	キセル吸口	破　片	長さ7.5径0.7	銅	
4	12号土坑	砥　石	½　欠	長さ9.0	流紋岩	
5	12号土坑	砥　石	両端欠	長さ6.5	流紋岩	
6	9号土坑	板　材	破　片	長さ34.4幅19.0厚さ1.2		
7	11号土坑	板　材	破　片	長さ50.0幅9.0厚さ2.0		
8	16号土坑	古　銭	完	径2.2		寛永通宝
9	18号土坑	砥　石	端　欠	長さ9.5	流紋岩	
10	18号土坑	羽　口	両端欠	高さ9.0径12.0孔径2.2		

22号土坑（第107図）

D—92グリッドに位置する。平面形は径105cmの円形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は鍋底状を呈し、底部に粘土が敷かれ底面は平坦となっている。桶が埋設された跡は認められない。覆土上部には礫が多数検出された。遺物は鉄製の鉄砲玉が１個出土している。

C、遺物出土のない土坑

出土遺物がなく、形態等に特徴がみられず所属すべき時期についても有効な情報をもっていない土坑を一括する。これらは遺跡北東部に分布している。

23号土坑（第107図、図版24—３）

Ｉ—93・94グリッドに位置する。平面形は開口部120cm×100cmの楕円形プランを呈し、深さは26cmを測る。底面は平坦で、梯形断面を呈する。

24号土坑（第107図、図版24—４）

M—96グリッドに位置する。平面形は120cm×90cmの楕円形プランを呈し、深さ68cmを測る。底面はほぼ平坦で、梯形断面を呈する。

25号土坑（第107図、図版24—５）

L—94グリッドに位置する。平面形は100cm×80cmの楕円形プランを呈し、深さ40cmを測る。長軸方位はN—33°—Wである。底面東部に30cm×18cmの小ピットがみられる。

26号土坑（第107図、図版24—６）

17号土坑の南東側40cmに位置する。平面形は径145cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。底面は平坦であり、壁もしっかりしている。

27号土坑（第107図、図版25—１）

Ｊ—92グリッドに位置する。平面形は118cm×102cmの不整の楕円形プランを呈し、深さは24cmを測る。底面は平坦であり、方形を呈する。

28号土坑（第107図、図版25—２）

K—84グリッドに位置する。７号土坑内に掘り込まれている。平面形は150cm×124cmの不整円形プランを呈し、深さは42cmを測る。

（３） **集石状遺構**（第108図、図版25—３）

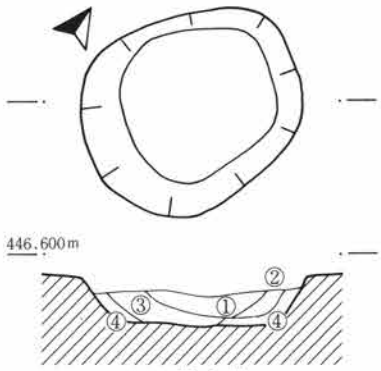
A—77・78グリッドに位置し、西側部は調査区外にのびている。１号掘立柱建物址と重複関係にあるが新旧関係は不明である。平面形は不整形であり、断面形は深さ75cmの浅い皿状を呈する。集石部分は径2.8mの円形を呈し、大小の河原石が平面的に敷かれている。又、集石外側には２ヶ所焼土の散布がみられる。時期は出土遺物から江戸時代に比定されよう。

（４） **溝状遺構**（第110図、図版26—１）

遺跡北端部に位置し、ほぼ東西方向に横たわる。西端部は調査区外にのび、東端部も石組遺構と重複する部分から不明となる。幅40cm、深さ24cm、長さ22.4mを測り、E—97グリッド付近で２条に分岐する。覆土にわずかに砂層が推積し、流水の痕跡が認められれるが、遺構の性格は不明である。出土遺物はみられない。

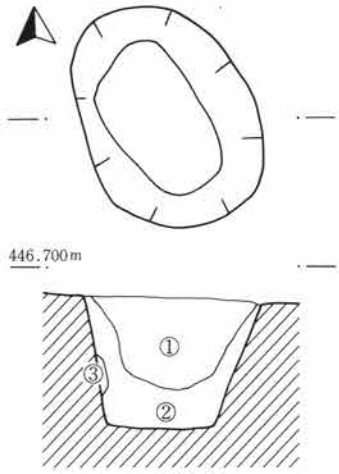
（５） **石組遺構**（第111図、図版26—２）

G—92からH—95グリッドにわたりほぼ南北方向に大小の河原石が帯状に連なる。全長は15.6mを測る。H—96グリッドにおいて溝状遺構を切っている。



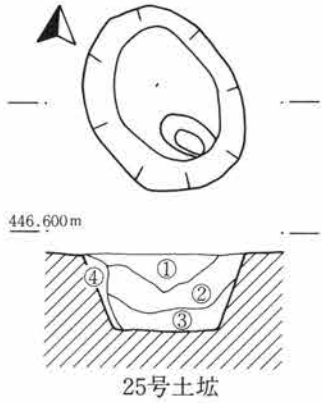
23号土坑

23号土坑土層説明
①層・ロームブロックを含む軟質な黒褐色土層。
②層・ローム粒子を含む軟質な黄褐色土褐色土層。
③層・ロームブロックと茶褐色土の混入。
④層・軟質の黒色土層。



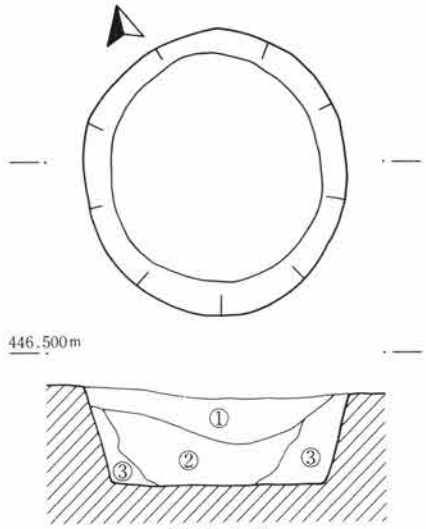
24号土坑

24号土坑土層説明
①層・ローム粒子を含む黒色土層。
②層・粘性のある黄褐色土。
③層・ロームブロック。



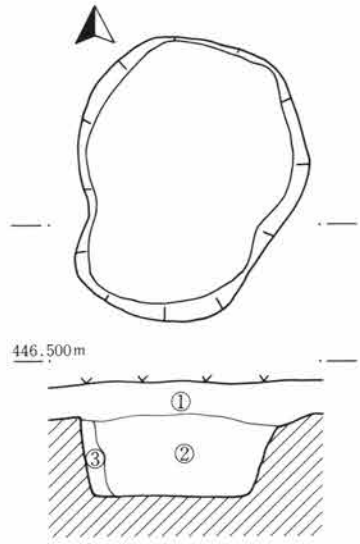
25号土坑

25号土坑説明
①層・ローム粒子を含む黒褐色土層。
②層・ローム粒子を含みよくしまる茶褐色土層。
③層・②層よりしまり白色粘土ブロックを含む。
④層・ローム粒子を含む黄褐色土層。



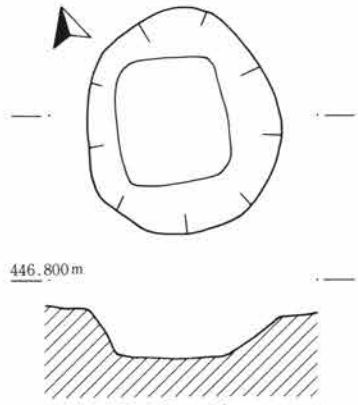
26号土坑

26号土坑土層説明
①層・ロームブロックを含みやや軟弱な黒色土層。
②層・ローム粒子を含みやや軟質黒褐色土。
③層・ロームブロックを多量に含む暗黒褐色土層。

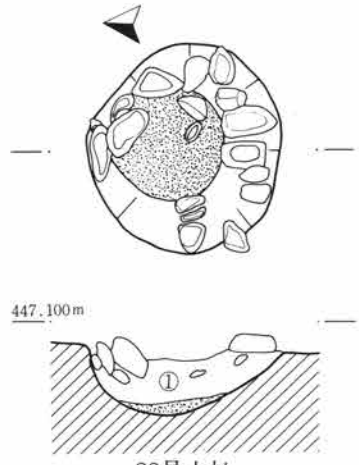


28号土坑

28号土坑土層説明
①層・表土（耕作土）。
②層・土坑内覆土、暗褐色土。
③層・ロームブロックを含んだ黒褐色土層。



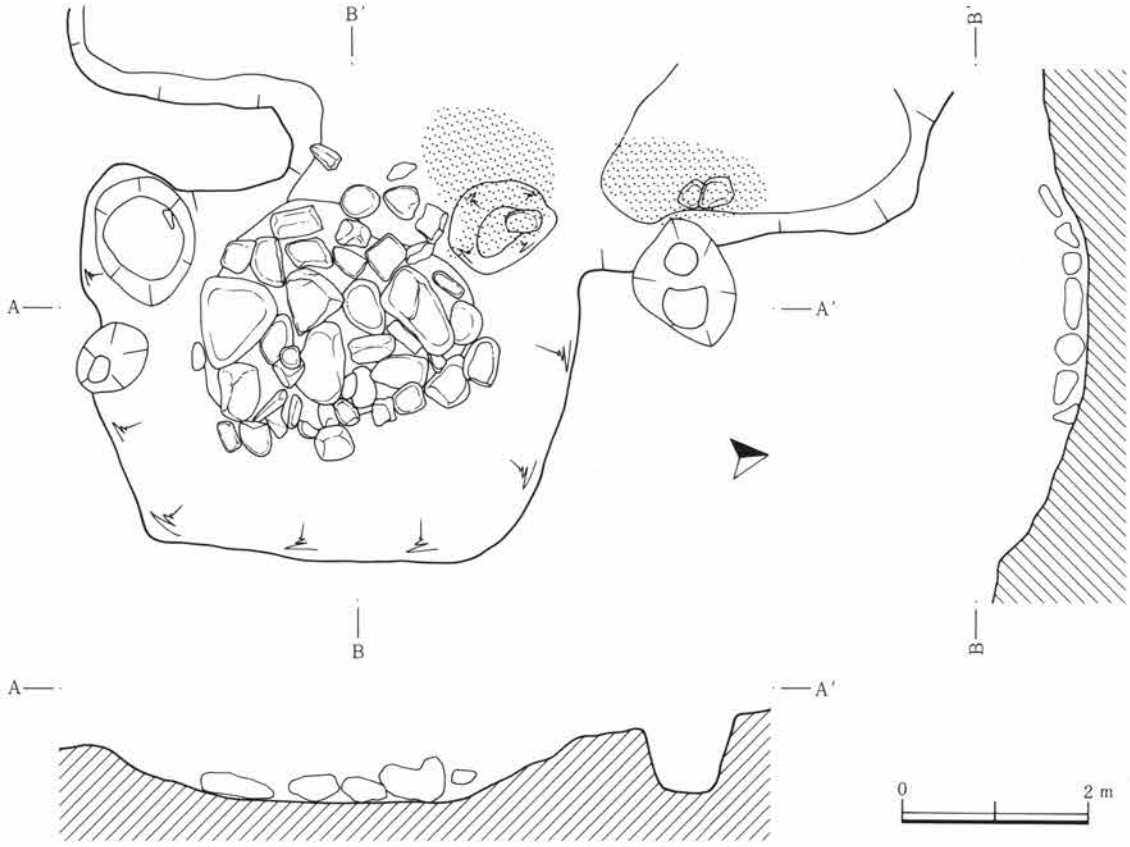
27号土坑



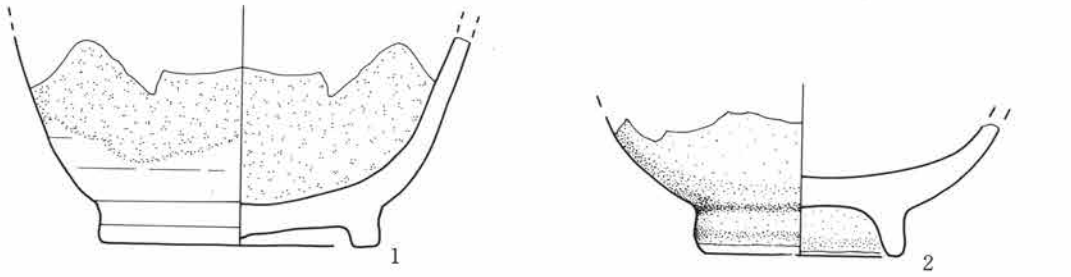
22号土坑

22号土坑土層説明
①層・ローム、黒色土、灰黒色土のまじり。

第107図　土坑実測図



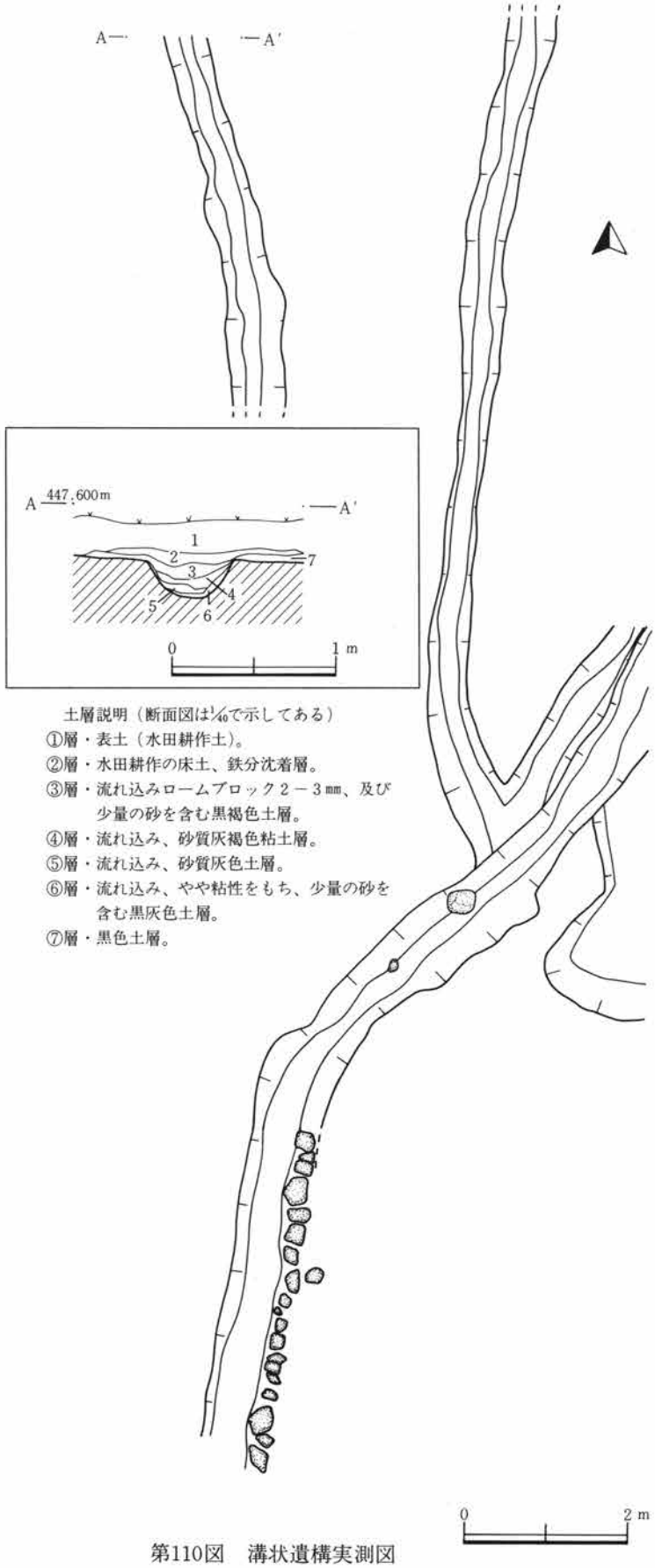
第108図　集石状遺構実測図



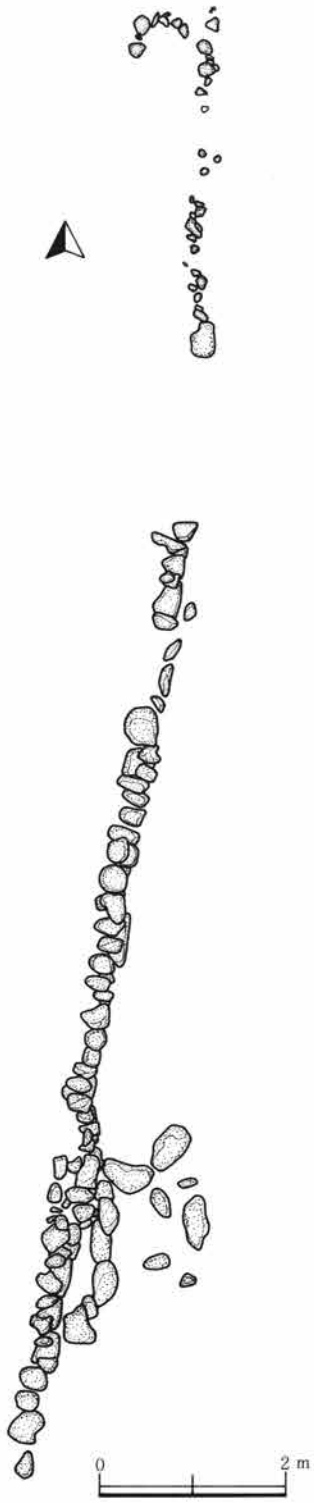
第109図　集石状遺構出土遺物

集石状遺構出土遺物観察表

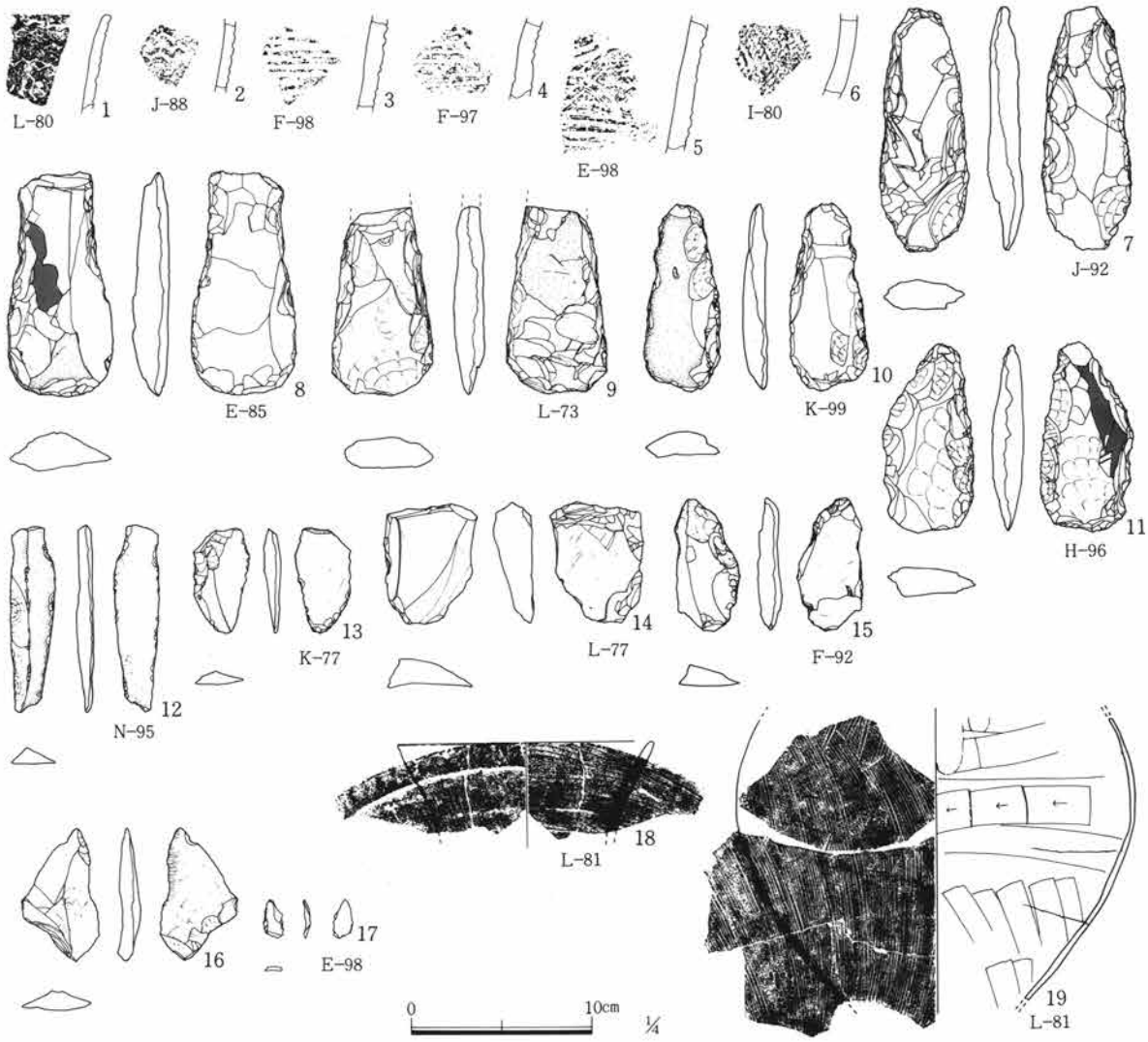
遺物番号（図版No.）	器種 器形	法量 口径	底径	器高	出土位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③残存 ④胎土 ⑤備考
1	椀	—	7.4（高台部）	—	覆土	陶器。削り高台で断面は方形を呈する。褐釉ヘラぬり。	①黄褐色 ③体部上半欠 ⑤美濃
2	椀	—	5.2（高台部）	—	覆土	陶器。削り高台。施釉は良好である。灰釉。	①灰褐色 ③体部上半欠 ⑤瀬戸



第110図　溝状遺構実測図

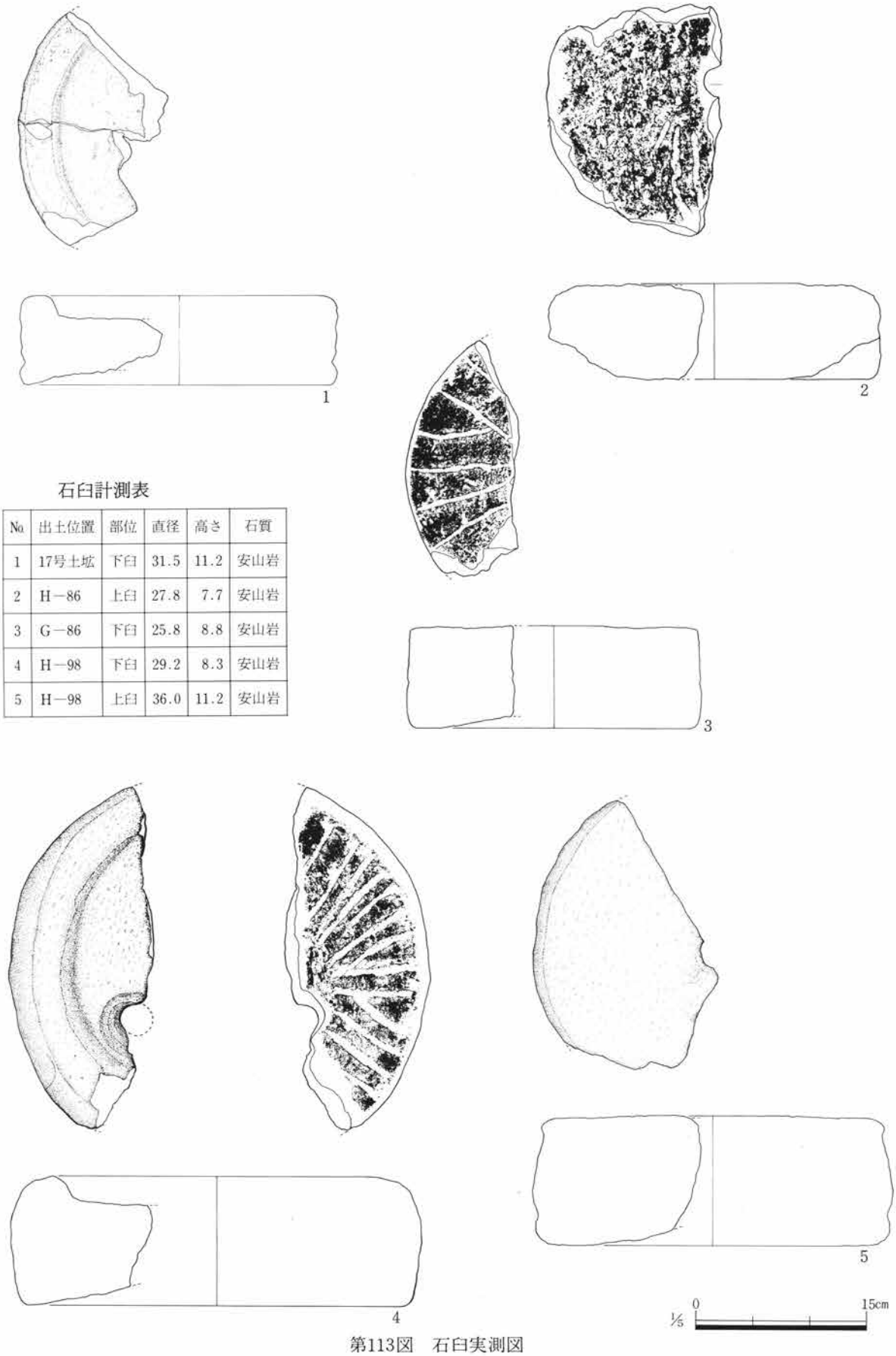


第111図　石組遺構実測図



第112図　グリッド出土遺物

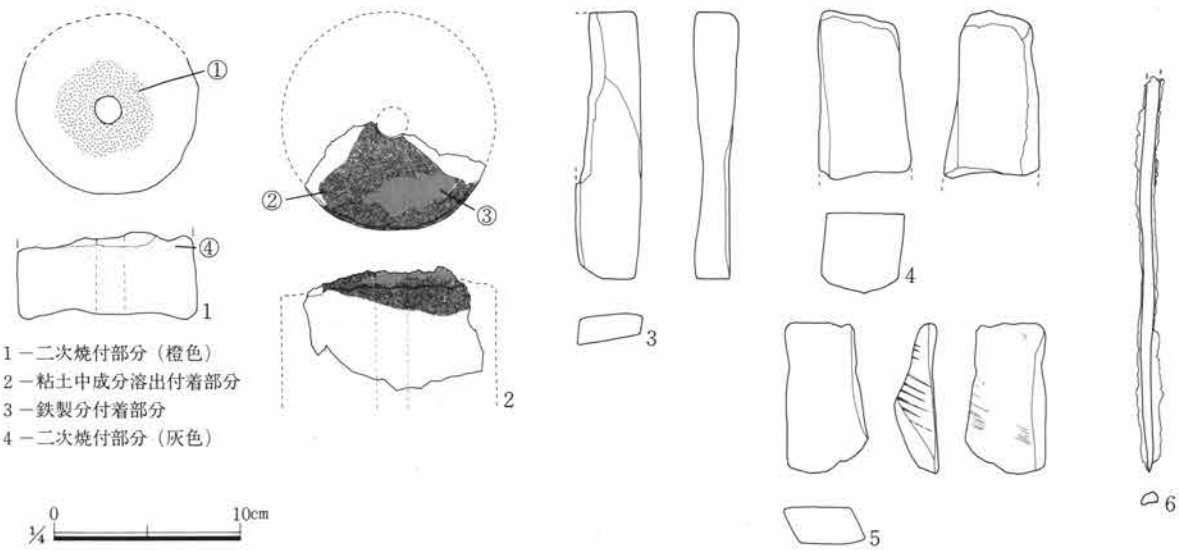
番号	説　　明
1	口縁部片。山形押型文。
2	山形押型文。
3	半截竹管により平行沈文が施される。
4	半截竹管により粗い平行線文が施される。
5	半截竹管により平行沈文が施される。縄文ＲＬ。
6	ＲＬ横位。
7	打斧。黒色頁岩。長12cm、厚1.5cm
8	打斧。黒色頁岩。基部欠。厚２cm
9	打斧。安山岩。基部欠。厚1.6cm
10	打斧。黒色頁岩。長10cm、厚1.2cm
11	黒色頁岩。長10cm、厚1.8cm
12	細粒砂岩質黒色頁岩。
13	剝片。安山岩。
14	剝片。安山岩。
15	剝片。安山岩。
16	剝片。黒色頁岩。
17	剝片。チャート。
18	壺口縁部。折返し口縁下に刷毛目が施される。古墳前期。
19	Ｓ字台付甕胴下半部。鋭い刷毛目が施される。古墳前期。



石臼計測表

No.	出土位置	部位	直径	高さ	石質
1	17号土坑	下臼	31.5	11.2	安山岩
2	H－86	上臼	27.8	7.7	安山岩
3	G－86	下臼	25.8	8.8	安山岩
4	H－98	下臼	29.2	8.3	安山岩
5	H－98	上臼	36.0	11.2	安山岩

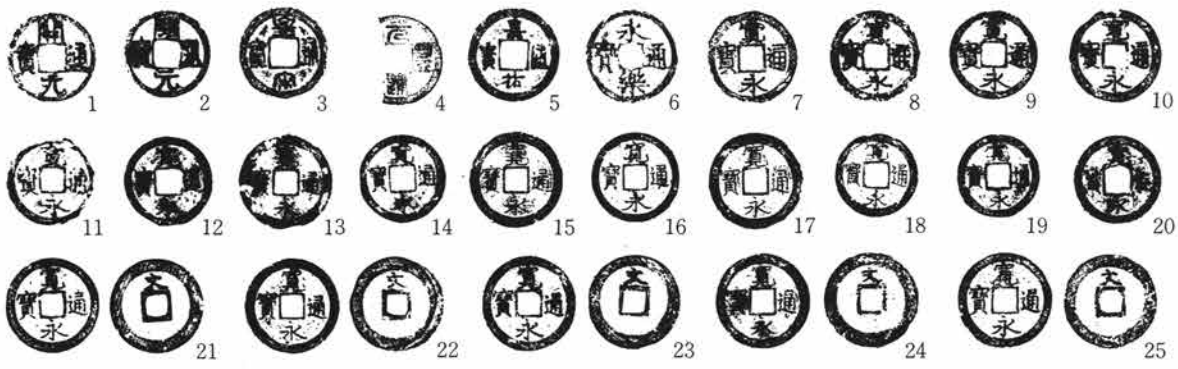
第113図　石臼実測図



第114図　羽口、砥石、鉄製品実測図

羽口・砥石・鉄製品一覧表

番号	出土位置	種　別	説　　明
1	K－96・1層	羽口	上半部欠。長（現存）4cm、径9.7cm、孔径1.4cm。
2	L－80	羽口	⅓欠。径（推定）11.4cm　孔径1.6cm
3	H－97.1層	砥石	一部欠。長14cm、四面使用。流紋岩
4	C－81.1層	砥石	両端部欠。長（現存）8cm。四面使用。流紋岩
5	7トレ	砥石	長8cm、五面使用、流紋岩
6	F－84.3層	鉄製品	端部欠。長（現存）20.7cm、断面は方形を呈する。



第115図　古銭拓影図（表採及びグリッド出土）

1	開元通宝	5	嘉祐通宝	9	寛永通宝	13	寛永通宝	17	寛永通宝	21	寛永通宝	25	寛永通宝
2	開元通宝	6	永楽通宝	10	寛永通宝	14	寛永通宝	18	寛永通宝	22	寛永通宝		
3	皇宋通宝	7	寛永通宝	11	寛永通宝	15	寛永通宝	19	寛永通宝	23	寛永通宝		
4	元豊通宝	8	寛永通宝	12	寛永通宝	16	寛永通宝	20	寛永通宝	24	寛永通宝		

V　成果と問題点

平安時代の遺跡について

本遺跡は、大規模に掘削された粘土採掘坑の存在により、その性格が規定され、平安時代の土器生産に関わる工人集落と理解される。現在まで窯跡自体の調査は実施され、同時に一定の理解がなされてきたが、土器製作に関する製作工程についてはほとんど不明といってよかった。しかし最近に至り、原料（粘土）の採掘から製作にわたる一連の工程について関連遺構の摘出とともに、その実体が除々にではあるが解明されつつある。

一般的に土器の生産は、原料（粘土）の採掘、粘土の精製（素地土）、土器製作（成形）、乾燥、焼成等の工程が必要であるが、本遺跡において検出された遺構について、他遺跡の調査例も参考にしながら、これらの工程を考えあわせ若干整理しておきたい。

原料（粘土）の採掘は、１１群にわたり検出された粘土採掘坑の存在により確定し得る。次の段階として粘土の精製(素地土)があるが、本遺跡内ではこれに関する遺構は検出されていない。調査例では、多摩ニュータウン№146遺跡（注１）において、粘土採掘抗とともに、粘土の均質化および水簸の機能も考えられる粘土土杭が54基検出されている。土器の製作（成形）に関しては、製作施設としての工房址の存在について考えなければならない。工房址としての性格をもつ遺構については、いくつかの調査例の中から注目されてきた。これらの例により摘出される構造上の特徴はロクロピット（注２）の存在であろう。加えて素地土の存在および作業台的機能をもつ遺物の存在もあげられる(注３)。ロクロピットについてはロクロ自体の検出がない現在、未だにその実体について不明な部分も多いが今日までの知見に基づき、その可能性は強いと判断される。本遺跡においても、工房址的性格をもつ遺構について先の調査例に基づけば、４号住居址および６号住居址にその可能性がうかがえる。乾燥工程に関しては、南多摩窯址群Ｇ29号窯第II地区において工房址に近接する柱穴群について、乾燥、収納の場としての建物址の復原が行なわれている(注４)。これによると、柱穴群の位置は不規則であるが、土間状の床面および乾燥用の炉等の検出がされている。本遺跡では、これに類する遺構は検出していない。尚、焼成段階としての窯の内容については省いたが、各遺跡とも窯址に近接していることが確認されている。以上が、焼成段階に至るまでの製作工程に関わる遺構例であるが、これらについては、付表１にまとめておく。

注１　多摩ニュータウン№146遺跡で検出された粘土採掘坑は、坑道と竪坑が一体構造となり、各採坑が個別に完結していることが特徴であり、薮田東遺跡において検出されたものとは形態及び掘削方法等全く異なっている。54基検出された粘土土坑は８割以上の土坑について粘土が掘り抜かれている。機能的には、土器製作にむけての、粘土の均質化および水簸を行なったものと結論している。

注２　大川清「土器製作技術の実体」　歴史公論６－５（昭和55年）の中で〝ロクロ軸木穴〟として指適され、新聞遺跡Ｉ（昭和56年）報告中に松本富雄「ロクロピット」として整理されている。

注３　南多摩窯址群―御殿山地区62号窯址発掘調査報告書　（昭和56年）の大法寺裏遺跡で検出された工房址には、ロクロピットとともに、製作台として使用されたと考えられる台石が確認されている。

住居址について

検出された住居址は８軒である。住居址は、遺跡北半部に粘土採掘坑が存在するため、中央部から南半部にかけて構築される。又、集落としての広がりは西側に展開し、西接する薮田遺跡では11軒の平安時代に属する住居址が検出されている。今回調査した住居址は報文中に示した通り、後世の攪乱が著しく、残存状態は極めて悪く遺構の形態を把握するにとどまるものもあり、構造的な問題について積極的に摘出すする内容

にとぼしい。その中で、3号住居址において検出された貯蔵施設について若干ふれておきたい。この施設は10cm前後床面を掘り込み、その回りに河原石による石囲いをしている点、特徴的である。位置から見て一般的に貯蔵施設と考えられる部分に造られているため、同様の機能をもっていると判断できるが、類例にとぼしく、又、今回の調査においても、具体的な機能面に立ち入る材料をもたない。他調査例をまちたい。次に、4号住居址および6号住居址について考えてみたい。両遺構とも住居址として把えているが、構造的および機能的な面において、一般の住居址とは異なる面をもつと考えられる。まず4号住居址であるが、平面形は、やや不整な隅丸方形を呈し、カマドは、攪乱が著しく不明確であるが、西壁中央付近に構築されたと判断できる構造的には、北西コーナー部分に存在する楕円形の掘り込みが注目される。調査進行時には、この掘り込みについて、形態、規模等にやや奇異な感じをもったが、特に意識していなかった。しかし、最近工房址の摘出が行なわれ、ロクロピットの存在について資料が増加する中で、本址において検出された掘り込みについて、同様な機能をもつのではないかと推定される。しかしこれは、形状においてやや類似していることと、縁辺に白色粘土が置かれていたということ以外、積極的に類推し得る材料がなく、逆にこの掘り込みの遺構内における位置、底面および土層の状態からは否定的な結論も導き出し得る。以上のことからここでは、本遺跡の性格も考えあわせ、この住居址が工房址的機能をもつ遺構として、つまり先の掘り込みについてロクロピットの可能性が推定できるということを指摘するにとめざるを得ない。6号住居址は、偏平な河原石が床面をやや掘りくぼめ設置されており、これについては、原料粘土をこねる際の作業台として使用されたことが考えられる。又、北側に接して径35cm、深さ30cmのピットが存在するが、位置からみて柱穴とは考えにくい。これについてロクロピットとしての可能性が推定できないであろうか。形態、規模からみると、これまで検出された他遺跡例と比べ異なるため疑問が残るが、少なくとも工作台としてのロクロ軸木を固定することは可能であろう。本住居址についても一部推定の域を出ないが、やはり工房址としての性格を看取し得る。なお、本址については、白色粘土の検出はなかった。

付表1．生産遺跡一覧表

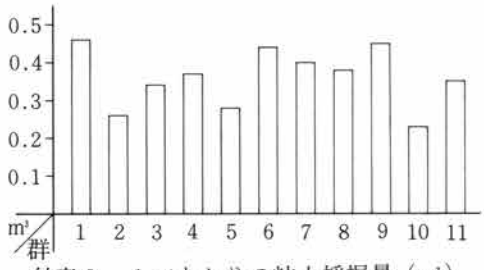
遺跡名＼生産工程	原料（粘土）採掘	粘土精選（素地土）	土器製作（成形）	乾　燥	焼　成（窯址）	文　献
薮田東遺跡	○		○		月夜野窯址群	
南多摩窯址群G62号窯第II地区			○	○		1
〃　大法寺裏遺跡			○			2
多摩ニュータウンNo.146遺跡	○	○	同　No.144遺跡		御殿山窯址群	3
新開遺跡			○			4
保埜遺跡			○			5
相去遺跡			○			6
瀬谷子遺跡			○	○		7
島田バイパス遺跡	○					8

文　献
1　南多摩窯址群―御殿山地区62号窯址発掘調査報告書　　八王子バイパス鑓水遺跡調査会　　昭和56年
2　服部敬史　「東京都八王子市大法寺裏遺跡の調査―平安時代の須恵器工房址に関する予察―」
3　多摩ニュータウン遺跡―昭和56年度―（第1分冊）　　（財）東京都埋蔵文化財センター　　昭和57年
4　新開遺跡Ⅰ　　三芳町埋蔵文化財報告11　　三芳町教育委員会　　昭和56年
5　文献4、5参照
6　大川清　「土器製作技術の実態―ロクロ以前と以後―」　　歴史公論6―5　　昭和55年
7　瀬谷子遺跡　　江刺市教育委員会　　昭和46年　　尚、報告書は未見であり、服部敬史「東京都八王子市大法寺裏遺跡の調査」（文献2）中の引用資料を参考にさせていただいた。
8　静岡県における検出例は、本遺跡の採掘坑と同様の形態と判断される。国道1号線島田バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査略報　―昭和58年度分―　島田市教育委員会　昭和49年

V　成果と問題点

粘土採掘坑について

今回検出した粘土採掘坑の特徴は、明り掘削を基本とする連続的な拡張によって、形態的には不整形をとることであり、同時に形成される不整形プランは、円形の集合と判断されることである。又、連続的な掘削作業をくり返すことにより、１回毎の掘削単位は失なわれ、粘土採掘の作業方法等について把えにくいものとなっている。その中で報文中に示したように、第11群粘土採掘坑を掘削作業の最少単位として把えることができた。なお、この採掘坑についても、あと１回ないし２回程度の掘削により第４群粘土採掘坑と連続する位置に掘り込まれている。掘削作業における単位として把えられた第11群粘土採掘坑を基本に、他群における作業工程を考えると、第46図に示した方法がとられていると理解できる。又、他群粘土採掘坑の底面にはかなり起伏が残っており、部分的には第11群粘土採坑掘程度の大きさの掘り残しと把えることができ、平面形における不整円形の形状を考え合わせ、個別の掘作削業は比較的小規模であったと判断される。つまり１個の採掘坑の掘削（原料粘土の採掘）は、掘削および運搬を含め３名ないし４名程度で実施しているのではなかろうか。しかし、同時にどの程度の採掘を実施したかは判断できない。次に粘土採掘坑の位置であるが、これは報文中に記したようにローム層下に堆積する白色粘土層（原料粘土）の層厚に関係するものであり、下の棒グラフにみるように、２群、５群、10群では１㎡あたりの採掘量は平均値以下を示している。又３群、４群を中心として比較的安定した粘土採掘が行なわれており、明らかに効率的な作業を実施した結果によるものである。しかし、掘削作業自体の計画性については、各群の分布及び群毎の掘削方向をみるかぎり看取され得ない。最も大規模に掘削されている３群、４群についても計画的な作業は認められず、調査中の土層断面等の観察により、比較的無策為に作業が進められていると考えられる。各採掘坑は結果的に、今回群として把えたような形態になったのであろうが、その過程において第11群もしくは６群程度の採掘坑が所々に掘り込まれ、その粘土採掘状況に応じて、良好な部分は集中して掘削され、次第に拡張されたが、それ以外の部分については、多少の拡張をもって終了するという形で作業が実施されていたと判断できる。



付表２．１㎡あたりの粘土採掘量（㎥）

Ⅵ 化 学 分 析

薮田東遺跡出土土器の胎土分析

花 岡 紘 一 （群馬県工業試験場）
中 沢 悟 （群馬県埋蔵文化財調査事業団）
原 雅 信 （ 同 上 ）

はじめに

1975年にはじめた胎土分析の試料数は180点を数え、過去5回にわたる報告がある(注1)。この分析の結果、県内10ケ所の古窯跡群のうち、太田金山、安中秋間、中之条、吉井、乗付窯跡群についての一傾向が明かとなったほか、集落出土須恵器の産地同定も可能となってきた。

今回の分析報告は月夜野窯跡群の関連遺跡である薮田東遺跡出土須恵器と各窯支群の須恵器を主体試料とし、月夜野窯址群の分析結果を加えたものである。したがって本稿は月夜野窯跡群に関して初回報告となる。

なお、本稿の考古学的な記述は、中沢、原によるものである。

1．試料について

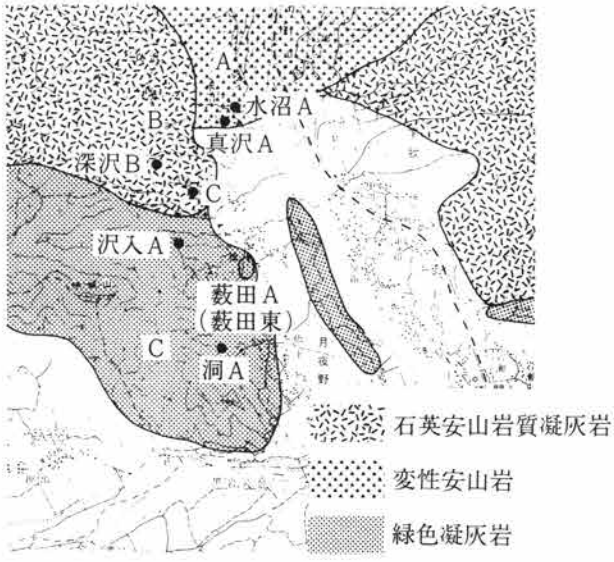
薮田東遺跡は薮田遺跡と一連の遺跡であり、須恵器生産に伴う粘土採掘坑と工人集落が確認された。調査では窯跡の検出はなかったものの隣接地に焼土、須恵器の散布が見られることから周辺に窯体の存在が確実視され、それを薮田A支群として呼称したい。このため月夜野窯跡群は、北より、水沼A、真沢A、深沢B、C、沢入A、薮田A、洞A支群の7個所に支群構成を認めることができる。（付図1）

以下、窯跡群の立地基盤に不可決な地質、および、製作地同定に必要な須恵器の胎土傾向について触れておきたい。

① 地 質 （付図1）

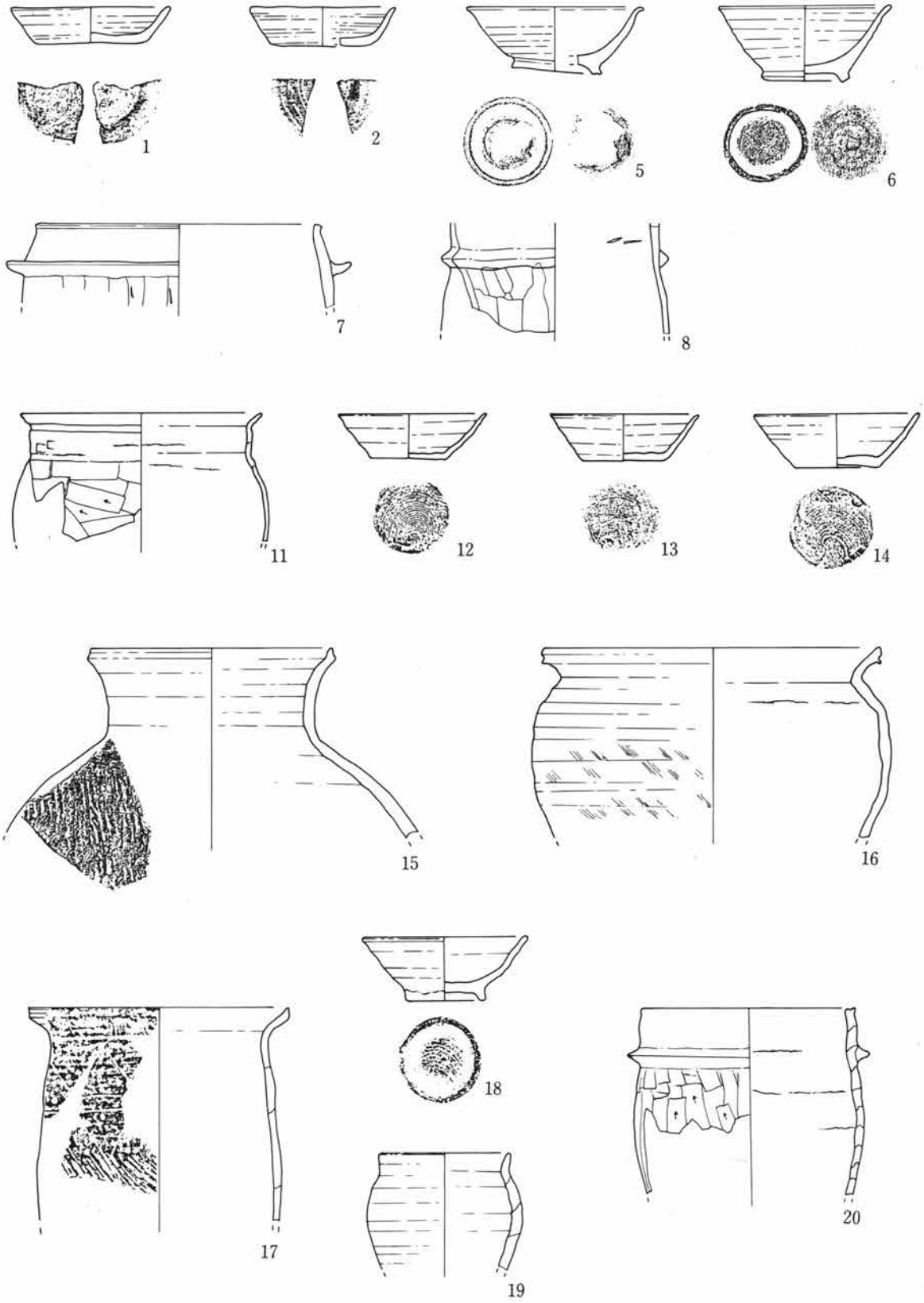
月夜野窯跡群は東を利根川、南を赤谷川に狭まれた一角にある味城山の東から東北麓裾に7支群をもって構成された利根・沼田・吾妻地方最大規模の窯跡群である(注2)。操業年代は8世紀の窯跡の存在する沢入A支群を古い例とし、10世紀代の深沢B・C支群まで2世紀以上継続している。

この窯跡群を地質図(注3)と対照してみると生成の異なる3つの基盤層上に位置していることが判り、調査時における地質鑑定上も同様の所見を得ている。基盤



付図1．周辺地質図 1：50,000

新井房夫『群馬県地質図』（昭39）をもとにしているが一部について加除筆してある。



第116図　胎土分析資料実測図

付表1．胎土分析資料観察表

試料	時期	器種	胎土の肉眼観察	備考
1	8C中頃	坏	灰白色を呈しているが、還元でかなり固く焼きしめられている。胎土傾向Bの製品と思われる。黒色鉱物は非常に少ないが含まれている。石英粒はほとんど含まれていない。底部は手持ち一定方向ヘラ削りである。白色鉱物を少量含む。	沢入A支群1号窯
2	8C中頃	坏	黒色を呈している。還元でかなり固く焼きしめられている。胎土傾向Bの製品と思われる。小さな白色鉱物が多く目立つ。黒色鉱物はほとんど認められない。	沢入A支群2号窯
5	10C中頃	埦	褐色を呈する埦である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物を多く含む。黒色鉱物は認められない。	深沢C支群
6	10C中頃	埦	褐色を呈する埦である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物を多く含む。黒色鉱物は認められない。	深沢C支群
7	10C中頃	羽釜	灰褐色を呈する羽釜である。胎土中に石英粒が目立つ。胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物を多く含む。非常に少量の黒色鉱物を含む。	深沢C支群
8	10C中頃	羽釜	表面が炭素吸着により黒色を呈している。断面及び内側の一部がやや褐色を呈している。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土中に小さな白色鉱物を多く含む。	深沢C支群
11	9C後半	コの字状口縁の甕	光沢をもちガラス質で黒色の粒子を多く含む。1㎜以下の砂粒を大量に含む。	土師器 3号住居址
12	9C後半	坏	灰白色の軟質還元焔焼の坏。1㎜内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	左回転 3号住居址
13	9C後半	坏	イブシ焼成の坏。断面内側底部に褐色、他の表面に炭素吸着あり、1㎜内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	左回転 3号住居址
14	9C後半	坏	酸化焔焼成の坏、1㎜内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	右回転 3号住居址
15	9C後半	壺	1㎜内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	3号住居址
16	9C後半	甕	1㎜内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	3号住居址
17	9C後半	甕	褐色を呈する甕である。胎土中に多くの砂粒が混入している。石英粒の混入は少ない。胴中央に平行叩目痕あり。（6号住居址）	東北地方から影響を受けて作られた甕？
18	10C後半	埦	灰白色を呈する埦である。胎土中に多く石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色を持ち、Bの生産地にAの製品が搬入された可能性がある。	5号住居址
19	10C中頃	小型甕	褐色を呈した小型甕である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、38と同じことが考えられる。	5号住居址
20	10C後半	羽釜	灰白色を呈した羽釜である。胎土中には石英粒をほとんど含んでいない胎土傾向Bの製品と思われる。黒色鉱物をわずかに含む。	5号住居址
21	第三系層	粘土	やや褐色を帯びている白色粘土である。粘土は帯状に堆積しておりその中に数条の褐色を呈したもろい小礫が混入している。表面上の肉眼観察では石英、長石はほとんど認められない。水で粘土質の部分をとりのぞくと、それらが確認されるが、大きな粒子ではない。	薮田東遺跡粘土採掘坑内の粘土

の生成は、付図1のとおり、Aの変成安山岩上に水沼A、真沢A支群が、Bの石英安山岩質凝灰岩上に深沢B・C支群がある。Cの緑色凝灰岩上に位置するのは今回の分析対象となった薮田東遺跡（薮田A支群中に含まれる)、沢入A、洞A支群が立地する。いずれも第三系に時期する。

② 胎土傾向

支群個々の須恵器の胎土を仔細に観察すると各支群は、立地する生成基盤ごとにまとまる傾向があり、生成基盤層と須恵器胎土とは直接的な関係があることが明かとなった。このうち水沼A・真沢A支群については、資料がなく除外するが、他の5支群については資料が大量にあり、それに基づいて胎土の観察所見を得た。以下のとおりである。

石英安山岩質凝灰岩の基盤　〔深沢B・C支群〕　素地は粒子が荒く、粗である。夾雑鉱物に石英、長石の大粒を多く含む。以下胎土傾向Aとする。

緑色凝灰岩の基盤　〔沢入A、薮田A、洞A支群〕　素地は粒子が細く、密である。夾雑鉱物に石英・長石の微細粒を含むが少量である。特徴的に黒色鉱物粒（Fe_3O_4とSiO_2の混合物）を少量含む。以下胎土傾向Bとする。

変性安山岩の基盤　〔水沼A、真沢A支群〕　資料がなく観察から除外する。

③ 試料の選択

今回の分析試料の選択は、本報告の性質上、薮田東遺跡試料を中心とするものであるが、月夜野窯跡群内における薮田A支群（薮田東遺跡を含む）の位置づけができるようにも配慮した。

薮田東遺跡の資料は3・5・7号住居址内より出土したもので11の土師器を除いて全て須恵器である。基本的にはいずれも胎土傾向Bに含められるため、それらの須恵器は、薮田東遺跡の粘土採掘坑などから得られた原料を基に同遺跡および周辺で製作されたと考えられるが、5号住居址出土18の埦にかぎり胎土傾向Aであり、こうした各支群からの搬入の可能性のあるものも対象とした。11～16の製品は3号住居址出土であり、9世紀の製品と考えられ、17は6号住居址から出土し、9世紀後半の製品である。18～20は5号住居址出土であり、10世紀代の製品と考えられる。以上のように各時期を通観しうることも選択条件の一つとした。

また月夜野窯跡群内における薮田東遺跡の位置づけができるよう、胎土傾向Bの沢入A支群、胎土傾向Aの深沢C支群の須恵器を加え、さらに、既分析の沢入A（3・4)、洞A（9・10）の各支群の分析値を補足した。

消費地との関連では、吾妻郡中之条町菅田、平遺跡の須恵器3例（29・30・31）と、沼田市、大釜遺跡の須恵器7例（22～28）を加え、関連を求めた。なお今回の試料の考古学的要目は付表1、付表2に示した。

2．分析の意図と目的

(1) 12、13、14は3号住居址出土の坏であり、器形の特色からみてほぼ同一時期のものと考えられるが、焼成方法において違いがみられる。12は軟質の還元焔焼成であり、13は断面と底部内面が褐色を呈しているが、その他の表面は炭素分を吸着している燻焼成の坏である。それぞれ焼成方法に差異が認められるが、胎土は肉眼で観察した限りでは共通するため、胎土分析によりほぼ同一の胎土が使用されている可能性を確認したい。

(2) 3号住居址出土の坏類と壺、甕類という器種の異なる製品に使用されている胎土に差異が認められるか否かを確認したい。

(3) 6号住居址出土17の甕は、伴出遺物からみて3号住居址の年代に近く、9世紀後半の製品と考えられる。この甕は形態上東北地方に見られる土師器の長甕に酷似し、器肉も薄手に仕上げている。しかし体部下手にあて目と平行叩き目が認められ、口唇部の特色とあわせて考えると須恵器製作工人の手による製品と考えられる。この甕の胎土は11の土師器甕に近いのか、15、16の須恵器の壺甕類に近いのか確認したい。

(4) 18の埦は、5号住居址出土であるが、胎土を肉眼で観察すると薮田東遺跡の特色である胎土傾向Bではなく、胎土傾向Aを示し、大量の石英粒を認めることができる。5号住居址の他の埦の多くにも、その傾向が認められる。胎土傾向Bの薮田東遺跡の中に、胎土傾向Aの製品（おそらく深沢B、C支群製品と考えられる。）が搬入されたことが想定できる。肉眼観察で認められるこの差異を胎土分析においても認められるか確認したい。

(5) 18の埦は、還元焔焼成による埦であるにもかかわらず、器肉中に重層状の粘土の走向が認められ、お菓子のパイを想起させるほど粗雑である。そのため大量の水を吸収する。同じ胎土傾向を示すものの中で緻密な胎土の13・14の埦があり、この両者が胎土分析の結果同じ胎土傾向を示すことを確認したい。

(6) 19の小型甕は、10世紀代のもので酸化焔焼成であり、ロクロ使用により製作されている。この甕は9世紀後半代17の甕の後に続く東北地方の影響下で製作された甕の一種であることも考えられる。胎土分析により土師器である11の甕、須恵器である16の甕、東北の影響下にあると考えられる17の甕の三者のうちどの甕に最も胎土が近いかを確認したい。

(7) 20の羽釜は、還元焔焼成による製品である。表面観察からみると16の甕に近似しており、胎土傾向Bの製品である。肉眼観察による同じ胎土傾向を持つ坏12～14、壺、甕の15、16と胎土分析の結果において近似している傾向を確認したい。

(8) 1、2の坏は、沢入A支群より出土した坏である。この地域は薮田東遺跡同様緑色凝灰岩上に位置しており、胎土傾向Aの地域と考えられる。しかし沢入A支群の操業年代は8世紀中頃～後半と考えられているため、薮田東遺跡の9世紀～10世紀の製品とは時期を異にしている。同様な地質上に位置するが、場所と時期が異なる2者において胎土傾向がどのようであるのか確認したい。

(9) 5、6は、深沢C支群より出土した10世紀代の埦である。この地域は石英安山岩質凝灰岩上に位置し、胎土傾向Aである。両埦とも肉眼観察上、多くの石英粒を観察することができ、胎土傾向Bの薮田東遺跡の製品と胎土傾向を異にしている。この肉眼観察と胎土分析の結果とが一致するか否かについて確認したい。

(10) 7、8の羽釜は、5、6の埦同様、深沢C支群より出土した10世紀代の羽釜である。肉眼観察では、13、14の埦同様に多くの石英粒を含んでいる。器種の異なる羽釜と埦において、2者が同一傾向の胎土である可能性を確認したい。

(11) 深沢C支群出土の7、8の羽釜と薮田東遺跡出土の20の羽釜は、両遺跡内の他の器種と同じ胎土傾向にあるか否かについて知りたい。つまり羽釜も他の須恵器と同じ原料（粘土）を使用していることを確認したい。

(12) 肉眼観察による胎土傾向Bの製品である12～16、20と胎土傾向Aの製品である5～8の間に胎土分析の結果全体的にどの程度の違いがあるのかを知りたい。

(13) 薮田東遺跡において、粘土採掘拡より採集した粘土と、3号住居址及び5号住居址出土の製品とが胎土分析の結果において一致するか否か確認したい。（11の土師器と深沢C支郡の製品と見られる18の埦及び

肉眼観察により胎土傾向をやや異にする19の小型甕を省く。)

(14) 薮田東遺跡の東南約5.5kmに位置し、沼田市に所在する大釜遺跡(注4)において出土した須恵器は、どこの生産地の製品である可能性が高いのかを胎土分析の結果により確認したい。その結果須恵器の供給地の一つである月夜野窯跡群との関連を追求したい。

(15) 薮田東遺跡の西南約13.5kmに位置し、月夜野窯跡群の製品供給先の1つであると考えられている吾妻地方に所在する中之条町菅田、平遺跡出土須恵器の既分析結果(注5)を基に、月夜野窯跡群の胎土傾向と同一であるのか否かについて確認したい。

3．試験方法

分析用試料は各試料を10μ以下に粉砕し、5～10gを径4cmの円板に成型し、蛍光X線分析試料およびX線回析試料とした。

元素分析には、蛍光X線分析装置（理学電機製KG-4型）を使用した。管球は銀対陰極、計数法はチャート方式（4/min）を使用した。詳細な条件は表2に示した。なおケイ素(Si)、アルミニウム、(Al)、マグネシウム（Mg）は定時計数法によった。また、蛍光X線分析値は、粘土標準試料（日本標準試料委員会認定、科学技術社発売）R-601、R-602、R-603、および埴輪既試料の3点（№A、B、C）の湿式化学分析試料を標準として求めた。なお、この値は表3に示した。

表2．分析条件

分析元素	管電圧 電　流	分光結晶	検出器	波高分析	時定数
Fe Sr Rb Mn Zr Zn Ba	50 KV ～ 20 mA	LiF	S・C	積分方式	1
Ca K Ti Si Al	50 KV ～ 20 mA	EDDT	P・C	積分方式	1
Mg	50 KV ～ 20 mA	ADP	P・C	積分方式	1

表3．標準試料の分析値

成分／試料	SiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	TiO_2 (%)	CaO (%)	MgO (%)	K_2O (%)	SrO (%)	Rb_2O (%)	MnO (%)	Ca/K (%)	Sr/Rb (%)
R-601	50.3	33.0	1.16	0.56	0.15	0.29	1.71				0.11	0.24
R-602	45.9	37.3	0.69	0.12	1.41	0.37	0.58				3.06	51.08
R-603	46.1	37.0	0.66	0.09	1.66	0.29	0.40				5.24	25.58
A	66.7	18.6	6.00	0.94	1.09	1.29	1.39	0.028	0.007	0.09	1.08	2.29
B	64.4	17.1	6.03	0.61	0.86	0.55	2.63	0.024	0.012	0.17	0.46	1.16
C	68.0	17.6	1.65	0.49	0.94	0.58	2.77	0.034	0.016	0.10	0.48	1.21

4．試検結果

以下に、分析目的の（1）～(15）について結果を報告する。

(1) 試料12、13、14は近似値にあり、ほぼ同一の数値にある（付図2、3）。

(2) 試料12、13、14と試料15、16は付図2では接近しており、ほぼ同一の数値にある（付表4）

(3) 試料17は12～16、20の一群内にあり(付図2)、とCa/KとSr/Rb比の高い試料11と差が生じた(付図2)。

(4) 試料18は、付図2、3のとおり深沢領域に入るが沢入領域にも近接する。

成分／試料	SiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	TiO_2 (%)	CaO (%)	MgO (%)	K_2O (%)	Ca／K	Sr／Rb
1	68.2	18.5	2.42	0.64	0.50	0.46	1.96	0.36	2.10
2	66.0	21.0	5.19	0.66	0.78	0.45	1.45	0.76	2.84
3	70.6	18.4	2.96	0.67	0.57	0.76	1.75	0.43	1.92
4	66.5	20.5	5.14	0.73	0.83	0.75	1.32	0.83	2.21
5	65.2	21.0	2.94	0.67	0.78	0.38	1.38	0.79	2.43
6	66.1	23.0	2.41	0.66	0.90	0.43	1.46	0.84	3.24
7	64.2	20.4	3.04	0.64	0.77	0.30	1.38	0.77	2.97
8	66.0	20.3	2.23	0.62	1.05	0.40	1.46	0.99	3.04
9	68.6	18.4	4.29	0.82	0.70	1.12	1.49	0.62	1.79
10	65.7	18.7	5.51	1.02	0.48	0.77	1.36	0.47	0.86

月夜野窯跡群試料

成分／試料	SiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	TiO_2 (%)	CaO (%)	MgO (%)	K_2O (%)	Ca／K	Sr／Rb
11	63.7	19.2	5.73	0.80	1.70	0.67	1.49	1.59	2.74
12	66.3	20.0	4.20	0.68	0.48	0.50	1.76	0.36	1.63
13	66.0	19.2	3.36	0.70	0.48	0.44	1.46	0.44	1.42
14	67.0	18.0	4.56	0.65	0.41	0.45	1.51	0.38	1.90
15	66.4	21.4	4.39	0.74	0.45	0.51	1.36	0.46	1.75
16	66.2	22.8	3.60	0.76	0.40	0.50	1.43	0.39	1.45
17	67.1	18.5	5.53	0.66	0.46	0.43	1.60	0.39	1.27
18	65.0	24.0	3.30	0.66	0.98	0.45	1.31	1.01	2.83
19	63.1	21.0	4.36	0.74	0.77	0.40	1.61	0.65	2.14
20	66.2	21.5	3.65	0.75	0.68	0.56	2.15	0.43	1.41
21	65.2	20.2	4.40	0.75	0.59	0.49	1.62	0.50	1.08

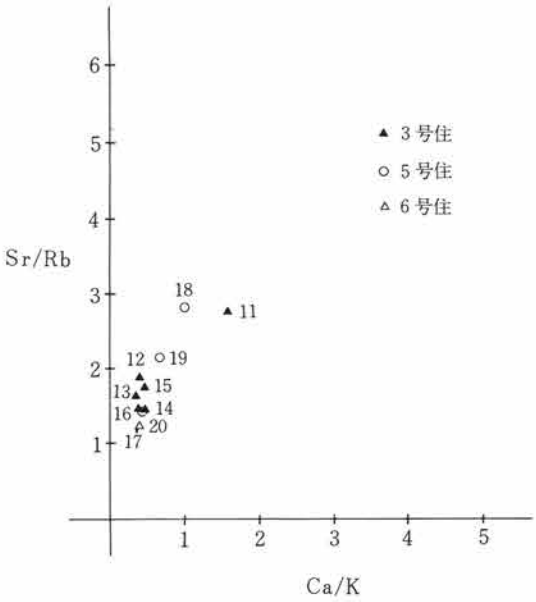
薮田東遺跡試料

成分／試料	SiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	TiO_2 (%)	CaO (%)	MgO (%)	K_2O (%)	Ca／K	Sr／Rb
22	71.2	15.5	2.70	0.65	0.27	0.45	1.04	0.36	0.78
23	67.0	19.5	3.13	0.65	0.35	0.52	2.17	0.21	0.60
24	68.6	16.8	2.80	0.80	0.37	0.49	2.04	0.25	0.95
25	68.0	19.3	2.87	0.90	0.37	0.50	1.86	0.27	1.01
26	65.0	19.1	4.55	0.77	0.35	0.55	1.77	0.26	1.16
27	65.2	22.1	3.10	0.70	0.79	0.44	1.47	0.75	1.91
28	66.1	22.0	3.77	0.75	0.72	0.48	1.50	0.67	2.02

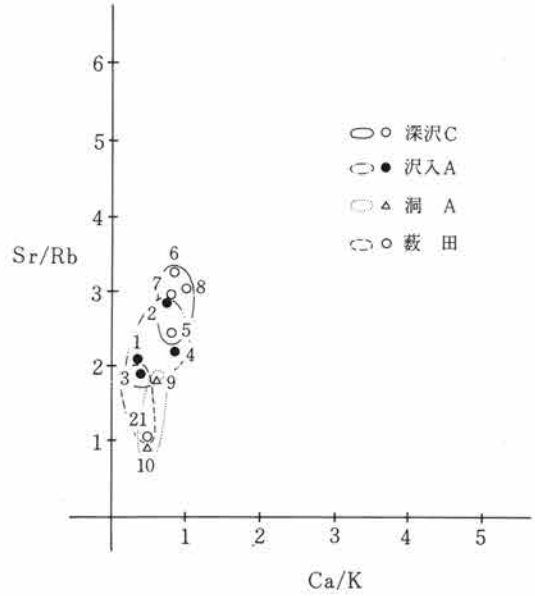
大釜遺跡試料

成分／試料	SiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	TiO_2 (%)	CaO (%)	MgO (%)	K_2O (%)	Ca／K	Sr／Rb
29	68.6	17.4	4.67	0.67	0.94	1.15	1.73	0.71	1.38
30	68.9	21.4	2.70	0.88	0.29	0.59	1.46	0.26	2.79
31	66.0	18.0	6.60	0.89	0.95	1.02	1.21	1.04	1.95

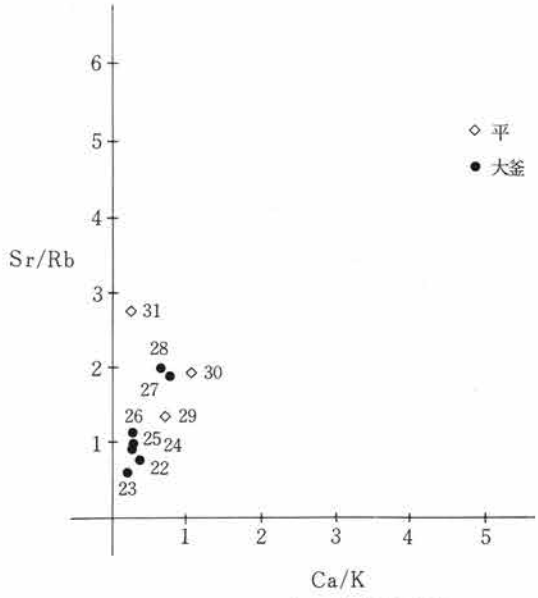
平遺跡試料



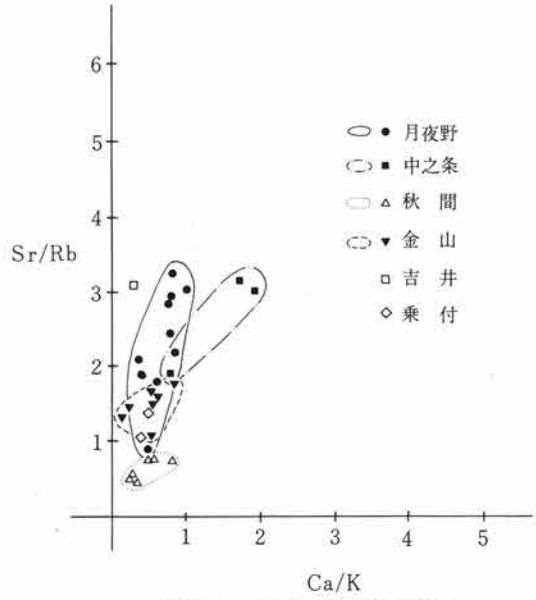
付図２　薮田東遺跡住居址試料



付図３　月夜野窯跡群試料



付図４　大釜平遺跡試料



付図４　県内窯比群の領域

(5) 試料18は付図２のとおり試料13、14と接近している。

(6) 試料19は付図２のとおり試料11とは差を生じて位置し、試料16、17に近い。

(7) 試料20は、付図２のとおり試料12～16の一群内にある。

(8) 付図３に示したとおり既分析と今回の分析により試料５～８の深沢Ｃと試料１～４の沢入ＡとはCa/KとSr/Rb比において前者が高く、後者が低い値となり、その間に領域の設定が可能である。しかし、領域の一部は重複する。

(9) 試料５、６は付図３に領域設定したとおり、Ca/K と Sr/Rb 比に差がある。

(10) 付図３に示したとおりり試料７、８は、試料５、６の間に位置し、近似値にある。

(11) 付図２、３のとおり試料７、８は深沢領域に、試料20は薮田領域に入り、成分値は同領域内の他試料に接近してある。

(12) 付図２、３のとおり試料12～16、20の一群と、試料５～８の深沢領域の一群とは異なる傾向を示した。

(13) 付図２のとおり、薮田東遺跡粘土試料21に、試料12～16、20は近接した値を示した。

(14) 大釜遺跡出土須恵器のうち試料27、28は付図４の月夜野窯跡群領域に入り、試料22、23は秋間窯跡群領域に入る。

(15) 平遺跡出土須恵器のうち試料31を除く、29、30は付図４のとおり月夜野窯跡群領域に入る。

まとめ

今回の分析によって月夜野窯跡群および各支群の胎土傾向を知ることができた。

薮田東遺跡の試料については、洞Ａ支群・沢入Ａ支群・深沢Ｃ支群の各支群の胎土傾向と異なることが確認できた。そのため同遺跡周辺に試料21の粘土を用いた窯支群の存在を示唆する結果を得た。

しかしながら、今回の分析も前回と同様 Ca/K、Sr/Rb との関係から領域設定を行ったが、県内の各窯跡群との間に重複が多出するようになった。このことは Ca/K と Sr/Rb との関係だけでは同定が困難であり、胎土の肉眼観察を採用しつつ、他の分析も合せて行う必要を確認した。

注

（１）a「土器の胎土分析」『塚廻古墳群』群馬県教育委員会（昭和55年）
　　b「瓦の胎土分析」『天代瓦窯遺跡』中之条町教育委員会（昭和57年）
　　c「温井遺跡出土須恵器の胎土分析」『温井遺跡』群馬県教育委員会（昭和57年）
　　d「瓦の胎土分析について」『山王廃寺跡第７次発掘調査報告書』前橋市教育委員会（昭和57年）
　　e「土器の胎土分析について」『清里・陣場遺跡』群馬県埋蔵文化財事業団（昭和57年）

（２）「月夜野窯跡群」『土器部会研究資料　№２』群馬歴史考古同人会（昭和58年）

（３）新井房夫『群馬県地質図』（昭和39年）

（４）大釜遺跡は、平安時代の集落址で、住居址出土須恵器、７点を分析した。胎土傾向は月夜野窯址群の胎土傾向Ｂ・Ｃの両者を含んでいる。詳しくは、花岡、大西「土器の胎土分析」『大釜遺跡・金山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団（昭和58年）を参照して頂きたい。

（５）平遺跡は古瓦を伴う奈良時代の遺跡で、表採による同期の試料を分析した報告が[(a)1.b)]にある。分析時点では月夜野窯跡の試料の成果がなく、対比させることができなかった。３点の肉眼観察は、月夜野窯跡群の胎土傾向Ｃである。

Ⅶ　薮田東遺跡周辺の地質

磯 貝 基 一

1．地　　形

利根郡月夜野町深沢、橋上、橋下地域は、大峰山（1254.8m）の南東山麓に位置し、西に味城山、東に南流する利根川、南に東流する赤谷川によって囲まれている。この地域からは多くの遺跡が発見され、古くから人間生活の舞台であったことを示している。薮田東遺跡は利根川と赤谷川の合流地点から北西約2kmの橋上地区内にある。

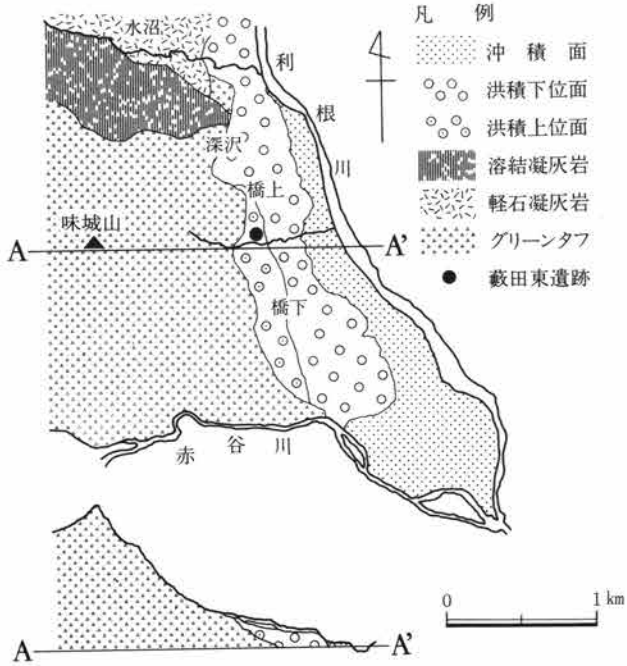
本地域には、河岸段丘がよく発達し、東流する利根川の小支流によって小さな谷がきざまれている。河岸段丘は、沖積面と洪積面に分けられ、洪積面は上位面と下位面に細分される。沖積面と洪積面との段丘崖は30mの高さに達するが、洪積上位面と下位面との比高差は数mにすぎない。また、味城山東方には、小規模な扇状地形がみられ、本遺跡はその中に含まれる。(第117図)

一般に本地域の沖積面と洪積下位面は水田として耕作され、洪積上位面は畑として利用されている。集落は洪積上位面と下位面の境界付近に散在し、遺跡も集落の近くに多いが、窯跡群は味城山の山麓に分布している。薮田東遺跡は標高440mの洪積上位面上にある。

2．地　　質

味城山を中心とする山塊は、グリーンタフ（緑色凝灰岩）からなり、石英安山岩質～流紋岩質の緑色をおびた凝灰岩、凝灰角礫岩、火山角礫岩から構成されている。深沢～水沼地域の西方には、大峰山をつくる石英安山岩質の溶結凝灰岩と軽石凝灰岩が分布し、軽石凝灰岩の一部は堆積状況から水中堆積物であると考えられる。

段丘堆積物は、グリーンタフの凝灰角礫岩、大峰山の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩を基盤として、下位より砂礫層、河床礫層、白色粘土層、関東ローム層、表土（黒土）の順に堆積している。(第118図)



第117図　地質図および地質断面図

砂礫層は赤褐色を呈し、ほぼ水平な葉理がよく発達しており、水沼付近ではグリーンタフの凝灰角礫岩にアバット不整合（第119図）の関係でのっているのが観察される。直径10cm以下の小円礫、細礫と砂層からなり、礫種は花コウ岩、石英せん緑岩、安山岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、ホルンフェルスなどである。沼田市一帯に広く分布する沼田湖成層の末端部と考えられる。

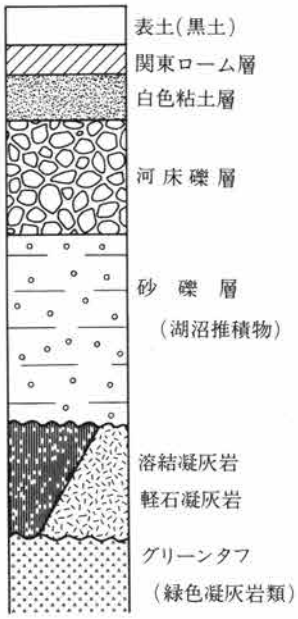
河床礫層は下位の砂礫層と同種の円礫からなるが、直径30cm程の大円礫を含んでおり、かつての利根川河床に堆積したものである。

白色粘土層は下部及び中部にグリーンタフの小礫、細礫を含み、上部は粘土化が進んで良質の白色粘土となっている。本層に含まれる鉱物

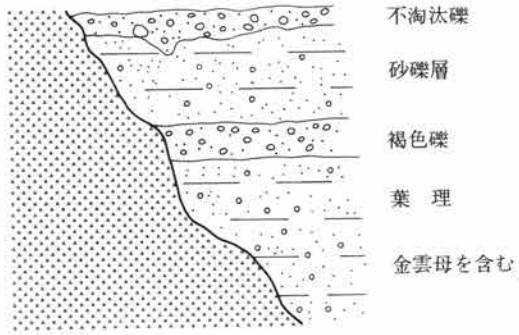
は長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱、ガラスなどである。

関東ローム層は褐色でやや粘性をおび、最下部は粘土化している。鉱物組成は斜長石、しそ輝石、普通輝石、磁鉄鉱、ガラスからなり、最下部の粘土化している部分には角せん石が含まれている。

表土（黒土）は粘性の強い黒色帯をはさみ、二ッ岳降下軽石を含んでいる。



第118図　模式地質柱状図



第119図　アバット不整合スケッチ

3．粘土層について

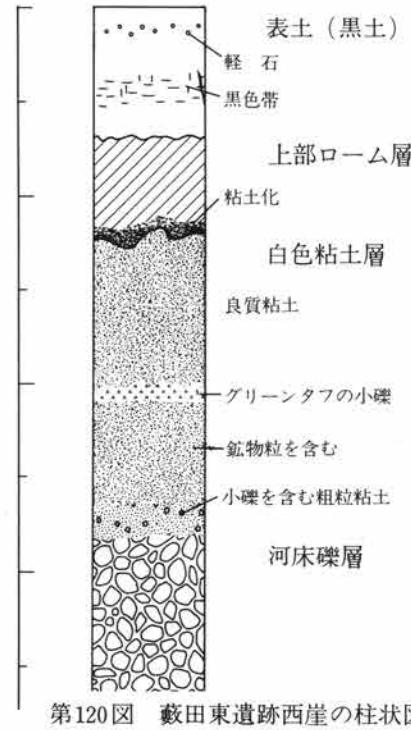
薮田東遺跡付近の洪積上位面下の粘土層は、層厚約1.5mの白色粘土からなり、下位の河床礫層と上位の上部ローム層（関東ロームの一部）によってはさまれている。(第120図)

下半部には小礫や鉱物粒がみられ、粘土化も弱いが、上半部では粘土化が進み良質の粘土からなっている。発見された粘土採掘坑では、主に上半部の良質の粘土部を採集している。

白色粘土層中には、グリーンタフの小礫及び長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱等の鉱物が含まれている。また下半部には金雲母が観察される。

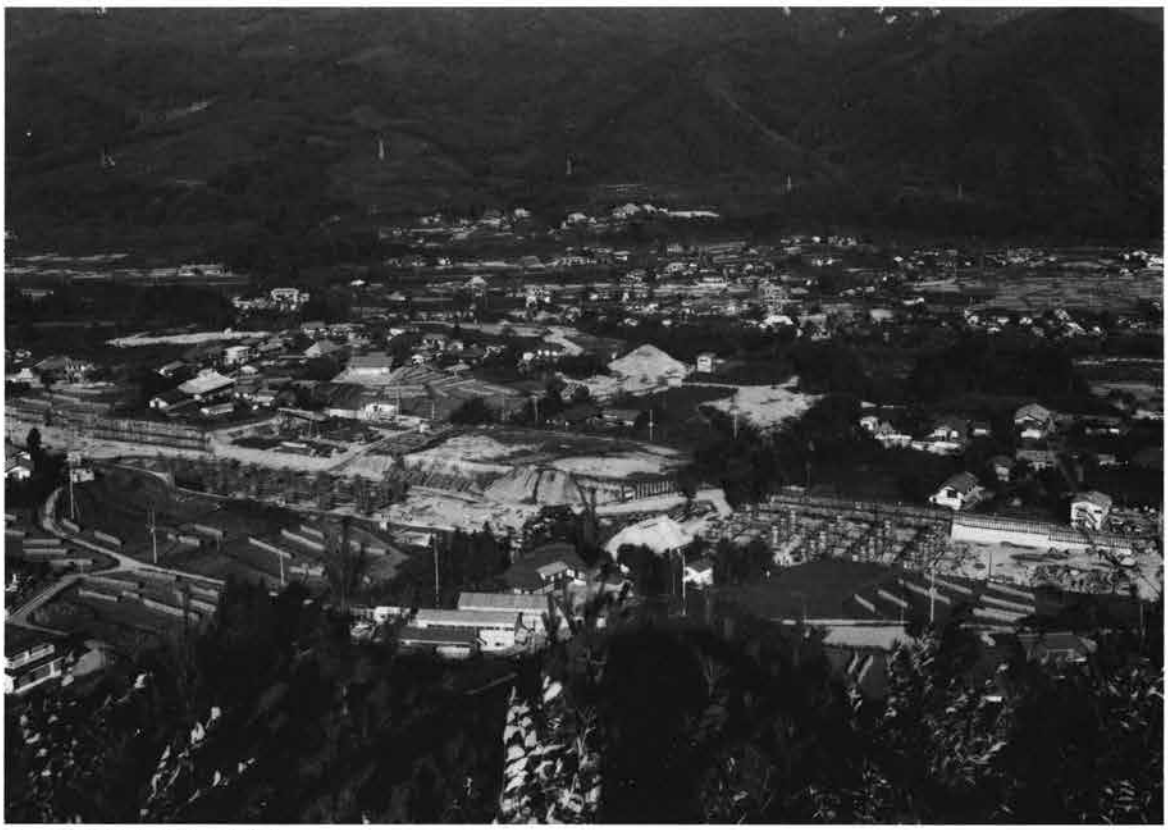
白色粘土は主に粘土鉱物のハロイサイト及び加水ハロイサイトからなっている。ハロイサイトを主成分とする粘土は、乾燥するとひび割れができやすく、陶磁器用粘土には不向きとされている。したがって、白色粘土が採掘され、土器や須恵器の原料として使われたとするならば、おそらく、異質物を混ぜ合わせて使用したものと考えられる。

本地域の白色粘土は、グリーンタフの小礫や長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱、ガラス等のグリーンタフや溶結凝灰岩の構成鉱物を含むことから、今から2万5千年前ころこの付近にあった沼の底に味城山や大峰山をつくっているグリーンタフや溶結凝灰岩が浸食、運搬されてきて堆積した後、粘土化されたものと考えられる。

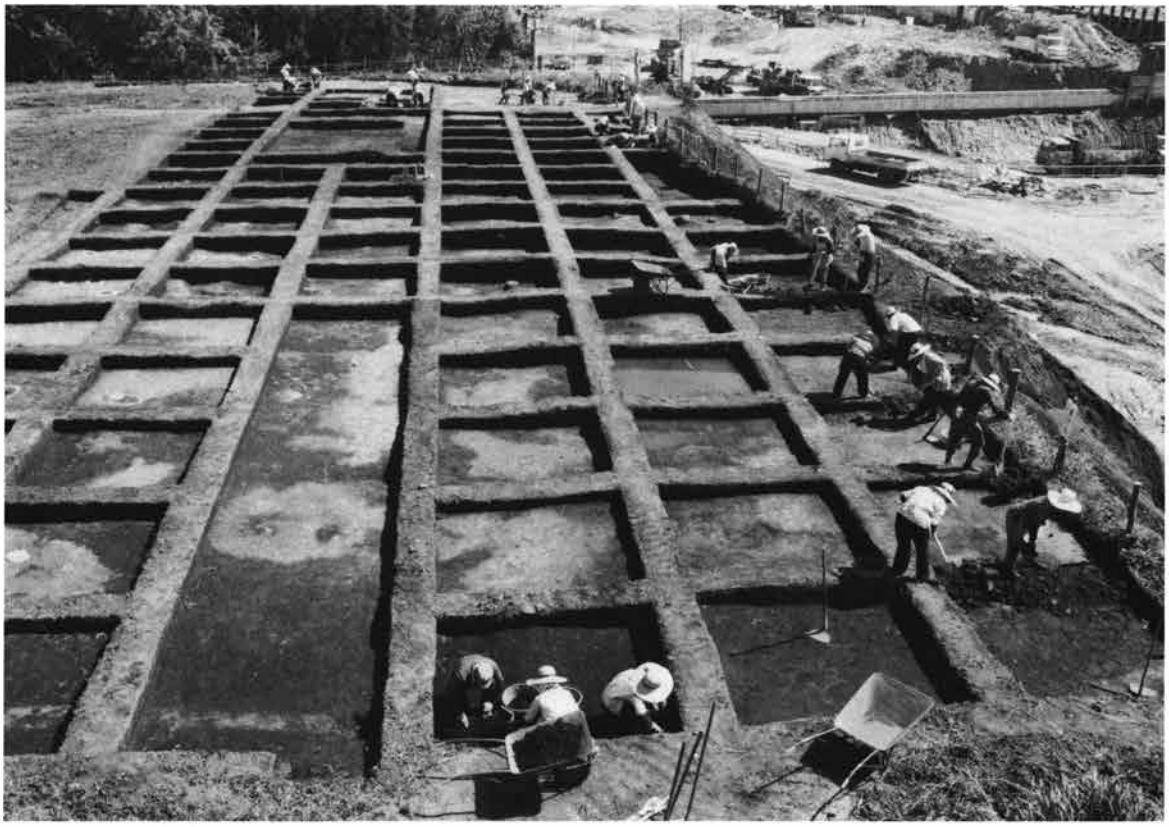


第120図　藪田東遺跡西崖の柱状図

図　　版

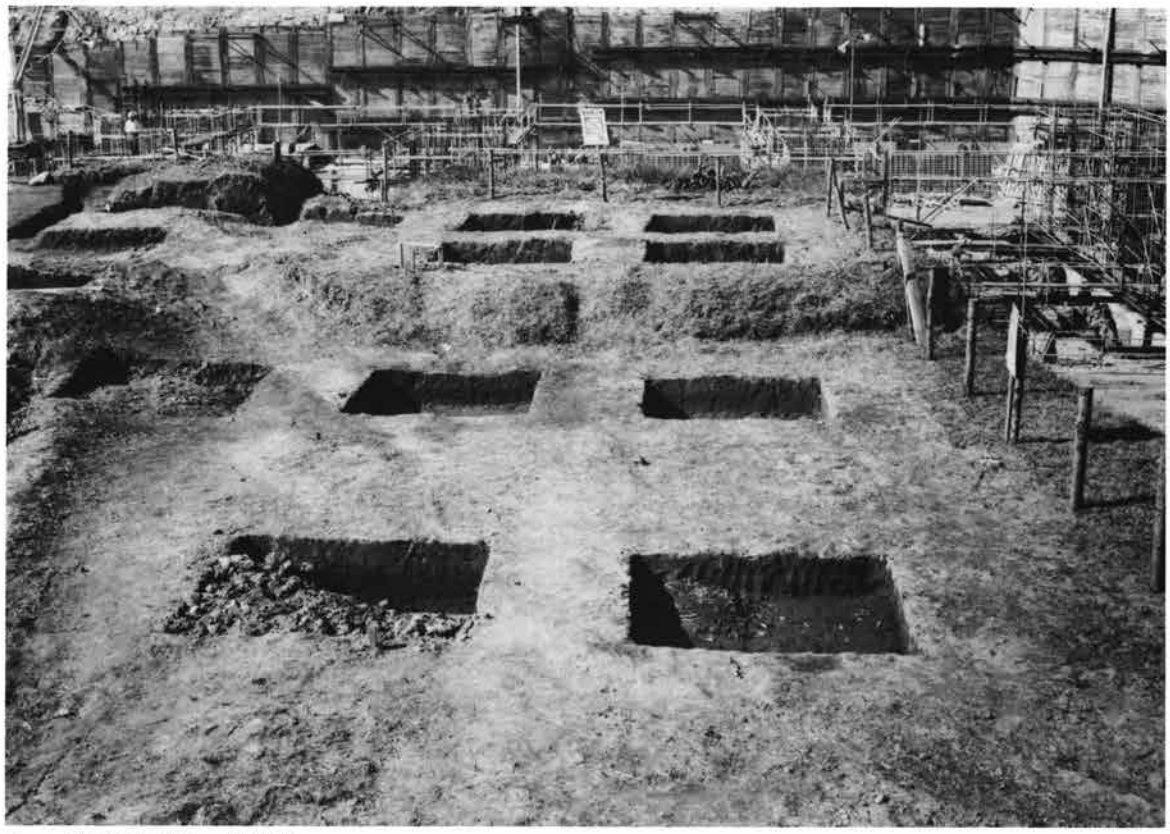


1．遺跡遠景（南西から）



2．グリッド調査

図版　2



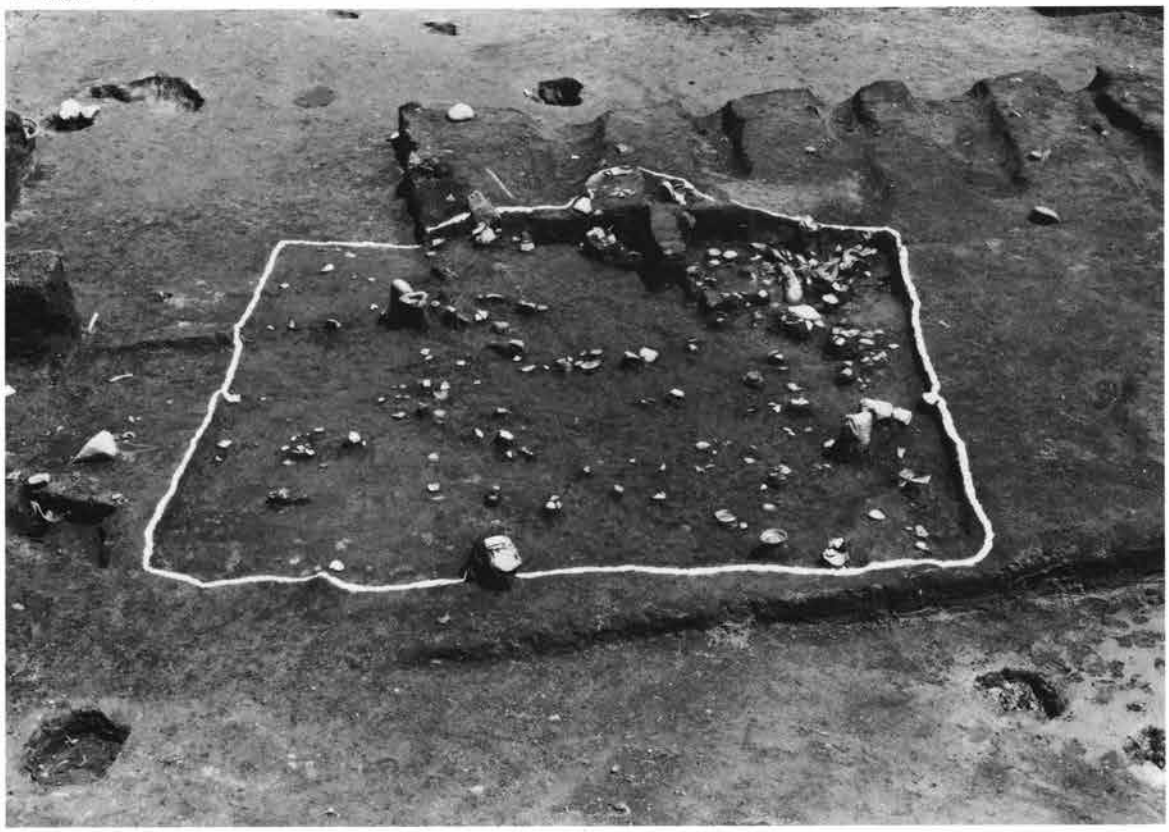
1．水田部分グリッド調査

2．粘土採掘坑発掘作業

1．1号住居址

2．2号住居址

図版　4



1．3号住居址

2．同住居址カマド部分遺物出土状態

4．同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態

3．同住居址カマド掘り方

5．同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態

1．4号住居址

2．5号住居址

図版　6

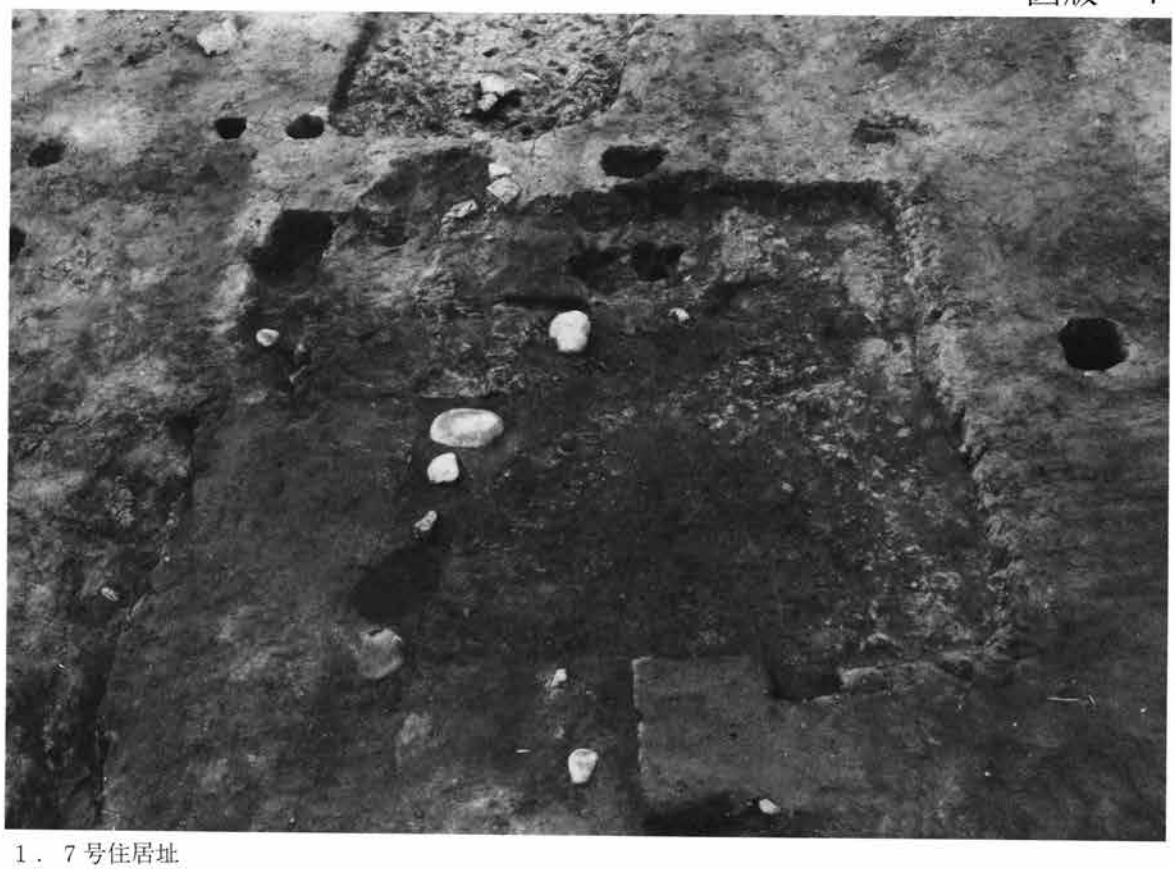
1．6号住居址

2．同住居址遺物出土状態（P23）

4．同住居址遺物出土状態（P 5）

3．同住居址遺物出土状態（P19）

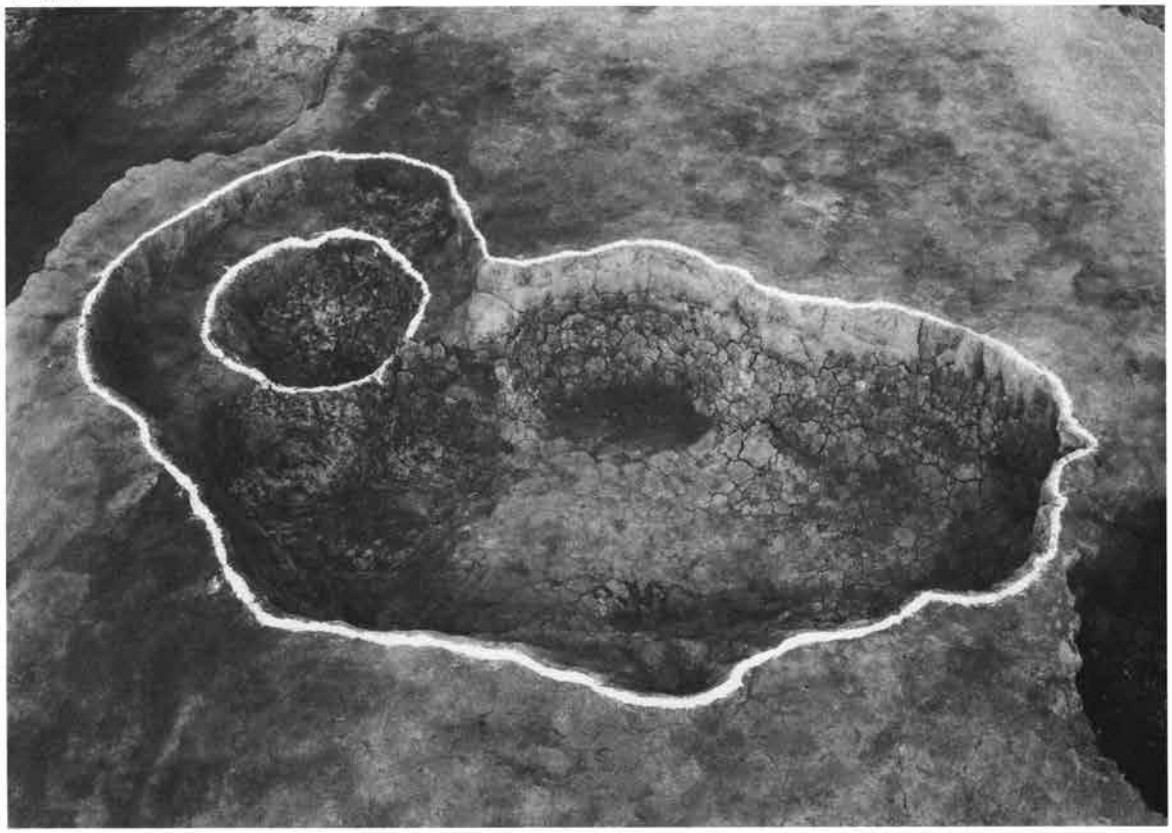
5．同住居址遺物出土状態（P 2）



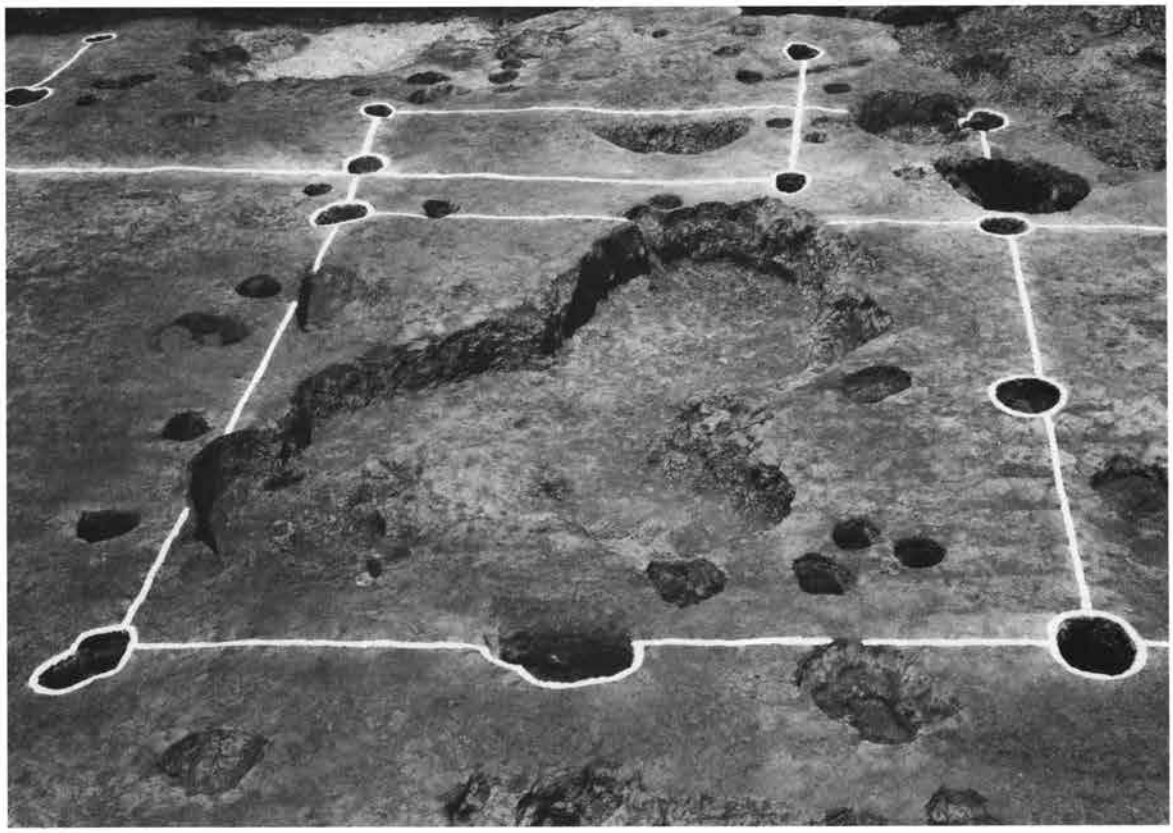
1．7号住居址

2．7号及び8号住居址

図版　8



1．第1群粘土採掘坑



2．第2群粘土採掘坑

1．第1・3・4群粘土採掘坑発掘状況

2．同完掘状態

図版　10

1．第３群粘土採掘坑検出状態

2．第３群粘土採掘坑

1．第3・7・8・9群粘土採掘坑

2．第3・7・8群粘土採掘坑

図版　12

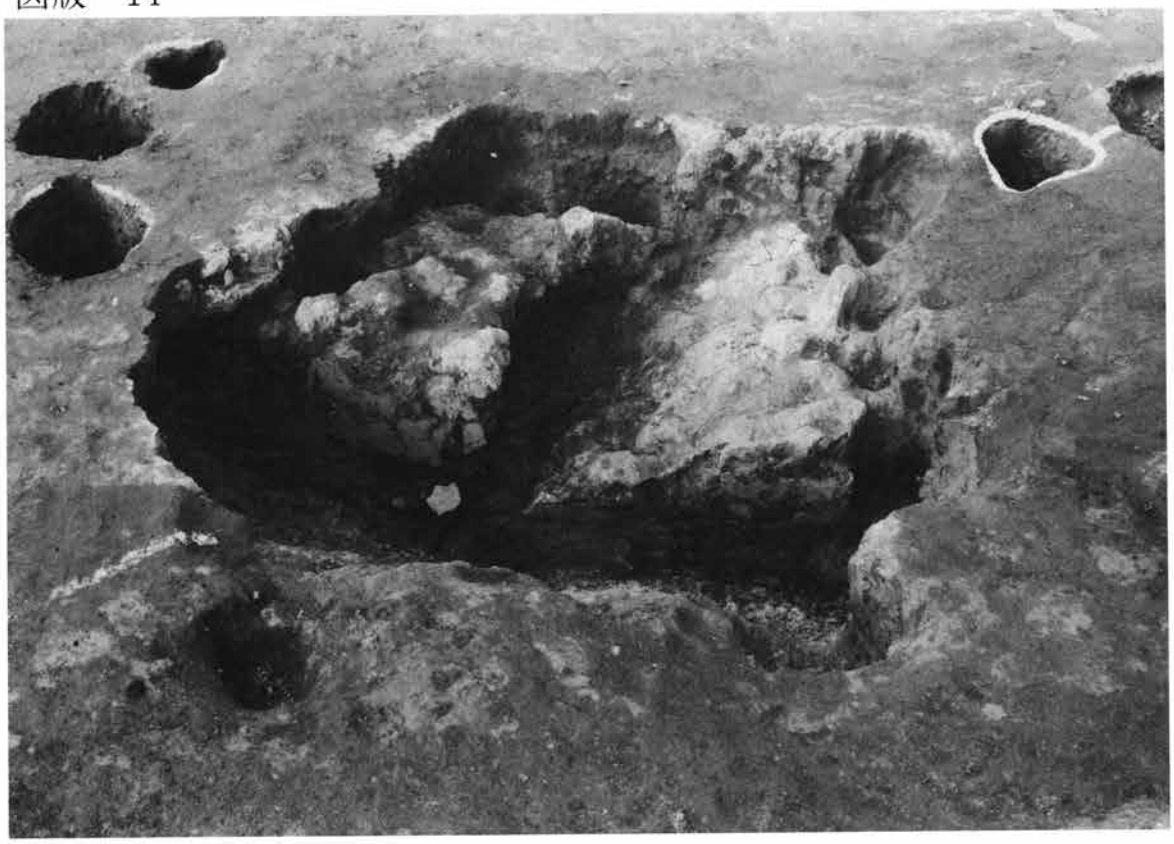
1．第３・７・８群粘土採掘坑

2．第４群粘土採掘坑

1．第4群粘土採掘坑

2．第6群粘採掘坑遺物出土状態

図版　14



1．第6群粘土採掘坑土層断面

2．第6群粘土採掘坑土層断面

1．第６群粘土採掘坑

2．第６群粘土採掘坑

図版　16

1．第７群粘土採掘坑

2．第８・９群粘土採掘坑

1．第９群粘土採掘坑

2．第11群粘土採掘坑

図版　18

1．1号土坑

2．2号土坑

3．3号土坑

4．4号土坑

5．5号土坑

6．6号土坑

1．7号土坑（No.1骨蔵器出土状態）

2．No.1骨蔵器

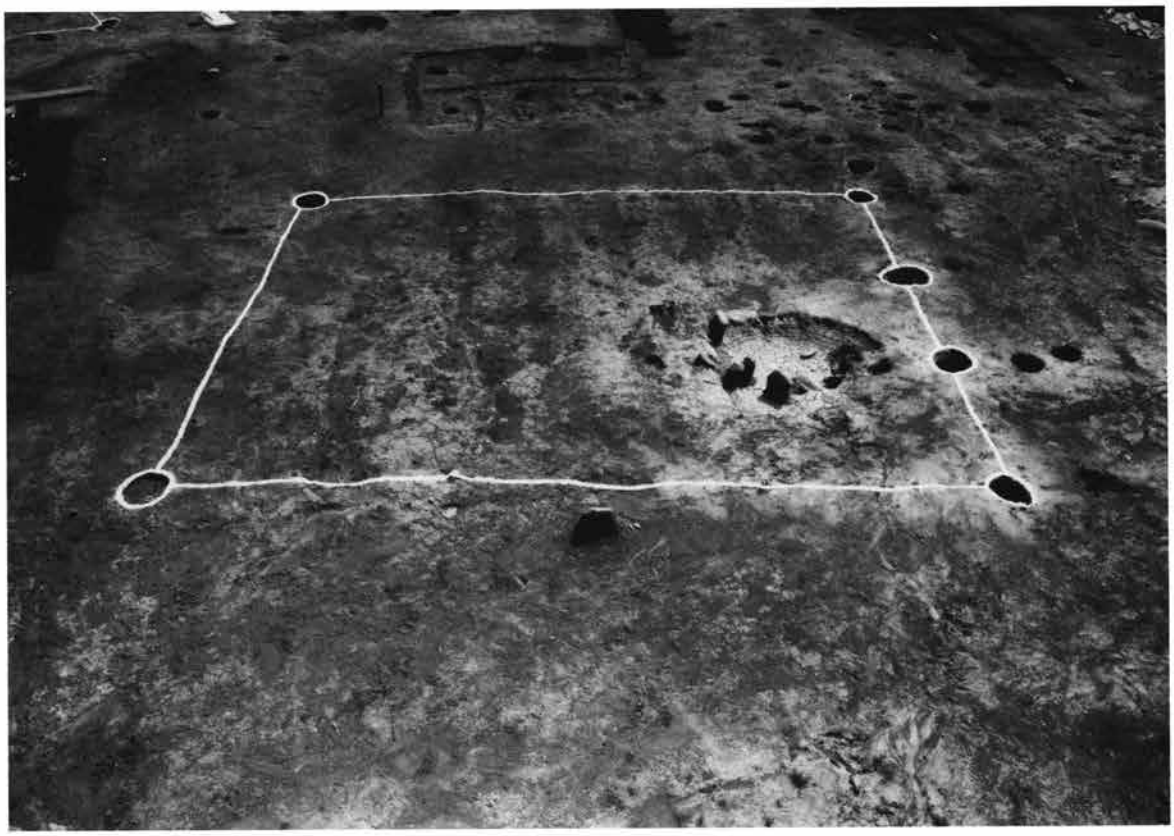
3．No.2骨蔵器

4．No.3骨蔵器出土状態

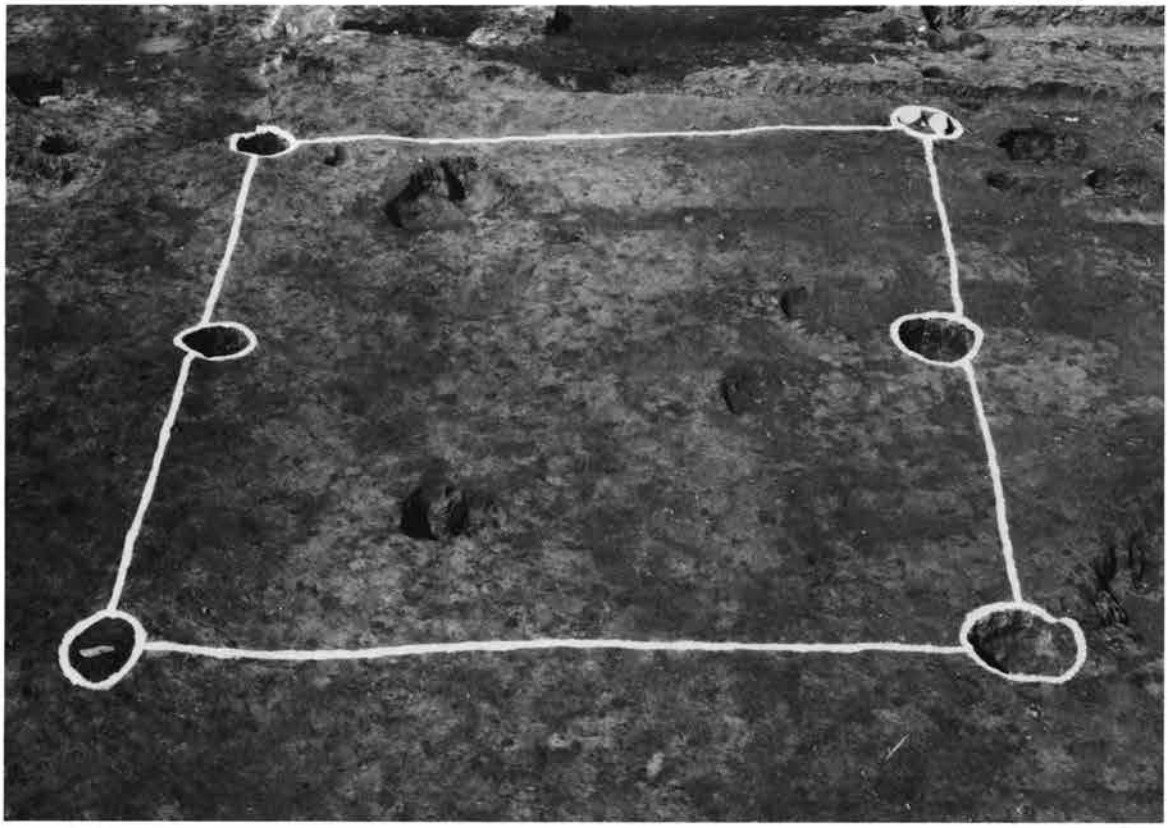
5．No.3骨蔵器

図版　20

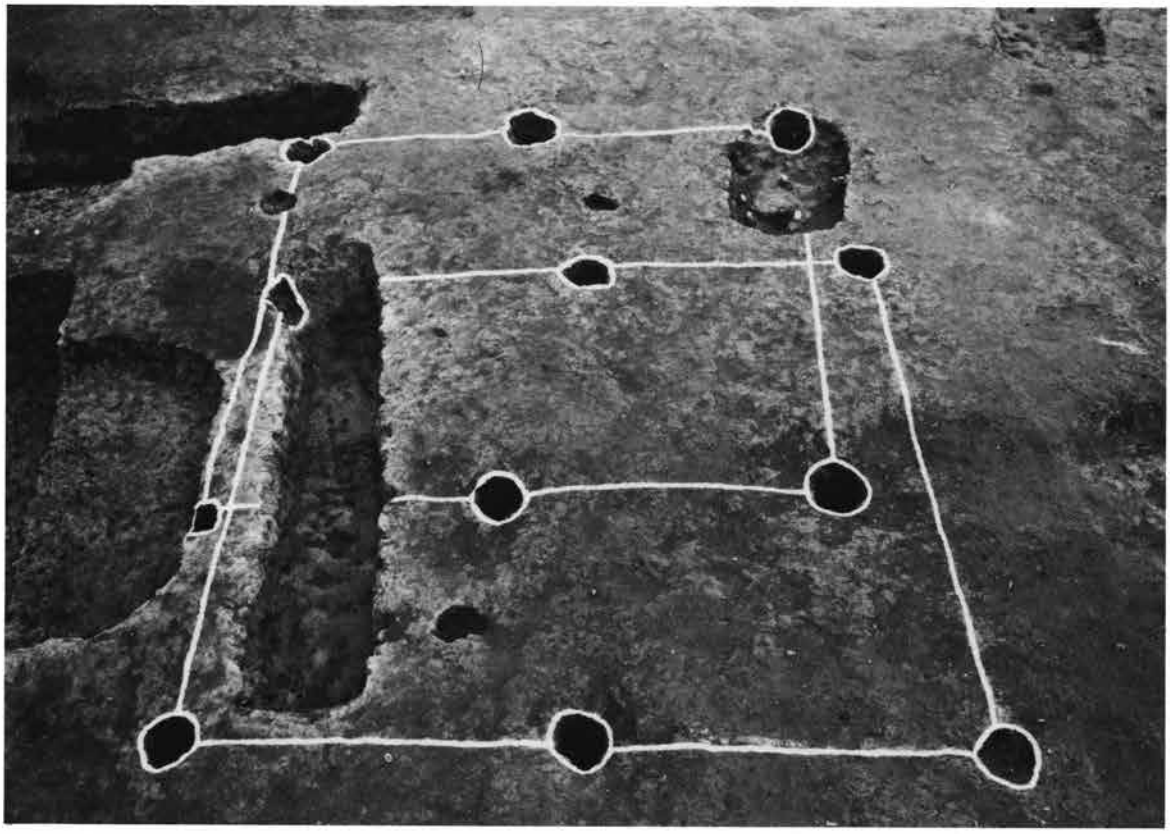
1．1号及び2号掘立柱建物址



2．3号掘立柱建物址



1．4号掘立柱建物址



2．5号及び6号掘立柱建物址

図版　22

1．8号土坑

2．9号土坑

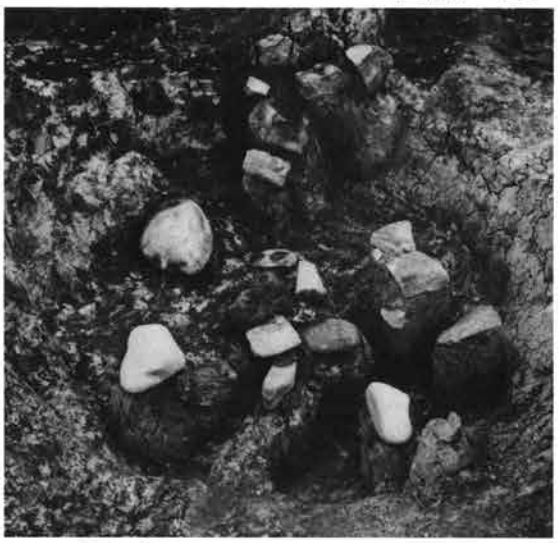
3．10号土拡

4．11号土坑

5．12号土坑

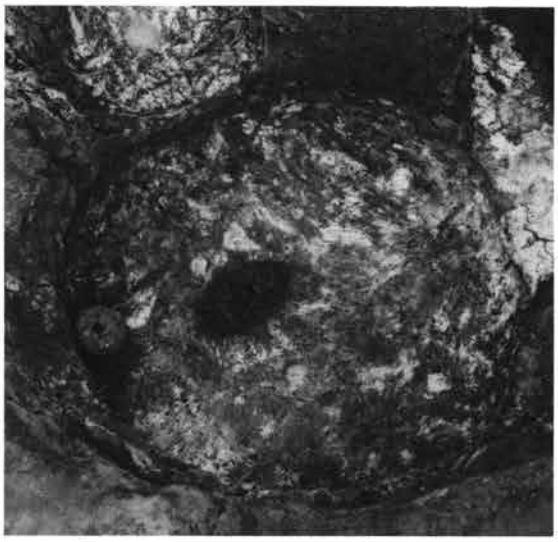
6．13号土坑

1．14号土坑



2．15号土坑

3．16号土坑



4．18号土坑

5．17号土坑

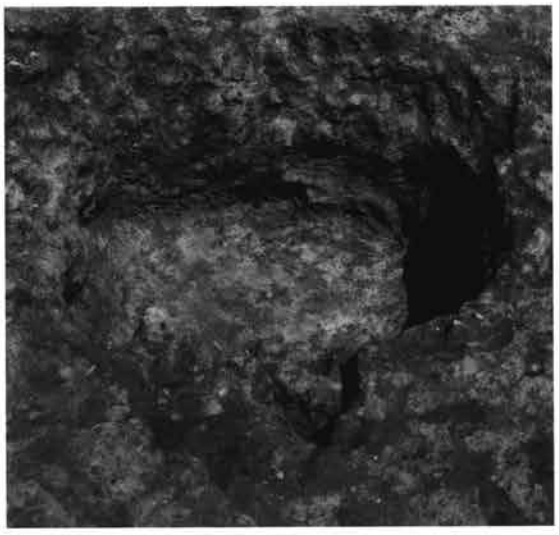
6．19号土坑

図版　24

1．21号土坑

2．20号土坑

3．23号土坑



4．24号土坑

5．25号土坑

6．26号土坑

1．27号土坑

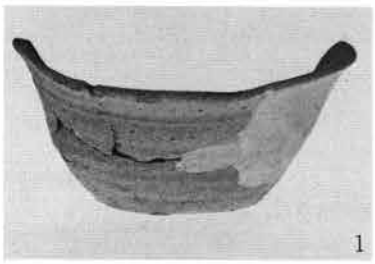
2．28号土坑

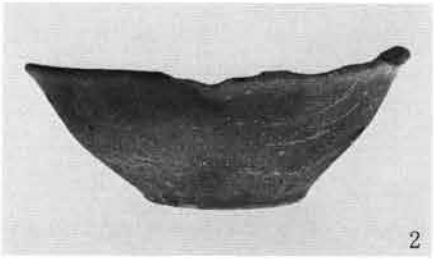
3．集石状遺構

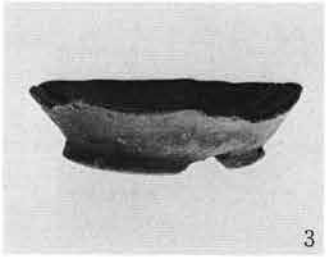
図版　26

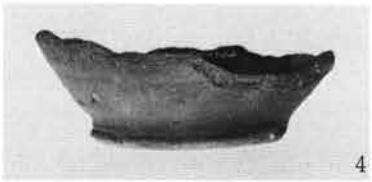
1．溝状遺構

2．石組遺構

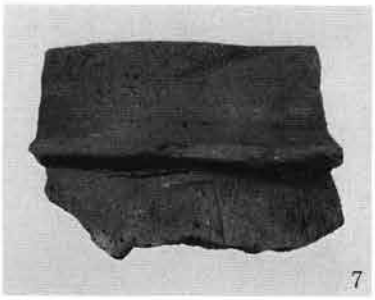

1


2


3

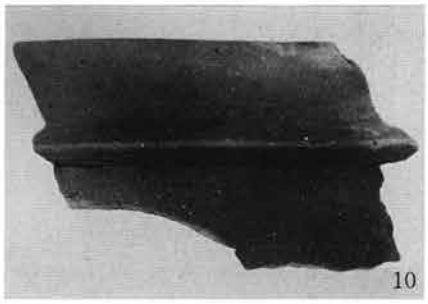

4

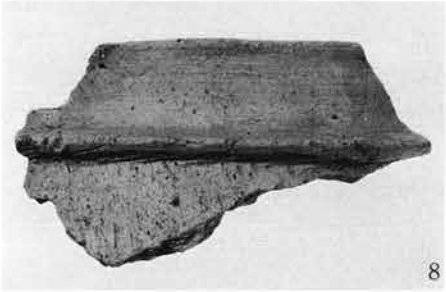
6

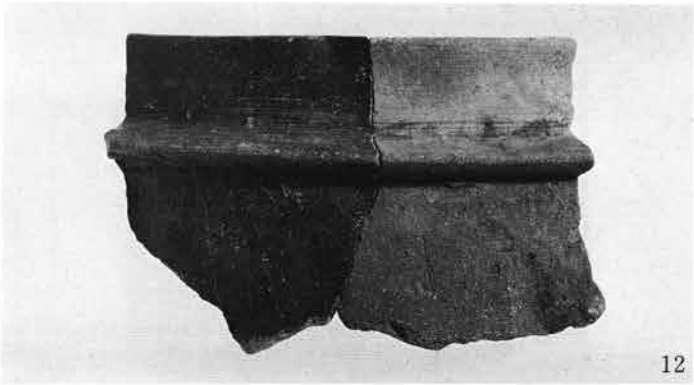

7

5

9


10


8


12

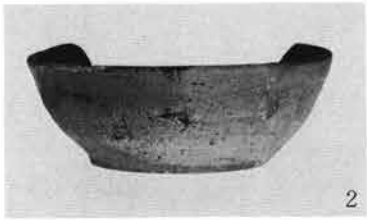
11

13

1号住居址出土土器

図版　28

1


2

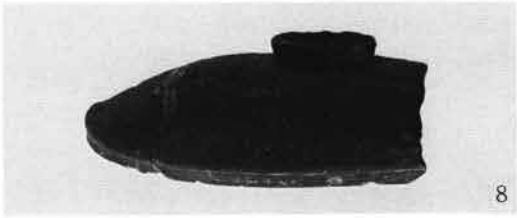
3

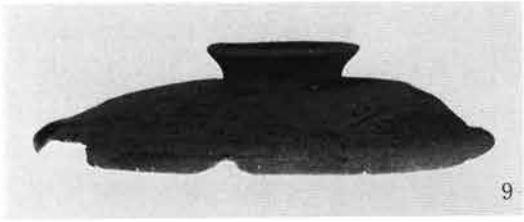
4

5

6

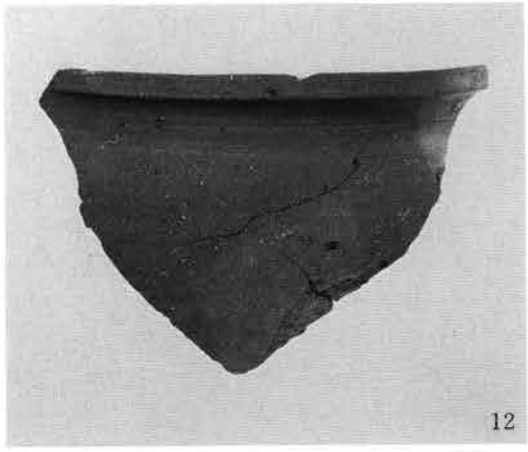
7

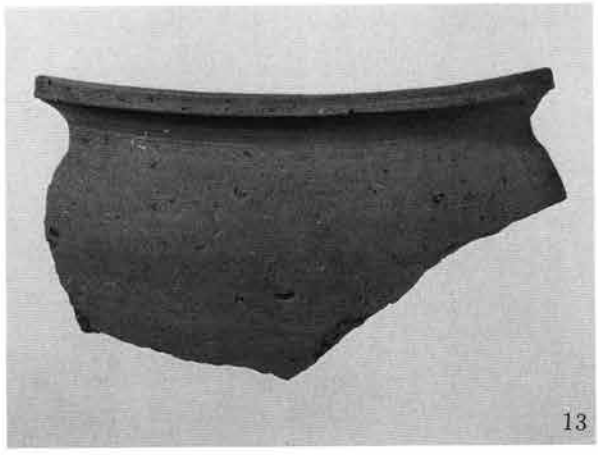

8


9

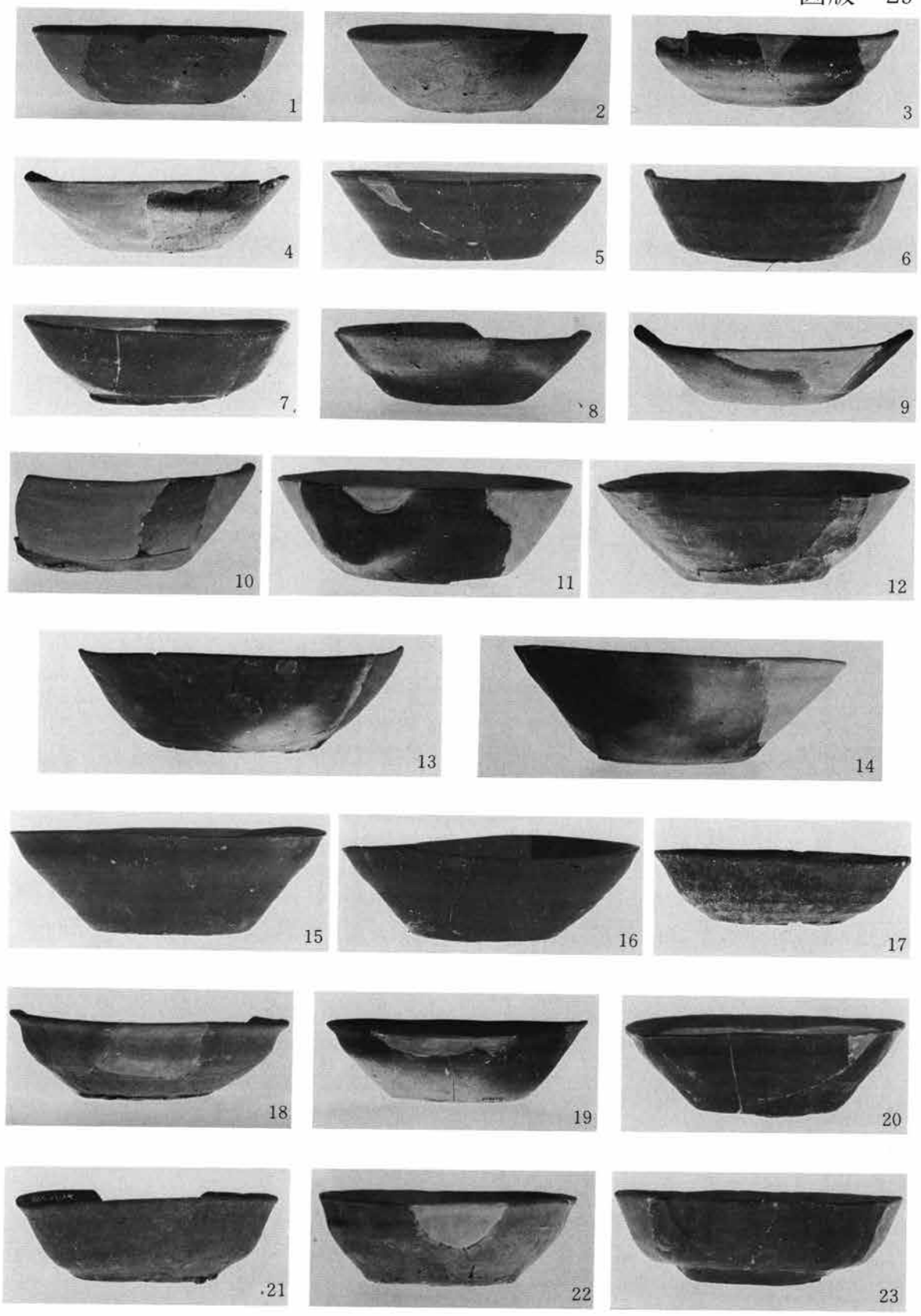
10

11


12


13

2号住居址出土土器



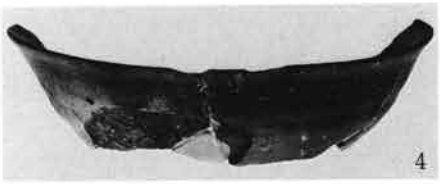
3号住居址出土土器

図版　30

1

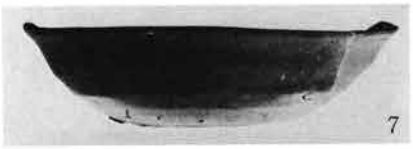
2

3


4

5

6

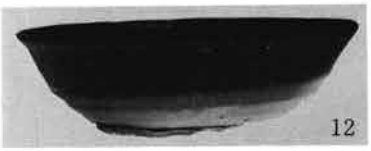

7

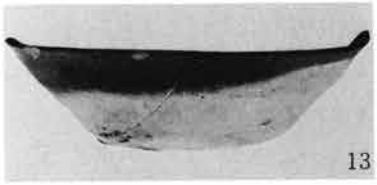
8

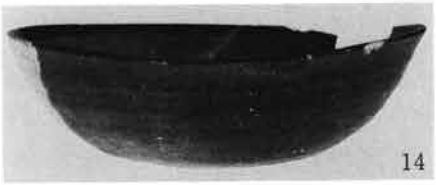
9

10

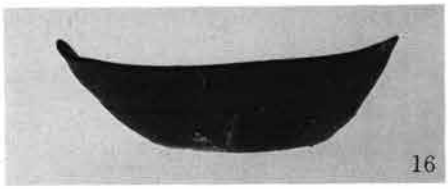
11


12


13


14

15


16

17

18

19

20

21

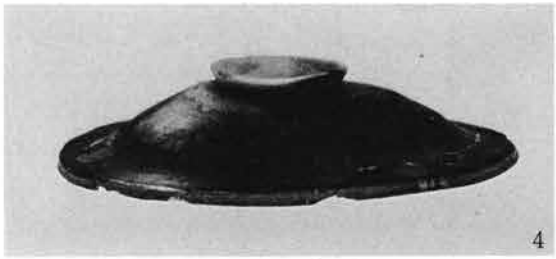
22

3号住居址出土土器

1

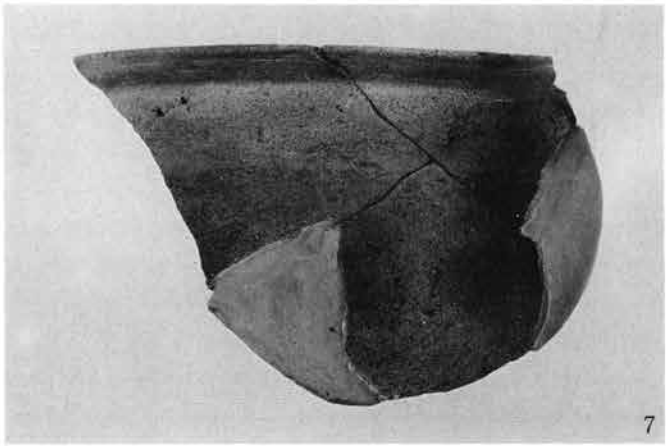
2

3

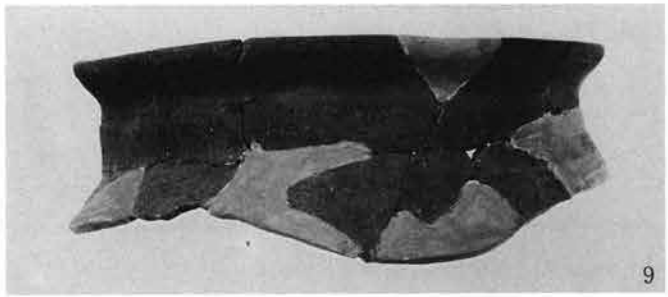

4

5

6

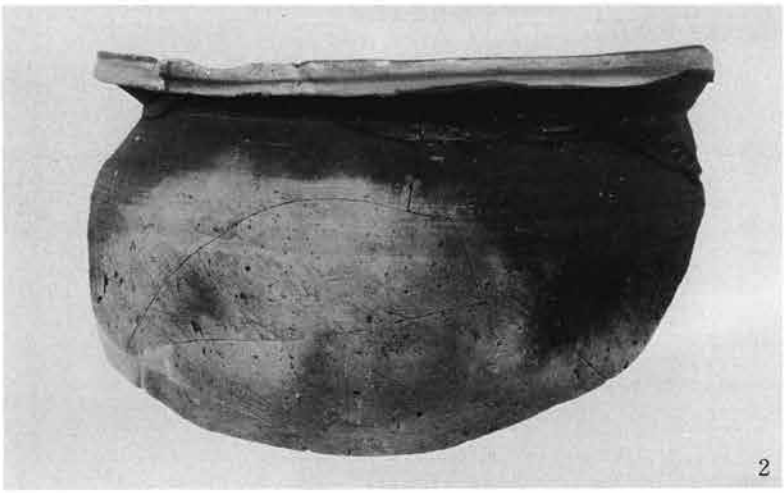

7

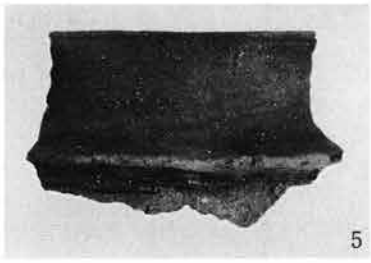
8

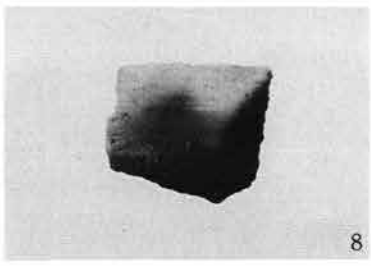

9

3号住居址出土土器

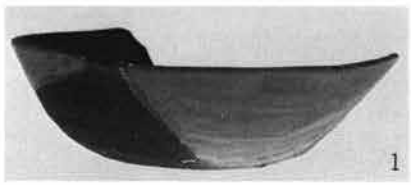
図版　32

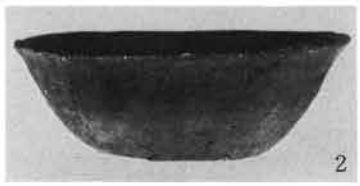


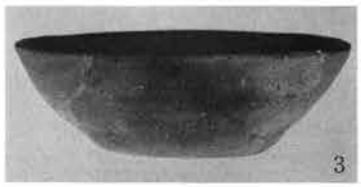




3号住居址出土土器

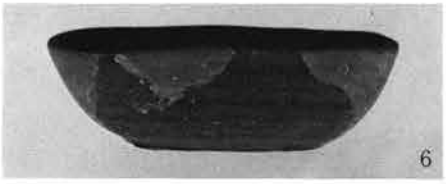

1

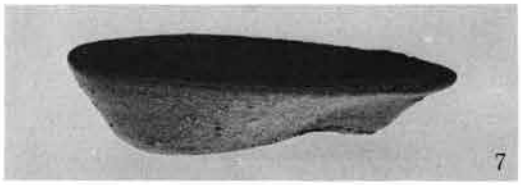

2

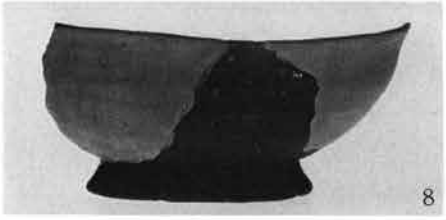

3

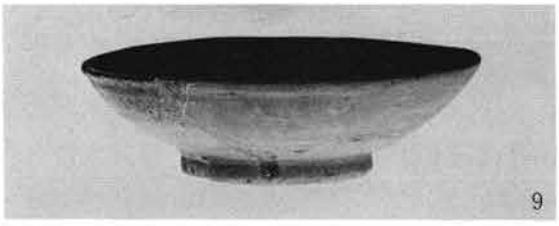
4

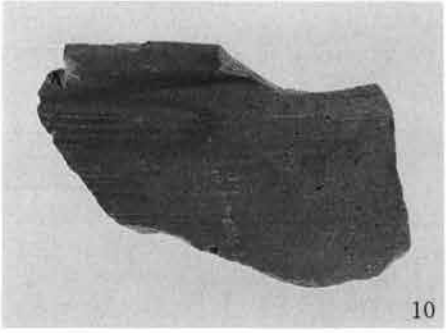
5


6

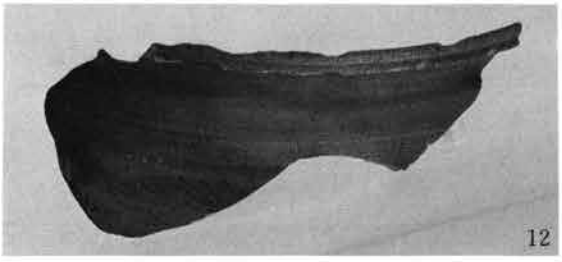

7


8


9


10

11


12

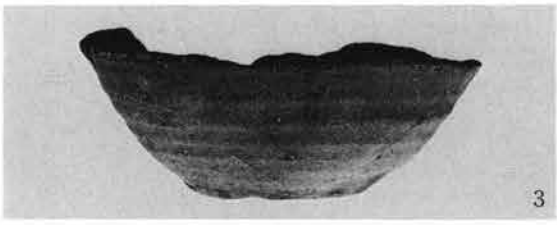
13

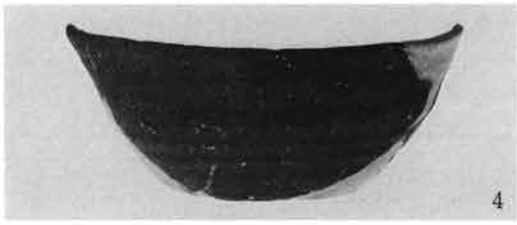
4号住居址出土遺物

図版　34

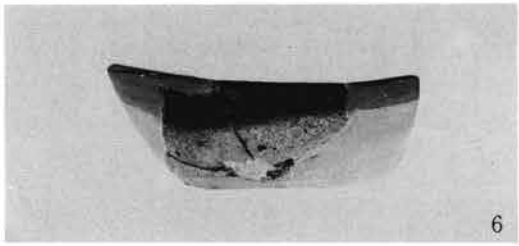
1

2


3

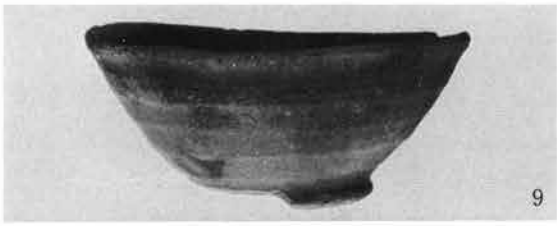

4

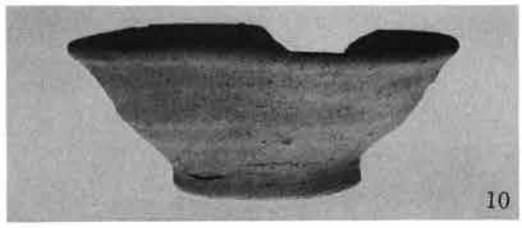
5


6

7

8


9


10

11

12

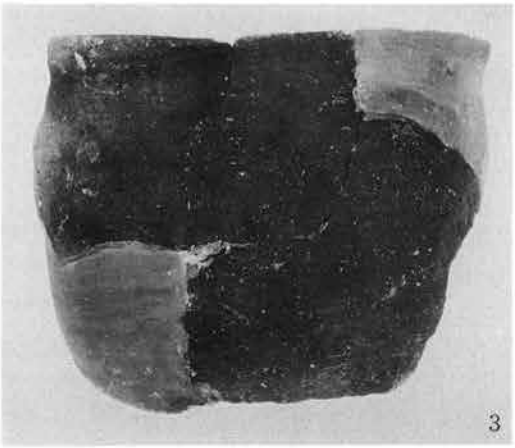
13

14

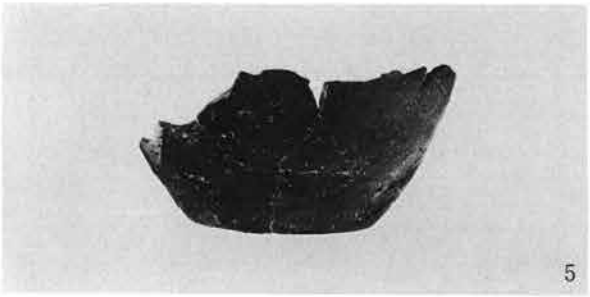
5号住居址出土土器

1

2


3

4


5

6

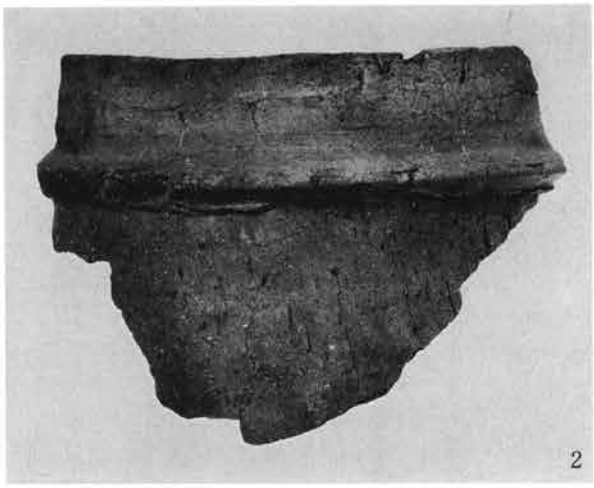
7

8

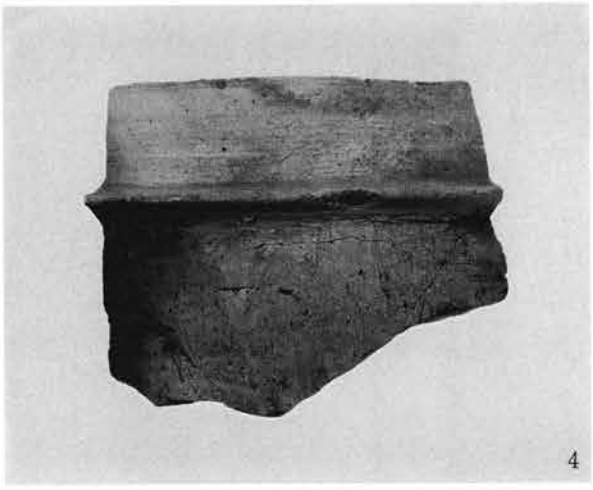
5号住居址出土土器

図版　36

1


2

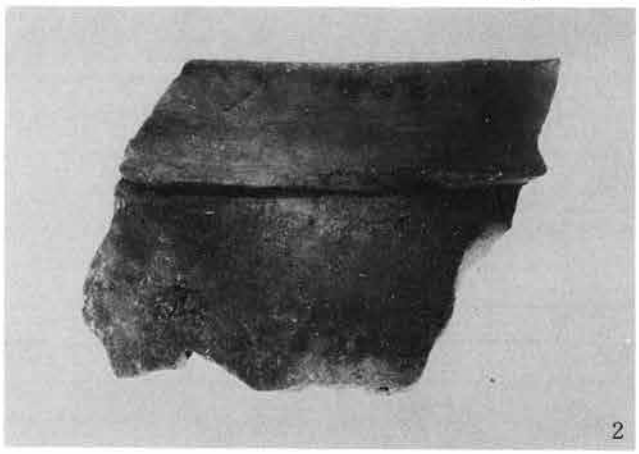
3


4

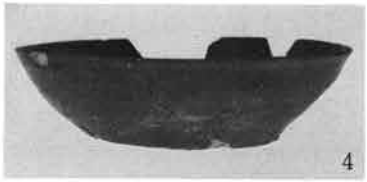
5

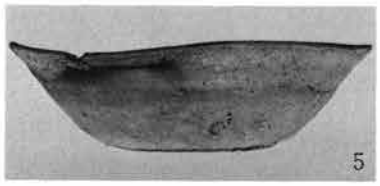
6

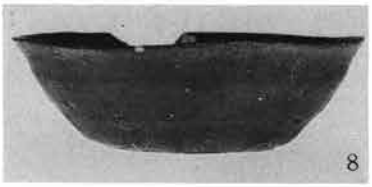
5号住居址出土土器

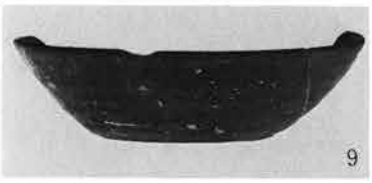


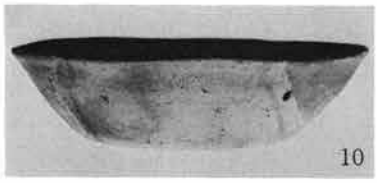
5号住居址出土土器

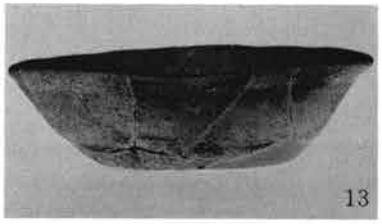


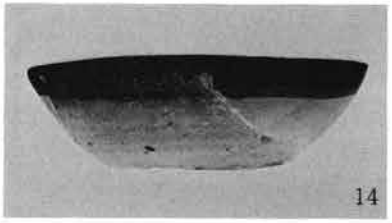


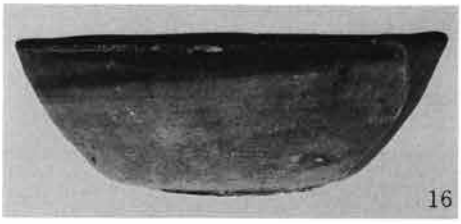






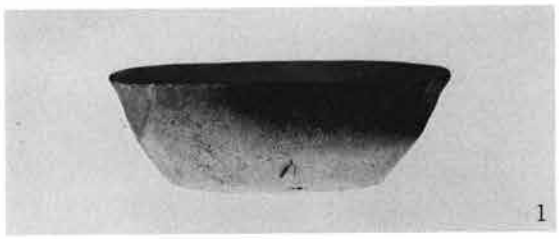


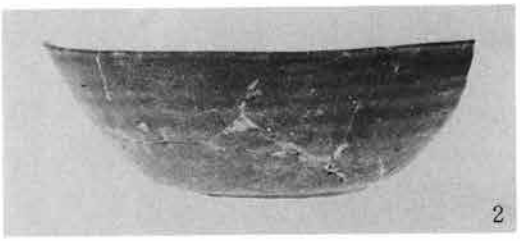




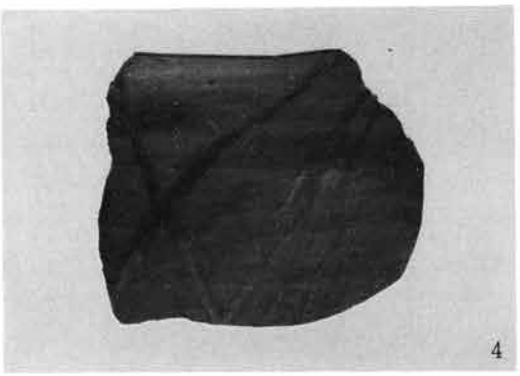
6号住居址出土土器

図版　38


1

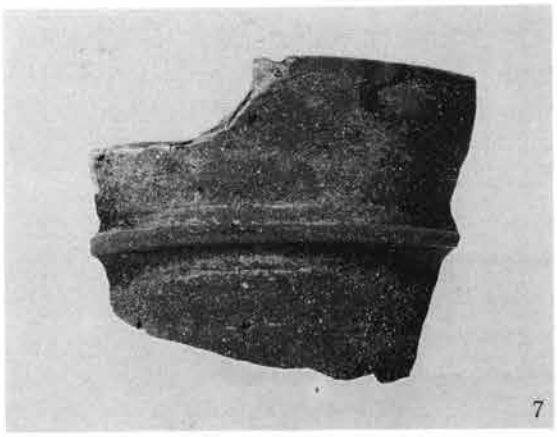

2

3


4

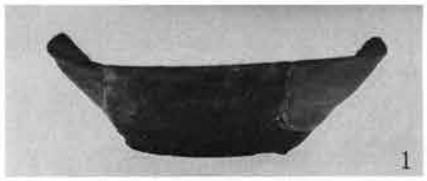
5

6

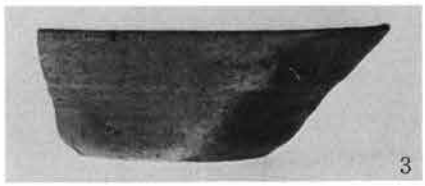

7

8

6号住居址出土土器

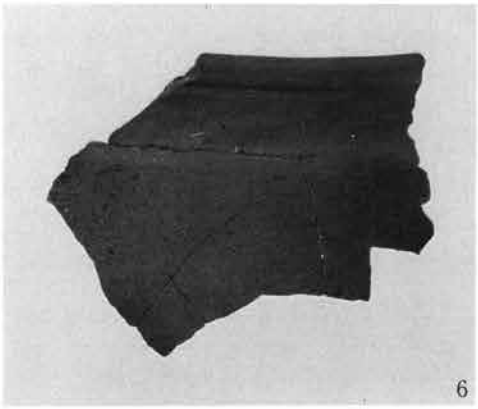

1

2


3

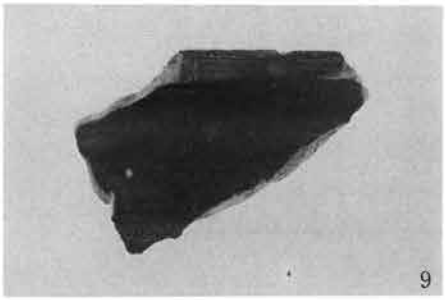
4

5


6

7

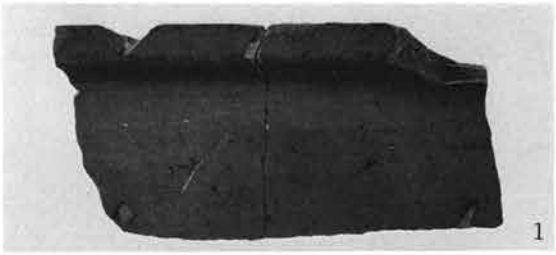
8

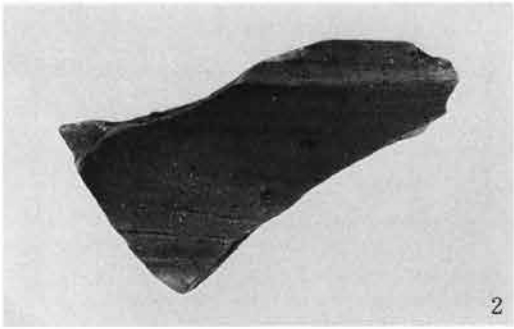

9

10

7号住居址出土土器

図版　40

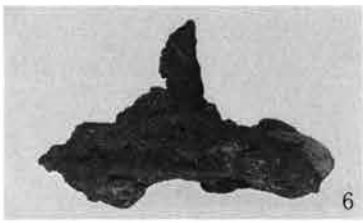

1


2

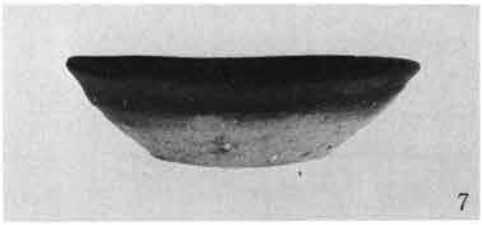
3

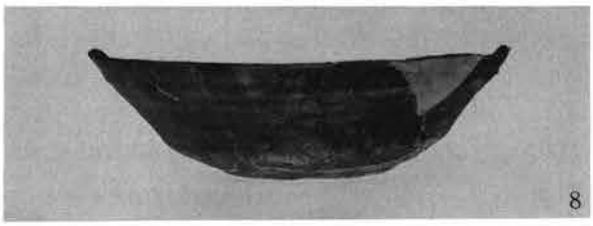
4

5

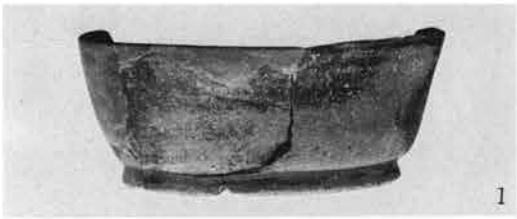

6

7号住居址出土遺物

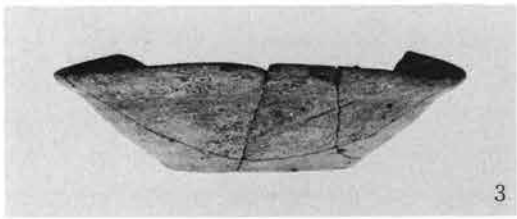

7


8

8号住居址出土土器


1

2


3

4

5

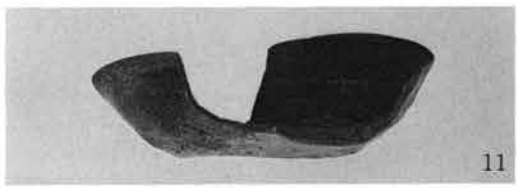
6

7

8

9

10


11

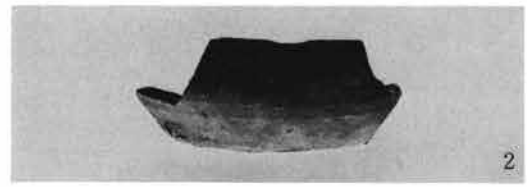
12

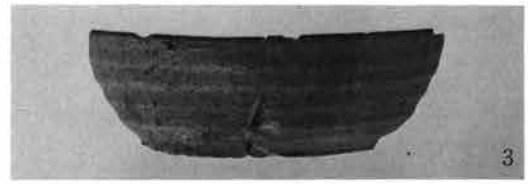
13

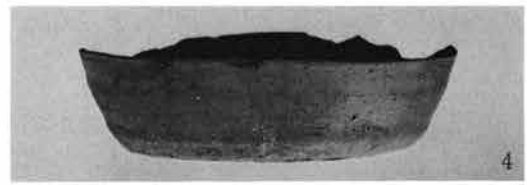
第２・３群粘土採掘坑出土土器

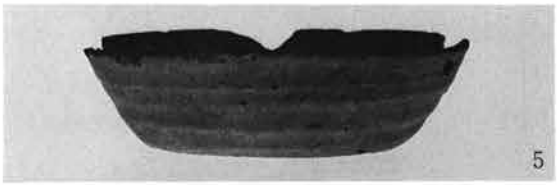
図版　42

1

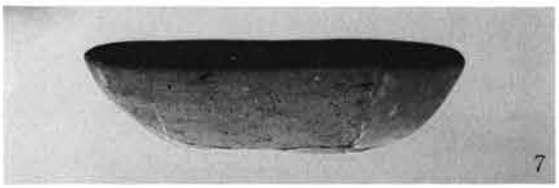

2

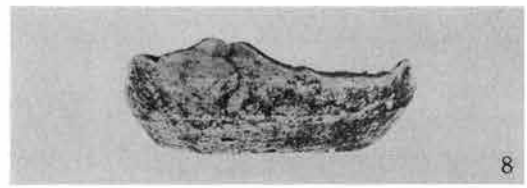

3

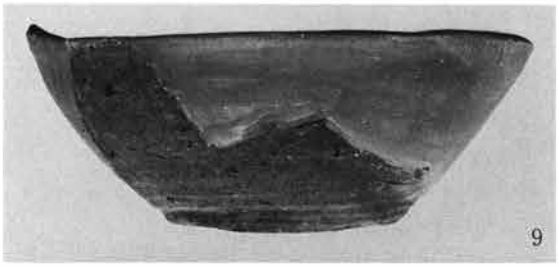

4


5

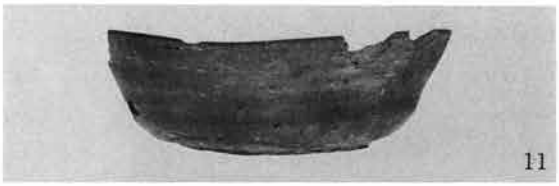
6

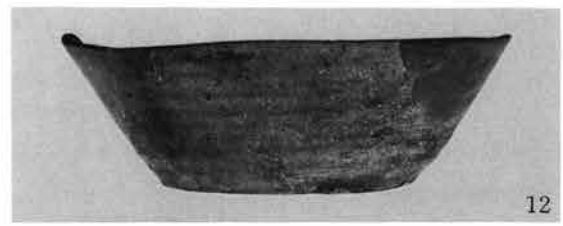

7


8


9

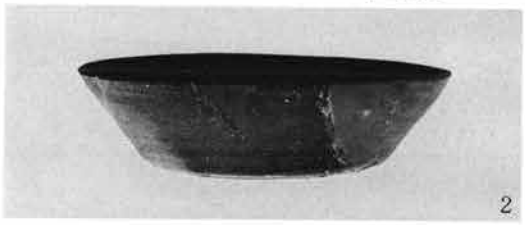
10

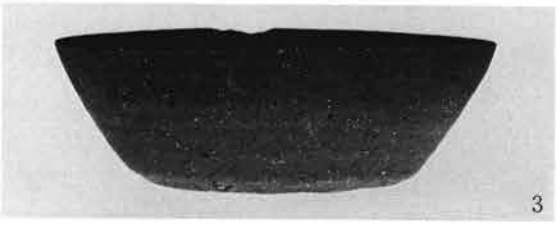

11

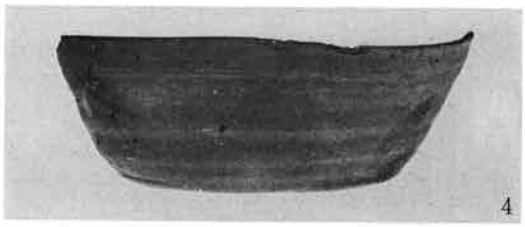

12

第３・４群粘土採掘坑出土土器

1

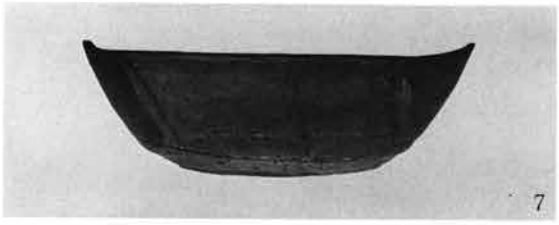

2


3


4

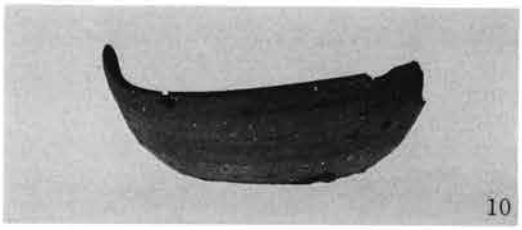
5

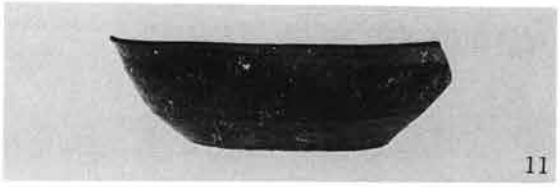
6

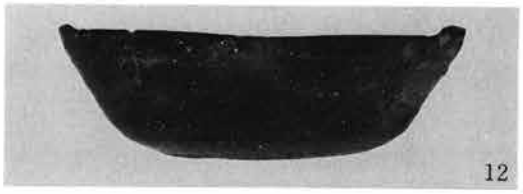

7

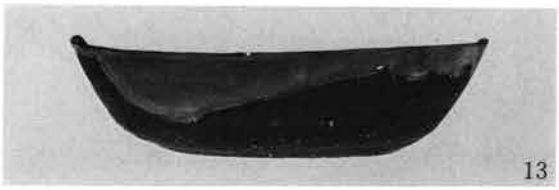
8

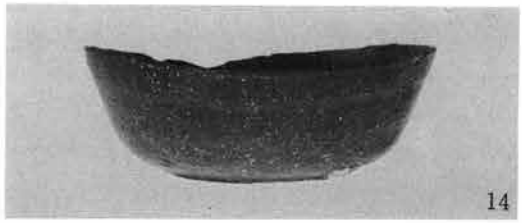
9


10


11

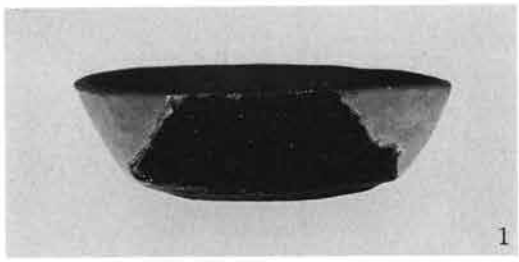

12

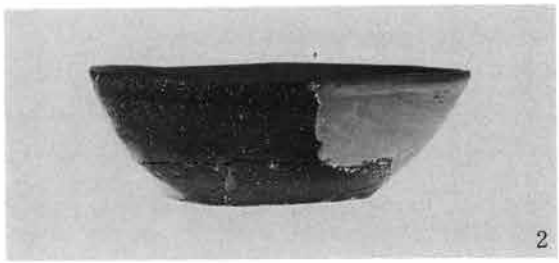

13

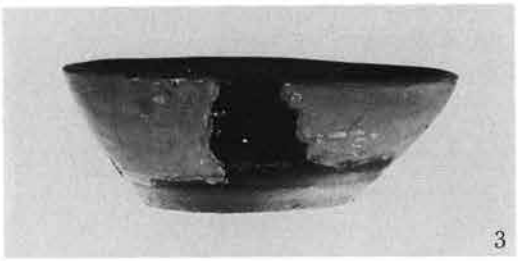

14

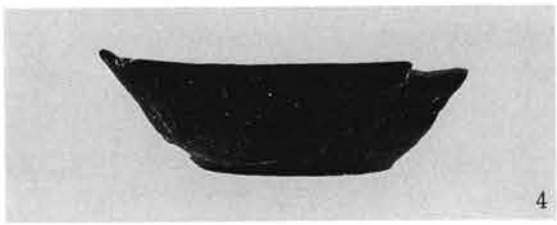
第4群粘土採掘坑出土土器

図版　44

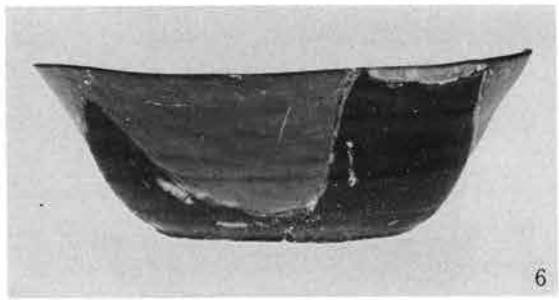

1

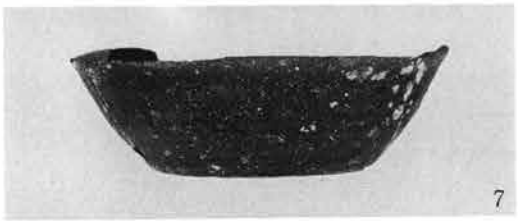

2

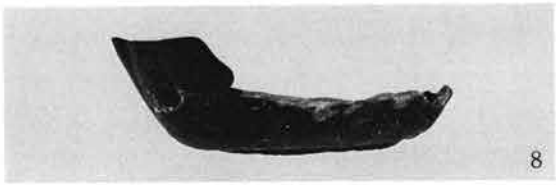

3

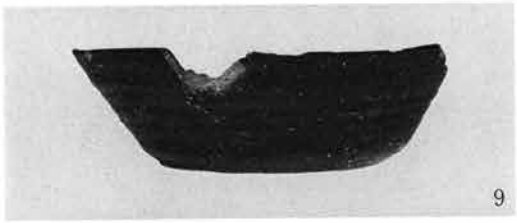

4

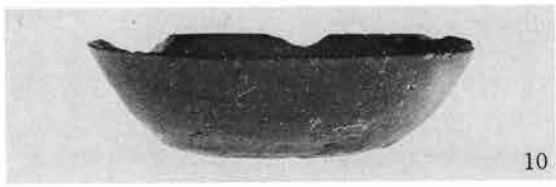
5

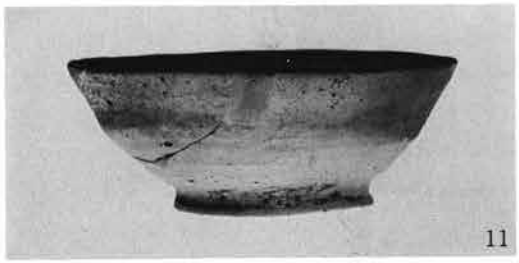

6


7


8


9

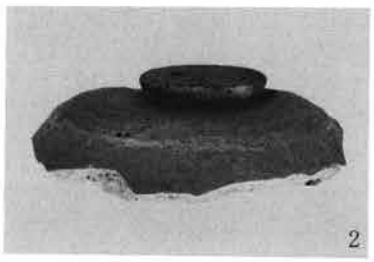

10


11

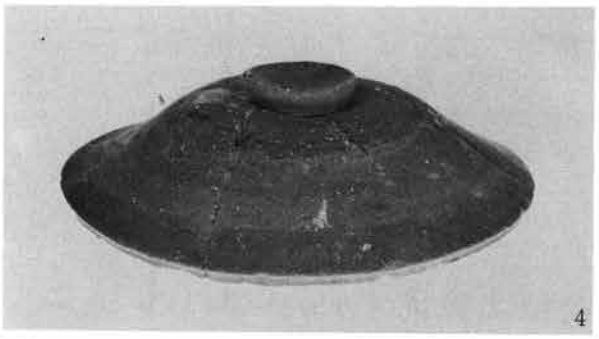
12

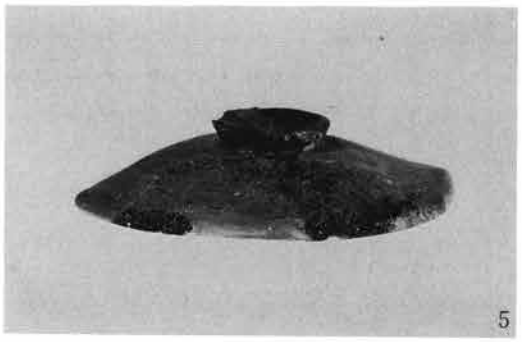
第４群粘土採掘拡出土土器

1

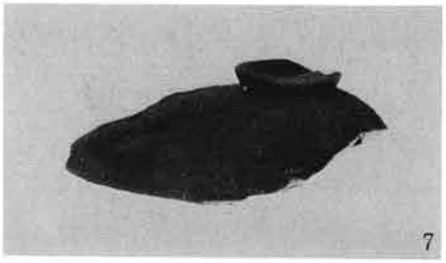

2

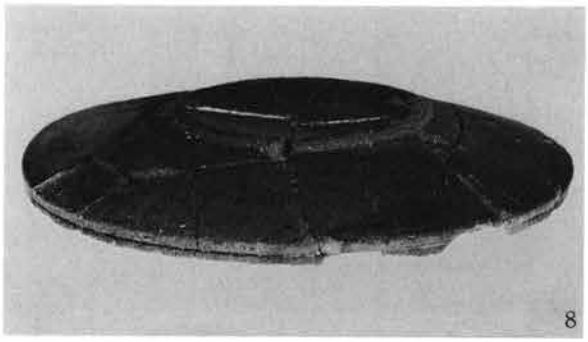
3

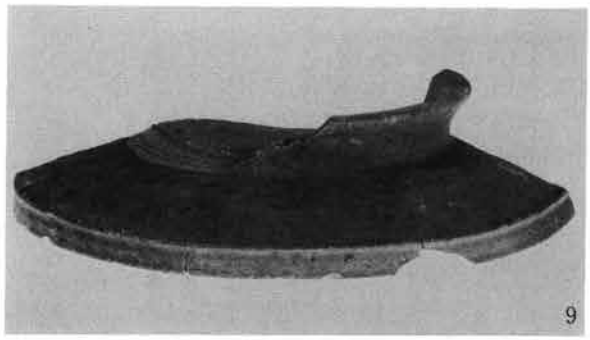

4

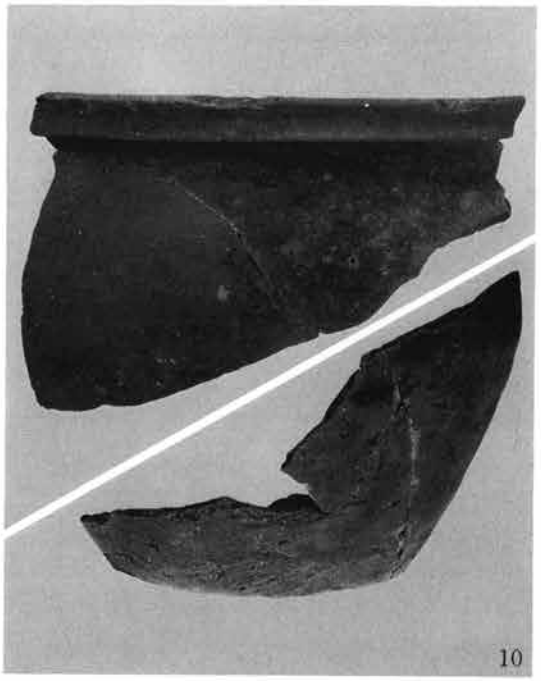

5

6


7

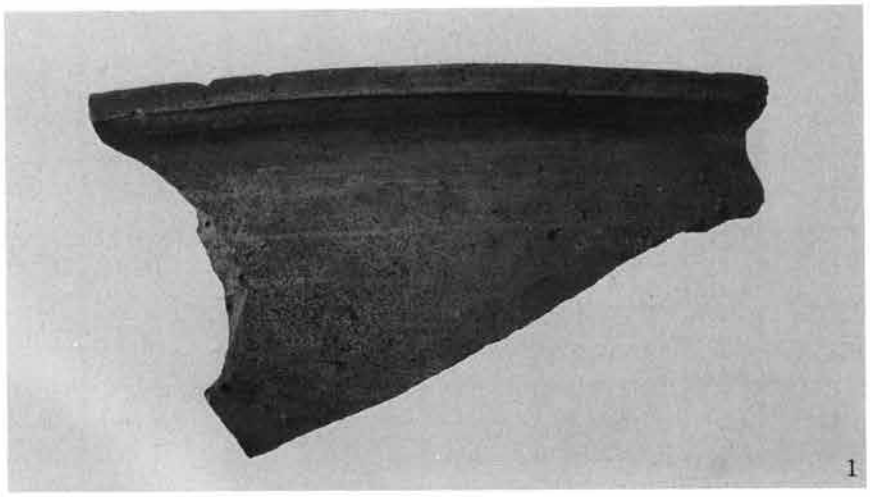

8

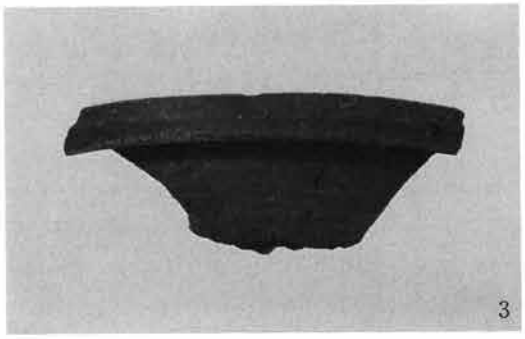

9

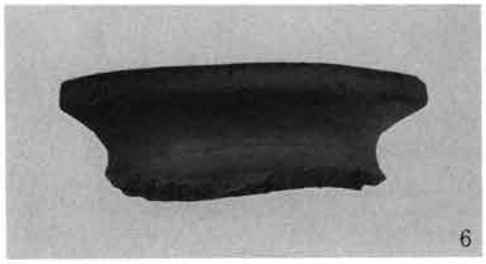

10

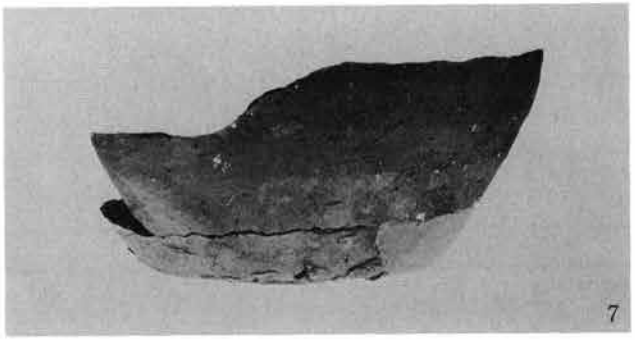
第４群粘土採掘坑出土土器

図版　46

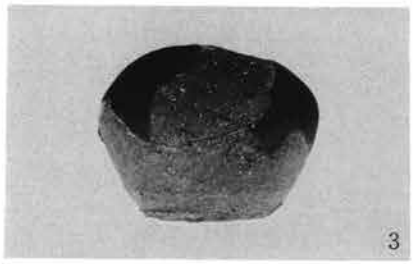


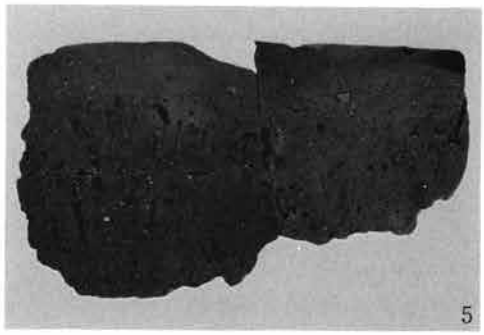


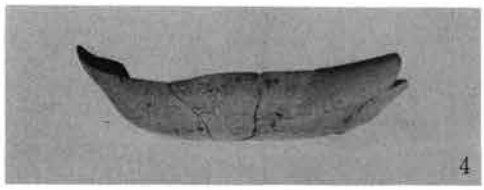


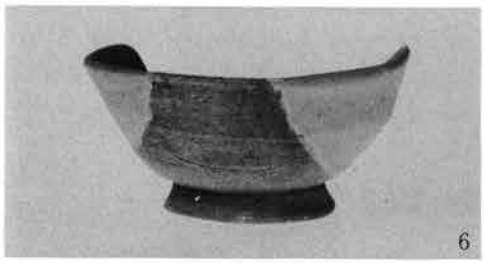


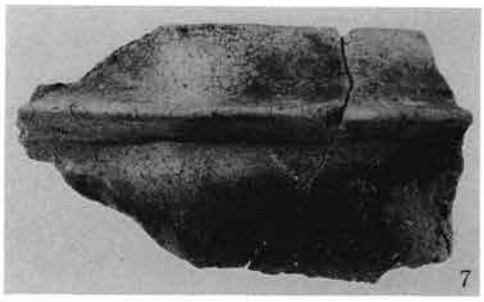
第 4 群粘土採掘坑出土土器

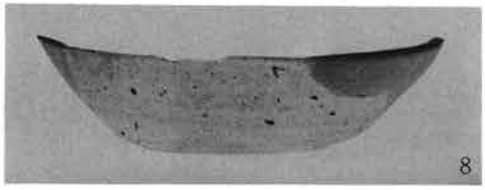


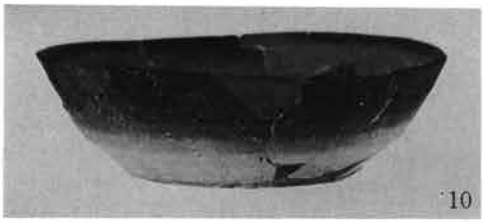






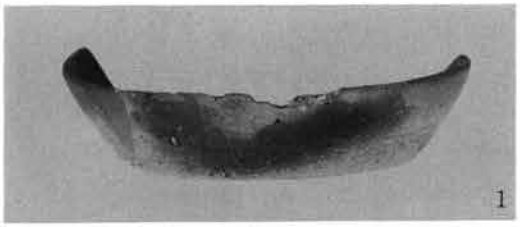


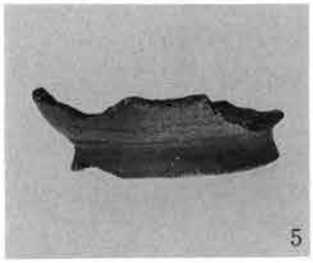


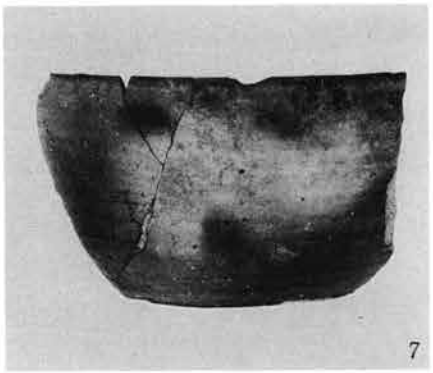


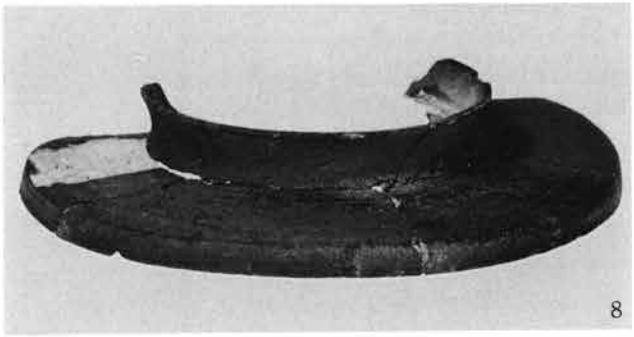
第4・5・6群粘土採掘坑出土土器

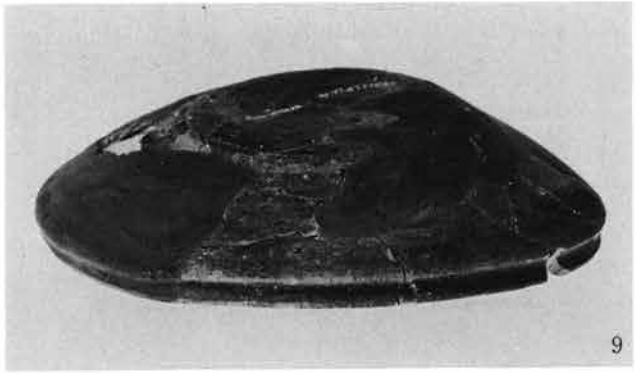
図版　48



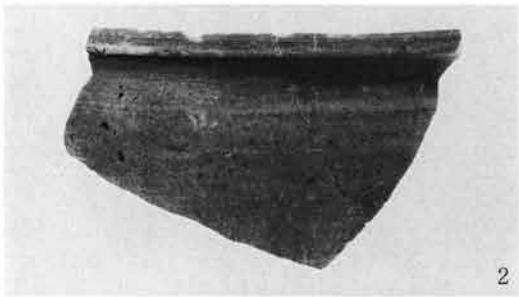


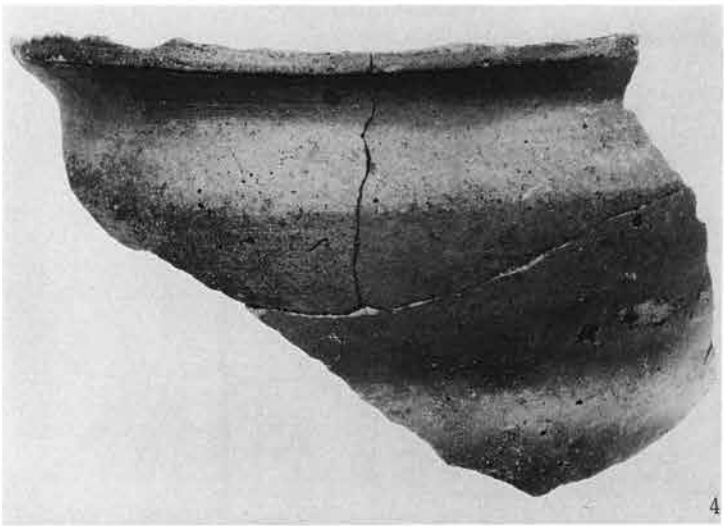


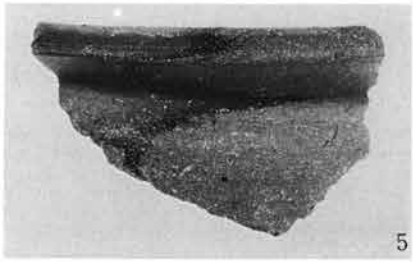


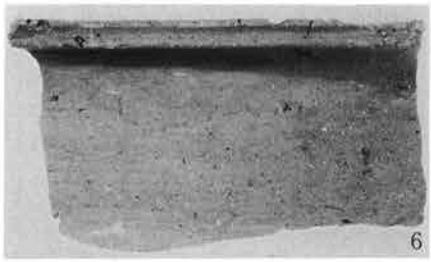


第６群粘土採掘坑出土土器



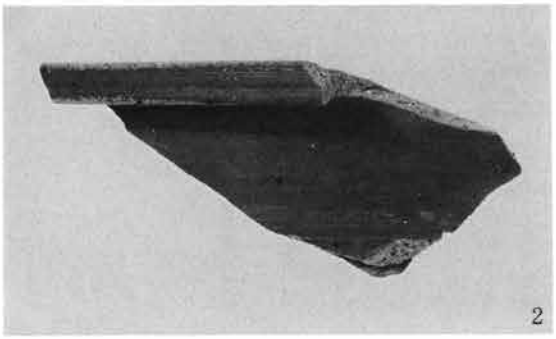


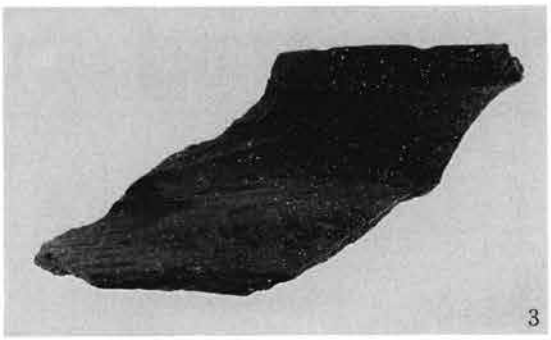


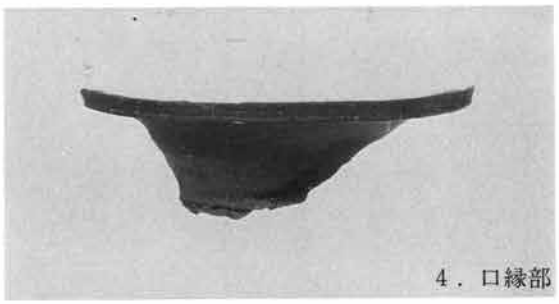


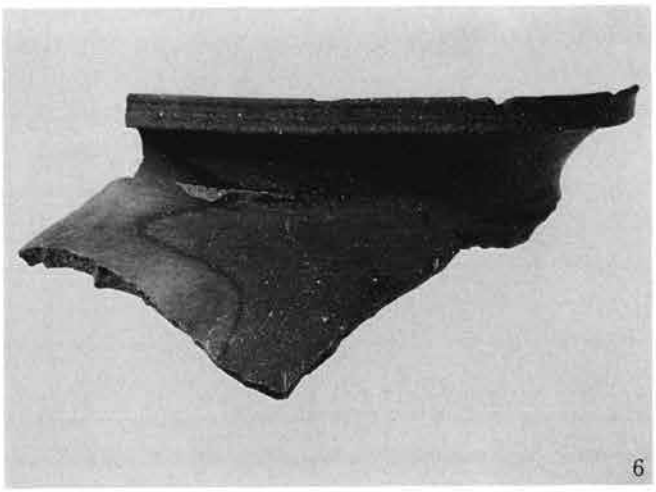
第 6 群粘土採掘坑出土土器

図版　50







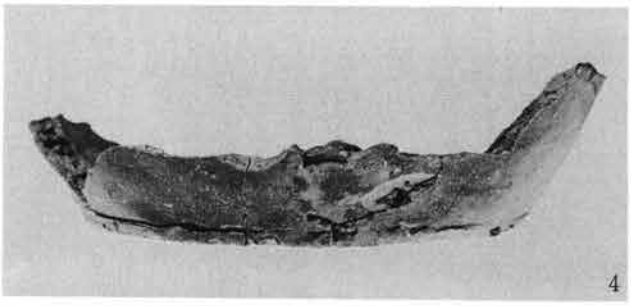


第６群粘土採掘坑出土土器

1

2

3


4

5

6

7

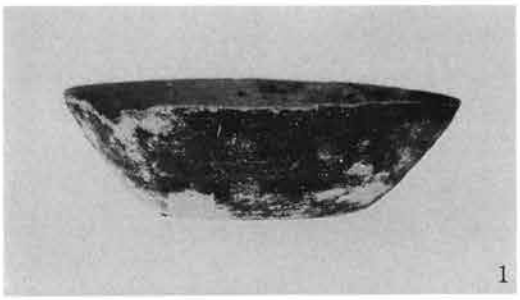
8

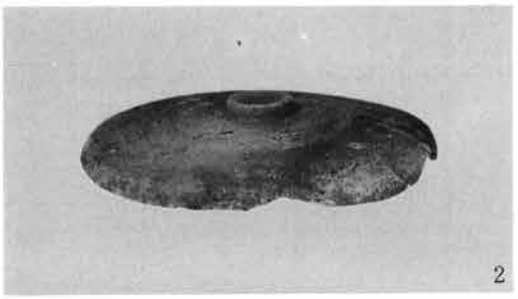
9

10

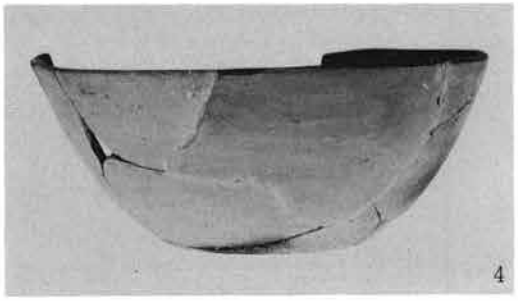
第６・７群粘土採掘坑出土土器

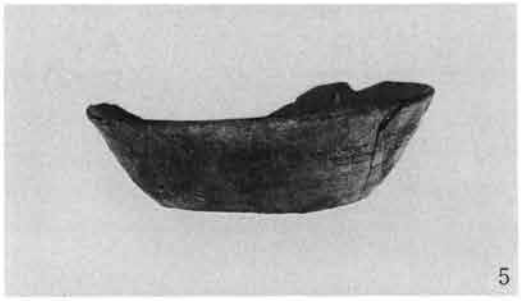
図版　52

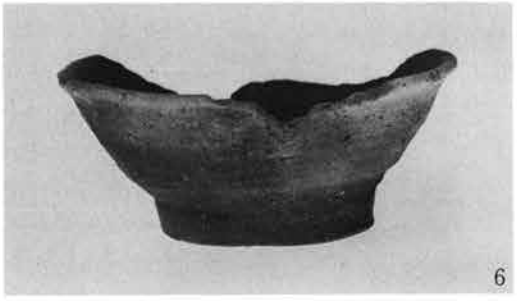

1


2

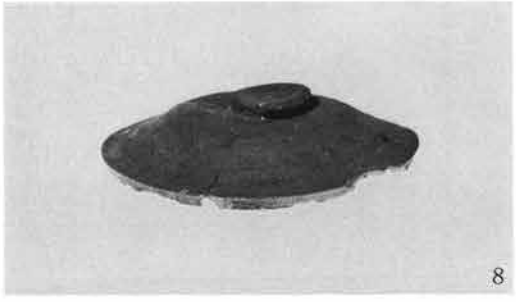
3

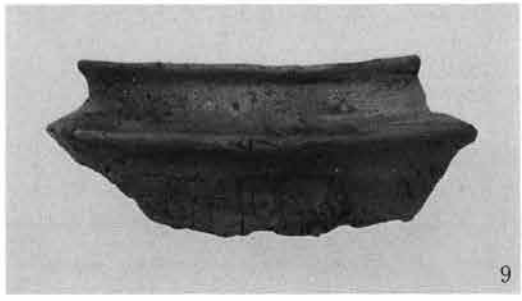

4

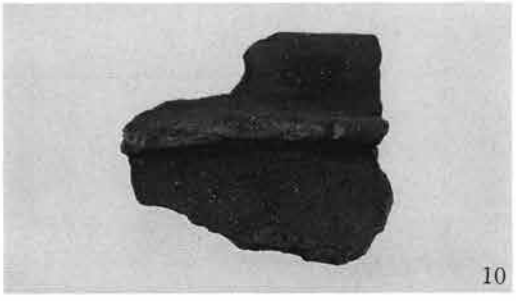

5


6

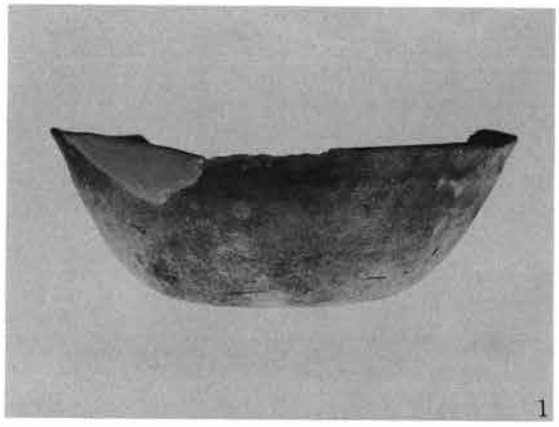
7

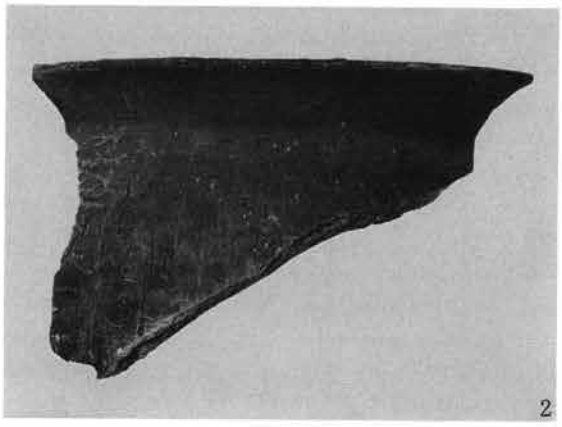

8


9

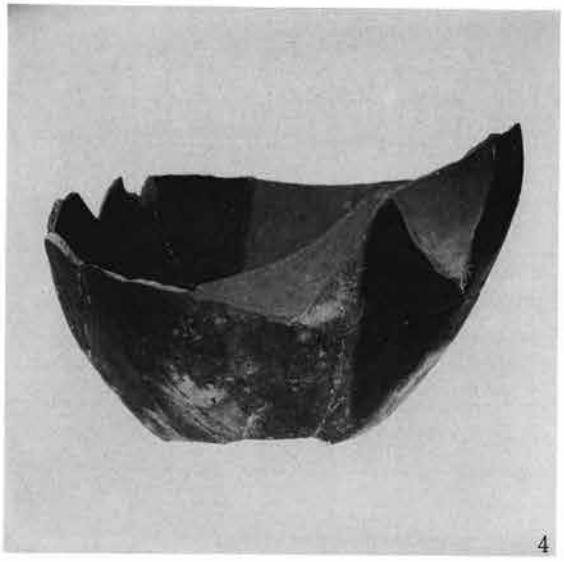

10

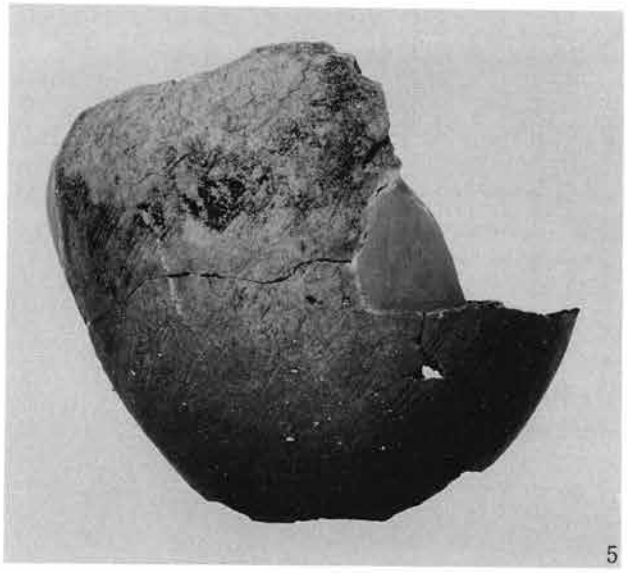
第11群粘土採掘坑・グリッド出土土器

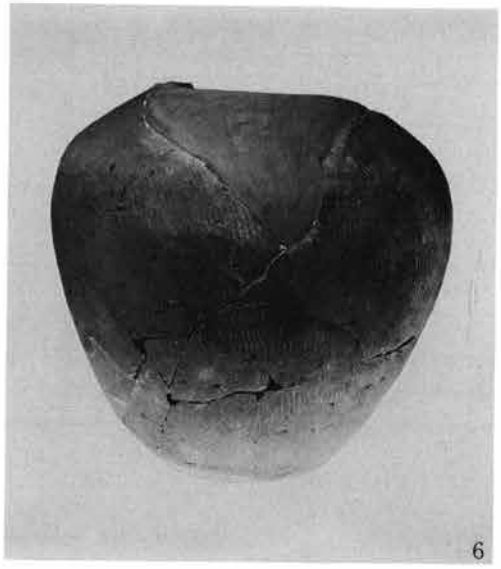

1


2

3

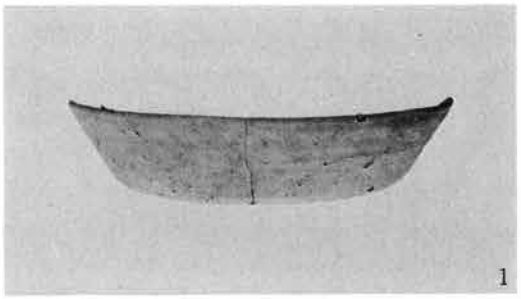

4

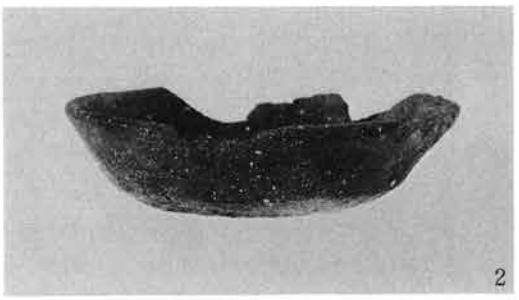

5

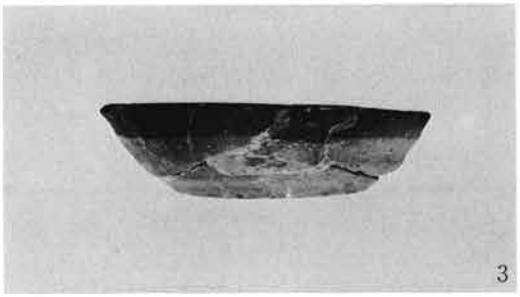

6

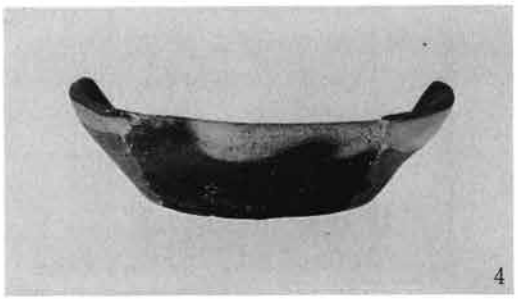
1号土坑出土土器

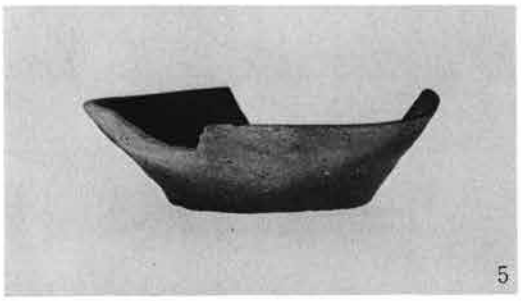
図版　54

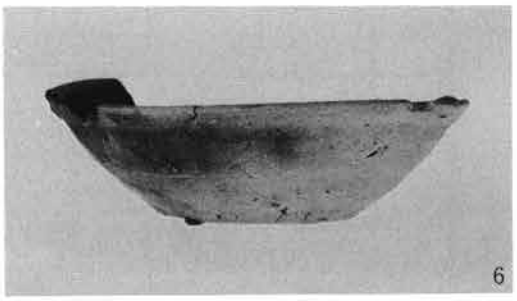

1

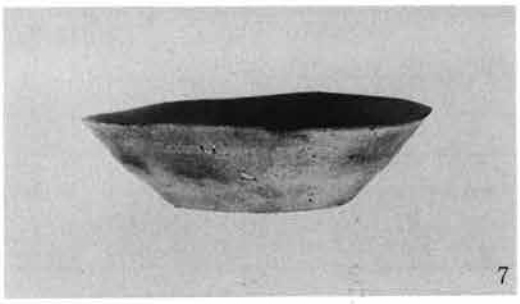

2


3

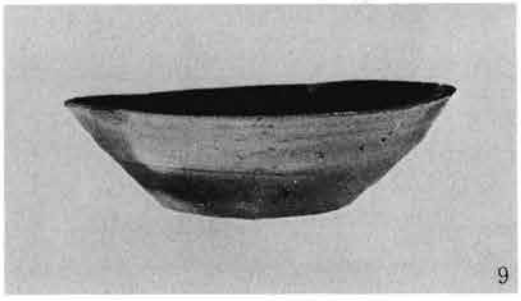

4

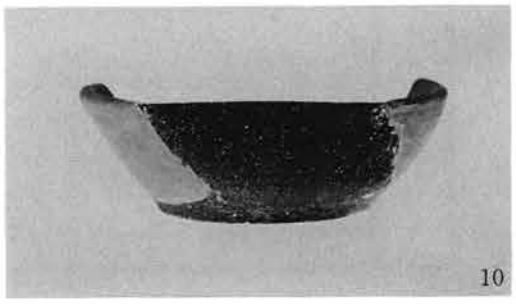

5


6


7

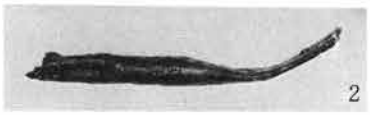
8


9

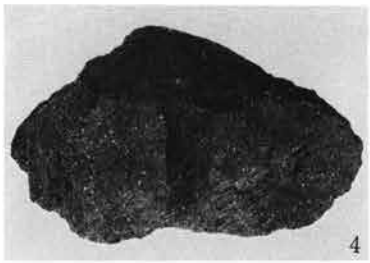

10

2・3・4・5号土坑出土土器

1

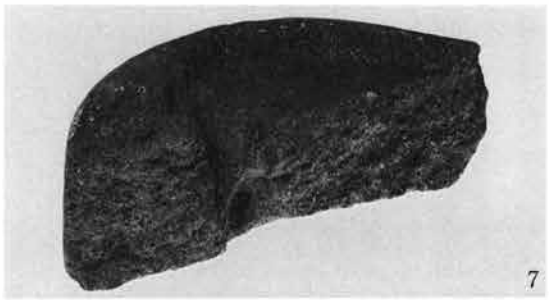

2

3


4

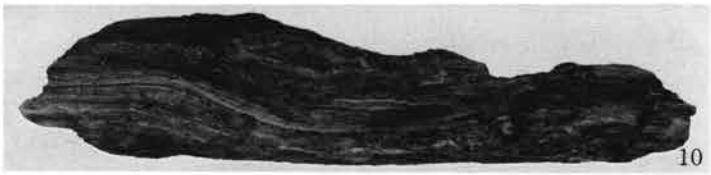
5

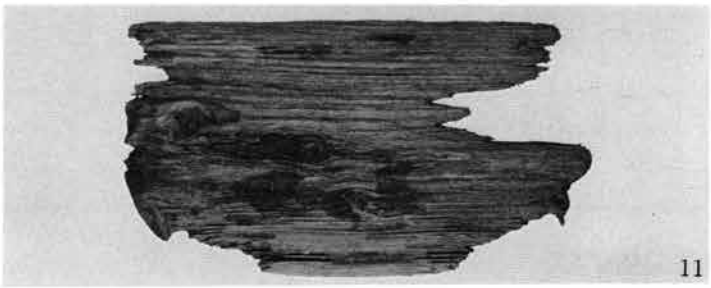
6


7

8

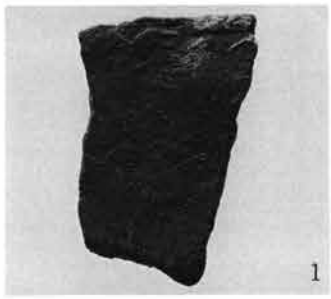
9

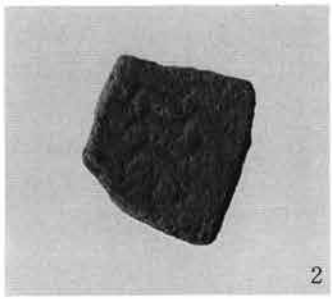

10


11

10・13・17号土坑・グリッド出土遺物

図版　56


1


2

3

4

5

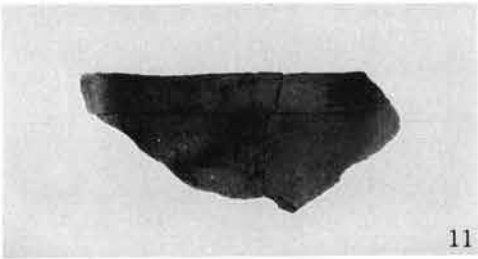
6

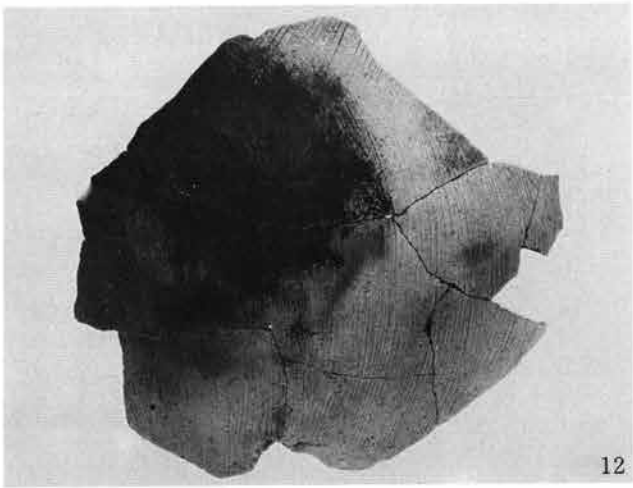
7

8

9

10


11


12

グリッド出土遺物

薮田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

印　刷　昭和58年３月28日
発　行　昭和58年３月31日

編集・発行　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橘村大字下箱田７８４番地の２
電　話（0279）５２－２５１１（代表）

印　　刷　朝日印刷工業株式会社